

京都府遺跡調査報告集

第167冊

新名神高速道路整備事業関係遺跡

- (1) 水主神社東遺跡第1・2・5次
- (2) 下水主遺跡第1・4次

2016

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版 1 新名神高速道路整備事業関係遺跡



(1)水主神社東遺跡第5次A3区全景(南から)



(2)水主神社東遺跡第5次C1区全景(北東から)



(1)水主神社東遺跡第5次C2区全景(北東から)



(2)下水主遺跡第4次D2区全景(東から)

序

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは昭和56年4月に設立され、今年度設立35年を迎えました。この間、当調査研究センターでは、公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を府内各所で1,250件行って参りました。

本書は、平成23～25年度に西日本高速道路株式会社の依頼を受けて実施した水主神社東遺跡・下水主遺跡の発掘調査報告を収録したものです。本書が学術研究の資料として、また、地域の埋蔵文化財への関心と理解を深めるうえで、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された西日本高速道路株式会社をはじめ、京都府教育委員会、城陽市教育委員会などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理 事 長 上 田 正 昭

例 言

1. 本書に収めた報告は下記のとおりである。

新名神高速道路整備事業関係遺跡

(1)水主神社東遺跡第1・2・5次

(2)下水主遺跡第1・4次

2. 遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	経 費 負 担 者	執 筆 者
(1)水主神社東遺跡第1・2・5次	城陽市寺田金尾	平成24年2月15日～ 平成24年3月14日、 平成24年5月21日～	西日本高速道路株式会社関西支社	戸原和人・ 岡崎研一・ 筒井崇史・ 村田和弘・ 関広尚世・ 福山博章・ 深澤麻衣
(2)下水主遺跡第1・4次	城陽市寺田金尾・今橋	平成25年3月8日、 平成25年4月22日～ 平成26年2月27日		

3. 上記1事業2遺跡とも本部事務所(向日市寺戸町)および新名城陽事務所(城陽市寺田金尾・大畔)で整理・報告作業を実施した。なお、本部での整理・報告作業については、現地担当者の指示のもと調査課企画調整係が協力して実施した。

4. 本書で使用している座標は、原則として世界測地系国土地院第VI座標系によっており、方位は座標の北をさす。なお、現地調査及び過去の調査との整合性のため日本測地系を使用している場合もある。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

5. 土層断面等の土色や出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。

6. 本書の編集は、調査課担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

7. 現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査課企画調整係主査田中彰が行なった

本文目次

新名神高速道路整備事業関係遺跡平成23～25年度発掘調査報告	1
〔1〕水主神社東遺跡第1・2・5次	23
〔2〕下水主遺跡第1・4次	100

挿図目次

第1図	調査地および周辺主要遺跡分布図	5
第2図	調査年度別調査区配置図	8
第3図	調査地区配置図	17
第4図	水主神社東遺跡・下水主遺跡全体地区割図	18
第5図	小地区割概念図	19
第6図	調査地基本層序柱状図	21
(1)水主神社東遺跡第1・2・5次		
第7図	水主神社東遺跡第1～7次調査遺構配置図	24
第8図	水主神社東遺跡A・B地区遺構配置図	25
第9図	A1・A2区遺構配置図・土層断面図	26
第10図	A1・A2区出土遺物実測図	27
第11図	A3区上層遺構配置図	29
第12図	A3区北壁土層断面図	30
第13図	A3区西壁土層断面図	31
第14図	A3区島畑27・28平面図1	32
第15図	A3区島畑27・28平面図2	33
第16図	A3区島畑29平面図1	34
第17図	A3区島畑29平面図2	35
第18図	A3区土坑状遺構SK06・07土層断面図	36
第19図	A3区下層遺構配置図	37
第20図	A3区溝SD22平面図・土層断面図	38
第21図	A3区溝SD24平面図・土層断面図	39
第22図	A3区出土遺物実測図	41
第23図	B1区遺構配置図・土層断面図	43
第24図	B1区東壁土層断面図	44
第25図	B2区遺構配置図	45

第26図	B 2区北東壁・北西壁土層断面図	46
第27図	B 3区遺構配置図・北壁土層断面図	48
第28図	B地区出土遺物実測図	49
第29図	水主神社東遺跡C地区遺構配置図	50
第30図	C 1区上層遺構配置図	51
第31図	C 1区南壁土層断面図	52
第32図	C 1区鳥畑17平面図・土層断面図	54
第33図	C 1区鳥畑18平面図	55
第34図	C 1区鳥畑18土層断面図、溝S D352土層断面図	56
第35図	C 1区鳥畑19・20(北半部)平面図	57
第36図	C 1区鳥畑19・20(南半部)平面図	58
第37図	C 1区鳥畑20土層断面図	59
第38図	C 1区下層遺構配置図	60
第39図	C 1区掘立柱建物S B310実測図	61
第40図	C 1区土坑S K333実測図	62
第41図	C 1区溝S D335平面図・土層断面図	63
第42図	C 1区溝S D340・344平面図・土層断面図	64
第43図	C 1区溝S D337・338・350平面図・土層断面図	65
第44図	C 1区溝S D337遺物出土状況図	66
第45図	C 1区溝S D401～403平面図・土層断面図	67
第46図	C 1区溝S D381・409平面図・土層断面図	68
第47図	C 1区溝S D381遺物出土状況図1	69
第48図	C 1区溝S D381遺物出土状況図2	70
第49図	C 1区鳥畑17上面縄文土器出土状況図	71
第50図	C 1区自然流路NR370平面図・土層断面図	72
第51図	C 1区出土遺物実測図1	73
第52図	C 1区出土遺物実測図2	74
第53図	C 1区出土遺物実測図3	75
第54図	C 2区上層遺構配置図	78
第55図	C 2区南壁土層断面図	79
第56図	C 2区鳥畑7・21(北半部)平面図・遺構断面図	82
第57図	C 2区鳥畑21(南半部)平面図	83
第58図	C 2区鳥畑21・溝状遺構S D507断ち割り土層断面図、溝状遺構S D506土層断面図	84
第59図	C 2区鳥畑22平面図	85
第60図	C 2区鳥畑22・溝状遺構S D507断ち割り土層断面図	86

第61図	C 2区烏畑23(北半部)・25平面図、溝状遺構 S D508土層断面図	87
第62図	C 2区烏畑23(南半部)平面図	88
第63図	C 2区烏畑23・溝状遺構 S D510断ち割り土層断面図	89
第64図	C 2区烏畑24平面図	90
第65図	C 2区烏畑24・溝状遺構 S D510断ち割り土層断面図	91
第66図	C 2区下層遺構配置図	92
第67図	C 2区土坑 S K390・395・410実測図	93
第68図	C 2区溝 S D404・405・406平面図・土層断面図	94
第69図	C 2区溝 S D407平面図・土層断面図	95
第70図	C 2区出土遺物実測図 1	97
第71図	C 2区出土遺物実測図 2	98
第72図	C 2区出土遺物実測図 3	98
第73図	C 2区出土遺物実測図 4	99

(2) 下水主遺跡第1・4次

第74図	下水主遺跡第1・4・6・9次調査遺構配置図	101
第75図	下水主遺跡D地区遺構配置図	102
第76図	D 1区遺構配置図・南壁土層断面図	103
第77図	D 1区東壁土層断面図	104
第78図	D 2・D 4区遺構配置図	105
第79図	D 2区南壁土層断面図 1	106
第80図	D 2区南壁土層断面図 2	107
第81図	D 2区烏畑41・42、溝状遺構 S D01平面図	109
第82図	D 2区烏畑43・44、溝状遺構 S D05平面図	110
第83図	D 2区溝 S D20～22・30・31平面図・土層断面図	112
第84図	D 2区溝 S D23平面図・土層断面図	113
第85図	D 2区炭集中部 S X41・焼土 S X42平面図	114
第86図	D地区出土遺物実測図 1	116
第87図	D 5区遺構配置図・土層断面図	118
第88図	D 6区遺構配置図	119
第89図	D 6区南東壁・北西壁土層断面図	120
第90図	D地区出土遺物実測図 2	121
第91図	下水主遺跡E地区遺構配置図	122
第92図	E 1区上層遺構配置図	123
第93図	E 1区東壁土層断面図	124
第94図	E 1区溝 S D06平面図・土層断面図	125

第95図	E 2区遺構配置図	127
第96図	E 2区北壁土層断面図	128
第97図	E 3・E 4区遺構配置図	129
第98図	E 3・E 4区西壁土層断面図	130
第99図	E 5区遺構配置図・南壁土層断面図	132
第100図	E 6区遺構配置図・北西壁土層断面図	134
第101図	E 7区遺構配置図・北西壁土層断面図・遺構土層断面図	136
第102図	E 8区遺構配置図・北西壁土層断面図	137
第103図	E 8区遺構土層断面図	138
第104図	E地区出土遺物実測図	138
第105図	下水主遺跡第2・4・6・8・9次調査遺構配置図	140
第106図	G地区遺構配置図	141
第107図	G地区南壁実測図	142
第108図	G地区島畑26実測図	143
第109図	G地区溝SD07実測図	144
第110図	G地区NR09土層断面図	145
第111図	G地区出土遺物実測図	146

付表目次

付表1	水主神社東遺跡調査回数一覧表	9
付表2	下水主遺跡調査回数一覧表	9
付表3	水主神社東遺跡調査地区別一覧表	14
付表4	下水主遺跡調査地区別一覧表	14
付表5	出土土器観察表	150
付表6	出土石器観察表	159
付表7	縄文土器観察表	160

図版目次

巻頭図版1	(1)水主神社東遺跡第5次A3区全景(南から) (2)水主神社東遺跡第5次C1区全景(北東から)
巻頭図版2	(1)水主神社東遺跡第5次C2区全景(北東から)

(2) 下水主遺跡第4次D2区全景(東から)

(1) 水主神社東遺跡第1・2・5次

- 図版第1 (1) A1区重機掘削(南東から)
(2) A1区北壁土層断面(南から)
(3) A1区全景(北から)
- 図版第2 (1) A2区重機掘削(北西から)
(2) A2区南壁土層断面(北から)
(3) A2区全景(北から)
- 図版第3 (1) A3区全景(東から)
(2) A3区全景(上が西)
- 図版第4 (1) A3区島畑27～29全景(南から)
(2) A3区北壁土層断面(南から)
(3) A3区西壁土層断面(東から)
- 図版第5 (1) A3区島畑27土坑状遺構SK06 e-f土層断面(北から)
(2) A3区島畑29土坑状遺構SK07 g-h土層断面(北から)
(3) A3区島畑29土坑状遺構SK07 i-j土層断面(北から)
- 図版第6 (1) A3区北拡張区島畑27検出状況(南から)
(2) A3区東拡張区島畑27検出状況(南から)
(3) A3区下層遺構面全景(南から)
- 図版第7 (1) A3区溝SD22・23全景(北東から)
(2) A3区溝SD24全景(北東から)
(3) A3区溝SD24遺物出土状況(南西から)
- 図版第8 (1) A3区溝SD22土層断面(南西から)
(2) A3区溝SD24土層断面(南西から)
(3) A3区溝SD27土層断面(北西から)
- 図版第9 (1) A3区土坑SK20完掘状況(北から)
(2) A3区土坑SK26完掘状況(北から)
(3) A3区下層遺構面断ち割り後土層堆積状況(南から)
- 図版第10 (1) B1区全景(拡張前、南から)
(2) B1区遺構検出状況全景(拡張後、南から)
(3) B1区遺構完掘状況全景(拡張後、南から)
(4) B1・B2区間調査区南半部全景(北東から)
- 図版第11 (1) B1区溝SD02全景(東から)
(2) B1区拡張区西壁土層断面(東から)

- (3) B 1 区拡張区南壁土層断面(北東から)
- 図版第12 (1) B 2 区重機掘削(北から)
 (2) B 2 区溝 S D01・02、杭列全景(北東から)
 (3) B 2 区杭列全景(東から)
- 図版第13 (1) B 2 区全景(北東から)
 (2) B 2 区溝 S D40土層断面(南から)
 (3) B 2 区北東壁土層断面(南西から)
- 図版第14 (1) B 3 区全景(南から)
 (2) B 3 区島畑30全景(南から)
 (3) B 3 区北東壁土層断面(南西から)
- 図版第15 (1) C 1 区全景(西から)
 (2) C 1 区全景(北西から)
- 図版第16 (1) C 1 区全景(南東から)
 (2) C 1 区島畑17全景(南から)
- 図版第17 (1) C 1 区島畑18全景(北から)
 (2) C 1 区島畑18全景(南から)
- 図版第18 (1) C 1 区島畑19全景(北から)
 (2) C 1 区島畑20全景(南から)
- 図版第19 (1) C 1 区全景(北西から)
 (2) C 1 区全景(南西から)
 (3) C 1 区作業風景(北から)
- 図版第20 (1) C 1 区島畑18素掘り溝 S D308遺物出土状況(北から)
 (2) C 1 区島畑18溝 S D352土層断面(南から)
 (3) C 1 区掘立柱建物 S B310検出状況(南から)
- 図版第21 (1) C 1 区掘立柱建物 S B310全景(南から)
 (2) C 1 区土坑 S K333完掘状況(南から)
 (3) C 1 区土坑 S K333半截状況(南から)
- 図版第22 (1) C 1 区溝 S D337・338全景(西から)
 (2) C 1 区溝 S D337 b - b'土層断面(西から)
 (3) C 1 区溝 S D337 c - c'土層断面(西から)
- 図版第23 (1) C 1 区溝 S D338全景(西から)
 (2) C 1 区溝 S D401全景(東から)
 (3) C 1 区溝 S D401土層断面(東から)
- 図版第24 (1) C 1 区溝 S D340・344全景(北から)
 (2) C 1 区溝 S D340土層断面(北西から)

- (3) C 1 区溝 S D 344 土層断面(南東から)
- 図版第25 (1) C 1 区溝 S D 402・403 全景(東から)
 (2) C 1 区溝 S D 402 土層断面(東から)
 (3) C 1 区溝 S D 403 土層断面(東から)
- 図版第26 (1) C 1 区溝 S D 381 全景(南西から)
 (2) C 1 区溝 S D 381 全景(東から)
 (3) C 1 区溝 S D 381 土層断面(北東から)
- 図版第27 (1) C 1 区溝 S D 381 遺物出土状況(南から)
 (2) C 1 区溝 S D 381 遺物出土状況(南から)
 (3) C 1 区溝 S D 409 全景(西から)
- 図版第28 (1) C 1 区溝 S D 409 土層断面(東から)
 (2) C 1 区島畑17 上面縄文土器出土状況(南から)
 (3) C 1 区自然流路 N R 370 土層断面(南西から)
- 図版第29 (1) C 2 区全景(南から)
 (2) C 2 区全景(南東から)
- 図版第30 (1) C 2 区全景(北から)
 (2) C 2 区全景(上が東)
- 図版第31 (1) C 2 区全景(北から)
 (2) C 2 区全景(南西から)
- 図版第32 (1) C 2 区島畑21 全景(南東から)
 (2) C 2 区島畑21・22 全景(南から)
- 図版第33 (1) C 2 区島畑23・24 全景(北から)
 (2) C 2 区島畑24 全景(南から)
- 図版第34 (1) C 2 区島畑7 全景(南から)
 (2) C 2 区島畑7 土坑状遺構 S K 201 土層断面(南から)
 (3) C 2 区島畑7 土坑状遺構 S K 201 全景(北から)
- 図版第35 (1) C 2 区島畑25 全景(南から)
 (2) C 2 区溝状遺構 S D 508 土層断面(東から)
 (3) C 2 区溝状遺構 S D 508 全景(西から)
- 図版第36 (1) C 2 区溝状遺構 S D 504 南部素掘り溝群全景(南から)
 (2) C 2 区溝状遺構 S D 510 全景(南から)
 (3) C 2 区溝状遺構 S D 506・509 全景(東から)
- 図版第37 (1) C 2 区溝状遺構 S D 506 土層断面(西から)
 (2) C 2 区島畑24 東半部土層断面(北東から)
 (3) C 2 区島畑24 西半部土層断面(北西から)

- 図版第38 (1) C 2区土坑 S K 390完掘状況(南から)
(2) C 2区土坑 S K 395遺物出土状況(南から)
(3) C 2区土坑 S K 410遺物出土状況(西から)

- 図版第39 (1) C 2区溝 S D 404全景(南東から)
(2) C 2区溝 S D 404土層断面(東から)
(3) C 2区溝 S D 405全景(北西から)

- 図版第40 (1) C 2区溝 S D 405土層断面(南東から)
(2) C 2区溝 S D 406全景(東から)
(3) C 2区溝 S D 406土層断面(東から)

- 図版第41 (1) C 2区溝 S D 407全景(南東から)
(2) C 2区溝 S D 407土層断面(南東から)
(3) C 2区島畑24上面石包丁出土状況(東から)

(2) 下水主遺跡第1・4次

- 図版第42 (1) D 1区島畑44検出状況(南から)
(2) D 1区島畑44全景(南から)
(3) D 1区島畑44下層素掘り溝群全景(南から)

- 図版第43 (1) D 2区全景(北から)
(2) D 2区全景(上が南)

- 図版第44 (1) D 2区上層遺構面全景(西から)
(2) D 2区島畑41全景(北から)

- 図版第45 (1) D 2区島畑42全景(北から)
(2) D 2区島畑43全景(北から)

- 図版第46 (1) D 2区島畑42～44全景(東から)
(2) D 2区島畑41素掘り溝 S D 02土層断面(南から)
(3) D 2区島畑41素掘り溝 S D 03土層断面(南から)

- 図版第47 (1) D 2区中層遺構面全景(東から)
(2) D 2区溝 S D 30・31全景(西から)
(3) D 2区溝 S D 30全景(北西から)

- 図版第48 (1) D 2区溝 S D 30遺物出土状況(北西から)
(2) D 2区溝 S D 20土層断面(南東から)
(3) D 2区溝 S D 21土層断面(南東から)

- 図版第49 (1) D 2区溝 S D 23全景(北西から)
(2) D 2区溝 S D 23 a - a'土層断面(北西から)
(3) D 2区下層遺構面磨製石斧出土状況(北から)

- 図版第50 (1) D 2区炭集中部 S X 41検出状況(南西から)

- (2) D 2区焼土 S X 42検出状況(西から)
 (3) D 2区炭集中部 S X 41完掘状況(南西から)
- 図版第51 (1) D 2区作業風景(東から)
 (2) D 4区全景(東から)
 (3) D 4区南壁土層断面(北から)
- 図版第52 (1) D 5・D 6区調査前全景(南東から)
 (2) D 5区南半部全景(南東から)
 (3) D 5区北半部全景(北西から)
- 図版第53 (1) D 5区島畑40全景(北から)
 (2) D 5区南半部北壁土層断面(西半、南から)
 (3) D 5区南半部北壁土層断面(東半、南から)
- 図版第54 (1) D 6区全景(北東から)
 (2) D 6区北西壁土層断面(北半、南東から)
 (3) D 6区北西壁土層断面(南半、南東から)
- 図版第55 (1) E 1区島畑47・48検出状況(南から)
 (2) E 1区島畑47・48全景(南から)
 (3) E 1区島畑47・48全景(西から)
- 図版第56 (1) E 1区溝 S D06全景(南から)
 (2) E 1区溝 S D06 a - a'土層断面(東から)
 (3) E 1区作業風景(南東から)
- 図版第57 (1) E 2区全景(南から)
 (2) E 2区北壁土層断面(南から)
 (3) E 2区下層遺構溝 S D05検出状況(東から)
- 図版第58 (1) E 3・E 4区全景(南から)
 (2) E 5区全景(北から)
 (3) E 5区重機掘削(北西から)
- 図版第59 (1) E 5区西壁土層断面(東から)
 (2) E 6区全景(南東から)
 (3) E 7区遺構検出状況(西から)
- 図版第60 (1) E 7区全景(南西から)
 (2) E 7区島畑52全景(南東から)
 (3) E 8区全景(南西から)
- 図版第61 (1) G地区全景(北東から)
 (2) G地区全景(南から)
 (3) G地区南壁土層断面(北から)

- 図版第62 (1) G地区溝SD07全景(北から)
(2) G地区溝SD07遺物出土状況(北西から)
(3) G地区土坑SK16全景(南西から)
- 図版第63 (1) G地区溝SD09全景(南東から)
(2) G地区溝SD07石鍬出土状況(南東から)
(3) G地区北拡張区鳥畑6検出状況(南から)
- 図版第64 出土遺物1 水主神社東遺跡・下水主遺跡
- 図版第65 (1) 出土遺物2 水主神社東遺跡A3区
(2) 出土遺物3 水主神社東遺跡B1～B3区
- 図版第66 (1) 出土遺物4 水主神社東遺跡C1区
(2) 出土遺物5 水主神社東遺跡C1区
- 図版第67 (1) 出土遺物6 水主神社東遺跡C1区
(2) 出土遺物7 水主神社東遺跡C2区
- 図版第68 (1) 出土遺物8 水主神社東遺跡C2区・下水主遺跡G地区
(2) 出土遺物9 水主神社東遺跡C2区
- 図版第69 (1) 出土遺物10 下水主遺跡D地区
(2) 出土遺物11 下水主遺跡E地区
- 図版第70 (1) 出土遺物12 縄文土器
(2) 出土遺物13 石器

新名神高速道路整備事業関係遺跡 平成23～25年度発掘調査報告

はじめに

新名神高速道路整備事業に伴う発掘調査は、平成20年度から西日本高速道路株式会社の依頼を受けて継続して実施している。

新名神高速道路は、愛知県名古屋を起点とし、兵庫県神戸市に至る高速道路で、京都府内の宇治田原町・城陽市・京田辺市・八幡市の各市町を通過する。この区間のうち、先行して事業着手された城陽ジャンクション・インターチェンジ(仮称)(以下、城陽JCT・IC(仮称)と表記)から八幡ジャンクション・インターチェンジ(仮称)(以下、八幡JCT・IC(仮称)と表記)までの区間について、平成20年度から路線内に所在する遺跡の発掘調査を開始した。当該区間において調査の対象となる遺跡として、東から城陽市水主神社東遺跡、同下水主遺跡、京田辺市門田遺跡、同西村遺跡、同向谷遺跡、同向山遺跡、同松井横穴群、八幡市女谷・荒坂横穴群、同荒坂遺跡、同後毛通り古墳群、同美濃山廃寺、同美濃山廃寺下層遺跡の各遺跡が所在する。これらの遺跡については、現地の発掘調査終了後に整理作業を行い、順次、報告書を刊行しているところである。^(R1)

今回報告する水主神社東遺跡ならびに下水主遺跡は、城陽JCT・IC(仮称)の建設に伴い、平成23年度から継続して調査を実施しているものである。両遺跡とも、木津川右岸の扇状地と埋没した微高地上に展開する。水主神社東遺跡は南北、東西ともに450mの範囲に広がる。下水主遺跡は、当初、東西540m、南北760mほどが遺跡範囲と考えられていたが、本事業に伴う調査の進展に伴い、遺跡がさらに北に広がることが確認されたため、現在、南北の広がりには1200mとなっている。今回の発掘調査以前には、表採遺物のみが知られており、平成15年に刊行された遺跡地図にも遺物散布地として周知されていた。^(R2)

本報告は、平成23～25年度に発掘調査を実施した調査区のうち、下水主遺跡A～C・F地区を除く各調査区についての報告を行うものである。下水主遺跡A～C・F地区では、大量の遺物が出土したことから、これら4地区については、今後、報告を行う予定である。

現地調査にあたっては京都府教育委員会、城陽市教育委員会、京都府立山城郷土資料館をはじめ、各関係機関のご指導・ご協力をいただいた。また、地元自治会や近隣住民の方々には発掘調査へのご理解とご協力をいただいた。記して感謝します。

なお、調査にかかる経費は、全額、西日本高速道路株式会社が負担した。

(筒井崇史)

[平成23年度現地調査体制]

<水主神社東遺跡第1次>

現地調査責任者	調査第2課長	水谷壽克
現地調査担当者	調査第2課主幹調査第3係長事務取扱	石井清司
	同 次席総括調査員	伊野近富
	同 主任調査員	戸原和人

調査場所 城陽市寺田金尾

現地調査期間 平成24年2月15日～平成24年3月14日

調査面積 200㎡

[平成24年度現地調査体制]

<水主神社東遺跡第2次>

現地調査責任者	調査第2課長	水谷壽克
現地調査担当者	調査第2課主幹調査第3係長事務取扱	石井清司
	同 主任調査員	戸原和人
	同 調査員	関広尚世

調査場所 城陽市寺田金尾

現地調査期間 平成24年5月23日～平成24年9月27日

調査面積 630㎡

<下水主遺跡第1次>

現地調査責任者	調査第2課長	水谷壽克
現地調査担当者	調査第2課主幹調査第3係長事務取扱	石井清司
	同 主任調査員	戸原和人・竹原一彦・増田孝彦
	同 調査員	関広尚世

調査場所 城陽市水主倉貝、寺田金尾

現地調査期間 平成24年5月21日～平成25年3月8日

調査面積 3,360㎡

[平成25年度現地調査体制]

<水主神社東遺跡第5次>

現地調査責任者	調査課長	水谷壽克
現地調査担当者	調査課参事調査第3係長事務取扱	石井清司
	同 主任調査員	戸原和人・増田孝彦・村田和弘
	同 専門調査員	岡崎研一
	同 副主査	石尾政信

	同 調査員	関広尚世・大高義寛・福山博章
調査場所	城陽市寺田金尾	
現地調査期間	平成25年5月14日～平成26年1月8日	
調査面積	11,375㎡	
<下水主遺跡第4次>		
現地調査責任者	調査課長	水谷壽克
現地調査担当者	調査課参事調査第3係長事務取扱	石井清司
	同 主任調査員	戸原和人・引原茂治・高野陽子・ 筒井崇史・村田和弘
	同 専門調査員	岡崎研一
	同 調査員	関広尚世・大高義寛・福山博章・ 山崎美輪・岡田健吾
調査場所	城陽市水主大將軍・倉貝・宮馬場・寺田金尾・今橋	
現地調査期間	平成25年4月22日～平成26年2月27日	
調査面積	10,393㎡	

位置と環境

1. 地理的環境

調査地の所在する京都府城陽市は京都府南部に位置し、周囲に宇治市、宇治田原町、井手町、京田辺市、八幡市の各市町が所在する。城陽市の地形は、大きく東部と西部で異なり、東から西に向かって山地、丘陵、平野と変化に富んだ地形が連なっている。

城陽市東部には鷲峯山山塊に連なる山地があり、山麓から低地の中間部には大阪層群からなる洪積丘陵である宇治丘陵が位置する。宇治丘陵の最高地である響池付近(標高250m付近)から放射状に必従谷が形成される。大谷川、長谷川、青谷川によって形成された扇状地が広がり、低地との境界には段丘が発達する。このような丘陵部や扇状地に集落が営まれ、城陽市の中心地となっている。

城陽市西部には木津川によって形成された沖積平野が河川に平行して南北に広がる。木津川流域には、河川堆積と度重なる氾濫により形成された微高地や後背湿地が発達する。水害の危険性の少ない微高地には富野、枇杷庄、水主などの集落が営まれる。さらに、水主から上津屋にかけては荒州と呼ばれる大規模な微高地が発達し、畑地や果樹園となっている。後背湿地には条里型地割が良好に遺存し、水田と土を盛り上げて畑作を行う島畑が分布している。さらに、わずか

な凹地と糸里型地割の乱れから、木津川と支流河川の氾濫による一時的な流路と推定される旧河道の痕跡が確認できる。⁽⁸⁴⁾

2. 歴史的環境

水主神社東遺跡・下水主遺跡周辺に分布する主要な遺跡について概観する(第1図)。

旧石器時代の遺物が出土した遺跡としては、芝ヶ原遺跡ではナイフ形石器と舟底形石器が、森山遺跡ではサスカイト片が、それぞれ出土している。

縄文時代では、横道遺跡(丸塚古墳周濠下層)で、土坑に納められた前期後半の深鉢形石器が出土しており、周辺に集落の存在が想定されている。後期後半には森山遺跡で定期的に配置された平面形が円形を呈する竪穴建物が検出されている。晩期には塚本東遺跡のほか、今回報告する下水主遺跡、水主神社東遺跡で土器が出土しており、木津川によって形成された沖積低地が活動領域として利用されていたと考えられる。

弥生時代では、森山遺跡で中期後半の甕棺と後期後半の竪穴建物2棟が検出されている。また、市域東部の宇治、胃山丘陵周辺に所在する芝ヶ原遺跡や正道遺跡などでは、遺構は検出されていないものの、中・後期の土器や石器が出土している。市域西部の沖積地に位置する塚本遺跡や塚本東遺跡、水主遺跡などで後期の土器が出土している。

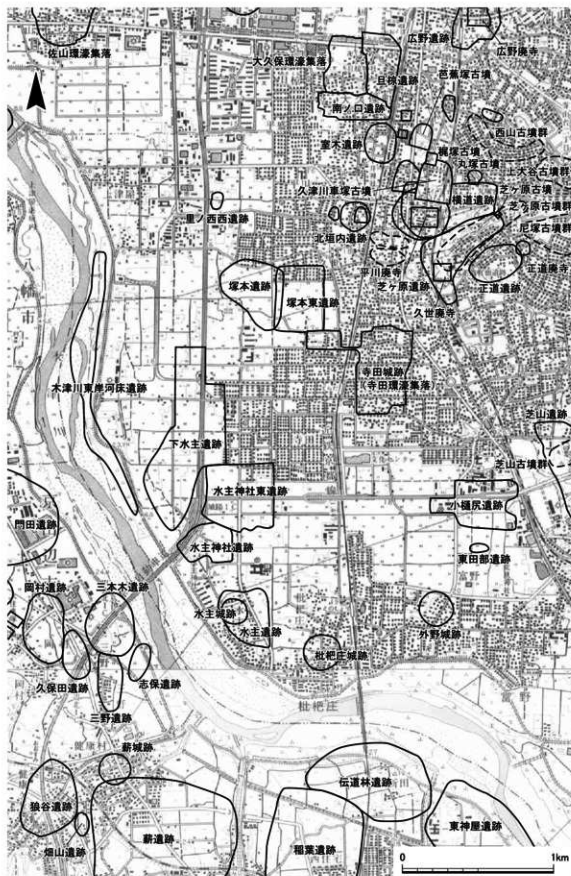
塚本東遺跡では、北東から南東に流れる溝から大量の庄内式土器が出土した。また、溝の南側から竪穴建物が検出されており、庄内期の集落が確認されている。芝ヶ原古墳は宇治丘陵北端部に築かれた前方後方形の最初期の古墳である。鏡、銅製腕輪、鉄製品、玉類、土器などが出土している。

古墳時代になると、南山城地域各地に前方後円墳が出現する。城陽市域においても北部地域の大谷川によって形成された扇状地とその周辺の丘陵を中心に前期から後期にかけて古墳が造営される。

前期では、上大谷古墳群、西山古墳群、尼塚古墳群が造営される。小規模ではあるが、方墳、円墳、前方後円墳、前方後方墳と多様な墳形の古墳が造営された。

中期では、芝ヶ原古墳群などのような小規模な古墳群の他に、前方後円墳である久津川車塚古墳、芭蕉塚古墳、帆立貝形前方後円墳の丸塚古墳、方墳の梶塚古墳、冚塚古墳、円墳の山道東古墳などの大規模な古墳が築造される。久津川車塚古墳は5世紀前半に築造された南山城地域最大の前方後円墳であり、埋葬施設として竜山石製の長持形石棺が見つかる。副葬品として銅鏡、玉類、石製模造品、甲冑、刀剣類などが出土している。墳丘規模、埋葬施設、副葬品のいずれにおいても王権と密接な関係を持った大首長の存在を示す。芭蕉塚古墳は5世紀中頃の前方後円墳であり、墳丘から埴輪列や葺石が検出されている。久津川古墳群最後の大型前方後円墳である。

後期では芝ヶ原古墳群、上大谷古墳群、芝山古墳群などで小規模な円墳が造営される。芝山古墳群では5世紀中頃から6世紀末頃に造営され、小型方墳から円墳、土壘墓へと移り変わる。こ



第1図 調査地および周辺主要遺跡分布図(国土地理院1/25,000 宇治・田辺)

これらの古墳はいずれも木棺直葬墳であり、横穴式石室を埋葬施設に持つ古墳は尼塚5号墳、上大谷12号墳、上大谷17号墳と数少ない。

古墳時代の集落遺跡は主に市城東部の丘陵上に営まれた。前期では芝山遺跡で竪穴建物が検出されており、隣接する森山遺跡では方形周溝状遺構と竪穴建物が検出されている。森山遺跡の方形周溝状遺構は家族居館と評価されている。中・後期では、室木遺跡、芝ヶ原遺跡、正道遺跡、芝山遺跡で竪穴建物などが検出されている。

文献資料によると、城陽市域に栗隈県が置かれたといわれている。「日本書紀」仁徳天皇十二年十月条に「大溝を山背の栗隈県に掘」とみえ、「同」推古天皇十五年は歳条にも「山背國に、大溝を栗隈に掘」と記載されている。栗隈大溝は現在の古川に比定されている。この時期の市城西部の木津川流域の沖積地における開発行為を物語る伝承といえる。

城陽市域は、古代律令制のもとでは山背国久世郡や綴喜郡に属していた。

飛鳥～奈良時代の遺跡としては、久世廃寺、平川廃寺、正道官衙遺跡が所在する。久世廃寺は7世紀に創建された寺院で、塔を東、金堂を西に置く法起寺式伽藍配置である。8世紀中頃に整備され、平城宮や恭仁宮と同じ瓦が供給されている。南門跡からは金銅製誕生釈迦弘立像が出土している。平川廃寺は8世紀に造営された寺院で塔を西、金堂を東に置く法隆寺式伽藍配置であり、塔跡、金堂跡の周辺からは塑像片が出土している。正道官衙遺跡では7世紀後半から9世紀前半にかけての大型掘立柱建物群が複数検出されており、山背(城)国久世郡郡跡と推定されている。これらの寺院や郡衙を通るように北陸道や東山道が想定されている。詳細は不明であるが、芝山遺跡で道路側溝と想定される遺構が検出されている。

鎌倉時代の調査地周辺には寺田荘、富野荘、水主荘などの荘園が整備され、賀茂別雷神社、石清水八幡宮、元興寺などの神社領となっていた。

室町時代の応仁・文明の乱の動乱期における山城国一揆の主戦場となり、各地の土豪たちが城を築いて防備を固める。このような中で寺田環濠集落が形成され、枇杷庄城、外野城、水主城が築造される。水主氏の勢力基盤であった水主城は木津川に近い現在の水主集落一帯に築かれた平城であるが、発掘調査では遺構は検出されておらず、城郭の構造は不明である。

江戸時代になると、水主村は綴喜郡に属し、天領として幕府の支配下に置かれた。

13世紀頃から現在に至るまで、富野荘集落、水主集落の周辺、寺田集落の西側には木津川流域に特有の島畑が形成されている。土を盛り上げて島畑をつくって畑作を行う一方、島畑と島畑の間の凹地では水田を行っていた可能性もある。このように、稲作と畑作が両立していた可能性もあるが、詳細は今後の検討課題である。調査地周辺では中世から現代にかけて、島畑を主体とする景観から水田を主体とする景観へと変化していたと考えられる。^(福山)

(福山博章)

調査の経過

1. 調査に至る経緯

新名神高速道路は、はじめにも述べたように、愛知県名古屋を起点とし、兵庫県神戸市に至る総延長約174kmの高速道路で、既存の名神高速道路や京滋バイパス、近畿自動車道などと交通機能を分担することで、名神高速道路等の混雑を解消し、利用者の利便性の向上を目的として建設が進められているものである。また、大規模な災害や事故等による交通規制時には、名神高速道路等と相互に代替路線としても期待されている。

新名神高速道路の予定路線うち、京都府内では、宇治田原町・城陽市・京田辺市・八幡市の各市町を通過する路線として17.7kmが計画されている。このうち、京奈和自動車道と第二京阪道路を接続することによる高速道路網の機能強化等を目的として、先行して事業認可が下りた城陽JCT・IC(仮称)～八幡JCT・IC(仮称)間(事業距離3.5km)については、平成20年度より発掘調査に着手している。

本書で報告する水主神社東遺跡・下水主遺跡は、新名神高速道路の城陽JCT・IC(仮称)建設予定地に該当し、橋脚建設や盛土造成の行われる範囲を主な対象として、発掘調査を実施することとなった。発掘調査は平成23年度に開始し、平成27年度も継続して調査を実施しているところである。発掘調査にかかる調査回数・調査地点・調査期間等については、第2図、付表1・2の通りである。このように調査期間が長期に及ぶため、整理作業は随時実施し、報告書についても、順次刊行していくこととした。本報告は、新名神高速道路整備事業の城陽JCT・IC(仮称)の建設に関わる水主神社東遺跡・下水主遺跡の発掘調査報告書としては第1冊に当たる。

2. 調査の経過

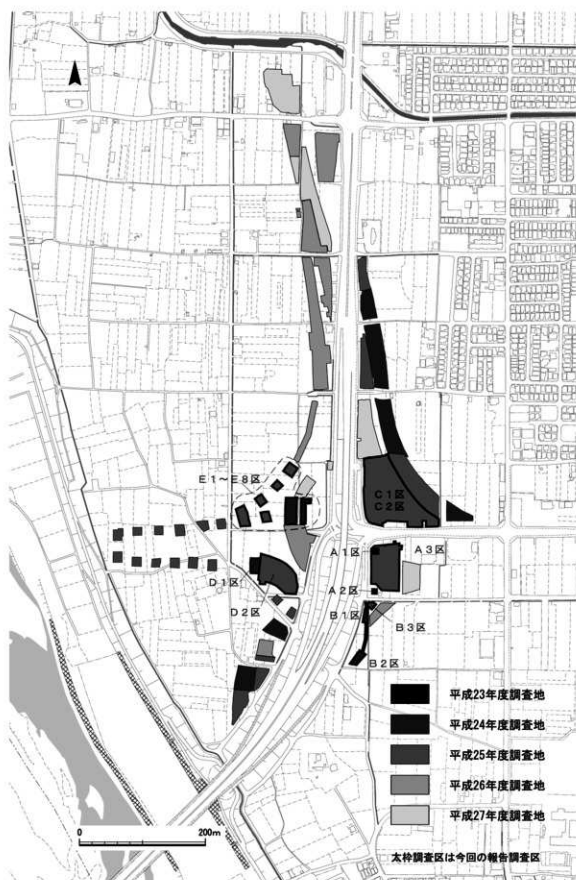
1)平成23年度調査の経過

平成23年度は、城陽JCT・IC(仮称)における橋脚建設や盛土造成の予定地のうち、水主神社東遺跡を対象に着手可能な範囲で調査を実施することとなった。平成25年度の調査地区名称の整理でA地区とした地点に2か所の調査区を設定した(後にA1・A2区と呼称)。調査は平成24年2月15日から着手した。両調査区とも、まず、表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。検出した各遺構の記録を行い、平成24年3月14日に全ての作業を終了した。

2)平成24年度調査の経過

平成24年度は、城陽JCT・IC(仮称)の工事範囲のうち、埋蔵文化財の調査可能な地点を対象として調査を実施した。平成24年度は前年度に引き続き、水主神社東遺跡の調査を実施するとともに、新たに下水主遺跡の調査にも着手した。

また、新名神高速道路整備事業に伴う城陽JCT・IC(仮称)の建設に伴い、一般国道24号金尾交差点改良事業が計画され、これに伴う調査が並行して実施された(水主神社東遺跡第3次・下水主遺跡第2次調査)。この調査では、上層遺構として鳥畑を12基確認するとともに、下層遺構として弥生時代の土坑3基、平安時代の溝3条などを検出した。また、縄文土器がややまとまって



第2図 調査年度別調査区配置図(1/6,000)

付表1 水主神社東遺跡調査回数一覧表

調査年度	回数	調査地区	調査期間	調査面積	調査機関	報告書
平成23年度	第1次	A地区(A1・A2区)	2012.2.15～ 2012.3.14	200㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第167冊(本書)
	第2次	B地区(B1・B2区)	2012.5.23～ 2012.9.27	630㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第167冊(本書)
平成24年度	第3次	24号E地区	2012.9.24～ 2013.3.8	800㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第163冊(2015)
	第4次	24号D地区	2013.4.26～ 2013.9.3	2800㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第163冊(2015)
平成25年度	第5次	A地区(A3区)・B地区(B3区)・ C地区	2013.5.14～ 2014.1.8	11,375㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第167冊(本書)
	第6次	B地区(B4区)	2014.11.19～ 2015.2.26	590㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	今後報告予定
平成26年度	第7次	D地区	2015.11.24～ 2016.2.5	1,280㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	今後報告予定

付表2 下水主遺跡調査回数一覧表

調査年度	回数	調査地区	調査期間	調査面積	調査機関	報告書
平成24年度	第1次	B地区(B1区)・C地区(C1区)・ D地区(D1区)・E地区(E1・ E2区)	2012.5.21～ 2013.3.8	3,360㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第167冊(本書)
	第2次	24号A・B・C地区	2012.9.24～ 2013.3.8	5,570㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第163冊(2015)
平成25年度	第3次	24号A北地区	2013.4.26～ 2013.9.3	500㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第163冊(2015)
	第4次	A地区・B地区(B1・B2区)・ C地区(C3区)・D地区(D2・ D4～D6区)・E地区(E3～E 8区)・F地区(F1～F12区)・ G地区	2013.4.22～ 2014.2.27	10,393㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	『京都府遺跡調査報告集』 第167冊(本書)
	第5次	-	2013.10.15～ 2013.10.22	530㎡	京都府教育委員会	『京都市埋蔵文化財調査報 告書』平成25年度(2014)
平成26年度	第6次	A地区・B地区(B1・B2区)・ C地区(C2区)・D地区(D3区)・ I地区・J地区・K地区・L地区・ M地区・N地区	2014.4.9～ 2014.3.6	17,110㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	今後報告予定
	第7次	-	2014.9.19、 10.8、12.8～ 12.10、12.12	636㎡	京都府教育委員会	『京都市埋蔵文化財調査報 告書』平成26年度(2015)
平成27年度	第8次	L地区(L2区)・M地区(M2区)・ O地区	2015.4.24～ 2015.10.9	6,000㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	今後報告予定
	第9次	L地区(L3区)・E地区(E9・ E10区)・H地区	2015.5.18～ 2016.2.4	3,260㎡	(公財)京都市埋蔵文化財 調査研究センター	今後報告予定

出土した地点も確認された。⁽⁸⁶⁾

(1)水主神社東遺跡第2次調査の経過

水主神社東遺跡ではB地区にB1・B2区の2か所の調査区を設定した。調査は平成24年5月23日から着手した。両調査区とも、表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。B1区では、調査区の一部を拡張して調査を行い、7月25日に全景写真を撮影したのち、8月7日に埋め戻しを終了した。B2区では、検出した各遺構の記録を進め、9月5日に全景写真を撮影した。その後、下層遺構等の確認作業を行った。さらに、工事に伴う排水路の設置部分を対象として、両調査区をつなぐ幅3.0～3.5mの調査区を追加した。この追加調査区とB2区との埋め戻しを行って平成24年9月27日に全ての作業を終了した。

(2)下水主遺跡第1次調査の経過

まず、城陽JCT・IC(仮称)の南西部に予定された盛土造成地点を対象に調査を実施した。当該盛土部分にA～C地区を設定し、このうちB地区(B1区)の調査を実施した。また、平成24年度後半には、橋脚建設および盛土造成の工事が予定された地点4か所での調査を実施した(C1・D1・E1・E2区)。ただし、今回、B・C両地区の報告は行わないので割愛する。

①D地区の調査 D1区は盛土部分に接続する橋脚建設予定地を対象とした。調査は平成24年11月28日に着手した。まず、表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。検出した各遺構の記録を行い、平成25年2月21日に全景写真を撮影した。その後、断ち割りや埋め戻しを行い、平成25年3月8日に調査を終了した。

②E地区の調査 E1・E2区は橋脚建設予定地ならびに盛土造成範囲を対象とした。調査は平成24年12月10日に着手した。まず、E1区の表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。また、12月18日からはE2区の表土や堆積層を重機で除去し、人力による精査を行った。検出した各遺構の記録を行い、E2区は2月21日に、E1区は2月25日に全景写真を撮影した。その後、断ち割りや埋め戻しを行い、平成25年3月8日に調査を終了した。

3)平成25年度調査の経過

平成25年度は、城陽JCT・IC(仮称)の建設工事が本格化するのに合わせて、埋蔵文化財の調査も本格化し、2万㎡を越える調査となった。昨年度に引き続き、水主神社東遺跡・下水主遺跡の調査を実施した。また、平成24年度に引き続き、一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う調査が並行して実施された(水主神社東遺跡第4次・下水主遺跡第3次調査)。この調査でも、上層遺構として島畑を8基確認するとともに、下層遺構として弥生時代の溝5条、平安時代の溝2条などを検出した。⁽⁸⁷⁾

(1)水主神社東遺跡第5次調査の経過

盛土造成工事の予定地であるA・C地区と、橋脚建設予定地であるB3区を対象に実施した。調査はまず、C地区から開始した。C地区の東側に隣接して、一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う水主神社東遺跡第4次調査のD地区が位置する。年度後半にはA地区(A3区)とB地区(B3区)の調査に着手した。

なお、新名神高速道路整備事業に伴う水主神社東遺跡第5次調査C地区、下水主遺跡第4次調査D・F地区の各地区及び、一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う水主神社東遺跡第4次調査D地区の調査成果を合わせて、平成25年8月3日に現地説明会を実施し、約120人の参加があった。

①C地区の調査 C地区は大規模な盛土造成が計画された地点に当たり、対象地が広大であることや構造物の撤去ができていないなどの事情により、まず、C地区の東半部を対象として調査を開始した(C1区)。調査は、平成25年5月14日に着手した。5月31日まで重機によって表土と堆積層を除去し、その後人力による精査を行った。その結果、鳥畑を検出し、さらに鳥畑の上面で下層遺構を検出した。8月12日には一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う調査区と合同で、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。

平成25年6月24日から西半部の調査に着手し(C2区)、10月28日まで、順次重機による表土と堆積層の掘削を行った。重機掘削と並行して人力による精査を行い、鳥畑を検出した。また、鳥畑の上面を中心に下層遺構を検出した。11月20日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。その後、土壌のサンプリング等の作業を行い、調査は12月12日に終了した。

②A地区の調査 大規模な盛土造成が計画されたA地区について、平成23年度に行ったA1・A2区の調査成果に基づいて調査区を設定した(A3区)。調査は平成25年10月1日に着手した。まず、表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。その結果、鳥畑を検出した。さらに下層遺構の調査として、11月21日から重機で約20cmの掘り下げを行い、弥生時代後期と考えられる溝5条を検出した。また、調査区の北東部で鳥畑等の遺構の確認を行うための拡張区2か所の掘削を12月2日から行った。このほか、地山面直上から縄文土器片が出土した。各遺構の記録を行い、12月17日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。その後、調査区の中央に重機で断ち割りを行い、下層の堆積状況を確認した。調査は平成26年1月8日に終了した。

③B地区の調査 橋脚建設予定地1か所のみ調査を実施した(B3区)。平成25年11月19日に調査に着手した。まず、表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。検出した各遺構の記録を行い、12月6日に全景写真を撮影した。12月17日に調査区を埋め戻して調査を終了した。

(2)下水主遺跡第4次調査の経過

平成25年度の調査はA～G地区を対象に実施した。このうち、B1・C1・D1・E1・E2の各調査区については平成24年度に調査を実施しているが、B1区については平成25年度にも引き続き調査を実施した。また、C3・D3区については、次年度以降に調査を実施することとなった。

調査は、まずF地区から開始した。次いでD地区のうち、D2・D4区の調査に着手した。F地区の調査の見通しが立った段階で、D5・D6区とE地区の各調査区の調査に着手した。F地区の調査終了後、順次、G地区とA・B地区の調査に着手した。最後にC地区のうち、C2区を設定し、調査に着手した。なお、A地区、B1・B2区において多数の遺構・遺物が検出された

ことから、引き続き次年度も調査を行うこととし、それ以外の調査については調査を終了した。

ただし、A・B・C・Fの各地区については、本書では扱わず、別途報告する予定である。

①D地区の調査 D地区は平成24年度にD1区の調査を実施し、平成25年度はD2・D4～D6区の各調査区について調査を実施した。なお、D3区は調査の優先順位から平成26年度に調査を実施したため、報告は別途行うものとする。また、D4区はD2区に近接するため、1つの調査区として調査を実施した。

D2区の調査は平成25年5月7日に開始した。まず、重機によって表土ならびに堆積層の除去を行うとともに、調査区南東隅で土層の堆積状況を確認するための断ち割りを実施した。その結果、少なくとも遺構面が3面あることを確認するとともに、最下層(標高13.5m付近)で、縄文時代晩期の土器片等が出土した。上層遺構面についての重機掘削は6月7日に終了したが、この間に人力による調査区壁面の精査や遺構の検出作業を行い、鳥畑などを検出した。また、鳥畑に伴う素掘り溝を多数検出した。7月2日には高所作業車を利用した第1面の全景写真を撮影した。7月3日からは中層遺構面についての重機掘削を行い、その後、人力による遺構の検出作業を行い、溝やピットなどを検出したが、遺構は少数であった。8月5日から下層遺構面についての重機掘削を行い、その後、人力による遺構検出を行い、自然流路状の溝や炭化物が入った土坑などを検出した。下層遺構面についてはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を8月21日に実施した。その後、断ち割りとその記録の作業を行い、9月2日から埋め戻しを開始した。9月20日には埋め戻しを完了して調査を終了した。

なお、先述のように調査期間中の8月3日に現地説明会を実施した。

以上のD2区の調査がおおむね終了した9月9日から、D5・D6区の調査に着手した。ただし、D5区は現用の水路が調査区と重複するため、まず、南半部のみを調査を行い、水路の撤去後に北半部の調査を行うこととした。これらの調査区では、重機によって表土ならびに堆積層を除去し、その後、人力による遺構の検出作業を行い、鳥畑などを検出した。D5区南半分、D6区では10月8日に全景写真を撮影した。その後、両調査区の埋め戻しを行い、10月22日に調査を終了した。D5区北半部の調査は11月25日から開始し、鳥畑の一部を確認した。12月5日に全景写真を撮影し、12月6日に調査を終了した。

②E地区の調査 橋脚の建設予定地6か所(E3～E8区)を対象として、7月17日から調査に着手した。まず、E3・E4区から開始したが、両調査区が近接していることから1つの調査区として調査を進めた。以後、各調査区の重機掘削を順次進め、8月29日に重機掘削を終了した。これらの調査区では、重機によって表土ならびに堆積層を除去し、その後、人力による遺構の検出作業を行い、鳥畑などを検出した。各調査区的全景写真を9月11日から10月16日にかけて撮影した。全景写真撮影後、下層遺構の有無を確認するための断ち割り調査を行ったが、いずれの調査区でも下層遺構は確認されなかった。その後順次、各調査区の埋め戻しを行い、10月23日に調査を終了した。

③G地区の調査 G地区は、盛土造成工事が計画された地点に当たり、国道24号(旧路線)の南

進路線部分と国道24号金尾交差点改良事業に伴う発掘調査地に挟まれた地点である。調査は平成25年9月5日に着手した。まず、表土や堆積層を重機で除去し、その後人力による精査を行った。その結果、鳥畑などを検出した。さらに下層遺構の調査として、10月16日から重機による鳥畑の掘り下げを行い、弥生時代後期と考えられる溝を検出したほか、遺構に伴わないものの縄文土器などが出土した。各遺構の記録を行い、11月6日に全景写真を撮影した。その後、調査区の埋め戻しを行い、平成25年11月14日に調査を終了した。

3. 報告書作成作業について

水主神社東遺跡・下水主遺跡の報告書の作成にあたっては、調査期間が長期に及ぶことや、一部の調査区では遺物が多量に出土したことなどから、調査の終わった地点から順次、基礎的な整理作業に着手するとともに、報告書についても複数に分冊して刊行することとした。各報告書に所収する調査区はできるだけ調査年度ごとにまとめることとしたが、複数年度にわたって調査を実施した調査地区では、同一報告書にまとめることができない地点が生じた。これは整理作業を調査終了順に行ったためである。

さて、城陽JCT・IC(仮称)の発掘調査に伴う整理作業については、平成25年度までは城陽JCT・IC(仮称)～八幡JCT・IC(仮称)間ならびに八幡JCT・IC(仮称)における調査に伴う整理作業を優先して実施したため、本格的な整理作業の着手は平成26年度からである。ただし、平成26年度以前であっても、台帳登録や遺物洗浄等の基礎的な整理作業は実施した。

整理作業は、まず、出土遺物の台帳登録と洗浄を行った。洗浄作業の終わった遺物は、注記作業や接合作業を行った。一連の調査では鳥畑が多数検出されたものの、耕作地ということもあって遺物の出土量は少なく、遺存状態の良い遺物もほとんどなかった。しかし、縄文時代から古代にかけての遺物は一部の調査区でまとまった出土量がある。今回の報告分には、上述のような遺物を多量に出土した調査区を含まない。このため、調査面積の割に出土遺物が少なく、以下で報告する遺物も大半が破片資料である。縄文時代や古墳時代のまとまって出土した遺物は今後報告する予定である。注記等が終了すると、報告書に掲載すべき遺物の選別を行い、これらについては実測や拓本を行った。

また、遺構図のレイアウト作業を行い、トレース作業に着手した。遺構図の作成にあたっては、以下のような基本方針のもと作成した。調査区の全体図は、盛土造成対象地の場合は縮尺1/400ないし1/500とし、橋脚建設予定地の場合は縮尺1/200とした。また、鳥畑の平面図は縮尺1/200で、断面図は縮尺1/100でそれぞれ作成した。その他の遺構については掘立柱建物や溝は縮尺1/80ないし1/100で、土坑は縮尺1/40で、遺物出土状況図は縮尺1/20で、それぞれ作成することを基本とした。

本報告書に関する基本的な整理作業は、遺構図面・遺物図面のトレース作業を除き、おむね平成26年度に終え、平成27年度は、遺物実測の追加・補足や遺物の写真撮影、図面のトレース作業、遺構写真図版の作成等を行った。また、上記の作業に合わせて報告書に向けての本文執筆や

遺物観察表の作成も行った。実測した遺物のうち、復元可能なものについては石膏による復元を実施した。復元できた遺物や破片資料の遺物について、写真撮影を行い、遺物写真図版として掲載した。以上のような資料をもとに編集作業を行った。なお、最終的に本報告に掲載した遺物は219点である。

なお、平成26年11月14日には、センター職員のほか、城陽市教育委員会小泉裕司氏が参加して「下水主遺跡検討会」を行い、島畑や縄文時代の遺物、遺跡の立地等についての検討を行った。その際の成果を本報告にも一部盛り込むことができた。

本報告は、現地調査を担当した戸原・岡崎・筒井・関広・福山のほか、京都大学大学院深澤麻衣がそれぞれ執筆し、全体の文章の調整等を筒井が行った。

(筒井崇史)

付表3 水主神社東遺跡調査地区別一覧表(新名神高速道路整備事業分)

調査年度	調査回数	調査地区	調査区	調査期間	調査面積	報告書
平成23年度	第1次	A地区	A 1区	2012. 2. ~2012. 3. 15	100㎡	本書
			A 2区	2012. 2. ~2012. 3. 15	100㎡	本書
平成24年度	第2次	B地区	B 1区	2012. 5. ~2012. 8. 7	200㎡	本書
			B 2区	2012. 6. ~2012. 9. 27	430㎡	本書
平成25年度	第5次	A地区	A 3区	2013. 10. ~2014. 1. 8	3. 100㎡	本書
		B地区	B 3区	2013. 11. ~2013. 12. 17	100㎡	本書
		C地区	C 1・C 2区	2013. 5. ~2013. 12. 12	8. 175㎡	本書
平成26年度	第6次	B地区	B 4区	2014. 11. ~2015. 2. 26	590㎡	今後報告予定
平成27年度	第7次	D地区		2015. 11. ~2016. 2. 5	1. 280㎡	今後報告予定

付表4 下水主遺跡調査地区別一覧表(新名神高速道路整備事業分)

調査年度	調査回数	調査地区	調査区	調査期間	調査面積	報告書
平成24年度	第1次	B地区	B 1区	2012. 5. ~2013. 3. 8	1. 070㎡	今後報告予定
			C地区	C 1区	2012. 10. ~2013. 1. 30	700㎡
		D地区	D 1区	2012. 11. ~2013. 3. 8	450㎡	本書
		E地区	E 1区	2012. 12. ~2013. 3. 8	770㎡	本書
			E 2区	2012. 12. ~2013. 3. 8	370㎡	本書

調査年度	調査回数	調査地区	調査区	調査期間	調査面積	報告書	
平成25年度	第4次	A地区		2013.10～2014.2.27	940㎡	今後報告予定	
			B地区	B1区	2013.11～2014.2.27	330㎡	今後報告予定
				B2区	2013.11～2014.2.27	580㎡	今後報告予定
		C地区	C2区	2014.1～2014.2.27	200㎡	今後報告予定	
		D地区	D2・D4区	2013.5～2013.9.20	2,617㎡	本書	
			D5区	2013.9～2013.12.6 (中断期間あり)	150㎡	本書	
			D6区	2013.9～2013.10.22	180㎡	本書	
		E地区	E3・E4区	2013.7～2013.10.4	470㎡	本書	
			E5区	2013.8～2013.10.2	220㎡	本書	
			E6区	2013.8～2013.10.4	210㎡	本書	
			E7区	2013.8～2013.10.23	160㎡	本書	
			E8区	2013.8～2013.10.23	290㎡	本書	
		F地区	F1区	2013.5～2013.7.5	260㎡	今後報告予定	
			F2区	2013.6～2013.8.23	255㎡	今後報告予定	
			F3区	2013.6～2013.8.29	230㎡	今後報告予定	
			F4区	2013.4～2013.6.12	218㎡	今後報告予定	
			F5区	2013.6～2013.7.22	220㎡	今後報告予定	
			F6区	2013.4～2013.7.22	265㎡	今後報告予定	
			F7区	2013.4～2013.8.27	190㎡	今後報告予定	
			F8区	2013.4～2013.7.8	220㎡	今後報告予定	
			F9区	2013.5～2013.7.18	198㎡	今後報告予定	
			F10区	2013.4～2013.7.18	185㎡	今後報告予定	
			F11区	2013.5～2013.7.8	240㎡	今後報告予定	
		F12区	2013.5～2013.8.30	275㎡	今後報告予定		
G地区		2013.9～2013.11.14	1,290㎡	今後報告予定			
平成26年度	第6次	A地区		2014.4～2014.6.13	600㎡	今後報告予定	
		B地区	B1・B2区	2014.4～2014.6.13	400㎡	今後報告予定	
		C地区	C3区	2014.4～2014.5.30	600㎡	今後報告予定	
		D地区	D3区	2014.11～2015.2.27	2,050㎡	今後報告予定	
		I地区		2014.4～2014.7.15	900㎡	今後報告予定	
		J地区		2014.6～2014.12.5	2,500㎡	今後報告予定	
		K地区	K1区	2014.4～2014.8.5	1,660㎡	今後報告予定	
			K2区	2014.8～2014.10.30	1,460㎡	今後報告予定	
		L地区	L1区	2014.4～2014.10.30	2,620㎡	今後報告予定	
		N地区		2014.4～2014.12.5	2,420㎡	今後報告予定	
平成27年度	第7次	E地区	E9区	2015.11～2016.2.4	365㎡	今後報告予定	
			E10区	2015.12～2016.2.4	115㎡	今後報告予定	
		L地区	L3区	2015.5～2015.6.29	110㎡	今後報告予定	
		H地区	H1区	2015.5～2015.10.19	1,500㎡	今後報告予定	
			H2区	2015.8～2015.11.19	1,170㎡	今後報告予定	

調査の方法と基本層序

1. 調査の方法

調査の着手にあたっては、各調査区の設定および基準点の設置作業を行った。調査では、A地区、B地区などの調査地区を設定し、その内部に実際の調査を行った調査区を設定した(2項参照)。また、調査の対象となる範囲には、国土座標系に基づく、地区割を設定した(3項参照)。

各調査区の調査は、遺構面直上まで重機で堆積層を除去した。その後、人力による遺物包含層の掘削、遺構面の精査作業を行って遺構の検出に努めた。検出した遺構は、その位置を縮尺1/100ないし1/50の平面図に記録しながら、順次、掘削作業を行った。遺構の掘削を終えると縮尺1/10ないし1/20の平面図や断面図、あるいは縮尺1/10ないし1/5の遺物出土状況図などの記録図面の作成を行った。また、遺構や土層断面などの記録写真の撮影を行った。遺構面全体の調査を終えると、調査区ごとに全景写真を撮影した。さらに、必要に応じて空中写真撮影と、それによる図化作業を実施した。

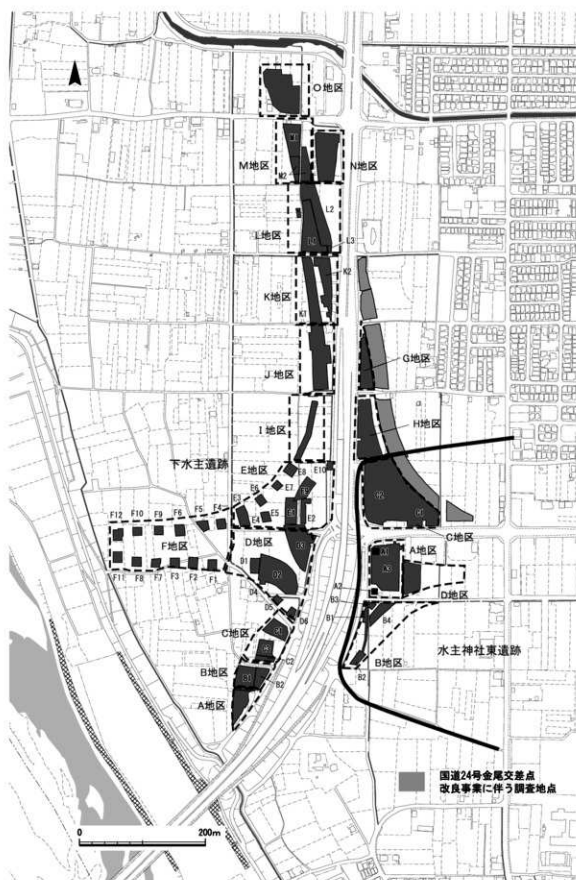
また、下層遺構が確認された場合、上層遺構面から下層遺構面までの堆積層が薄い場合には人力によって、堆積層が厚い場合には重機によって、それぞれ除去し、上記の作業を繰り返した。

検出した遺構には原則として、各調査区ごとに1番から通し番号をつけ、遺構の性格を示す略号を付与した。略号は調査の進展に伴って変更することもあったが、遺構番号は変更しないようにした。使用した略号は、竪穴建物：SH、掘立柱建物：SB、井戸：SE、土坑：SK、溝：SD、柱穴・ピット：SP、不明遺構：SXである。本報告で使用した遺構番号は原則として調査時のものであるが、調査時に番号のなかった遺構については、本報告作成時に新たに付与した。ただし、鳥畑の遺構番号については、調査時の遺構番号とは別に一般国道24号金尾交差点改良事業の調査報告に始まる鳥畑の通し番号を付与した。なお、鳥畑の通し番号の初出時に調査時の遺構番号を合わせて示した。

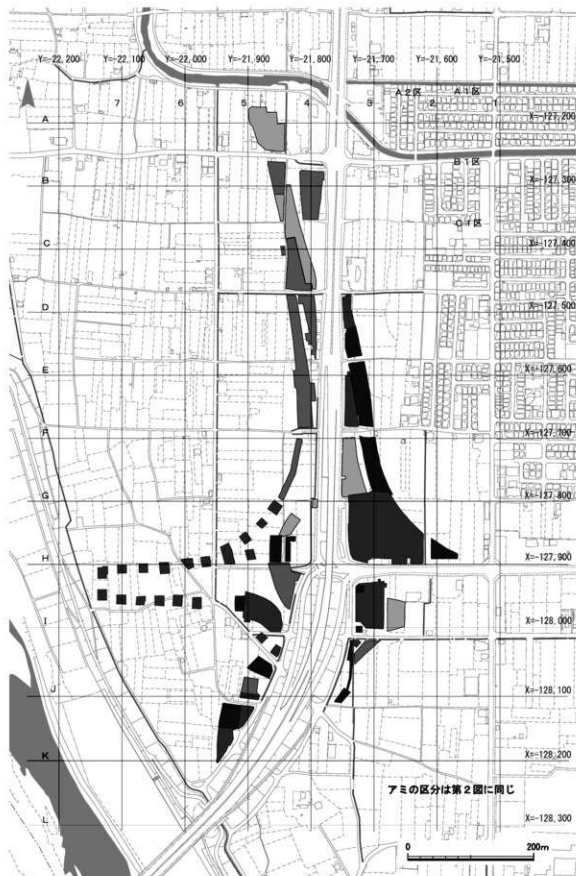
2. 調査地区の設定

調査対象地が広大であることから、調査対象地をいくつかの調査地区に分割して調査を進めることにした。この調査地区名は、平成24年度調査で一部使用をはじめたが、平成25年度に調査を必要とする地点の概要が定まるにしたがって設定した。この「調査地区」は現用の市道等で区分したもので、面的な空間をさし、A地区、B地区、……、L地区、……というように、アルファベットで呼ぶものとする(第3図)。このなかに実際に調査を実施した「調査区」を設定し、複数の調査区がある場合はD1区、D2区、……、D6区と、アルファベットと数字の組み合わせで表すこととした。したがって、「○地区」と「○○区」は、異なるものをさす区分名称とする。ただし、調査区が1つしかない場合は、「○地区」という名称を使用した。

調査区の設定は、西日本高速道路株式会社の工事計画にしたがい、京都府教育委員会と協議の上、橋脚部分については、橋脚本体と施工に伴い掘削される部分を、また、盛土部分については、造成範囲すべてを対象とすることとした。なお、平成26年度以降は盛土造成部分のうち、実際に



第3図 調査地区配置図(1/6,000)



第4図 水主神社東遺跡・下水主遺跡全体地区割図(1/6,000)

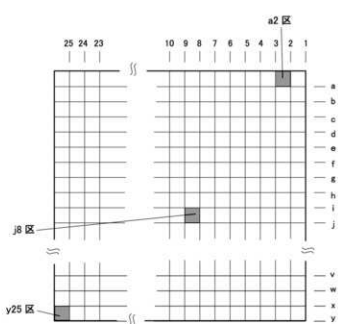
道路造成部分に限って発掘調査を行い、下層遺構等が検出された場合には必要に応じて盛土造成範囲まで調査区を拡張することとした。

以上のような方針のもと、平成25年度に水主神社東遺跡についてはA～C地区の3つを、下水主遺跡についてはA～G地区の7つを設定した(第3図)。また、平成26年度以降は、当初の調査予定地点のほか、平成25・26年度の京都市教育委員会の試掘調査の結果、下水主遺跡の範囲が北に広がったことから、新たな調査地区を追加した。最終的に、水主神社東遺跡はA～D地区、下水主遺跡はA～O地区となった。調査区ごとの調査期間や調査面積については、付表3・4にまとめた。

3. 地区割の設定

水主神社東遺跡・下水主遺跡の調査では、上記の調査地区の設定とは別に、検出遺構や出土遺物の位置を記録する目的で、対象地全体を覆う地区割を国土座標系(世界測地系)にもとづいて設定した。

まず、対象地全体に100m四方の大区画を設定した(第4図)。大区画は、 $X=-127,200$ 、 $Y=-21,500$ を起点とする、100m四方の方眼を設定した。大区画の基準線は南北・東西とも国土座標系に一致させ、東西方向は東から1、2、3、……とし、南北方向は北からA、B、Cとし、両者の交点をA1、B2、……、H4、などとする。大区画の地区名は100m方眼の南東隅の交点の名称で表すものとする。この大区画の一辺を25等分して4m四方の方眼を設定し、小区画とした(第5図)。小区画の基準線も大区画と同様に、国土座標系と一致させ、東西方向は東から1、2、3、……、25とし、南北方向は北からa、b、c、……、yとし、両者の交点をa1、b1、c3、y25などとする。小区画の地区名も4m方眼の南東隅の交点の名称で表すものとする。Y軸の下2桁



第5図 小地区割概念図

で表すと、1ラインは00m、25ラインは96mに当たる。また、X軸の下2桁で表すと、aラインは04m、yラインは00mに当たる。国土座標系にもとづく、地区名は「H3-r12区」のように表記する。

なお、城陽JCT・IC(仮称)の建設に伴う発掘調査では、多数の調査区を設けて調査を実施しているほか、100mを越える調査区がほとんどないため、大区画割は、実際の調査時には使用していない場合がある。また、小地区割は、遺物包含層や規模の大きな遺構内で出土した遺物の取

上げに使用したが、多くの調査区で明確な遺物包含層がなかったため、調査の進捗に合わせて小地区割を設定することがあった。

報告にあたっては、鳥畑をはじめ各遺構が検出された地区名を明記したが、遺構の規模が大きいのがあり、多くの場合、一部の地区名に代表させて表記した。また、遺構平面図に小地区割の基準となるライン名を表記した。

4. 基本的な層序

ここでは、平成23年度から平成27年度までの調査成果をふまえて、調査対象地全体の基本的な層序についてまとめておく。個々の調査区の層序については、各調査区の項で記述する。

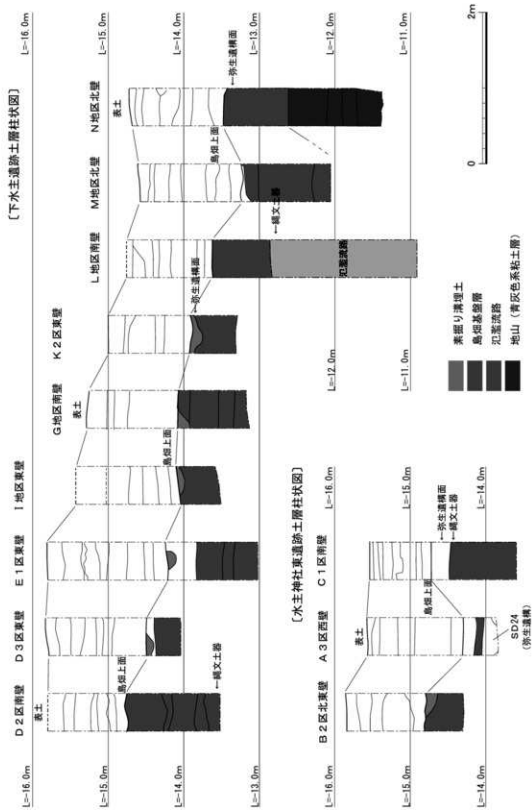
まず調査前の土地利用は原則、水田、もしくは水田面よりも1m前後高くなった高まりを利用した畑地が広がっていた。後者が、いわゆる「鳥畑」である。城陽市に所在する鳥畑では、江戸時代から大正時代にかけて広範囲に綿や果樹栽培などが行われていた。寺田地区の国道24号より西側には、現在も寺田イモやイチジクなどの栽培を行う鳥畑が多く存在している。また、文化庁の「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」（平成15年度）では、「畑地景観」の種別で、城陽市所在の「木津川流域の鳥畑」が掲げられている。

調査対象地周辺には、国道24号(大久保バイパス)や京奈和自動車道城陽インターチェンジなどがあり、これらと交差するように新名神高速道路ならびに城陽JCT・IC(仮称)が設けられることとなった。

調査前の景観は大半が水田であり、一部に鳥畑が認められた。現水田面の標高は、下水主遺跡O地区付近で15.0m、同L地区付近で14.6m、同H地区付近で15.4m、同F地区西端で15.6m、同D地区付近で15.7m、同B地区付近で16.0mである。一方、水主神社東遺跡C地区付近で15.6m、同A地区付近で15.6m、同B地区付近で15.7mである。現水田面の標高からみると、下水主遺跡L地区付近が最も低くなり、この付近から北と南に向かって徐々に高くなる。そして、木津川に最も近い下水主遺跡B地区付近が最も高くなる。

第6図に示した柱状図を参考に調査対象地の堆積状況について概観すると、おおむね水田に伴う厚さ10～20cmほどの耕作土や床土が認められる。この下に淡黄色砂層・浅黄色砂層・青灰色砂質土などの砂層を主体とする堆積層がある。これらは洪水等によるものと考えられるが、調査地点によって砂層の厚さは異なる(20～80cm)。また、必ずしも砂層が確認されなかった調査区もある。この砂層は木津川の氾濫等によるものと推定されるが、砂層の堆積した時期や回数などの詳細は不明である。この下に青灰色粘質土層・灰色シルト層・緑灰色シルト層などのシルト層ないし粘土層が堆積する。これらは鳥畑の溝部分に堆積したものと考えられ、最終的には鳥畑そのものの上面にまで達していることが多い。これらを除去すると、鳥畑が検出される。

鳥畑は調査成果によると、中世中頃(13世紀前後)に形成され、おおむね同一地点で、溝の堆積土を掘削し、それを鳥畑に盛り上げることを繰り返していたと考えられる。鳥畑は、中世に形成された後、近世のある段階まで継続して営まれたようである。その後、鳥畑の周囲に広がる溝状



第6図 調査地基本層序柱状図(L/50)

遺構が、洪水等に伴う砂層やシルト質系の堆積土によって埋没すると、鳥畑の周囲が水田に変化していった可能性が高い。

初期の鳥畑の多くは、それ以前から存在する比較的安定した地層を削り込んで溝状遺構を形成し、いわば安定した地層を掘り残して鳥畑を形成していると考えられる。最も初期の鳥畑上面の標高は、水主遺跡O地区付近で14.0m、同L地区付近で13.6m、同H地区付近で14.1m、同F地区西端で14.5m、同D地区付近で14.5m、同B地区付近で14.7mである。一方、水主神社東遺跡C地区付近で14.4m、同A地区付近で14.4m、同B地区付近で14.8mである。したがって、鳥畑の上面の標高は、おおむね、現水田面の標高に対応した高低差を読み取ることができる。つまり、現水田面の標高の変化は、埋没する旧地形を反映しているといえる。

ところで、鳥畑は安定した地層を掘り残して形成されるため、鳥畑の上部を10～30cm除去することで下層の遺構が検出される場合がある。また、一部の鳥畑では、その上面で鳥畑以前の遺構が検出される場合がある。鳥畑の基盤層となるのは灰黄色シルト混じり細砂・暗灰黄色粘質土・オリブ灰色シルトなどの粘質土層やシルト層が主体である。

一方、鳥畑の溝状遺構の底で、こうした遺構や遺物包含層が確認されることはまれである。この事実も鳥畑を削り出して造成されていることを示している。このような鳥畑や縄文時代から古代にかけての遺構のもっとも基盤となるのは黄褐色ないし灰オリブ色系の粘質土である。この粘質土の下層の状況を確認するため、北の下水主遺跡N地区から南の下水主遺跡A地区まで、何か所かで断ち割り等を実施して青灰色粘土層を確認している。青灰色粘土層の上面はおおよそ標高12.0～12.5mであることから、上述の黄褐色系粘質土が形成される以前の水成堆積による粘土層と考えられる。

(筒井崇史)

〔1〕水主神社東遺跡第1・2・5次調査

1. はじめに

先に述べたように、水主神社東遺跡では、A～Dの各調査地区を設定し、各調査地区とも実際の調査区を2～3か所設定した(第8図)。なお、平成26年度にB地区で1か所(B4区)のほか、平成27年度にはD地区の調査を実施した。

水主神社東遺跡の一連の調査の結果、一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う調査成果も含めて、中世に形成された鳥畑を合わせて21基検出した(B4区・D地区の成果も含む)。また、弥生時代後期から古代にかけての遺構を検出し、遺跡の概要を明らかにすることができた。ただし、いずれの調査でも集落の本体と呼べるような遺構の検出には至っていない。さらに、縄文時代晩期に位置づけられる縄文土器が調査地の各所で出土しており、縄文時代晩期の活動領域の広がりについても一定の成果が得られた(第7図)。(筒井崇史)

2. A地区の調査

A地区は、東西方向に延びる国道24号(旧路線)の南側に設定したもので、平成23年度に橋脚建設予定地の2か所の調査区(A1・A2区)を設定して調査を実施した。A1・A2区は城陽JCT・IC(仮称)で、はじめて調査を実施した調査区である。その後、対象地に大規模な盛土造成が計画されたため、その範囲を対象にA3区として平成25年度に調査を実施した(第8図)。

1) A1区の調査

(1)調査区の概要と基本的な層序

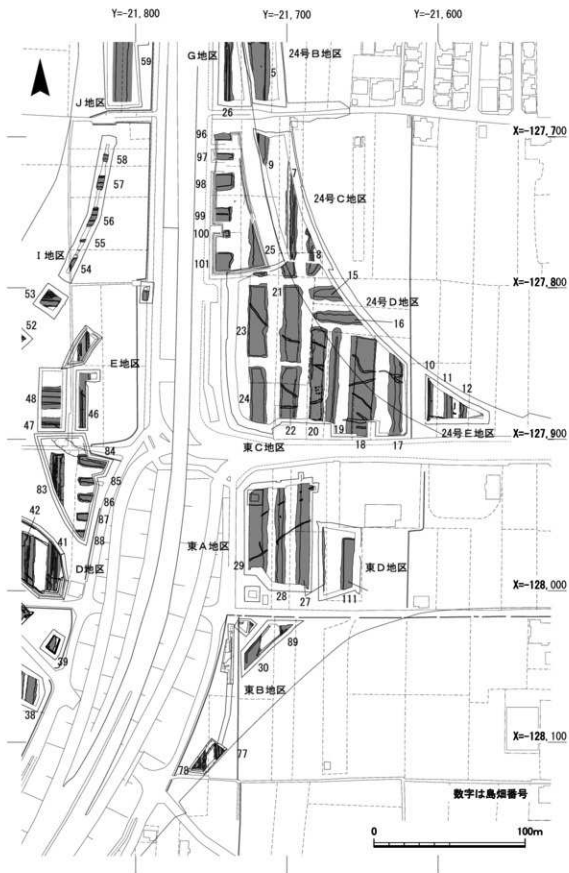
一辺10m四方の範囲の耕作土を除去し、その内部に東西8.6m、南北8.6mの矩形の調査区を設定した(第9図上)。現地表面の標高はおおよそ15.7mである。現地表下約1.7mで、鳥畑とそれに伴う土坑状遺構⁽³⁸⁾、および素掘り溝を検出した。なお、当初、鳥畑を土手状遺構と認識していたが、その後の調査の進展に伴い、鳥畑であることが明らかになった。調査面積は100㎡である。出土した遺物は、A2区と合わせて整理箱にして1箱である。

基本的な層序(第9図上)は、耕作土・床土(1層)の下に厚さ25cm程度の砂層の堆積が認められ、その下からは黒灰色シルト(6層)、灰色粘質土(7層)が厚く堆積し、鳥畑の基盤層となる黄灰色粘質土(8層)となる。7層を除去して調査を実施した。

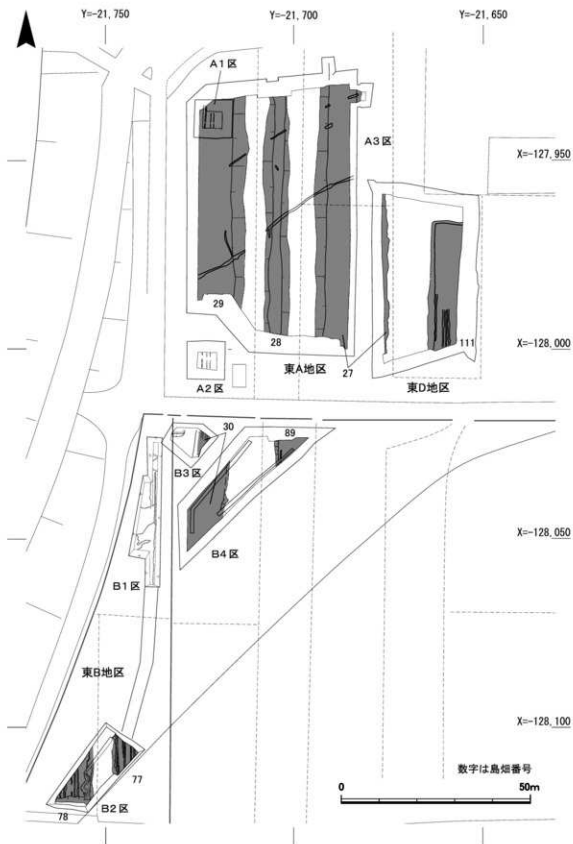
(2)検出遺構(第9図上)

鳥畑29 調査地内全域で検出した(I3-j6区ほか)。検出長5.4m、検出幅4.4mで、検出状況から南北方向に延びると考えられる。鳥畑の高さは不明である。調査範囲が限られていたため全容は明らかにできなかったが、A3区の調査で広範囲に鳥畑29を確認した。なお、A2区でも延長部分と考えられる鳥畑を検出した。

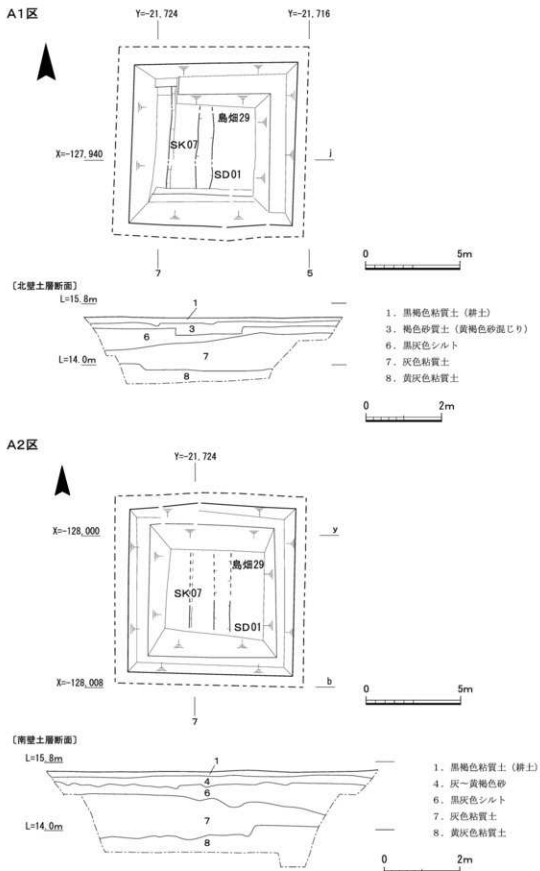
溝SD01 A3区の調査で明らかになった鳥畑29の上部に掘削されていた土坑状遺構SK07



第7図 水主神社東遺跡第1～7次調査遺構配置図(1/2500)



第8図 水主神社東遺跡A・B地区遺構配置図(1/1,000)



第9図 A1・A2区遺構配置図(1/200)・土層断面図(1/100)

の内部で検出した(J3-j6区ほか)。検出長4.0m、幅0.8m、深さ0.1m前後である。鳥畑29に伴う素掘り溝の1つと考えられる。

土坑状遺構SK07(調査時：溝SD03) 当初は鳥畑29の東側を画する溝と考え、溝SD03としていたが、A3区の調査の結果、鳥畑の上面に掘削された幅の広い土坑状遺構の一部であることが明らかになった。検出長5.4m、幅4m以上、深さ0.15～0.2mである。埋土からは瓦器碗と土師器皿の小破片が出土した。(戸原和人・筒井崇史)

(3)出土遺物(第10図)

A1区の遺物には、各堆積層や遺構埋土から弥生土器や土師器、須恵器、瓦器などが出土した。図示したのは3点である(1～3)。1は瓦器碗の口縁部の破片である。端部内面に沈線は認められない。2は須恵器杯Bで、奈良時代後半と推定される。3は弥生土器の甕の底部片で、弥生時代後期のものと推定される。胎土には1～2mm大の長石や細かな石英を含む。

(筒井崇史)

2) A2区の調査

(1)調査区の概要と基本的な層序

一辺10m四方の範囲の耕作土を除去し、その内部に東西8.6m、南北8.6mの矩形の調査区を設定した(第9図下)。現地表面の標高はおおよそ15.7mである。現地表下約1.7mで、鳥畑とそれに伴う土坑状遺構および素掘り溝を検出した。これらはすべてA1区で検出した遺構の延長部に当たると推定された。調査面積は100㎡である。

基本的な層序は、おおむねA1区と同じである(第9図下)。

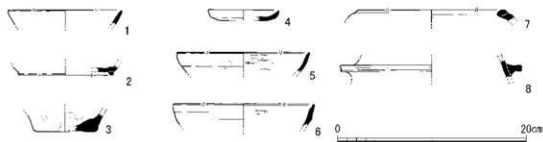
(2)検出遺構(第9図下)

鳥畑29 調査区全面で検出した(J3-a6区ほか)。検出長4.0m、検出幅4.5mで、検出状況から南北方向に延びると考えられる。A1区で検出した鳥畑と同一のものと考える。

溝SD01 A1区で検出した素掘りの溝と同一のものと推定される。検出長1.6m、幅0.8m、深さ0.1m前後である。

土坑状遺構SK07(調査時：溝SD03) A1区で検出した幅の広い土坑状遺構と同一のものと推定される。検出長1.2m、幅4m以上、深さ0.1m前後である。

(戸原和人・筒井崇史)



第10図 A1・A2区出土遺物実測図(1/4)

(3) 出土遺物(第10図)

A 2 区の遺物は各堆積層や遺構埋土から土師器や瓦器などが出土した。図示したの5点である(4～8)。4は土師器の小型の皿である。5・6は瓦器碗の口縁部の破片である。ともに内面に沈線を有する。7・8は土師器の羽釜で、7は口縁端部の、8は鈔の、それぞれの小破片である。

(筒井崇史)

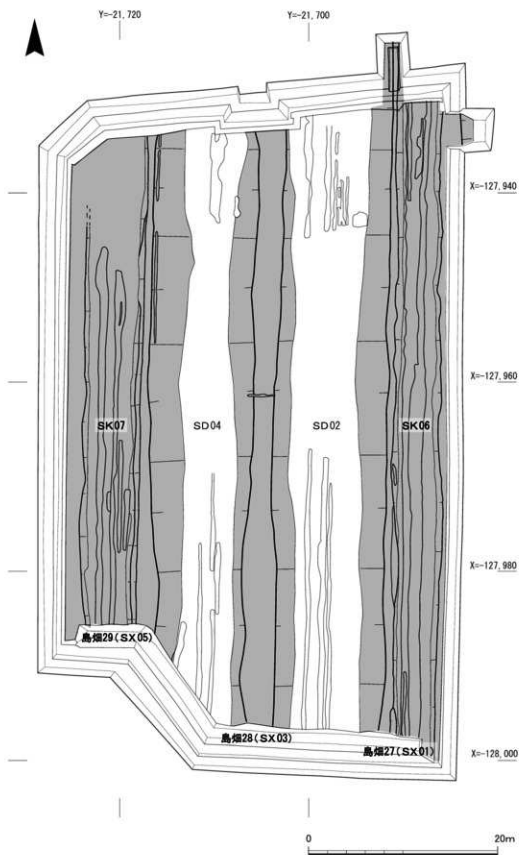
3) A 3 区の調査**(1) 調査区の概要と基本的な層序**

A 1・A 2 区の調査成果にもとづき、盛土造成範囲を対象として調査を実施した。南北約76m、東西約45mで、南西角を欠くが、おおむね矩形の調査区である。現地表面の標高はおよそ15.6mである。遺構面は、南ほど低くなる。現地表下1.3～1.5mで、上層遺構として、鳥畑3基それに伴う溝状遺構⁽⁹⁾2条を検出した(第11図)。検出した鳥畑のうち1基は先のA 1・A 2区で検出した鳥畑29と同一のものである。また、鳥畑上面から約20cm下で、下層遺構として、弥生時代の溝2条と溝の一部と思われる痕跡を3か所検出した(第19図)。さらに、地山直上で縄文時代晩期の土器が数点出土したが、これらに伴う遺構は確認できなかった。また、盛土部分に近接して建設が予定された橋脚部分についても、一部調査区を拡張して鳥畑の状況等を確認した。最終的な調査面積は3,100㎡である。出土した遺物は整理箱にして4箱である。

基本的な層序(第12・13図)は、耕作土と思われる黒褐色シルト質細砂(47層)や褐灰色土(17層)の下層に、厚さ50cmほどの黄灰色ないし浅黄色の砂層(1・3・7層)がある。この下層に15cm前後の灰色粘砂(4層)が調査区全体に広がる。この下層には10～50cmほどの青灰色粘質土(5層)があるが、西壁土層断面にはみられない。北壁土層断面でみると、5層は西側ではほとんどみられず、東側ほど厚く堆積している。この下層に鳥畑を覆う灰色砂質土(8・30層)や青灰色砂質土(6層)がある。これらの下層に鳥畑を構成する盛土がみられる(18・19・32層など)。これらの盛土を除去して調査を実施した。また、鳥畑に伴う溝状遺構の埋土として青灰色砂質土ないし粘質土(9・10・24層)がみられる。

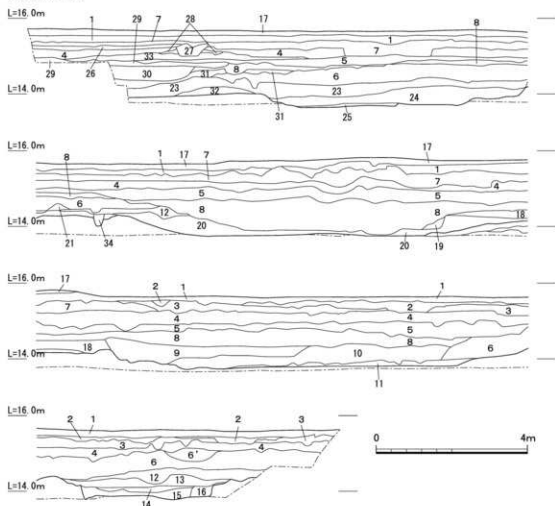
(2) 検出遺構**① 上層遺構(第11図)**

鳥畑27(S X 01)(第14・15図) 調査区の東端(I2・I22・J22区ほか)で検出した南北方向の鳥畑である。規模は検出長73.1m、基部幅10.9m、上面幅7.4m、高さ0.5m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.4mである。鳥畑の南北両端は確認できなかった。橋脚建設予定地を対象として、調査区の北西部を部分的に拡張し、鳥畑27の東裾部を確認している。鳥畑の上面には、ほぼ全域にわたって幅4.4～4.8m、深さ0.6m前後の土坑状の掘り込みが認められた。この土坑状遺構SK 06の底面で、鳥畑とはほぼ同じ長さの素掘り溝2条と、小規模な素掘り溝3条を検出した。前者は検出長67m前後、幅0.5～1.2m、深さ0.1m前後である。後者は検出長6.5～10.4m、幅0.4～0.6m、深さ0.1m前後である。遺物はSK 06やその底面で検出された素掘り溝などから土師器や須恵器、瓦器などが出土した(第22図9～14・17)。なお、鳥畑上面で検出した土坑状遺構の用途について

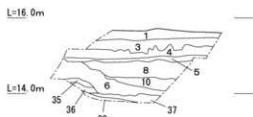


第11図 A3区上層遺構配置図(1/400)

【北壁土層断面】

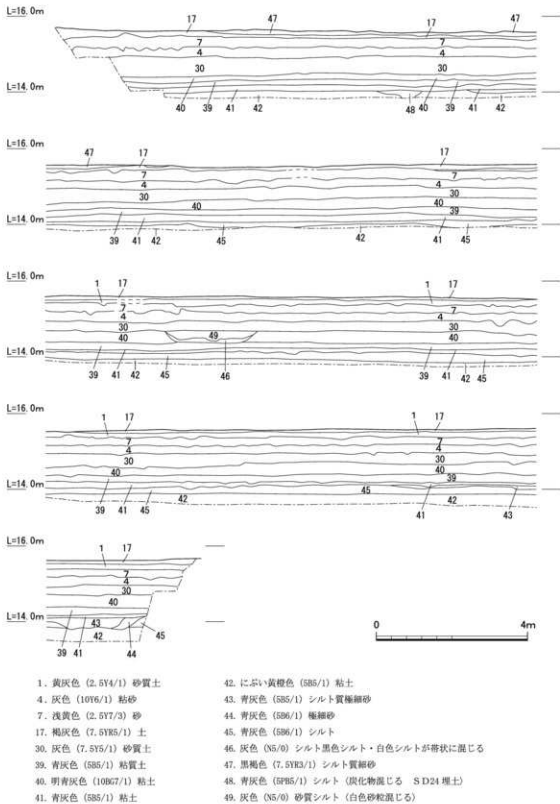


【拡張区北壁土層断面】



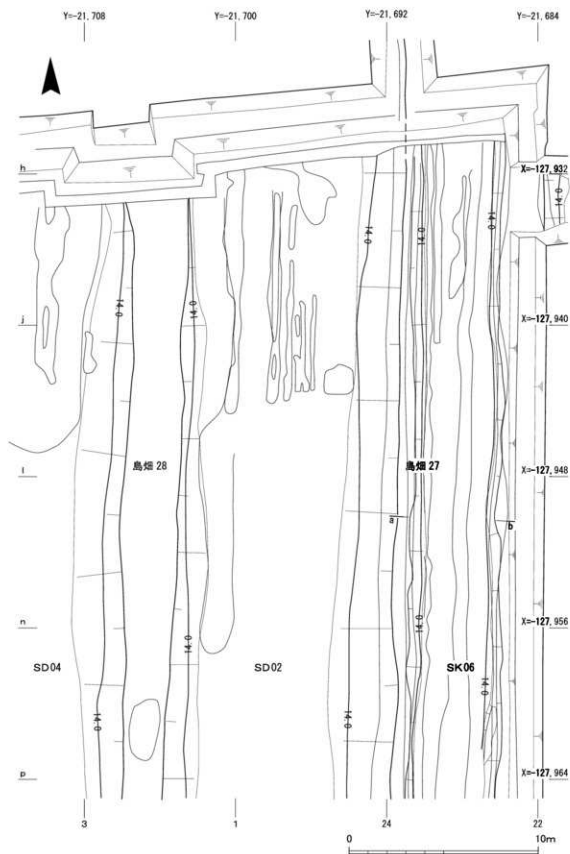
- | | |
|----------------------|--|
| 1. 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 | 10. 青灰色 (10B6/1) 粘質土 |
| 2. 灰色 (5Y6/1) 砂 | 11. 青灰色 (10B6/1) 砂 |
| 3. 淡黄色 (2.5Y8/4) 砂 | 12. オリーブ黄色 (7.5Y6/3) 砂質土 |
| 4. 灰色 (10Y6/1) 粘砂 | 13. 明緑灰色 (10G7/1) 砂質土 |
| 5. 青灰色 (5B6/1) 粘質土 | 14. 灰色 (N6/0) 粘砂 |
| 6. 青灰色 (10B6/1) 砂質土 | 15. 明青灰色 (10B7/1) 粘土 |
| 6*. 青灰色 (10B6/1) 砂 | 16. 明青灰色 (10B7/1) 砂質土 |
| 7. 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂 | 17. 褐灰色 (7.5Y8/1) 土 |
| 8. 灰色 (5Y6/1) 砂質土 | 18. 青灰色 (10B6/1) 砂土 |
| 9. 青灰色 (5B6/1) 砂質土 | 19. 灰色 (N5/0) 粘質土 |
| | 20. 明緑灰色 (7.5GY7/1) 砂質土 |
| | 21. 緑灰色 (10G6/1) 粘質土 |
| | 22. 青灰色 (5B6/1) 粘質土 |
| | 23. 緑灰色 (7.5GY6/1) 粘質土 |
| | 24. 青灰色 (10B6/1) 粘質土 |
| | 25. 明青灰色 (10B7/1) 砂 |
| | 26. 青灰色 (5B6/1) 細砂 |
| | 27. 明青灰色 (10B7/1) 砂質土 |
| | 28. 青灰色 (10B6/1) 砂質土 |
| | 29. 灰色 (10Y4/1) 粘砂 |
| | 30. 灰色 (7.5Y8/1) 砂質土 |
| | 31. 緑灰色 (10G6/1) 粘質土 |
| | 32. 青灰色 (10B6/1) 粘砂 |
| | 33. 灰色 (10Y4/1) 粘質土 |
| | 34. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) シルト
橙色シルト混じる |
| | 35. 青灰色 (10B6/1) シルト |
| | 36. 青灰色 (5B6/1) 極細砂 |
| | 37. 青灰色 (5B6/1) シルト |
| | 38. にぶい黄褐色 (10YR7/4) 粘土 |

第12図 A3区北壁土層断面図(1/100)

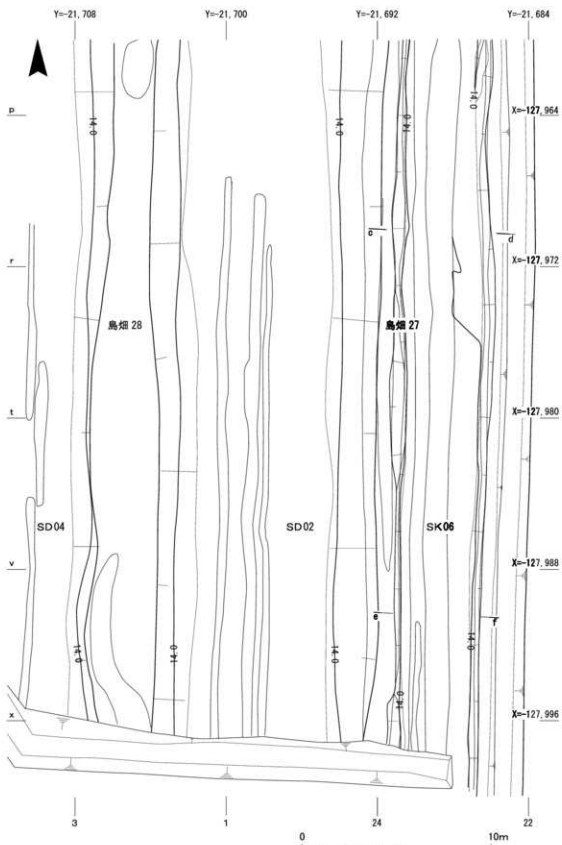


(1・4・7・17・30の各層は北壁土層断面の層名と同じ)

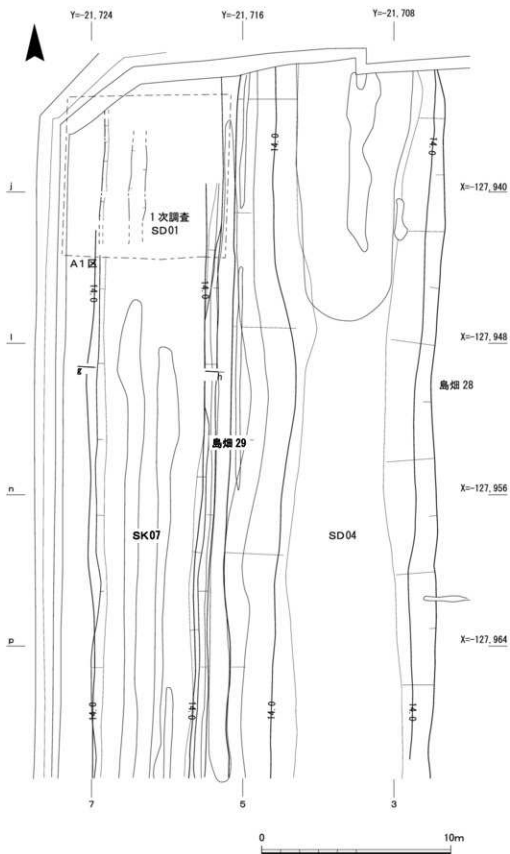
第13図 A3区西壁土層断面図(1/100)



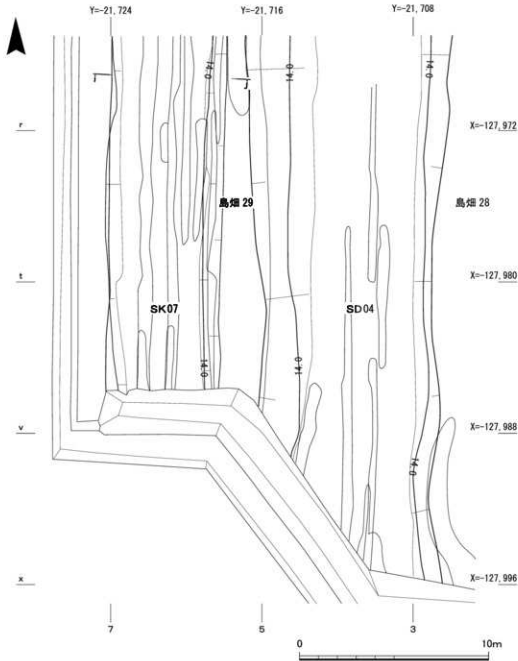
第14図 A3区鳥畑27・28平面図1 (1/200)



第15図 A3区島畑27・28平面図2 (1/200)



第16図 A3区鳥畑29平面図1 (1/200)



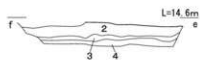
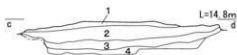
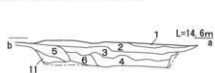
第17図 A3区島畑29平面図2 (1/200)

は不明である。

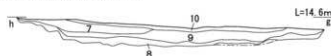
島畑28 (S X03) (第14・15図) 調査区の中央(I3-i2・j2区ほか)で検出した南北方向の島畑である。規模は検出長63.1m、基部幅4.5～7.0m、上面幅2.3～3.6m、高さ0.4m前後である。島畑上面の標高はおよそ14.2mである。島畑の南北両端は確認できなかった。島畑27・29にくらべると上面の幅が狭い。島畑上面では、東西方向の素掘り溝を1条検出した。この素掘り溝は検出長2.9m、幅0.3m、深さ0.1mである。遺物は島畑の上面から土師器や瓦器、青磁などが少量出土した。

島畑29 (S X05) (第16・17図) 調査区の西端(I3-i5・m5区ほか)で検出した南北方向の島畑である。A1・A2区の調査で確認した島畑と同一のものである。規模は検出長51.6m、基部検出

【土坑状遺構 S K06 土層断面】



【土坑状遺構 S K07 土層断面】



1. オリーブ黄色 (7.5V6/3) 砂質土
2. 明緑灰色 (10GY7/1) 砂質土
3. 灰色 (N6/0) 粘砂
4. 明青灰色 (10BG7/1) 粘土
5. 明青灰色 (10BG7/1) 砂質土
6. 灰色 (10Y4/1) 粘質土
7. 青灰色 (10BG5/1) 粘砂
8. にぶい黄橙色 (10YR7/4) 粘土層じり
青灰色 (10BG5/1) 粘砂
9. 緑灰色 (10G6/1) 砂質土
10. 青灰色 (5BG6/1) 粘砂
11. 明青灰色 (10BG7/1) 粘質土



第18図 A 3区土坑状遺構 S K06・07土層断面図(1/100)

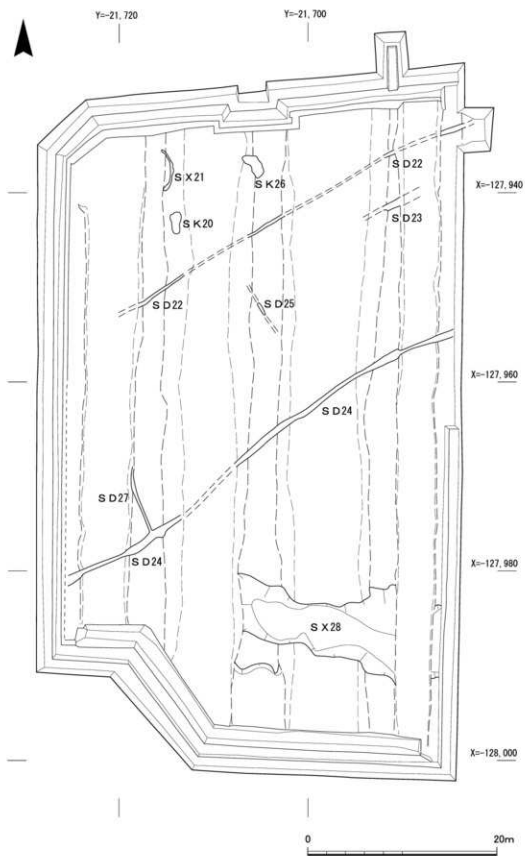
幅12.2～13.2m、上面検出幅8.5～9.9m、高さ0.5m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.3mである。鳥畑の南北両端は確認できなかった。また、西側の裾も調査区外に延びるため確認できていない。鳥畑の上面には、鳥畑27と同様に、ほぼ全域にわたって幅5.4～6.3m、深さ0.5m前後の土坑状の掘り込みが認められた。この土坑状遺構 S K07の底面で、鳥畑とほぼ同じ長さの素掘り溝2条と、小規模な素掘り溝2条を検出した。前者は検出長37.5～40.0m、幅0.4～1.3m、深さ0.1m前後である。後者は検出長6.4～11.8m、幅0.4～0.6m、深さ0.1m前後である。また、鳥畑29の東層付近で2条の素掘り溝を検出した。検出長7.0～11.8m、幅0.2m、深さ0.1～0.15mである。検出状況から本来は同一の溝であったと考えられる。遺物は S K07やその底面で検出した素掘り溝などから土師器や須恵器、瓦器、白磁などが出土した(第22図15・21)。

溝状遺構 S D02(第14・15図) 鳥畑27と鳥畑28の間で検出した(I2:i24・j24区ほか)。規模は検出長65.7m、幅11.2～11.8m、深さ0.5～0.6mである。溝底で素掘り溝を8条検出した。素掘り溝は検出長4.8～29.6m、幅0.2～1.0m、深さ0.05～0.1mである。遺物は堆積層や素掘り溝などから土師器や須恵器、瓦器、白磁、弥生土器のほか、木製品などが出土した(第22図22)。

溝状遺構 S D04(第16・17図) 鳥畑28と鳥畑29の間で検出した(I3:i3・j3区ほか)。規模は検出長61.2m、幅8.7～11.1m、深さ0.4～0.5mである。溝底では、素掘り溝を7条検出した。素掘り溝は検出長7.6～16.5m、幅0.3～0.8m、深さ0.1m前後である。遺物は堆積層や素掘り溝などから土師器や須恵器、瓦器などが出土した。

②下層遺構(弥生時代・第19図)

溝 S D22(第20図) 調査区の北半部で検出した(I2:i22・I3:k1区ほか)。溝状遺構 S D02・04や土坑状遺構 S K06・07による削平のため部分的にしか残存しないが、調査区の北西角から南西に

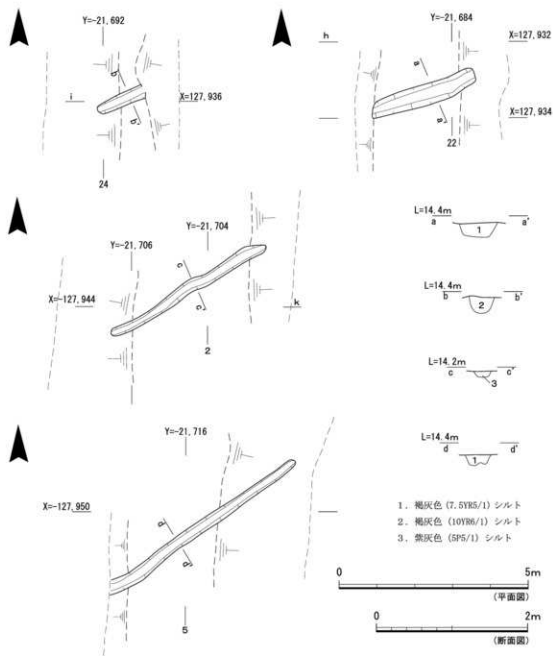


第19図 A3区下層遺構配置図(1/400)

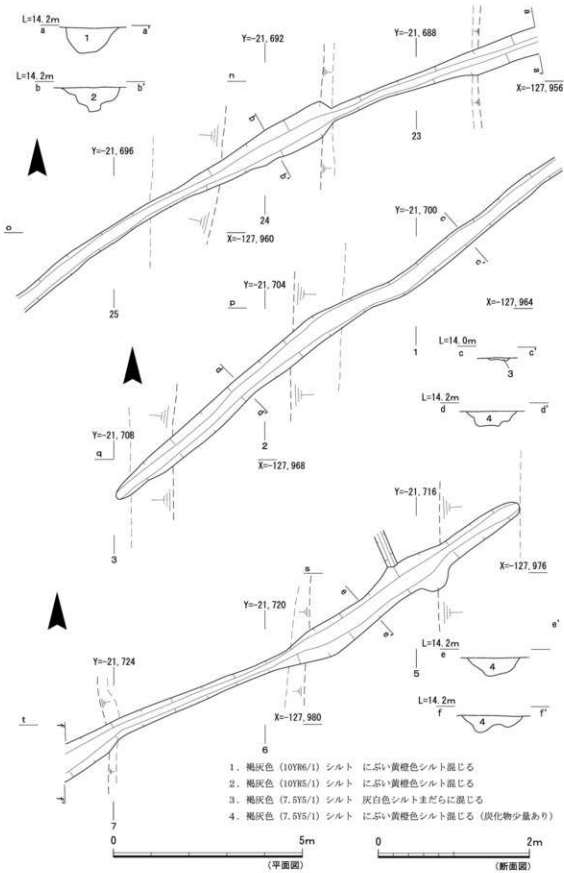
向かって延びる。総検出長15.1m、幅0.25～0.6m、深さ0.1～0.2mである。溝の方位は北に対して60～70°東に振る。遺物は溝埋土から少量の弥生土器片が出土した。

溝SD23 溝SD22の南側で検出した(I2-I23区)。溝状、あるいは土坑状を呈するが、溝状遺構SD02・04による削平のため、残存状況は良くない。検出長2.2m、幅0.8m、深さ0.1mである。溝の方位はSD22にほぼ平行し、北に対して69°東に振る。遺物は出土していない。

溝SD24(第21図) 調査区の中央から南半部にかけて検出した(I2-n22・o23区ほか)。溝SD22と同様、溝状遺構SD02・04や土坑状遺構SK06・07によって一部が削平されているが、調査区の東辺中央から南西角に向かって延びる。緩やかに蛇行しているが、総検出長42.2m、幅0.3～



第20図 A3区溝SD22平面図(1/100)・土層断面図(1/50)



第21図 A3区溝SD24平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

0.9m、深さ0.05～0.35mである。溝の方位は北に対して53～69°東に振る。遺物は溝埋土から弥生土器が出土した(第22図18・19)。

溝S D25 調査区のほぼ中央で検出した(I3-m2区ほか)。溝状遺構S D02・04による削平のため部分的にしか残存しないが、検出長1.5m、幅0.3m、深さ0.05mである。溝の方位は、S D22・24に直交し、北に対して27°西に振る。遺物は出土していない。

溝S D27 調査区の南西部で検出した(I3-s5区ほか)。検出長7.3m、幅0.2～0.4m、深さ0.1m前後である。方位は、北に対して23°西に振るが、北端は緩やかな弧を描いて先端を北に向きを変える。溝の南端は溝S D24につながっている。遺物は出土していない。

土坑S K20 調査地の北半部、やや北西寄りで検出した(I3-k4区)。長軸2.3m、短軸1.1m、深さ0.25～0.5mである。遺構の性格は不明である。遺物は出土していない。

土坑S K26 調査地の北端部中央で検出した(I3-j2区)。平面形は「く」字状に屈曲気味の不整形な形状を呈し、長軸3.0m、短軸1.1m前後、深さ0.4mである。遺構の性格は不明である。遺物は土師器片が少量出土した。

不明遺構S X21 調査地の北半部、土坑S K20の北2.5mで検出した(I3-j4区)。検出長5.0m、幅0.2～0.3mで、弧状を呈する。遺構の性格は不明であるが、風倒木痕である可能性もある。遺物は出土しなかった。

不明遺構S X28 調査地の南半部で検出した(I2-v23・w23区ほか)。検出長16.2m、幅4.1～10.2m、深さ0.15～0.25mである。検出状況から自然地形と思われる。遺物は出土していない。

③下層遺構(縄文時代)

縄文時代の遺構は確認していないが、地山面直上で縄文土器が少量ながら出土した(第22図23・24など)。周辺では後述する水主神社東遺跡C1区や下水主遺跡D2区などで同時期の縄文土器が出土している。なお、平成26年度に調査を実施した水主神社東遺跡B4区は、A3区の南側に位置するが、埋没した谷地形からややまとまった同時期の縄文土器が出土した。^(註1)

(岡崎研一・筒井崇史)

(3)出土遺物(第22図)

A3区の出土遺物は中世の白磁や瓦器、古代の須恵器、弥生土器、縄文土器、不明木製品のほか、石器などが出土した。

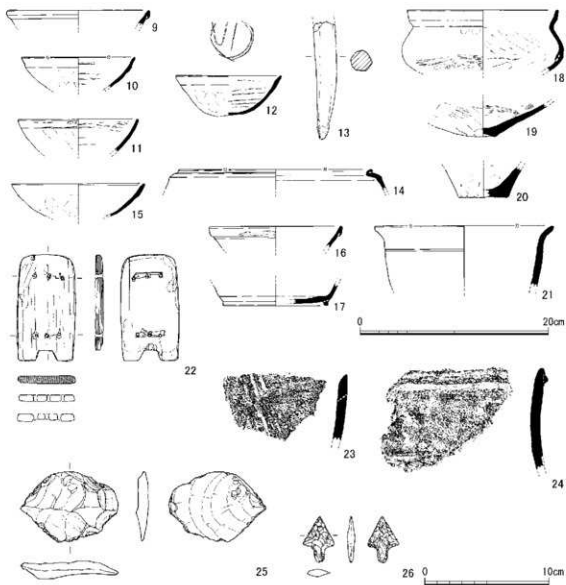
①上層遺構出土遺物

9～14は鳥畑27の上面に設けられた土坑状遺構S K06から出土した。完形品や全体の形状が分かるものは少ないが、12はやや遺存状況が良好な瓦器碗で、高台が認められない矮小化したものである。室町時代前半のものであろう。10や11も口縁端部の内面に沈線は認められない。9は口縁部外面が玉縁を呈する白磁碗の小破片である。13は瓦質土器の三足鍋の脚である。脚端部は欠損する。14は土師器羽釜の口縁部である。15は鳥畑29の上面に掘削された土坑状遺構S K07から出土した瓦器碗である。口縁端部内面に沈線が認められる。16は重機掘削中に出土した白磁碗で、9と同じく口縁部外面に玉縁を有する。

22は溝状遺構S D02の上層で出土した、板状を呈する木製品である。全長11.3cm、幅6.2cm、厚さ0.85cmである。一方の短辺の角をやや丸く仕上げ、他方の短辺に刳り込みを入れる。短辺寄りの方に3個を1組とする直径3mm前後の小孔を合計6か所あける。用途は不明である。

②下層遺構出土遺物

17は鳥畑27の上部掘り下げ中に出土した須恵器杯Bで、奈良時代のものである。18・19は溝S D24から出土した弥生土器である。18は口縁部が受け口状を呈する鉢である。やや扁平な体部の中位に最大径が認められる。胎土には0.5～2mmの灰色や白灰色の砂粒を多く含む。19は鉢の底部で胎土等から18と同一個体と思われる。狭小なくぼみ底に、大きく開く体部からなる。胎土には0.5～1mmの白色・白灰色の砂粒を多く含む。20は溝状遺構S D02の最下層から出土した弥生土器の甕の底部である。外面にヘラケズリを施す。胎土には0.5～1mmの白色・灰色・黒灰色の



第22図 A3区出土遺物実測図(9～22:1/4、23～26:1/3)

砂粒を多く含むほか、赤色粒もみられる。21は鳥畑29の上部を重機で掘り下げた際に出土した弥生時代前期の甕である。頸部の少し下に沈線を1条施す。胎土には0.5～1mmの白色・灰色・黒灰色の砂粒を多く含む。(筒井崇史)

23・24は縄文土器である。23は晩期末の浅鉢の胴部片と考えられる。外面に斜め方向のケズリの後、条痕を施している。24は深鉢の口縁部から頸部の破片で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。突帯の形状は上面を強くナデ調整されて下向きとなっている。また、頸部下端に突帯の痕跡が残る。比較的幅広く垂れ下がった突帯を持ち、やや外反した形状を呈している。これは、他の地点で出土した突帯土器と比べて様相が多少異なり、地域性の違いによる可能性が考えられる。長原式に位置づけられる。(深澤麻衣)

25・26はいずれもサスカイト製の石器である。25は鳥畑28の上部掘り下げ中に出土した剥片である。26は鳥畑27の上部で検出された土坑状遺構SK06の下層から出土した石鏃である。

(筒井崇史)

3. B地区の調査

B地区は、A地区の南側の市道を挟んで設定したもので、この市道は、糸里型地割の境界に当たる。平成24年度に盛土造成と仮設道路の設置に関わって2か所の調査区(B1・B2区)を設定して調査を実施した(第8図)。両調査区は、南北に約40m離れており、両者の間の層序的变化を確認するために両調査区を接続する調査区を設けた。調査の結果、南から北へ緩やかに傾斜していることが判明した。また、平成25年度には、橋脚建設予定地の調査を実施した(B3区)。

(筒井崇史)

1) B1区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

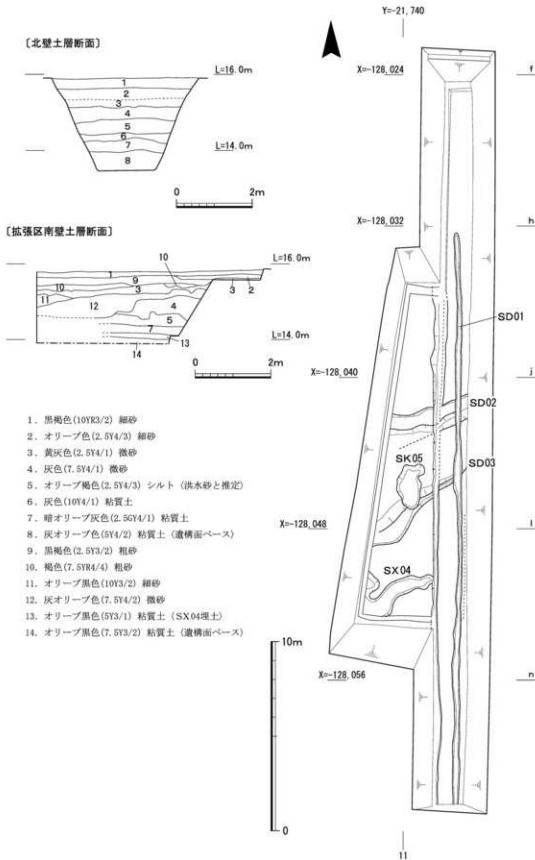
当初、南北40m、東西4mの長方形の調査区を設定したが、下層で検出した溝の状況を確認するため調査区を西側に拡張した(第23図右)。現地表面の標高はおよそ15.9mである。現地表下1.8mで、上層遺構として土掘り溝1条、下層遺構として溝2条と土坑1基などを検出した。調査面積は200㎡である。出土した遺物はB2区と合わせて整理箱にして4箱である。

基本的な層序(第23図左・第24図)は、現在の耕作土である黒褐色の細砂や粗砂(1・9層)、床土であるオリーブ色細砂(2層)の下に、洪水に由来すると思われる黄灰色微砂やオリーブ褐色シルトなど(3～5・11・12層)が厚さ0.6～1.1mほど堆積する。断面図を総合すると、北へ行くほど厚く堆積するようである。それよりも下層には灰色や暗オリーブ灰色の粘質土(6・7層)があり、その下層が遺構面となる灰オリーブ色粘質土(8層)である。調査は8層上面で実施した。

(2) 検出遺構

① 上層遺構(第23図)

溝SD01 調査区中央で検出した(J3-i10・j10区ほか)もので、6層で検出した。検出長30.0m、幅0.2m、深さ0.15m前後である。溝は南北方向に延びる。遺物は瓦器の細片などが少量出土した。



第23図 B1区遺構配置図(1/200)・土層断面図(1/100)

島畑上面の素掘り溝である可能性が高い。また、調査範囲が狭かったため断定にはいたらなかったが、S D01の検出面はある時期の島畑である可能性が高い。

②下層遺構(第23図)

溝S D02 溝S D01の下層で検出した(J3-k10・k11区ほか)。検出後、溝の延長部分を確認するために調査区を西側へ拡張した。検出長4.0m、幅1.3m、深さ0.2mで、溝の方位は北に対して67°東に振る。S D02は溝S D03の埋没後に掘削されたと考えられる。遺物は出土しなかった。

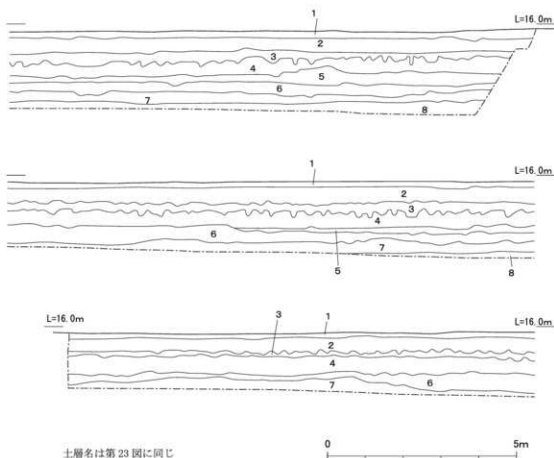
溝S D03 溝S D02の下層で検出した(J3-k10・k11区ほか)。検出長5.5m、幅4.0m、深さ0.15mで、溝の方位は北に対して48~58°東に振る。遺物は出土しなかった。

不明遺構S X04 拡張区の南西角で検出した(J3-m11区)。東西4.0m、南北1.0m、深さ0.15mの不整形な土坑状を呈する。形状等から自然地形である可能性が高い。遺物は出土しなかった。

土坑S K05 溝S D03と重複して検出した(J3-l10区ほか)。東西1.3m、南北2.3m、深さ0.1mの不整形な土坑である。遺物は出土しなかった。S K05はS D03の掘削後に形成されたと考えられる。
(関広尚世・筒井崇史)

(3)出土遺物(第28図)

B 1 区では中世の青磁や白磁、瓦器、土師器のほか、古墳時代の杯身などが出土した(27~



第24図 B 1 区東壁土層断面図(1/100)

31)。図示した遺物はいずれも遺物包含層や排水溝の掘削中に出土したものである。

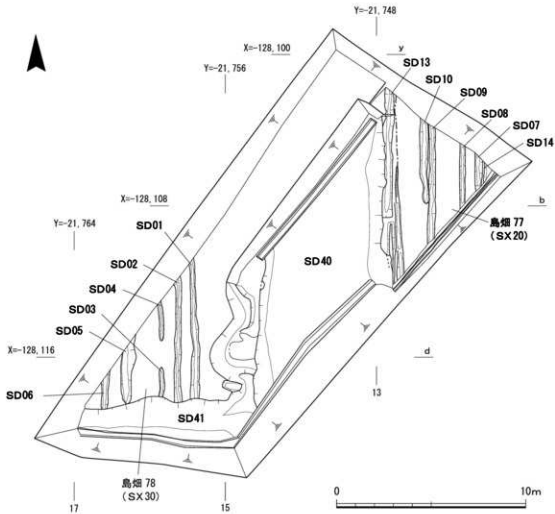
27は青磁碗の破片で、底部を欠損する。28は白磁碗の底部である。やや薄く高めの削り出し高台を持つ。29は天目茶碗の破片で、底部を欠損する。30は土師器皿である。31は須恵器杯身で、形態から古墳時代後期のものと推定される。(筒井崇史)

2) B2区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

調査区は長辺26m、短辺12mほどの矩形を呈する(第25図)。現地表面の標高はおよそ16.0mである。現地表下1.2mで、鳥畑2基とそれに伴う溝状遺構2条などを検出した。なお、鳥畑よりも後の時代のものとして、鳥畑の裾の護岸等に利用されたとと思われる杭列も検出している(図版第12-1・2)。調査面積は、B1区とB2区をつなぐ調査区を含めて430m²である。

基本的な層序(第26図)は、耕作土と思われるオリブ黒色細砂(2層)の下にオリブ黒色粗砂や暗褐色粗砂(8・11層)などが堆積する。その下層に灰色系やオリブ色系の微砂や粘質土などの堆積層が認められる(12・18・23～25層)。その下層が鳥畑のベースである黒褐色粘質土(33層)となる。調査は33層の上面で実施した。また、灰色ないし暗オリブ灰色シルトや暗オリブ灰



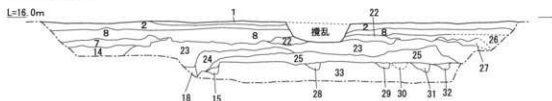
第25図 B2区遺構配置図(1/200)

色粘質土などの堆積が溝状遺構S D40の堆積層となる(14・16~18層)。鳥畑のベースである黒褐色粘質土の検出標高は、水主神社東・下水主向遺跡で検出した鳥畑でも最も高い位置に当たる。

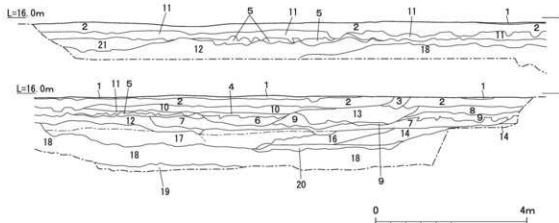
(2) 検出遺構(第25図)

鳥畑77(S X20) 調査区の東端で検出した(K3-a12・b11区ほか)。検出長10.0m、基部検出幅7.0m、上面検出幅6.1m、高さ0.9mである。鳥畑上面の標高はおよそ14.8mである。鳥畑の上面で多数の素掘り溝(S D07~14)を検出した。素掘り溝は、検出長1.5~10m、幅0.3~0.4m、深さ0.15m前後である。遺物は素掘り溝を中心に土師器や須恵器の細片が出土した。

【北東壁土層断面図】



【北西壁土層断面図】



- | | |
|---|--|
| 1. 灰オリーブ色(7.5Y4/2)粘質土 | 17. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)シルト(S D40埋土) |
| 2. オリーブ黒色(5Y3/2)細砂 | 18. 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘質土(S D40埋土) |
| 3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂 | 19. 暗緑灰色(7.5GY4/1)粘質土(遺構面ベース) |
| 4. 黄褐色(10YR5/8)粗砂(洪水砂と推定) | 20. 暗オリーブ灰色(5GY3/1)粘質土 |
| 5. 灰色(7.5Y4/1)微砂 | 21. オリーブ黒色(7.5Y3/2)粘質土 |
| 6. 黄灰色(2.5Y4/1)微砂 | 22. 灰オリーブ色(7.5Y5/3)シルト |
| 7. 灰オリーブ色(5Y4/2)微砂 | 23. オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土 |
| 8. オリーブ黒色(5Y3/2)粗砂
(暗灰色粘質土ブロック混じる) | 24. オリーブ褐色(2.5Y4/4)微砂 |
| 9. 黒褐色(2.5Y3/2)粗砂
(白色粘質土小ブロック土混じる) | 25. 暗オリーブ色(5Y4/3)粘質土
(白色粘質土小ブロック土混じる) |
| 10. オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂土
(橙色小ブロック土混じる) | 26. 暗赤褐色(5YR3/6)粗砂 |
| 11. 暗褐色(10YR3/4)粗砂
(淡黄灰色ブロック土混じる) | 27. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)粘質土 |
| 12. 灰色(7.5Y5/1)粘質土 | 28. 灰オリーブ色(5Y4/2)粘質土 |
| 13. 褐色(7.5YR4/4)粗砂 | 29. 暗黄褐色(2.5Y4/2)粘質土 |
| 14. 灰色(10Y4/1)シルト(S D40埋土) | 30. オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質土 |
| 15. 灰オリーブ色(7.5Y4/2)粘質土 | 31. オリーブ灰色(10Y4/2)粘質土 |
| 16. 灰色(5Y4/1)シルト(S D40埋土) | 32. オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土 |
| | 33. 黒褐色(2.5Y3/2)粘質土 |

第26図 B2区北東壁・北西壁土層断面図(1/100)

島畑78 (S X 30) 調査区の西半で検出した (K3-c15・d15区ほか)。検出長11.5m、基部検出幅9.9m、上面検出幅7.7m、高さ0.9mである。島畑上面の標高はおおよそ14.8mである。島畑上では多数の素掘り溝 (SD01～06) を検出した。素掘り溝は、検出長1.5～7.0m、幅0.2～0.5m、深さ0.1～0.2mである。遺物は素掘り溝を中心に土師器や須恵器の細片が出土した。島畑78の南限は、溝状遺構SD41によって区画されている。

溝状遺構SD40 調査区中央で検出した (K3-b13・c13区ほか)。検出長19.0m、幅8.0m、深さ0.65m前後で、南北方向に延びる。西屑は、不整形な上段とやや直線的な下段の2段となる。SD40は調査区の南端で、東西方向の溝状遺構SD041と合流する。遺物は土師器や瓦器、須恵器などが出土したが、量はそれほど多くない。

溝状遺構SD41 調査区の南端で検出した (K3-d14区ほか)。検出長9.0m、検出幅2.1mで、深さは溝底が調査区外となるため不明であるが、少なくとも0.8mある。島畑78の南限を画する溝状遺構と考えられる。遺物は土師器や須恵器が出土した。

(関広高世・筒井崇史)

(3) 出土遺物 (第28図)

B2区では中世の天目や瓦器、土師器、須恵器のほか、古代の須恵器などが出土した (32～41)。図示した遺物はいずれも遺物包含層や排水溝の掘削中に出土したものである。

32は天目茶碗の破片である。33は天目の壺の口縁の破片であろうか。釉薬が32と同様茶褐色を呈する。34～38は土師器皿である。いずれも反転復元を行わなければならないような小破片であるが、土師器皿の法量に大小がある。35は外面に煤が付着する。39は瓦器碗の破片である。内面にミガキをやや密に施すが、口縁端部内面の沈線は認められない。40は須恵器杯Bの底部の破片である。形態から奈良時代後半から平安時代前半にかけてのものと推定される。41は口縁部外面が玉縁状を呈する須恵器鉢である。内面側が段状にくぼむが東播系のものと推定される。

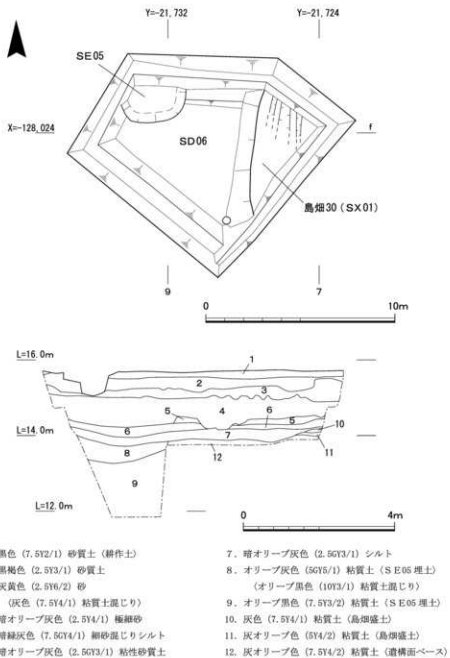
(筒井崇史)

3) B3区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

B地区の北端部に設定した調査区である。一辺10～11m四方の範囲を調査対象としたが、現用の市道および水路があるため、これらを調査区から除外して調査を実施した (第27図上)。現地表面の標高はおおよそ15.7mである。現地表下1.4mで、島畑1基とそれに伴う溝状遺構1条、井戸1基などを検出した。調査面積は100㎡である。出土した遺物は整理箱にして1箱に満たない。

基本的な層序 (第27図下) は、耕作土である黒色砂質土 (1層) の下層に、厚さ20cmほどの灰黄色砂 (3層) や50～80cmほどの暗オリーブ灰色極細砂 (4層) などの砂層がある。この下層に暗緑灰色ないしオリーブ灰色のシルトや粘性の強い砂質土が15～30cmずつ堆積しており、島畑や溝状遺構を覆っている。これらの下層に島畑の盛土である灰色ないし灰オリーブ色の粘質土 (10・11層) が認められる。その下層が島畑のベースである灰オリーブ色粘質土 (12層) となる。調査は7層を除去した盛土上面で実施した。

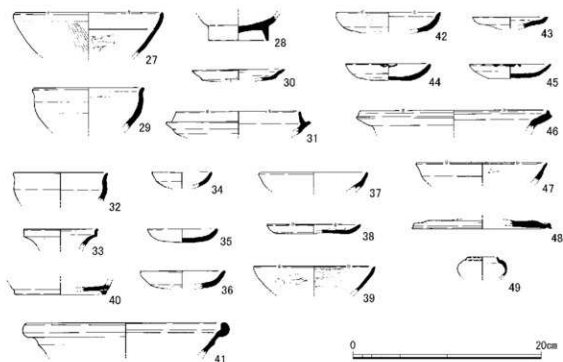


第27図 B3区遺構配置図(1/200)・北壁土層断面図(1/100)

(2) 検出遺構(第27図)

鳥畑30 (SX01) 調査区の東半部で検出した(J3-f7・g7区)。検出長7.1m、基部検出幅4.1m、上面検出幅3.5m、高さ0.6mである。鳥畑上面の標高はおよそ143mである。鳥畑の上面で素掘り溝を3条検出した。検出長0.8~1.3m、幅0.2~0.6m、深さ0.05~0.1mである。平成26年度のB4区の調査では、鳥畑30と同一の鳥畑を検出している。

溝状遺構SD06 鳥畑30の西側で検出した(J3-f8・g8区)。検出長7.1m、検出幅7.4m、深さ0.6mである。溝底の標高はおよそ137mである。遺物は土師器や瓦器の細片が出土したが、図示できるものはなかった。



第28図 B地区出土遺物実測図(1/4)

井戸SE05 調査区北西隅で検出した(J3-9区ほか)。北半部が調査地外に延びるため、全容は不明である。掘形は隅丸方形で、井戸枠を伴わない素掘りの井戸である。検出した規模は、一辺3.2m前後、深さ2.2mを測る。土師器片と瓦器片が出土した。

(戸原和人・筒井崇史)

(3) 出土遺物(第28図)

B3区では中世の瓦器、土師器のほか、古代の須恵器などが出土した(42～49)。図示した遺物はいずれも遺物包含層や排水溝の掘削中に出土したものである。

42～45は土師器皿である。B2区出土例と同様に法量による大小が認められる。44・45は完形品で、2点が重なった状態で出土した。46は土師器甕ないし鍋の口縁部の破片である。外面に煤が厚く付着する。47は瓦器椀の口縁である。調整はやや不明瞭であるが、口縁端部内面に沈線が認められる。48は須恵器杯B蓋である。形態等から奈良時代後半のものとして推定される。49はミニチュア土器である。須恵質と考えるが焼きはやや甘い。時期等も不明である。

(筒井崇史)

4. C地区の調査

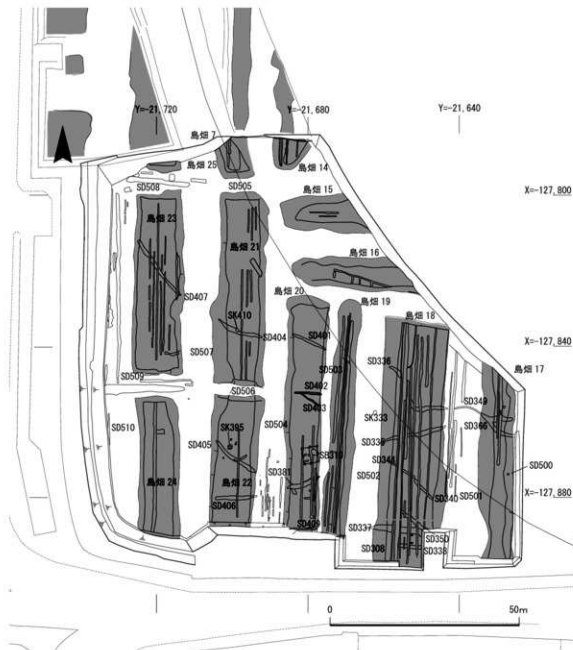
C地区は、国道24号(旧路線)の北側に設定したもので、橋脚建設のほか、大規模な盛土造成が行われることから盛土造成範囲(橋脚建設予定地は盛土造成範囲に含まれる)を対象として、平成25年度に調査を実施した(第29図)。調査は、排土置き場を確保することから反転調査とし、東側をC1区、西側をC2区とした。両調査区を合わせて調査面積は8,175㎡である。出土した遺物は

整理箱にして22箱である。なお、C地区の調査に並行して一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う発掘調査(24号D地区)が実施された(第29図)。24号D地区はC地区の北東側に位置するが、調査が同時となったことや円滑な調査を行うため、両調査区の間には調査区境としてのセクション等を残さず、一体の調査区として調査を進めた。

1) C1区の調査

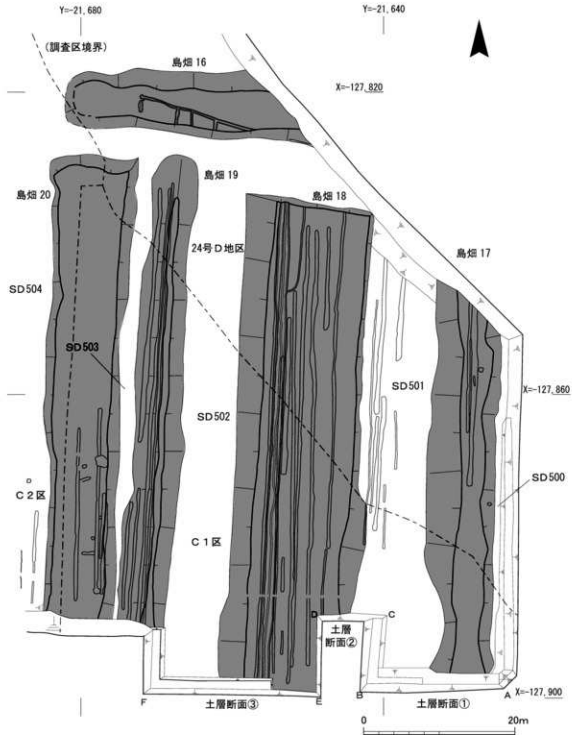
(1) 調査区の概要と基本的な層序

調査区は南北約74m、東西64mの、ほぼ三角形を呈する。現地表面の標高はおよそ15.5mである。現地表下0.9~1.1mで鳥畑4基とそれに伴う溝状遺構3条を検出した(第30図)。いずれも一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う第4次調査で検出したものと同じのものである。また、下層遺

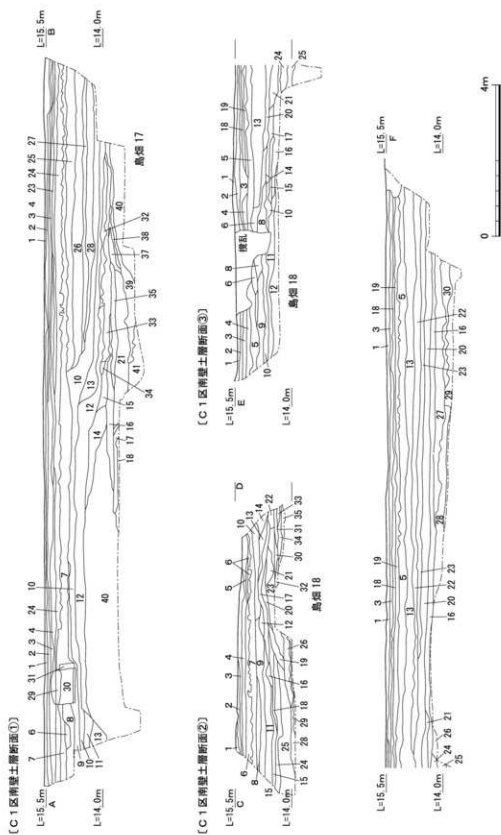


第29図 水主神社東遺跡C地区遺構配置図(1/1,000)

構として、鳥畑上面で古代の掘立柱建物1棟や弥生時代後期末～古墳時代前期の溝10条などを検出した(第38図)。このほか、縄文時代晩期の土器がややまとまって出土する地点を確認したが、これに伴う遺構は確認できなかった。さらに、縄文時代の遺物が出土した堆積層よりも下層で自然流路を確認した。出土遺物がなく、時期は不明であるが、調査区の南東隅から北西方向に蛇行して流れる。



第30図 C1区上層遺構配置図(1/500)



第31図 C1区南壁土層断面図(1/100)

【C1区南壁土層断面①】

1. 褐灰色 (5YR6/1) シルト混じり粗～細砂 (表土)
2. 褐灰色 (5YR5/1) シルト混じり粗～細砂
3. 褐灰色 (7.5YR6/1) シルト混じり粗～細砂
4. 褐灰色 (10YR4/1) 粗～細砂
5. 褐灰色 (7.5YR5/1) 粗～細砂混じりシルト
6. 褐灰色 (10YR5/1) シルト
7. 褐灰色 (10YR5/1) シルト
8. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂
9. 灰色 (7.5Y5/1) シルト (0.5mm の礫や炭含む)
10. オリーブ灰色 (5GY6/1) シルト
11. 灰色 (N6/0) シルト
12. 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト混じり細砂 (島畑ベース)
13. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト混じり細砂
14. 緑灰色 (7.5GY6/1) シルト混じり細砂
15. 緑灰色 (5G6/1) シルト混じり細砂
16. 暗青灰色 (5B4/1) 粗砂～細砂
17. 青灰色 (5BG6/1) 粗砂～細砂
18. 暗緑灰色 (5G4/1) 粗砂～細砂
19. 緑灰色 (10GY6/1) 粗砂～細砂
20. 青灰色 (5B5/1) 粗砂～細砂
21. 暗緑灰色 (10G6/1) シルト (自然木等含む)
22. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり粗～細砂
23. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり粗～細砂
24. 灰色 (5Y6/1) 粗～細砂混じりシルト
25. 灰色 (5Y4/1) シルト
26. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
27. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり細砂
28. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂
29. 灰色 (5Y6/1) 粗～細砂混じりシルト
30. 褐灰色 (7.5YR4/1) シルト混じり細砂
31. 灰褐色 (7.5YR5/2) シルト
32. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト混じり細砂

33. オリーブ灰色 (5GY6/1) 粗～細砂混じりシルト
34. 灰 (7.5Y5/1) シルト混細砂
35. 緑灰色 (10G5/1) シルト
36. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混細砂
37. 灰色 (N5/0) シルト混細砂
38. オリーブ灰色 (5GY5/1) シルト混じり細砂
39. 緑灰色 (7.5GY5/1) シルト
40. 緑灰色 (10GY5/1) シルト (ベース)
41. 明緑灰色 (10GY7/1) 粗～細砂

【C1区南壁土層断面②】

1. 褐灰色 (5YR6/1) シルト混じり粗～細砂 (造成土)
2. 褐灰色 (5YR5/1) シルト混じり粗～細砂
3. 褐灰色 (7.5YR6/1) シルト混じり粗～細砂 (造成土)
4. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり粗～細砂
5. 褐灰色 (7.5YR6/1) シルト混じり粗～細砂
6. 灰色 (5Y6/1) 粗～細砂混じりシルト
7. 褐灰色 (10YR5/1) シルト
8. 灰色 (5Y4/1) シルト
9. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト混じり細砂
10. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混細砂 (土器片含む)
11. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
12. 灰色 (N5/0) シルト混じり細砂
13. 暗緑灰色 (10GY4/1) シルト混じり細砂
14. 緑灰色 (10GY6/1) シルト
15. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり細砂
16. 緑灰色 (7.5GY5/1) シルト
17. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂
18. 緑灰色 (10GY5/1) シルト混じり細砂
19. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト混じり細砂
20. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂
21. 暗緑灰色 (7.5GY4/1) シルト混じり細砂
22. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト
23. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂
24. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト混じり細砂

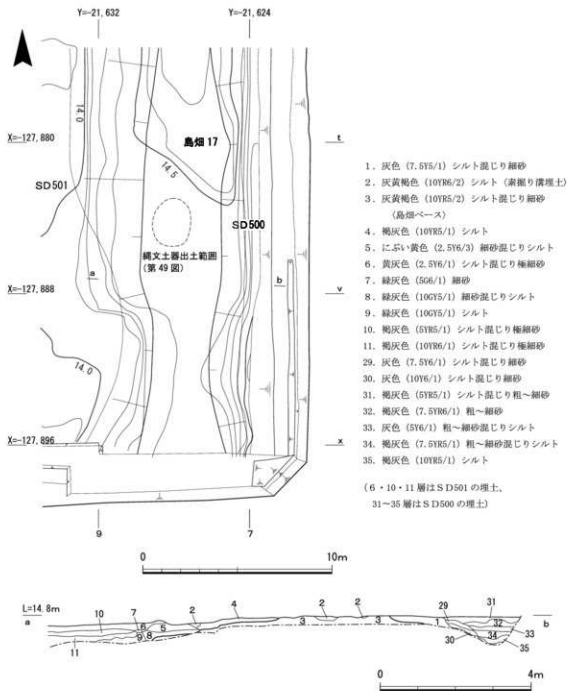
25. 緑灰色 (7.5GY5/1) シルト
26. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂
27. 緑灰色 (10GY5/1) シルト (ベース)
28. 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト混じり細砂
29. 灰オリーブ色 (5Y6/2) シルト

【C1区南壁土層断面③】

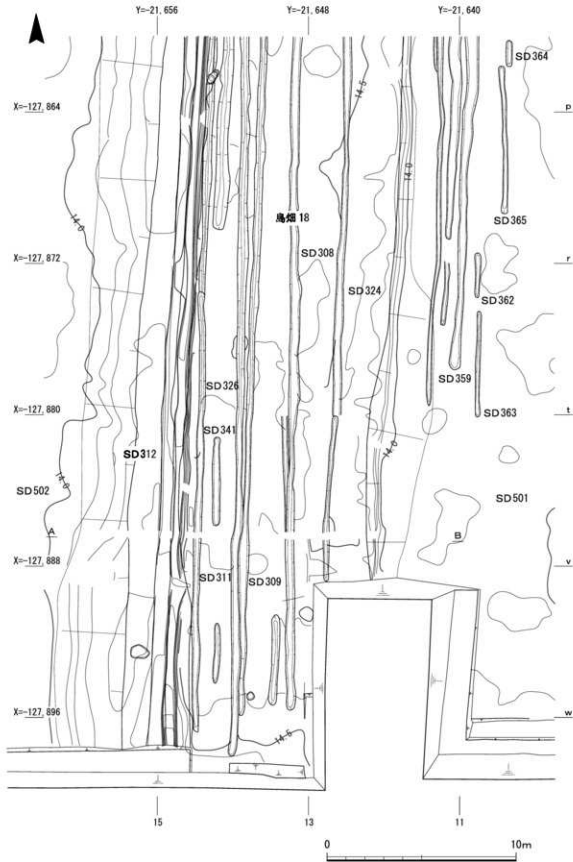
1. 褐灰色 (5YR6/1) シルト混じり粗～細砂 (造成土)
2. 褐灰色 (5YR5/1) シルト混じり粗～細砂
3. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり粗～細砂
4. 灰色 (5Y6/1) 粗～細砂混じりシルト
5. 褐灰色 (10YR5/1) シルト
6. 緑灰色 (10GY5/1) シルト混じり細砂
7. 暗緑灰色 (10GY4/1) シルト混じり細砂
8. 暗緑灰色 (7.5GY4/1) シルト混じり細砂
9. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂
10. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり細砂
11. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
12. 灰色 (7.5Y7/1) シルト混じり細砂
13. 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト混じり細砂
14. 緑灰色 (10GY5/1) シルト混じり細砂
15. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂
16. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
17. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂
18. 灰褐色 (5YR5/2) シルト混じり砂～粗砂
19. 灰色 (5Y6/1) 細砂混じりシルト
20. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
21. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
22. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂
23. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂
24. 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト混じり細砂
25. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり細砂
26. 灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂
27. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂
28. 緑灰色 (7.5GY5/1) シルト混じり細砂
29. 緑灰色 (10GY5/1) シルト混じり細砂
30. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂

基本的な層序の概要を第31図上の南壁土層断面①で説明する。耕作土と思われる褐灰色シルト混じり粗砂～細砂(1～4層)が認められ、その下層には、厚さが5～30cmほどの黄灰色ないし褐灰色のシルトやシルト混じりの砂層が広く調査地に認められる(23・24・7層)。この下層の堆積状況は島畑上部と溝状遺構上部では若干異なり、後者では、灰色のシルトないしシルト混じり

細砂の堆積が合計70cmにも及ぶ。前者ではこうした灰色のシルト系の堆積層は認められない。これらの下層にはオリブ灰色シルト(10層)が鳥畑の上部から溝状遺構にかけてあり、ある段階での鳥畑の耕作面と考えられる。この下層に灰黄褐色シルト混じり細砂(12層)があり、最も古い鳥畑の耕作面と考えられる。調査はこの最も古い耕作面を対象として実施した。これらの下層には鳥畑を構成する盛土がみられる(14層)。また、鳥畑を構成する基盤層として緑灰色シルト(40層)を確認した。なお、同じ断面図にある21・37~39・41の各層は、鳥畑の下層で確認した自然流路NR370が南へ延びる部分に当たる(第50図)。



第32図 C1区鳥畑17平面図(1/200)・土層断面図(1/100)



第33図 C1区鳥畑18平面図(1/200)

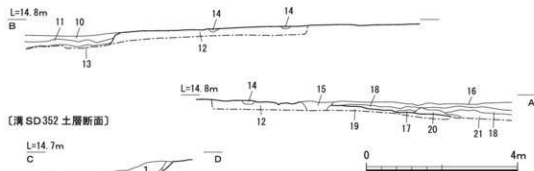
(2) 検出遺構

① 上層遺構 (第30図)

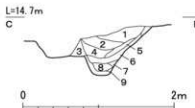
鳥畑17 (第32図) 調査区の東端 (H2-t7・u7区ほか) で検出した南北方向に延びる鳥畑である。規模は検出長50.7m、基部検出幅9.9m、上面幅2.5~4.3m、高さ0.6~0.7mである。鳥畑上面の標高はおよそ14.6mである。鳥畑の南北両端はどちらも調査区外となるため確認できなかった。また、鳥畑17の東側の溝状遺構 S D500の肩を確認したものの、裾は調査区内では確認できなかった。なお、検出した鳥畑の北側4/5は第4次調査地に当たる。素掘り溝は第4次調査地で検出したものの、第5次調査の範囲では検出しなかった。遺物は、後述する縄文土器を除くと、鳥畑の上面の精査で少量の弥生土器片や土師器片などが出土したにとどまる (第51図50)。

鳥畑18 (第33・34図) 鳥畑17の西側 (H2-r12・s12区ほか) で検出した南北方向に延びる鳥畑である。規模は検出長65.2m、基部幅18.3m、上面幅12.4m前後、高さ0.6~0.7mである。鳥畑上面の標高はおよそ14.6mである。鳥畑の北端は第4次調査地で確認したが、南端は調査区外のため確認できなかった。なお、検出した鳥畑の北側3/5は第4次調査地に当たる。鳥畑上面では、素掘り溝を11条検出した。素掘り溝は検出長32~63.2m、幅0.2~0.8m、深さ0.1m前後である。遺物は細片化した瓦器や土師器が多いが、ほかに縄文土器や弥生土器、須恵器の小破片などがある (第51図51~56)。出土した遺物のうち、53は素掘り溝 S D308から出土した土師器杯 (図版第20-1) で、平安時代前期ないし中期のものと推定される。鳥畑造成以前の土地利用に関わる資料と

【鳥畑18土層断面】



【溝SD352土層断面】



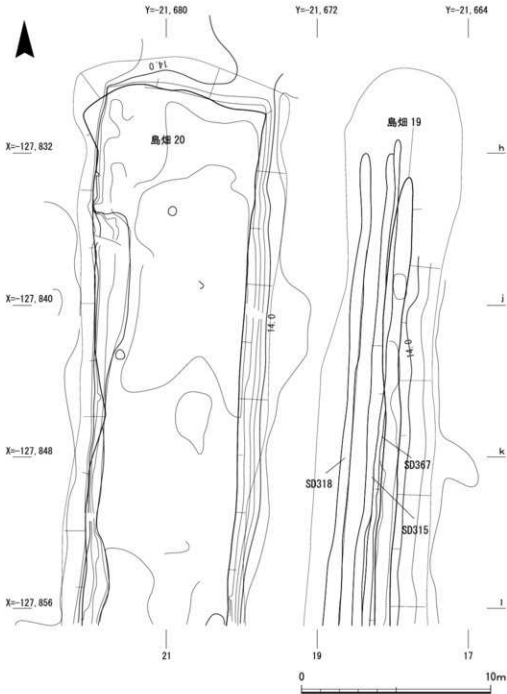
1. 灰黄褐色 (10Y6/2) シルト混じり細砂
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトじり細砂
3. 褐灰色 (10YR6/1) シルト混じり細砂
4. 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト混じり細砂
5. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト混じり細砂
6. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
7. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂
8. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり細砂
9. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂

10. 褐灰色 (5YR5/1) シルト混じり極細砂
11. 褐灰色 (10YR6/1) シルト混じり極細砂
12. 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト混じり細砂 (鳥畑ベース)
13. 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂混じりシルト
14. 灰褐色 (5YR5/2) シルト混じり細砂
15. 黄灰色 (2.5Y) シルト混じり細砂
16. 灰褐色 (7.5YR5/2) 細砂混じりシルト
17. にぶい褐色 (7.5YR5/3) シルト混じり細砂
18. 褐灰色 (7.5YR5/1) シルト混じり細砂 (土器片含む)
19. 灰褐色 (7.5YR4/2) シルト
20. 褐灰色 (7.5YR6/1) シルト混じり細砂
21. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり極細砂

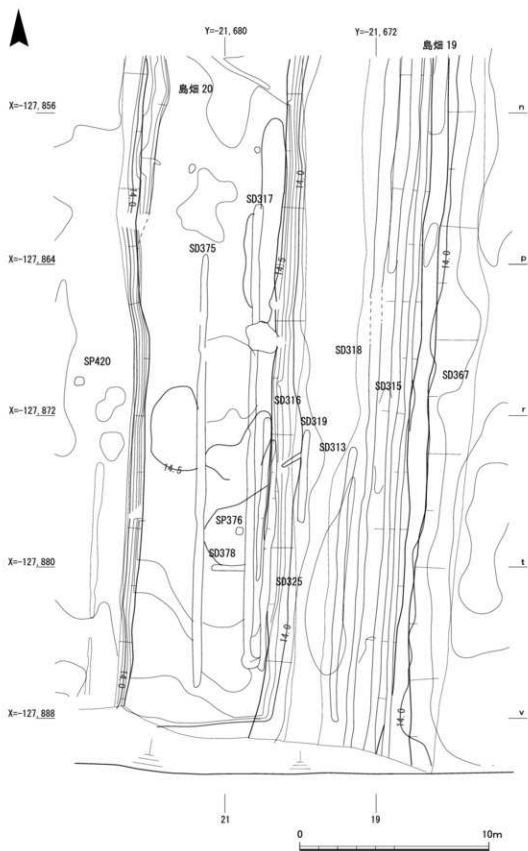
第34図 C1区鳥畑18土層断面図(1/100)、溝SD352土層断面図(1/50)

考えられる。

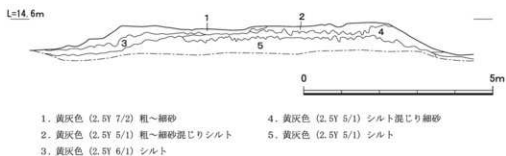
島畑19(第35・36図) 島畑18の西側(H2-h17・i17区ほか)で検出した南北方向に延びる島畑である。規模は検出長62.3m、基部幅4.9～6.6m、上面幅1.0m前後、高さ0.3m前後である。島畑上面の標高はおよそ14.2mである。島畑の北端部は確認したが、南端は調査区外のため確認できなかった。検出した島畑の北側1/4は第5次調査地に当たる。ほかの島畑にくらべて細長く、島畑上面が狭いため、素掘り溝はいずれも島畑の西側斜面で検出した。検出した素掘り溝は4条である。素掘り溝は検出長14.6～61.7m、幅0.25～0.8m、深さ0.1m前後である。遺物は少なく、瓦器



第35図 C1区島畑19・20(北半部)平面図(1/200)



第36図 C1区島畑19・20(南半部)平面図(1/200)



第37図 C1区鳥畑20土層断面図(1/100)

や土師器の細片のほか、古代の須恵器の杯の破片などが出土した(第51図57～61)。

鳥畑20(第35～37図) 調査区の西寄り、鳥畑19の西側(H2-h20・i20区ほか)で検出した南北方向に延びる鳥畑である。規模は検出長61.2m、基部幅8.5～11.4m、上面幅6.6～9.9m、高さ0.4～0.6mである。鳥畑上面の標高はおよそ14.4mである。鳥畑の北端部は確認したが、南端は調査区外のため確認できなかった。なお、検出した鳥畑の北東隅のごくわずかな一角が第4次調査地に位置する。また、鳥畑の西半部はC2区に属するが、ここではC1区として報告する。鳥畑上面では、素掘り溝を5条検出した。1条は東西方向であるが、残る4条は南北方向である。素掘り溝は検出長1.7～24.5m、幅0.2～0.5m、深さ0.05～0.1mである。遺物は土師器や瓦器の破片のほか、天目茶碗や瓦質土器、青磁などの細片が出土した。また、古墳時代の須恵器の杯身や平瓦と思われる破片が出土した(第51図62～68)。

溝状遺構 S D 500(第32図) 鳥畑17の東側で検出した(H2-t6・u6区ほか)。第4次調査でも検出しており、両調査区を合わせた規模は検出長47.1m、検出幅1.7～3.3mである。すぐに調査区外となるため、全容は不明である。遺物は、弥生土器の細片などが出土した(第51図69)。

溝状遺構 S D 501(第32・33図) 鳥畑17と鳥畑18の間で検出した(H2-t9・u9区ほか)。第4次調査報告で水田 S N 17と報告したものと同一である。両調査を合わせた規模は検出長55.8m、幅12.4～15.3m、深さ0.6～0.7mである。溝底の標高はおよそ13.9mである。溝底では、第4次調査と合わせて素掘り溝を8条検出した。素掘り溝は、検出長2.4～32.7m、幅0.25～0.6m、深さ0.05～0.1mである。遺物は、土師器や瓦器の破片のほか、白磁の破片などが出土した(第51図70～72)。

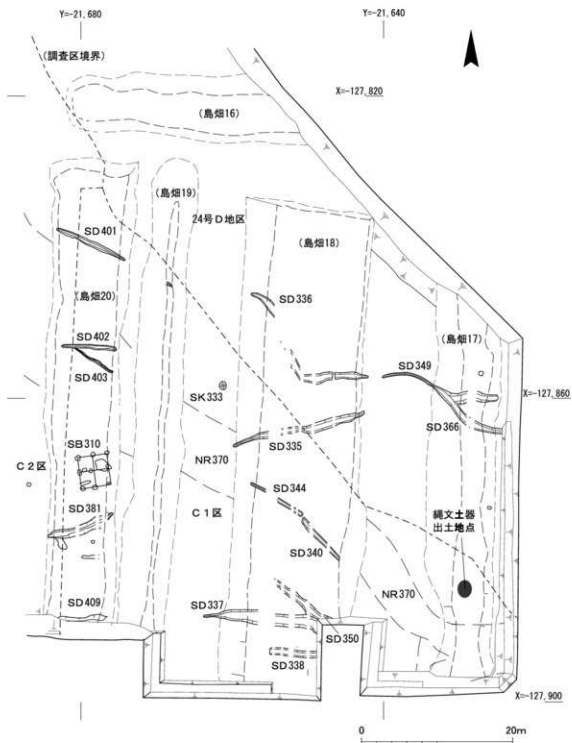
溝状遺構 S D 502(第33～35図) 鳥畑18と鳥畑19の間で検出した(H2-h18・i18区ほか)。第4次調査報告で水田 S N 16と報告したものと同一である。両調査を合わせた規模は検出長68.7m、幅12.0～12.8m、深さ0.2～0.6mである。溝底の標高はおよそ14.0mである。溝底で素掘り溝は検出されなかった。遺物は細片化した土師器や瓦器のほか、青磁の破片が出土した(第51図73)。

溝状遺構 S D 503(第35・36図) 鳥畑19と鳥畑20の間で検出した(H2-h22・i22区ほか)。第4次調査報告で水田 S N 15と報告したものと同一である。両調査を合わせた規模は検出長61.3m、幅5.5～6.1m、深さ0.4～0.6mである。溝底の標高はおよそ13.8mである。鳥畑19に類似した幅の狭い遺構で、溝底で素掘り溝は検出されなかった。遺物は土師器や瓦器の細片のほか、瓦質土器

や白磁の破片などが出土している(第51図74~76)。

②下層遺構(古代・第38図)

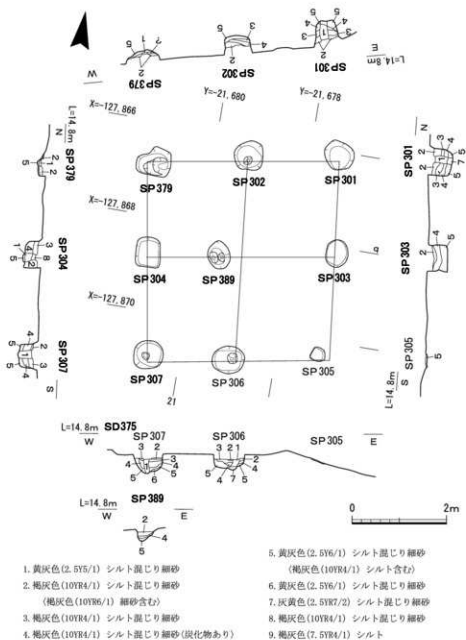
掘立柱建物SB310(第39図) 鳥畑20の中央、やや南寄りで検出した(H2-q20区ほか)。東西2間(3.8m)、南北2間(4.0m)の総柱建物である。主軸は北に対して10°西に振る。柱間寸法はばらばらで、1.47~2.52mの幅がある。最も長いのはSP303・389間の2.52m、最も短いのはSP



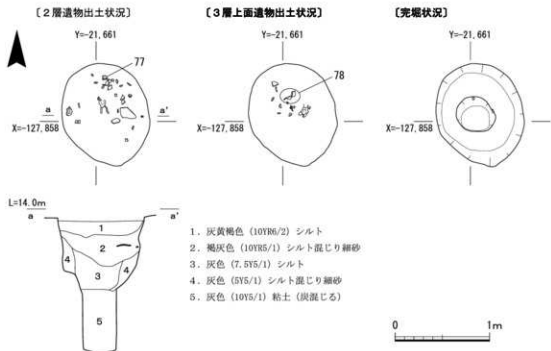
第38図 C1区下層遺構配置図(1/500)

304・389間の1.47mである。したがって、柱穴の配置も一直線とならない部分がある。柱穴の掘形は、円形もしくは隅丸方形を呈し、直径ないし一辺0.5～0.6m、深さ0.15～0.5mである。SP303・305を除く各柱穴では直径0.16～0.22mの柱痕もしくは柱当たりを確認した。柱痕は黄灰色シルトで、掘形埋土は褐灰色ないし黄灰色のシルト混じり細砂である。遺物は柱穴SP301・303の掘形から土師器の小破片が出土したが、摩滅が著しく時期は不明である。SB310は遺構埋土や周辺の遺構の状況などから古代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

土坑SK333(第40図) 溝状遺構SD502の底で検出した(H2-o16区)。掘形は楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.9m、深さ1.3mである。埋土は大きく4層に分けられ、上層から灰黄褐色シルト、褐灰色シルト混じり細砂、灰色シルト、灰色粘土である。2・3層から須恵器椀や鉢、土師器甕



第39図 C1区掘立柱建物SB310実測図(1/80)



第40図 C1区土坑S K333実測図(1/40)

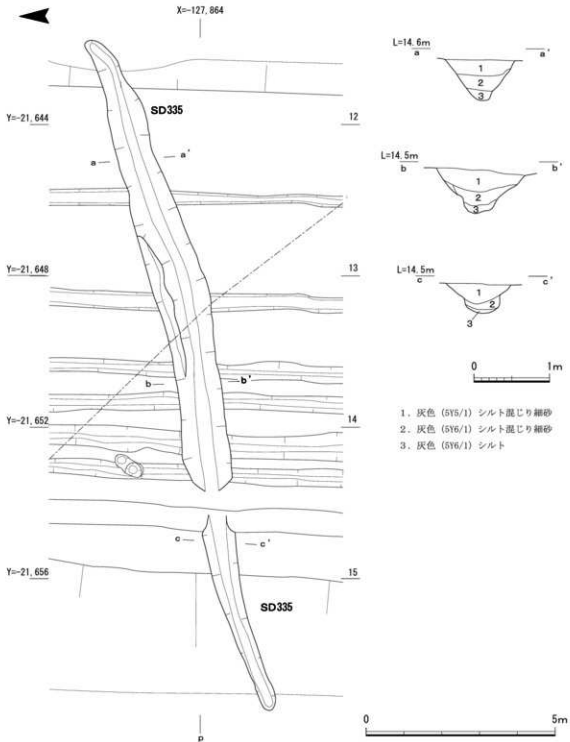
などが出土した(第52図77~79)。出土した遺物から飛鳥時代以降の遺構と考えられる。

③下層遺構(弥生時代後期~古墳時代前期・第38図)

溝S D335(第41図) 島畑18の中央付近で検出した(H2-p11区ほか)。東北東から西南西に延びるが、東側3/4が第4次調査地に当たる。また、本溝を西南西に延ばすと溝S D381があるので、本来は同一の溝である可能性がある。第4次・第5次両調査区を合わせて検出長18.4m、幅0.8~1.4m、深さ0.3~0.6mである。溝の方位は北に対して71~82°東に振る。溝の断面形は「V」字状を呈するが、断面c-c'の下部形状が台形を呈することから、掘り直しがあったのかもしれない。埋土は3層に分かれ、最下層に灰色シルトが堆積し、その上部に灰色シルト混じりの細砂が堆積する。遺物としては弥生土器ないし土師器の小破片などが出土したが、図示できなかった。

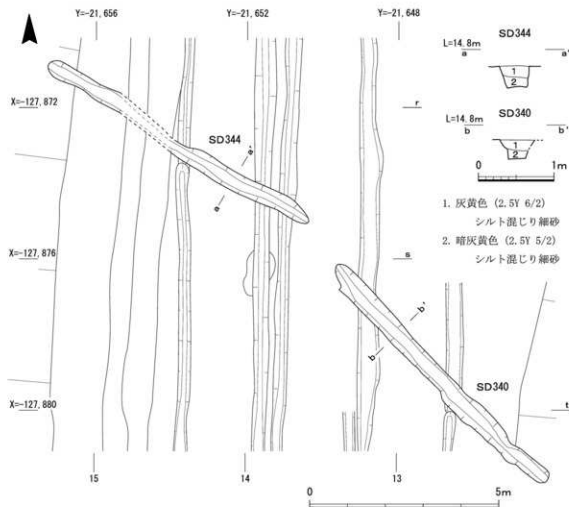
溝S D344(第42図) 島畑18のやや南寄りで検出した(H2-s13区ほか)。南東から北西に延びる。検出長8.0m、幅0.4~0.55m、深さ0.5m前後である。溝の方位は北に対して58°西に振る。溝の断面形は逆台形を呈する。埋土は上層が灰黄色シルト混じり細砂、下層が暗灰色シルト混じり細砂である。遺物は出土しなかった。詳細な時期は不明であるが、周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時期と推定される。

溝S D340(第42図) 島畑18の南部で検出した(H2-u12区ほか)。南東から北西に延びる。溝S D344と近接していることや規模が類似していることから、本来は同一の溝である可能性が高い。検出長9.0m、幅0.5~0.65m、深さ0.5m前後である。溝の方位は北に対して44°西に振る。溝の断面形は逆台形を呈する。埋土はS D344と同じである。遺物は弥生土器の細片が少量出土した程度である。出土遺物から、詳細な時期は不明であるが、S D344と同様に、正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時期と推定される。



第41図 C1区溝SD335平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

溝SD350(第43図) 鳥畑18の南端付近で検出した(H2-v13区ほか)。南東から北西に延びる。不明な点が多いが、次の報告する溝SD337と重複関係にあり、SD350の方が古いと考えられる。検出長9.9m、幅0.7～1.1m、深さ0.25m前後である。溝の方位は北に対して59°西に振る。溝の断面形は浅い箱形を呈する。埋土は灰色シルト混じり細砂の1層である。遺物は出土しなかった。詳細な時期は不明であるが、周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時



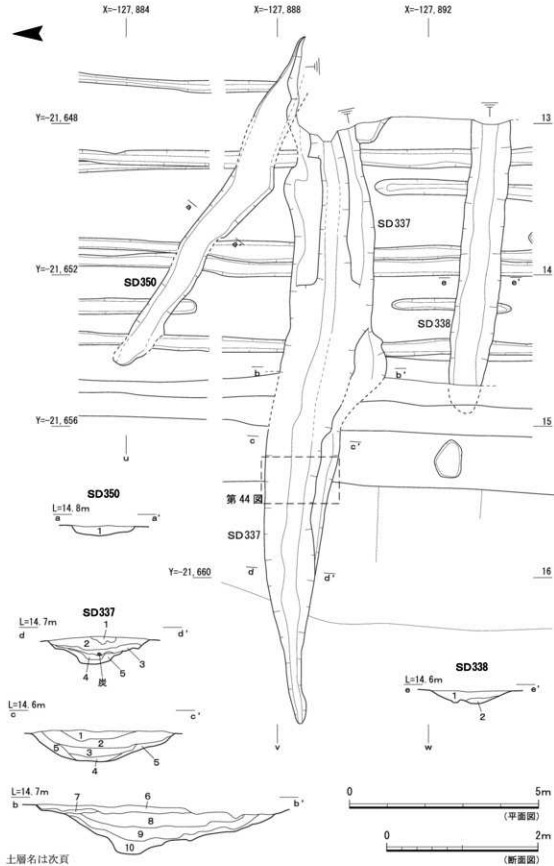
第42図 C1区溝SD340・344平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

期と推定される。

溝SD337(第43図) 鳥畑18の南端で検出した(H2-w13区ほか)。やや蛇行気味であるが、おおむね東西方向に延びる。検出長15.7m、幅1.3~3.1m、深さ0.3~0.65mである。溝の断面形は緩い「U」字状ないし「V」字状を呈する。埋土は大きく4~5層に分層可能であるが、断面c-c'・d-d'と断面b-b'とは若干色調が異なり、前者は緑灰色を主体とし、後者は褐灰色ないし黄灰色を主体とする。土質はおおむねシルト混じり細砂である。遺物は、西半部の鳥畑18の肩部に相当する地点でまとまって出土している(第44図)。遺物としては古式土師器の広口壺や庄内式甕、布留式甕などが出土した(第53図84~89)。出土遺物から古墳時代初頭~前期前半に位置づけられる。

溝SD338(第43図) 鳥畑18の南端で検出した(H2-x13区ほか)。おおむね東西方向に延びる。検出長7.1m、幅0.9~1.1m、深さ0.3m前後である。溝の断面形は浅い「U」字状を呈する。埋土は灰色シルト混じり細砂である。遺物は弥生土器ないし古式土師器の細片が出土した程度である。詳細な時期は不明であるが、正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時期と推定される。

溝SD401(第45図上) 鳥畑20の北部で検出した(H2-i20区ほか)。西北西から東南東に延びる。本溝を南東に延ばすと、第4次調査地で検出した溝SD336があるので、やや蛇行気味となるが、



第43図 C1区溝SD337・338・350平面図(1/100)・土層断面(1/50)

【SD337 土層名】

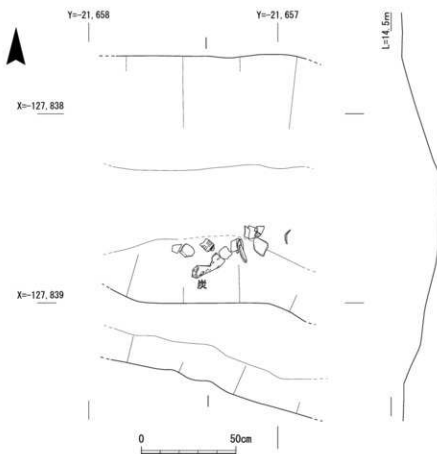
1. 緑灰色 (10G76/1) 細砂混じりシルト
2. 緑灰色 (10G75/1) 細砂混じりシルト
3. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂
4. 緑灰色 (7.5GY6/1) シルト混じり細砂
5. 緑灰色 (7.5GY6/1) シルト
6. 褐灰色 (7.5YR6/1) シルト混じり細砂
7. 褐灰色 (10YR6/1) シルト混じり細砂
8. 灰褐色 (7.5YR6/2) シルト混じり細砂 (土器片含む)
9. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂
10. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂

【SD350 土層名】

1. 灰白色 (10Y7/1) シルト混じり細砂

【SD338 土層名】

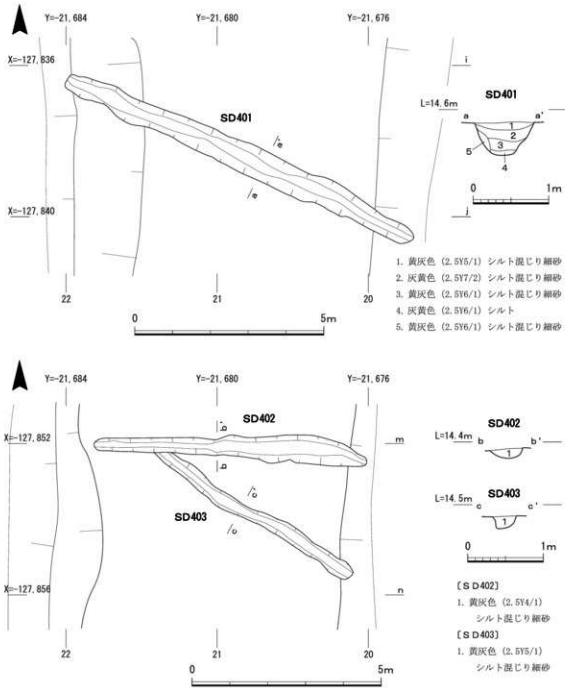
1. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂 (土器片含む)
2. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂



第44図 C1区溝SD337遺物出土状況図(1/20)

本来は同一の溝である可能性がある。検出長10.1m、幅0.6～0.75m、深さ0.45m前後である。溝の方位は北に対して65°西に振る。溝の断面形は「U」字状ないし浅い逆台形状を呈する。埋土は黄灰色シルト混じり細砂と灰黄色シルト混じり細砂の互層で、最下層は灰黄色シルトである。遺物は出土しなかった。詳細な時期は不明であるが、周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時期と推定される。

溝SD402(第45図下) 高畑20の中央で検出した(H2-n20区ほか)。おおむね東西方向に延びる。検出長7.2m、幅0.25～0.75m、深さ0.15m前後である。溝の断面形は浅い「U」字状を呈する。埋土は黄灰色シルト混じり細砂である。遺物は弥生土器ないし土師器の細片が出土した。溝の方



第45図 C1区溝SD401～403平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

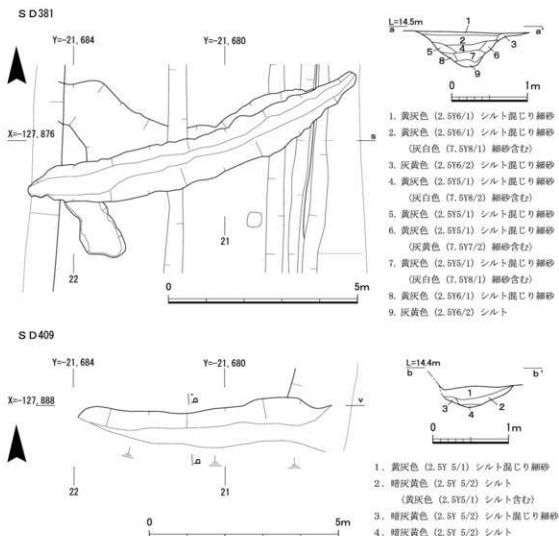
位はおおむね東西方向であるが、出土遺物から周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時期である可能性が高い。

溝SD403(第45図下) 鳥畑20の中央付近で検出した(H2-n20区ほか)。南東から北西に延びる。SD403を南東方向へ延ばすと、溝SD344があるので、SD344とSD403は同一の溝である可能性がある。また、溝SD402とは合流するのではなく、重複関係にあり、SD403の方が古い。検出長6.0m、幅0.35～0.45m、深さ0.2m前後である。溝の方位は北に対して57°西に振る。断面は緩い逆台形状を呈する。埋土は黄灰色シルト混じり細砂である。遺物は出土しなかった。詳細な

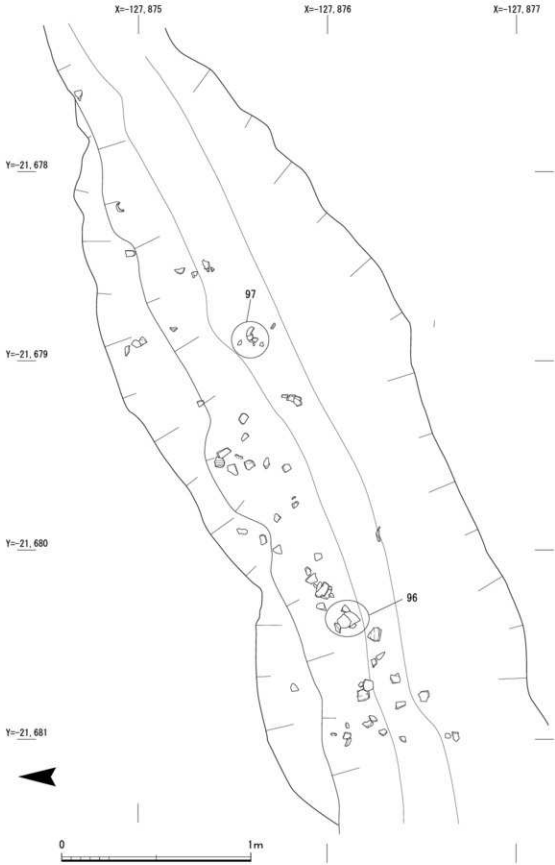
時期は不明であるが、周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群とおおむね同時期と推定される。

溝 S D 381 (第46図上) 鳥畑20の南半部で検出した(H2-s20区ほか)。東北東から西南西に向かって緩やかな弧状を描きながら延びる。先述のように、東北東に延ばすと溝 S D 335があり、やや南寄りに西に延ばすと溝 S D 406がある。これらはやや蛇行気味となるが、本来同一の溝である可能性が高い。検出長9.3m、幅1.1m前後、深さ0.45m前後である。溝の方位は北に対して13～29°東に振る。断面は緩い「V」字状を呈する。埋土は分層できるが、最下層が灰黄色シルトであるほかは、黄灰色シルト混じり細砂である。遺物は溝のほぼ全域から出土しており、ほかの溝にくらべて出土点数が多い(第47・48図)。出土遺物としては古式土師器の複合口縁壺や小型の壺、布留式甕、高杯などがある(第53図90～99)。出土遺物から時期は古墳時代前期前半に位置づけられる。

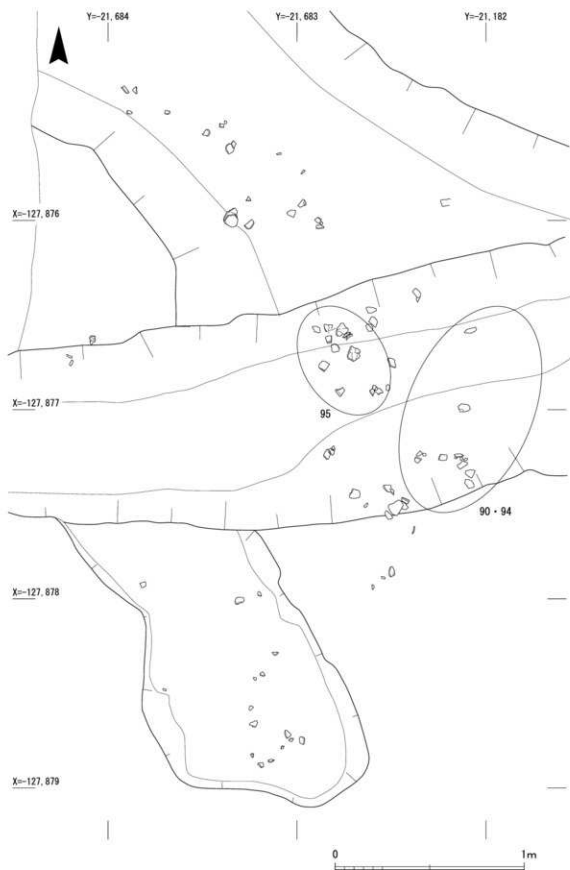
溝 S D 409 (第46図下) 鳥畑20の最南端部で検出した(H2-w20区ほか)。おおむね東西方向に延びるが、溝の南層は、調査区外となるため、溝の幅は明らかでない。検出長6.7m、検出幅1.1m、



第46図 C 1区溝 S D 381・409平面図(1/100)・土層断面図(1/50)



第47図 C1区溝S D381遺物出土状況図1 (1/20)



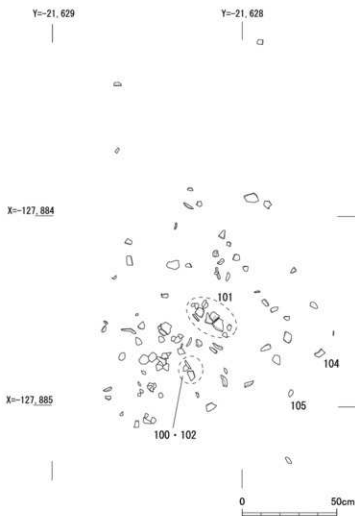
第48図 C1区溝S D381遺物出土状況図2(1/20)

深さ0.25m前後である。溝の断面形は緩い「U」字状を呈する。埋土は大きく2層に分層でき、上層は黄灰色シルト混じり細砂、下層が暗灰黄色シルトである。遺物は出土しなかった。溝方位も斜行する溝群とは大きく異なるため、詳細な時期は不明である。

④下層遺構(縄文時代・第38図)

調査区南東部の鳥畑17上面で、縄文時代晩期の突帯土器が南北1.4m、東西1.2mほどの範囲からまとまって出土した(第49図)。ただ、遺構の掘形等は確認できなかったため、出土した土器の性格は不明である。

各溝状遺構の底面で自然流路NR370を検出した。NR370は鳥畑部分では確認できないこと



第49図 C1区鳥畑17上面縄文土器出土状況図(1/20)

から、鳥畑を構成する堆積層の堆積以前の流路であると判断した。NR370の掘削範囲は限定して実施した(第50図)。掘削および土層観察の成果によると、東から流れてきたNR370は断面図作成付近で二又に分かれ、一方は北東へ向かってC地区を縦断するように流れる。もう一方は南へ流れるようであるが、A3区では確認しなかった。

(福山博章・筒井崇史)

(3)出土遺物(第51～53図)

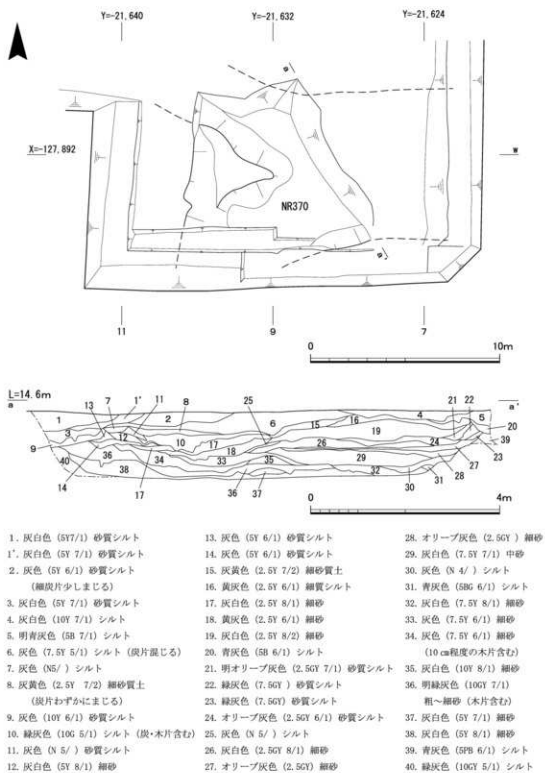
C1区では、鳥畑の検出時や素掘り溝、溝状遺構などから中世を主体とする土器が出土した。また、これらの遺構や堆積土からは弥生時代から平安時代にかけての遺物が含まれていた。さらに、鳥畑部分に残存していた弥生時代後期ないし古墳時代前期の溝からも土器が出土したが、量的に多いものではない。このほかに古代の遺構に伴う土器や小破片を主体とする縄文時代晩期の土器が出土している。

①上層遺構出土遺物(第51図)

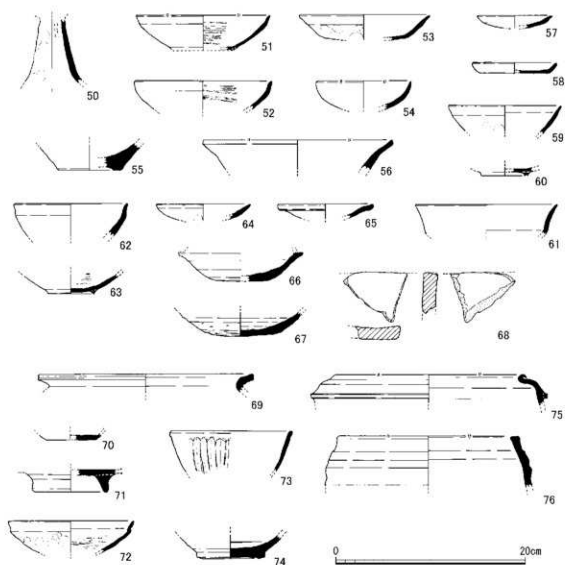
50は鳥畑17で出土した土師器高杯の脚部の破片である。古墳時代前期のものであろう。

51～56は鳥畑18の上面精査、もしくは素掘り溝から出土したものである。51・52は素掘り溝S

D326から出土した瓦器碗である。ともに底部を欠損するが、特徴はよく似ており、内面にミガキを施し、口縁端部内面に沈線は認められない。53は素掘り溝S D308から出土した土師器杯である。胎土には3mm程度の砂粒を含む。烏畑の時期よりも少し古く平安時代前期ないし中期ごろと推定される。54～56は素掘り溝S D311から出土した。54は土師器の杯ないし碗である。古



第50図 C1区自然流路NR370平面図(1/200)・土層断面図(1/80)



第51図 C1区出土遺物実測図1(1/4)

墳時代中・後期あるいは飛鳥時代のもので推定される。55は弥生土器の甕の底部の破片である。胎土に0.5～2mmの砂粒を多量に含む。弥生時代中期の甕の可能性もある。56も弥生土器の高杯の口縁部の破片である。弥生時代後期のものと推定される。胎土に0.5～2mmの砂粒を多く含む。S D311から出土した土器は鳥畑の時期ではなく、鳥畑以前の状況を示す遺物である。

57～61は鳥畑19の上面精査、もしくは素掘り溝から出土したものである。57・58は素掘り溝S D314から出土した。57・58は土師器皿である。58はやや平底、57はやや丸底気味である。61は須恵器杯の口縁部で、やや外反気味である。底部に高台を有するかどうかは不明である。59は鳥畑19の西側で出土した瓦器椀の破片である。内面のミガキや口縁端部内面の沈線は認められない。60は素掘り溝S D318から出土した瓦器椀の底部である。断面台形の高台を貼り付ける。

62～68は鳥畑20の上面精査、もしくは素掘り溝から出土したものである。62は天目茶椀である。63は鳥畑20上面の素掘り溝S D316から出土した瓦器椀の底部である。断面三角形の高台を貼り付ける。64・65は直径10cmほどの土師器皿である。口縁部の形状に違いがある。66は素掘り溝

S D317から出土した古墳時代の須恵器杯身である。立ち上がり部を欠損するので口径は不明である。底部はヘラ切り後不調整である。67は古墳時代の須恵器杯身の底部である。底部全面に回転ヘラケズリを施す。68は摩滅が著しく調整等確認できないが、平瓦の破片と推定される。

69は溝状遺構 S D500で出土した。弥生時代の甕の口縁の破片と思われる。胎土には2mm大の石英や細かい砂粒を含む。頸部から口縁端部までが短く、弥生時代中期のものである可能性がある。

70~72は溝状遺構 S D501で出土した。70は白磁皿の底部の破片である。71は足高の高台を有する土師器杯ないし皿の破片である。72は瓦器碗である。口縁部のヨコナデを強く施したため、ヨコナデの直下にやや強い稜が形成されている。

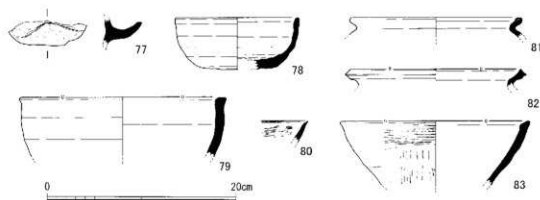
73は溝状遺構 S D502から出土した青磁碗である。細筋の蓮弁が認められる。

74~76は溝状遺構 S D503で出土した。74は白磁碗の底部で、高台は削り出しである。75は土師器羽釜である。突帯状の短い鈎が付く。口縁端部を折り返して丸く納める。76は瓦質土器羽釜と推定されるが、鈎は確認できない。ほかの器種の可能性もある。

②下層遺構出土遺物(第52・53図)

77~79は土坑 S K333から出土した。77は土師器甕の把手である。把手の部分はナデとユビオサエで成形する。78は須恵器の碗と思われるが、器壁が厚く類例は不明である。79も須恵器の破片で、口径は推定復元である。やや大型品の鉢ないし碗と推定されるが、器形ははっきりせず、やはり類例は不明である。土坑 S K333の時期は断定できないが、飛鳥時代以降と推定される。

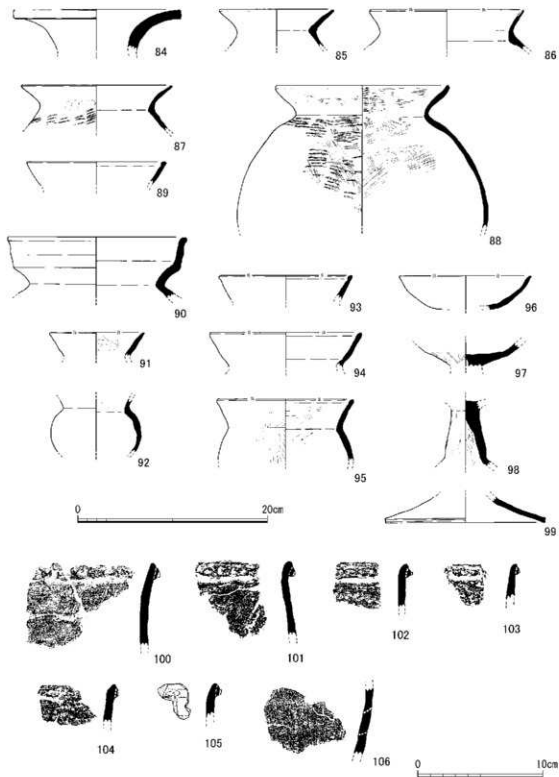
84~99は鳥畑の上部に残存していた古墳時代初頭ないし前期の溝から出土した遺物である。81~89は溝 S D337から出土した。84は広口壺の口縁である。内面は摩滅気味のため詳細は不明であるが、文様等は認められないようである。85~89は甕である。このうち、89は口縁端部内面が肥厚することから布留式甕と推定されるが、ほかのものは庄内式甕もしくはその影響を受けた甕と推定される。87は体部外面に細筋のタタキが認められるものの、口縁端部は明瞭なつまみ上げは認められず、ごく小さく肥厚気味となる。88は球形状の体部に、87よりもややつまみ上げ気味となる口縁部が付くものである。また、同じく体部に細筋のタタキを施し、その後ハケを施す。



第52図 C1区出土遺物実測図2(1/4)

内面にはハケ調整を施しており、通有の庄内式甕とは異なる。85・86は内外面とも摩滅が著しく詳細は不明であるが、形態等から庄内式甕の特徴を有するものと考えられる。ただし、88のように通有とは異なった特徴を持つタイプかもしれない。

90～99は溝S D381から出土した。90は複合口縁の甕である。胎土には0.5～1mmの砂粒を多



第53図 C1区出土遺物実測図3 (84～99: 1/4、100～106: 1/3)

量を含む。91は小型の壺の口縁と考えられる。胎土には細かい雲母や長石を含む。92は小型丸底土器の頸部から体部にかけての破片と推定される。胎土には0.5～1.5mmの砂粒や赤色粒を含む。93・94は口縁端部内面が肥厚する布留式甕である。93は胎土に細かい白色粒を多く含む。94は多量の雲母や細かい長石を含む。95も口縁端部内面が肥厚する布留式甕の特徴を有するが、口縁部の開きが鈍角で、肩部があまり張らないことから、通常の布留式甕とは若干異なる特徴を有する。胎土には小さな白色粒や雲母を含む。96～99は高杯と思われる破片である。96は口縁端部にやや強めのヨコナエを施す高杯の杯部で浅い碗状を呈する。胎土には雲母や0.5～3mmの砂粒を多く含む。97は高杯の杯底部で脚部との結合部も残存する。杯底部外面にハケを施す。胎土には細かい雲母や砂粒を多く含む。98は高杯の脚柱部である外面に面取りを施し、内面には成形時のシボリ痕跡が認められる。胎土には雲母・石英を少量含む。99は高杯脚柱部と思われる。胎土に3～4mmの砂礫や1mm以下の白色粒を含む。(筒井崇史)

100～106は鳥畑17の南端付近で出土した縄文土器である。100は深鉢の口縁部から頸部の破片で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。突帯の形状は上面を強くナエ調整されたため下向きで、突帯上にD字の刻み目を持つ。長原式に位置づけられる。101は深鉢の口縁部から頸部の破片で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。突帯形状は下向きで、突帯上に浅いD字の刻み目を持つ。長原式に位置づけられる。102は深鉢の口縁部で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。突帯の形状は下向きで、突帯上に細長いO字の刻み目を連続して施している。長原式に位置づけられる。103は深鉢の口縁部で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。突帯の形状は下向きで、突帯上に小D字形の刻み目を持つ。また、突帯貼付け後に口縁端部内面を面取りしている。長原式に位置づけられる。104は深鉢の口縁部で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。103と同様に、突帯貼付け後に口縁端部内面を面取りしている。突帯部分は欠損しているため、形状や刻み目の有無は不明であるが、突帯の位置と口縁端部調整から長原式と考えられる。105は深鉢の口縁部で、口縁端部に接する位置に突帯を持つ。突帯の形状は下向きで、突帯上にD字の刻み目を持つと考えられる。長原式に位置づけられる。106は胴部の破片で、外面には縦方向のミガキが施されており、内面にも横方向のミガキが施されている。外面に輪積み痕が認められる。100～105はいずれも、口縁端部と接する位置に突帯を上面から押さえる形で貼り付けている。また、これらの色調は褐色ないし茶褐色で、2～4mmの白色粒や黒色粒を含んでいるものが多く、同じ胎土を使用して製作されている可能性が考えられる。(深澤麻衣)

③遺物包含層(第52図)

以上のほか、遺構出土ではない遺物として80～83がある。80は調査区南壁の精査で出土した瓦器碗の口縁部の小破片である。端部内面に沈線が認められる。81・82は重機掘削中に出土したもので、81は土師器羽釜の口縁端部の破片である。端部は内側に折り返して肥厚させている。82は土師器甕の口縁端部である、0.8cmほどの端面を有する。83は瓦質土器の鉢と推定される。やや摩滅気味であるが、外面に粗いハケ状の工具痕が認められる。口縁端部は内傾する。

(筒井崇史)

2) C2区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

南北約110m、東西約52mのおおむね矩形を呈する。C2区の国道24号(旧路線)に面した地点は、C1区等の水田面より1.5m前後の盛土がなされていた。その東側での現地表面の標高はおおよそ15.6mである。現地表下1.2～1.3mで、上層遺構として鳥畑6基などを検出した(第54図)。このうち1基は一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う第3次調査で検出していた鳥畑と同一のものである。また、下層遺構として、古墳時代～古代の土坑3基や弥生時代後期末～古墳時代前期の溝4条などを検出した(第66図)。

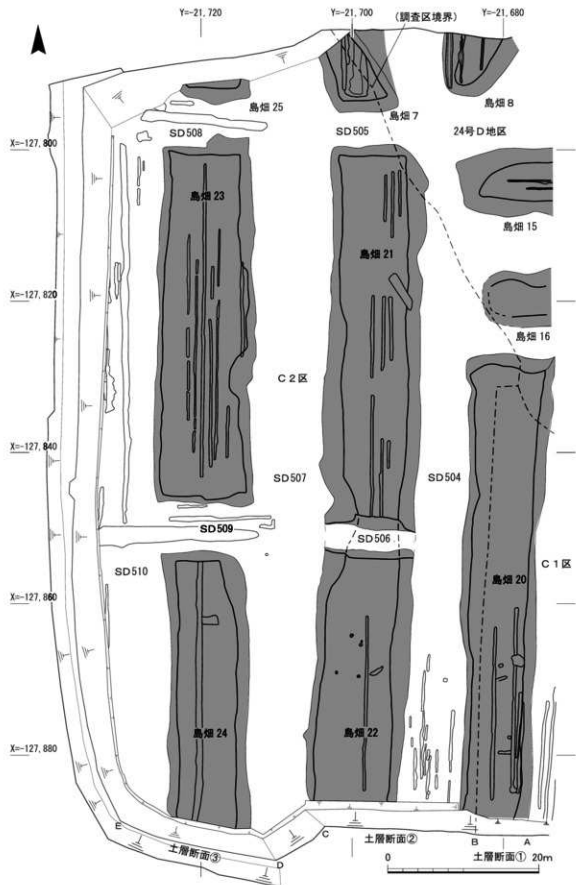
基本的な層序は、第55図に示したように、上部に大規模な攪乱や造成土(1層)が認められる。これは、上述のように、C2区の南辺から西辺にかけて大規模の盛土造成が行われた際のものと考えられる。基本的な層序の概要を第55図中の南壁土層断面①で説明する。攪乱のため、断続的であるが、耕作土と思われる暗オリーブ灰色のシルトや砂層(2・3層)がみられ、その下層に灰白色粗砂ないし細砂の堆積層(10層)がある。新しい時期の洪水砂の可能性がある。その下層にはオリーブ灰色シルト(14～16層)が鳥畑や溝状遺構を覆うように広がる。その下層の堆積状況は鳥畑部分と溝状遺構部分とは異なり、後者では灰色シルト混じり細砂や褐灰色シルト混じり細砂(33～36層・45～47層など)などが合わせて1m余りと厚く堆積する。これに対して鳥畑部分では新しい時期の盛土が上部に認められる(48～61・68・71～73層)。これらの下層に鳥畑の最も古い耕作面を確認した。調査はこの耕作面を対象に実施した。最も古い耕作面の形成には黄灰色シルト混じり細砂(55・56層)の盛土が認められたが、部分的なもので下層遺構も鳥畑の耕作面と同一面で検出した。また、鳥畑を構成する基盤層として黄灰色シルト(44・169層)を確認した(第55図)。

(2) 検出遺構

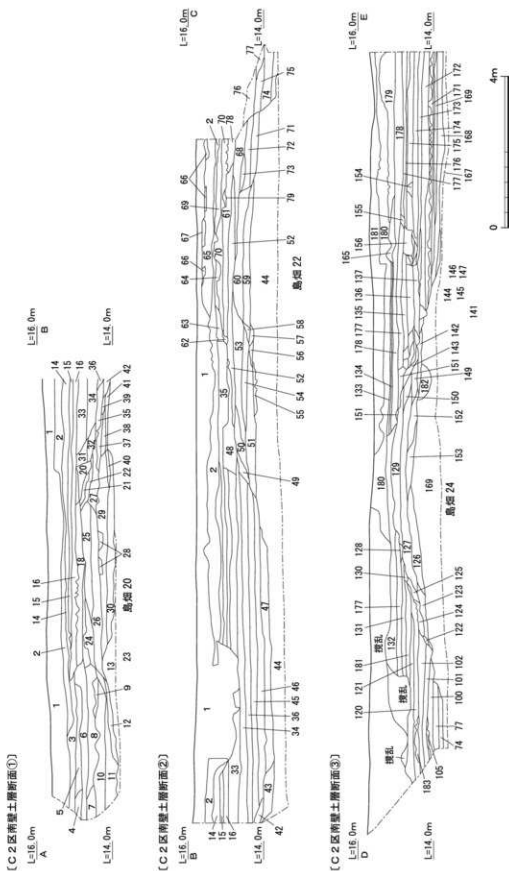
① 上層遺構(第54図)

鳥畑7(第56図) 調査区の北端、鳥畑14の西側で検出した(G2-x25区ほか)。第3次調査C地区で検出した鳥畑7と同一のもので、その南端部を検出したものである。第5次調査で検出した規模は検出長10.5m、基部幅8.9m、上面幅6.5m、高さ0.6mである。鳥畑上面の標高はおおよそ14.2mである。なお、検出した鳥畑の北東側1/3は第3次調査地に位置する。鳥畑の上面で、A3区の鳥畑27・29の上面で検出したのと同じような鳥畑の上面を掘り込んだ大型の土坑状遺構SK201を検出した。遺物は鳥畑の上面や斜面から土師器・瓦器・青磁などが出土したほか、SK201からも須恵器鉢などが出土した(第70図107・108)。

鳥畑21(第56～59図) 調査区の中央、鳥畑20や第4次調査の鳥畑15・16の西側で検出した南北方向の鳥畑である(H2-a24・b24区ほか)。規模は全長51.3m、基部幅11.8～14.6m、上面幅7.7～9.2m、高さ0.7～0.8mである。鳥畑上面の標高は14.3～14.4mである。鳥畑の南北両端を確認しており、鳥畑の全容が分かる数少ない例である。鳥畑上面では、素掘り溝を7条検出した。素掘り溝は検出長3.7～16.3m、幅0.4m前後、深さ0.1～0.2mである。なお、鳥畑21はもともと、鳥畑22と同一の鳥畑であったものを分割したものと考えられる。遺物は精査時や鳥畑盛土の掘削時、さ



第54図 C 2区上層遺構配置図(1/500)



第55図 C2区南壁土層断面図(L/100)

【C2区南壁土層断面・その1】

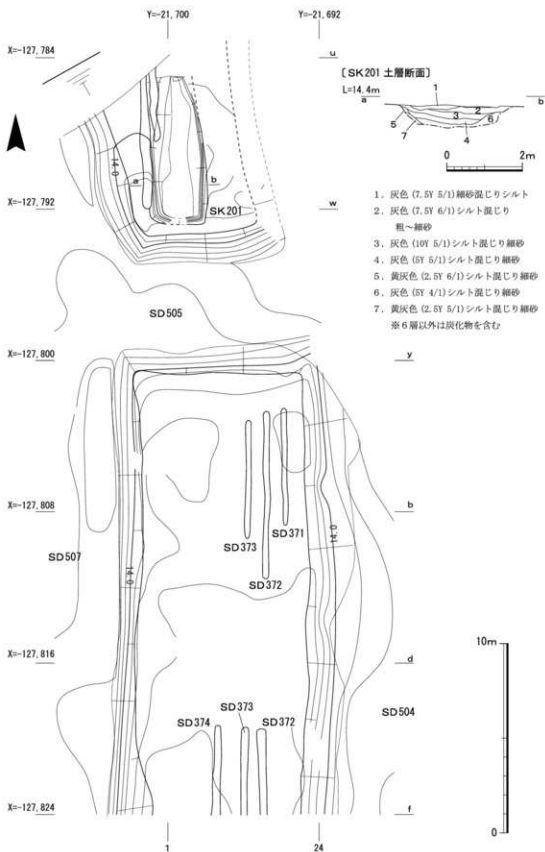
1. 造成土
2. 暗オリーブ灰色 (SG74/1) 粗～細砂混じりシルト (炭含む)
3. 暗オリーブ灰色 (2. SG74/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
4. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
5. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
6. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
7. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
8. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
9. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
10. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
11. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
12. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
13. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト (島棚ベース)
14. 灰白色 (7. 5Y8/2) 粗～細砂
15. 暗オリーブ灰色 (SG74/1) シルト (炭含む)
16. オリーブ灰色 (5G75/1) シルト (炭含む)
17. 灰色 (7. 5Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
18. オリーブ灰色 (10Y6/2) シルト混じり細砂 (炭含む)
19. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂
20. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
21. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
22. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
23. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
24. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
25. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
26. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
27. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
28. 黄灰色 (2. 5Y5/1) 細砂 (S D375 埋土)
29. 黄灰色 (2. 5Y 5/1) シルト混じり細砂 (S D409 埋土)
30. 暗黄灰色 (2. 5Y 5/2) シルト混じり細砂 (S D409 埋土)
31. 灰色 (7. 5Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
32. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
33. オリーブ灰色 (2. 5G75/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
34. オリーブ灰色 (5G75/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
35. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
36. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
37. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
38. 黄灰色 (2. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
39. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
40. 暗黄灰色 (2. 5Y 5/2) シルト (S D409 埋土)
41. 褐灰色 (10YR4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
42. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
43. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
44. 黄灰色 (2. 5Y5/1) 粗～細砂混じりシルト (島棚ベース)
45. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
46. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
47. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
48. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
49. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
50. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
51. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
52. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
53. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
54. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
55. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
56. 黄灰色 (2. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
57. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (S D391 埋土)
58. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
59. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
60. 褐灰色 (10YR6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
61. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
62. オリーブ灰色 (2. 5G75/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
63. 暗オリーブ灰色 (2. 5G74/1) シルト (炭含む)
64. オリーブ灰色 (5G75/1) シルト混じり粗～細砂 (炭含む)
65. 暗オリーブ灰色 (SG74/1) 粗～細砂混じりシルト (炭含む)
66. 浅黄 (7. 5Y7/3) 粗～細砂
67. 浅黄 (7. 5Y7/3) 粗～細砂
68. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
69. オリーブ灰色 (2. 5G75/1) シルト混じり粗～細砂 (炭含む)
70. オリーブ灰色 (2. 5G75/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
71. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト (炭含む)
72. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
73. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
74. 黄灰色 (2. 5Y5/1) シルト (炭含む)
75. 褐灰色 (10YR5/1) シルト (炭含む)
76. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
77. 灰色 (5Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
78. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
79. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
80. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (木片, 炭含む)
81. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
82. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
83. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
84. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
85. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
86. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂
87. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
88. 灰色 (7. 5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
89. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
90. 灰色 (5Y4/1) シルト混じり細砂 (木片, 炭含む)
91. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
92. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
93. オリーブ灰色 (2. 5G75/1) シルト混じり粗～細砂 (炭含む)
94. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
95. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (木片, 炭含む)
96. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
97. オリーブ灰色 (2. 5G75/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
98. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
99. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
100. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
101. 灰色 (7. 5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
102. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
103. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
104. 暗オリーブ灰色 (SG74/1) シルト (炭含む)

【C2区南壁土層断面・その2】

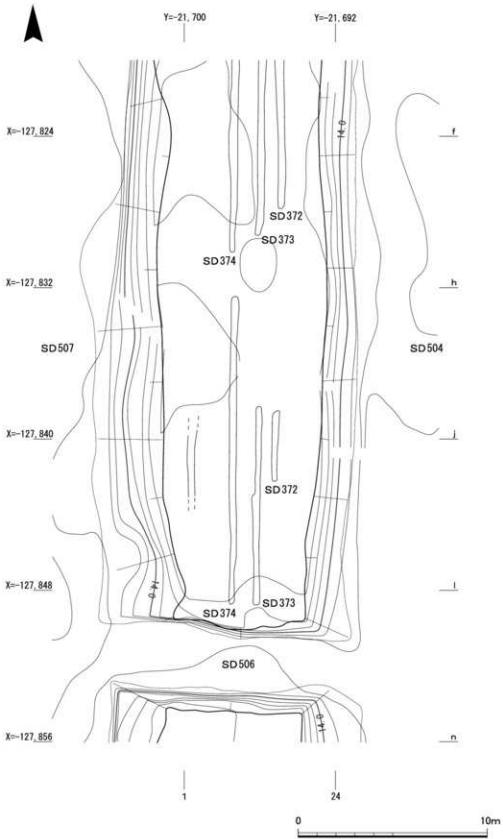
105. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 106. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト
 107. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト (炭含む)
 108. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 109. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 110. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 111. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 112. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 113. 灰色 (7.5Y4/1) シルト混じり細砂 (木片・炭含む)
 114. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粗～細砂混じりシルト (木片・炭含む)
 115. 灰色 (7.5Y4/1) 粗～細砂混じりシルト (木片・炭含む)
 116. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (木片・炭含む)
 117. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (木片・炭含む)
 118. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト (木片・炭含む)
 119. 灰色 (10Y5/1) 細砂混じりシルト (炭含む)
 120. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 121. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (木片・炭含む)
 122. 褐灰色 (10YR6/1) シルト (炭含む)
 123. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト (炭含む)
 124. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 125. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 126. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 127. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 128. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト混じり細砂 (木片・炭含む)
 129. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 130. オリーブ灰色 (10Y5/2) シルト混じり細砂 (炭含む)
 131. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 132. 暗オリーブ灰色 (5GY3/1) シルト混粗～細砂 (木片・炭含む)
 133. 灰色 (7.5Y6/1) 粗～細砂
 134. 暗オリーブ灰色 (5GY3/1) シルト
 135. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 136. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 137. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 138. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 139. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂
 140. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 141. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
 142. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト
 143. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 144. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂
 145. 灰色 (7.5Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 146. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 147. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 148. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 149. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 150. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 151. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 152. 褐灰色 (10YR5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 153. 褐灰色 (10YR4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 154. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (土器片 (瓦器))
 155. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト (木片・炭含む)
 156. 灰色 (10Y4/1) シルト (炭含む)
 157. 灰色 (10Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 158. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (木片・炭含む)
 159. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 160. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 161. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 162. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 163. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 164. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 165. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト混じり細砂
 166. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
 167. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 168. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂
 169. 灰色 (2.5Y5/1) 粗～細砂混じりシルト (鳥畑ベース)
 170. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 171. 灰色 (7.5Y5/1) シルト混じり細砂
 172. 灰色 (5Y4/1) シルト混じり細砂
 173. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
 174. 灰色 (7.5Y 5/1) シルト混じり細砂
 175. 灰色 (10Y4/1) シルト混じり細砂 (瓦器片含む)
 176. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト混じり粗～細砂 (炭含む)
 177. 灰色 (10Y4/1) シルト (炭含む)
 182. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (S D460埋土)
 183. 灰色 (7.5Y4/1) シルト混じり細砂 (炭含む)

らに素掘り溝などから、土師器や瓦器、瓦質土器などの細片のほか、鳥畑に先行する灰軸陶器と推定される破片や古代の須恵器なども出土した(第70図109～113)。

鳥畑22(第59・60図) 調査区の中央、鳥畑21の南側、鳥畑20の西側で検出した南北方向の鳥畑である(H2-n24・o24区ほか)。規模は検出長33.4m、基部幅11.1～13.8m、上面幅8.3～9.5m、高さ0.7mである。鳥畑上面の標高はおよそ14.4mである。鳥畑の北端を確認することができたが、南端は調査区外となり、確認できなかった。鳥畑上面で、素掘り溝を1条検出した。素掘り溝は検出長25.1m、幅0.35m前後、深さ0.05mで、非常に浅い。遺物は精査時や鳥畑盛土の掘削時、さらに素掘り溝などから、土師器や瓦器、白磁などの細片のほか、古代の須恵器や弥生土器の細片、さらに石鉄なども出土した(第70図114～117、第73図160)。



第56図 C2区鳥畑7・21(北半部)平面図(1/200)・遺構断面図(1/100)



第57図 C 2区島畑21(南半部)平面図(1/200)

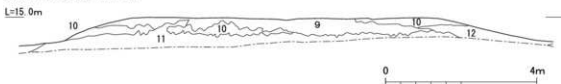
島畑23 (第61～63図) 調査区西端の北寄り、島畑21の西側で検出した南北方向の島畑である(H3-a4・b4区はか)。規模は、全長48.1m、基部幅120～130m、上面幅90～115m、高さ0.7mである。島畑上面の標高はおよそ14.4mである。島畑上面では、断続的であるが素掘り溝を6条分検出した。素掘り溝は、検出長6.9～41.5m、幅0.2～0.35m、深さ0.1～0.2mである。遺物は精査時や島畑盛土の掘削時、さらに素掘り溝などから土師器や瓦器、白磁などの細片が出土した(第70図118)。

島畑24 (第64・65図) 調査区西端の南寄り、島畑22の西側で検出した南北方向の島畑である(H3-n5・o5区はか)。規模は検出長37.2m、基部幅10.2～10.9m、上面幅6.7～8.3m、高さ0.6mである。島畑上面の標高はおよそ14.3mである。島畑上面では、やや幅の広い溝S D400を1条検出した。S D400は検出長35.0m、幅0.85m前後、深さ0.2～0.3mである。周辺の素掘り溝にくら

【溝状遺構SD507 断ち割り土層断面】

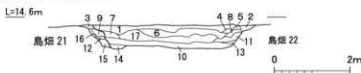


【島畑 21 断ち割り土層断面】



- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト | 7. 浅黄色 (7.5Y7/3) 粗～細砂 (炭屑じり) |
| 2. 灰黄色 (2.5Y7/2) 粗～細砂 | 8. 浅黄色 (7.5Y7/3) 粗～細砂 |
| 3. 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト | 9. 黄灰色 (2.5Y5/1) 粗～細砂混じりシルト |
| 4. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 | 10. 灰黄色 (2.5Y7/2) 粗～細砂 |
| 5. 浅黄色 (7.5Y7/3) 粗～細砂 | 11. 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗～細砂 |
| 6. 灰白色 (2.5Y7/1) 粗～細砂 | 12. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト |

【溝状遺構SD506土層断面】



- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 (瓦器出土) | 10. 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト混じり細砂 |
| 2. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 | 11. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂 |
| 3. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 (島畑 21 盛土) | 12. 灰色 (5Y6/1) 粗～細砂混じりシルト (島畑 21 盛土) |
| 4. 灰色 (5Y4/1) シルト混じり細砂 | 13. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 |
| 5. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 | 14. 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト混じり細砂 |
| 6. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 | 15. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (島畑 21 盛土) |
| 7. 灰色 (5Y5/1) シルト混じり細砂 | 16. 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗～細砂混じりシルト (島畑 21 盛土) |
| 8. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂 | 17. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 |
| 9. 灰色 (5Y4/1) シルト混じり細砂 (島畑 21 盛土) | |

第58図 C 2区島畑21・溝状遺構S D507断ち割り土層断面図、溝状遺構S D506土層断面図(1/100)

べて幅が広く、深さも深いため、耕作に伴う溝ではなく、島畑24の上面を区画する、あるいは用排水のための溝であった可能性が高い。遺物は精査時や島畑盛土の掘削時のほか、S D 400から、土師器や瓦器などの細片のほか、石包丁や石槍が出土した(第70図119・120、第73図158・159)。

島畑25(第61図) 調査区の北端部で検出した(G3-w4区ほか)。南北方向の島畑と推定されるが、確認できたのは南端部分のごく一部にとどまる。なお、平成27年度の下水主遺跡第9次調査(H2区)で島畑25と同一の島畑を検出した。規模は、検出長3.2m、基部検出幅9.5m、高さ0.6mである。島畑上面の標高はおよそ14.1mである。島畑上面で素掘り溝等は検出されなかった。遺物は出土しなかったが、周辺の島畑とおおむね同時期に造成されたものであろう。

溝状遺構 S D 504(第35・36・56・57・59図) 島畑20と島畑21・22の間で検出した(H2-a 22・b22区ほか)。第4次調査報告で水田S N 14と報告したものと同一である。規模は検出長87.8m、幅9.1~11.0m、深さ0.6~0.8mである。溝底の標高はおよそ13.8mである。南端付近の溝底で素掘り溝を断続的に8条検出した。素掘り溝は検出長1.2~14.4m、幅0.2~0.4m、深さ0.05~0.1mである。遺物は埋土掘削時や精査時に土師器や須恵器の細片が出土したものの、細片が多く図示できるものはなかった。

溝状遺構 S D 507(第56・57・61・62・64図) 島畑21・22と島畑23・24の間で検出した(H3-a 2 b2区ほか)。規模は検出長102.5m、幅9.8~12.8m、深さ0.7~0.8mである。溝底の標高はおよそ13.6mである。溝底に素掘り溝は検出されなかった。遺物は埋土掘削時や精査時に土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土したが、図示できるものは少ない(第70図125~128)。

溝状遺構 S D 510(第61・62・64図) 島畑23・24の西側で検出した(H3-a 7・b7区ほか)。規模は検出長93.2m、幅7.7~10.2m、深さ0.5~0.6mである。溝底の標高はおよそ13.7mである。溝底では、素掘り溝を7条ほど検出した。このうち、溝S D 415はほかのものにくらべ幅が広く、検出長も長い。S D 415を除く、素掘り溝は検出長2.2~8.7m、幅0.3~0.5m、深さ0.05~0.1mである。

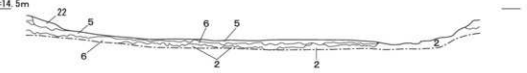
【島畑22 断ち割り土層断面】

L=14.5m



【溝状遺構SD507 断ち割り土層断面】

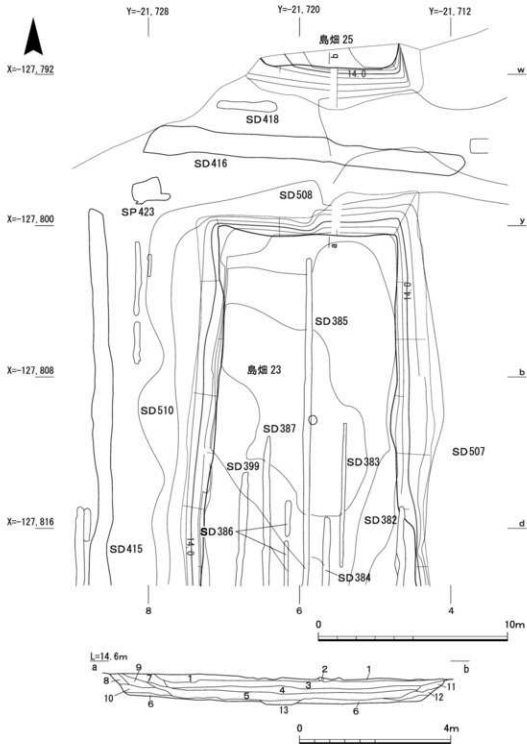
L=14.5m



- 2. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト
- 5. 黄灰色 (2.5Y5/1) 粗~細砂混じりシルト
- 6. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
- 7. 灰黄色 (2.5Y7/2) 粗~細砂
- 22. 黄灰色 (2.5Y6/2) シルト混細砂

0 4m

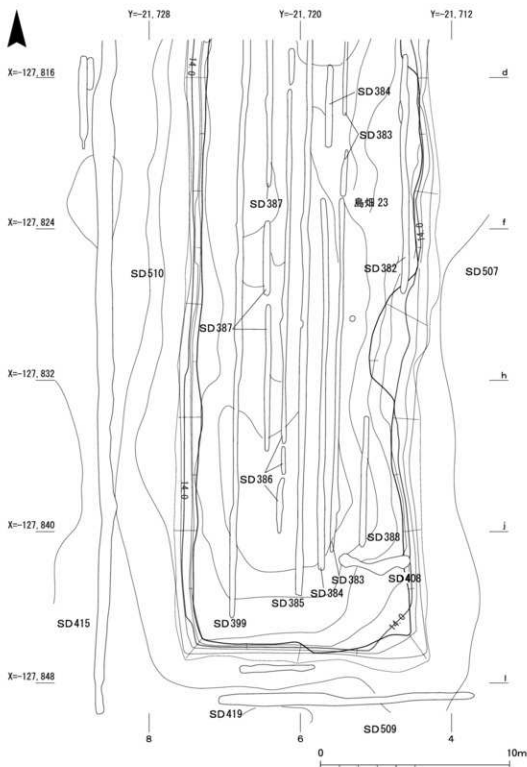
第60図 C 2区島畑22・溝状遺構 S D 507断ち割り土層断面図(1/100)



- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 灰色 (7.5Y 5/1) シルト混じり細砂 2. 灰オリーブ (5Y 6/2) 粗～細砂混じりシルト 3. 灰色 (10Y 5/1) シルト混じり細砂 4. 灰色 (5Y 5/1) シルト混じり細砂 5. 灰色 (5Y 6/1) シルト混じり細砂 6. 黄灰色 (2.5Y 5/1) シルト混じり細砂 7. 灰色 (5Y 5/1) シルト混じり細砂 (島畑23 北側盛土) | <ol style="list-style-type: none"> 8. 島畑ベース 9. 灰色 (2.5Y 5/1) シルト混じり細砂 (島畑23 北側盛土) 10. 灰色 (5Y 6/1) シルト混じり細砂 (島畑23 北側盛土) 11. 灰色 (7.5Y 5/1) シルト混じり細砂 (島畑25 盛土) 12. 灰色 (7.5Y 4/1) シルト混じり細砂 (島畑25 盛土) 13. 灰色 (10Y 4/1) シルト混じり細砂 (SD416埋土) |
|--|--|

第61図 C2区島畑23(北半部)・25平面図(1/200)、溝状遺構SD508土層断面図(1/100)

S D415は検出長50.7m、幅0.6～1.1m、深さ0.15m前後である。遺物は埋土掘削時や精査時に土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土したものの、図示できるものはなかった。また、溝底で検出したS D415からも土師器や瓦器、青磁などの細片が出土した(第70図131～135)。同じく溝底で検出した土坑状のピットS P423からも土師器の椀ないし杯が出土した(第70図136)。



第62図 C 2区烏畑23(南半部)平面図(1/200)

溝状遺構 S D 505 (第56図) 鳥畑7と鳥畑21の間で検出した (G2-x24区ほか)。規模は検出長12.9m、幅7.4m、深さ0.5m前後である。溝底の標高はおよそ13.7mである。遺物は出土しなかった。

溝状遺構 S D 506 (第57・58図) 鳥畑21と鳥畑22の間で検出した (H2-m24区ほか)。規模は検出長14.1m、幅4.8m、深さ0.6m前後である。溝底の標高はおよそ13.8mである。この溝は、本来1つの鳥畑であったものを鳥畑21と鳥畑22に分割する際に掘削されたものと考えられる。この溝底では素掘り溝は検出されなかった。遺物は土師器や瓦器などが出土したほか、瓦質土器や青磁などの細片も出土しているが、図示できるものは少ない (第70図121～123)。また、古墳時代の須恵器杯身の破片が出土した (第70図124)。

溝状遺構 S D 508 (第61図) 鳥畑25と鳥畑23の間で検出した (G3-x4区ほか)。規模は検出長12.0m、幅8.8m、深さ0.6m前後である。溝底の標高はおよそ13.6mである。遺物は出土していない。近隣の鳥畑が造成された際に掘削されたものであろう。また、溝底でやや幅の広い溝 S D 416を検出した。S D 416は検出長16.8m、幅1.2m前後、深さ0.05～0.15mである。S D 416の用途は不明である。

溝状遺構 S D 509 (第62・64図) 鳥畑23と鳥畑24の間で検出した (H3-I4区ほか)。規模は検出長13.7m、幅8.6m、深さ0.5～0.6mである。溝底の標高はおよそ13.6mである。溝底では、素掘り溝を2条とやや幅の広い溝 S D 417を検出した。素掘り溝は検出長4.0～13.6m、幅0.3～0.7m、深さ0.05m前後である。S D 417は検出長21.1m、幅0.8～2.5m、深さ0.05m前後である。S D 509に伴う遺物は出土していないが、溝底で検出した素掘り溝 S D 419からは土師器皿などが出土した (第70図129)。S D 417からは瓦器椀などが出土した (第70図130)。

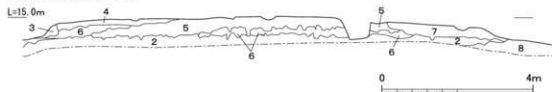
②下層遺構 (古代・第66図)

土坑 S K 390 (第67図) 溝状遺構 S D 508の底面で検出した (G3-x4・x5区)。平面形は方形を呈

【溝状遺構 SD510 断ち割り土層断面】

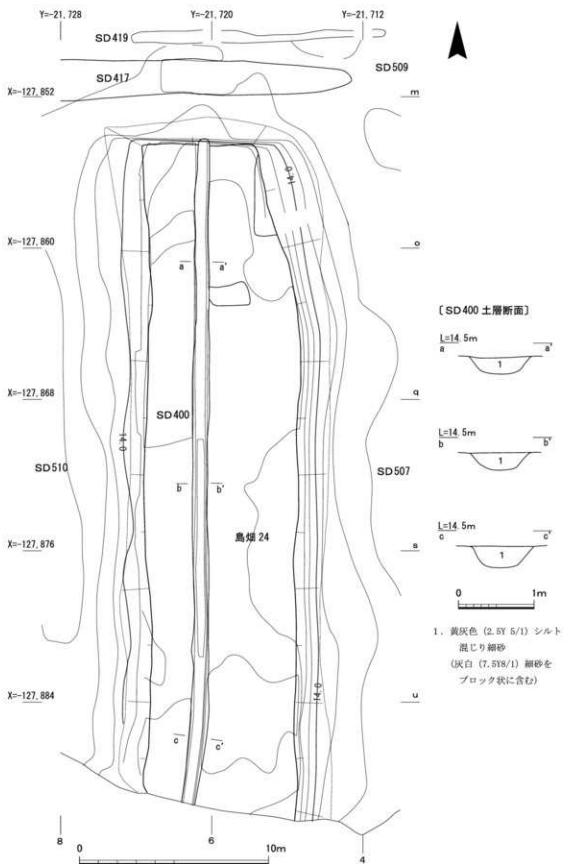


【鳥畑 23 断ち割り土層断面】



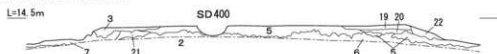
- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1. 黄灰色 (2.5Y 5/1) シルト (微砂を含む) | 5. 黄灰色 (2.5Y 5/1) 粗～細砂混じりシルト |
| 2. 黄灰色 (2.5Y 5/1) シルト | 6. 黄灰色 (2.5Y 5/1) シルト混じり細砂 |
| 3. 灰黄色 (2.5Y 6/2) 細砂混じりシルト (鳥畑盛土) | 7. 灰黄色 (2.5Y 7/2) 粗～細砂 |
| 4. 灰黄色 (2.5Y 6/2) シルト | 8. 灰黄色 (2.5Y 6/2) シルト |

第63図 C 2区鳥畑23・溝状遺構 S D 510断ち割り土層断面図 (1/100)



第64図 C 2区鳥畑24平面図 (1/200)

【鳥畑24 断ち割り土層断面】



【溝状遺構SD510 断ち割り土層断面】



- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト | 19. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂 |
| 2. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト<灰白色ブロック混じり> | <灰白色 (7.5Y8/1) 細砂混じり> |
| 3. 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂混じりシルト (鳥畑盛土) | 20. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂 |
| 4. 黄灰色 (2.5Y5/1) 粗～細砂混じりシルト | 21. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗～細砂 |
| 5. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 | 22. 黄灰色 (2.5Y6/2) シルト混じり細砂 |
| 6. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 | |
| 7. 灰黄色 (2.5Y7/2) 粗～細砂 | |

第65図 C 2区鳥畑24・溝状遺構SD510断ち割り土層断面図(1/100)

する。長軸1.9m、短軸1.5m、深さ0.65mである。埋土は上層が灰色シルト混じりの細砂、下層が灰色シルトである。遺物は土師器の細片が出土したのみで、詳細な時期は不明である。

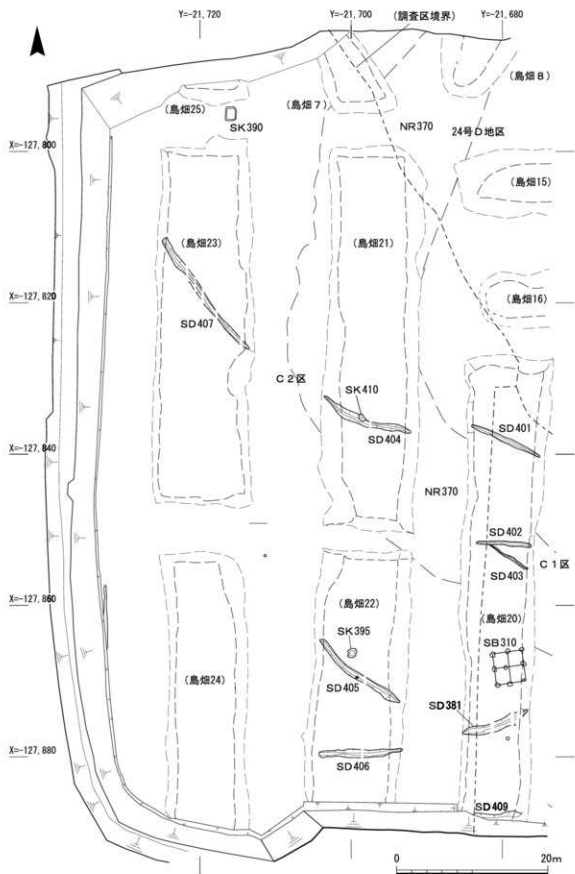
土坑SK395 (第67図) 鳥畑22の上面で検出した(H3-q1区)。平面形は楕円形を呈する。長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.3mである。埋土は黄灰色シルト混じり細砂である。埋土から土師器高杯の杯部や椀の破片などが出土した(第71図137・138)。出土遺物の時期は断定しにくい、飛鳥時代中心とする古代でも前半期と推定される。

③下層遺構(古墳時代後期・第66図)

土坑SK410 (第67図) 鳥畑21上面で検出した(H2-i25区)。平面形は隅丸方形を呈する。長辺1.0m、短辺0.7m、深さ1.1mである。埋土は、上から黄灰色シルト混じり細砂(1層)、褐灰色シルトで微妙に分層が可能(2～6層)、最下層が褐灰色シルト混じり細砂(7層)である。7層から須恵器杯や土師器甕が出土した(第71図139・140)。古墳時代後期に位置づけられる。

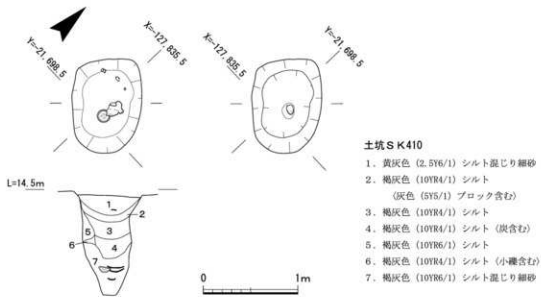
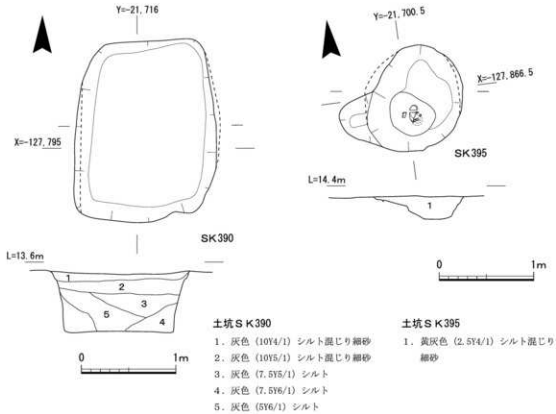
④下層遺構(弥生時代後期～古墳時代前期・第66図)

溝SD404 (第68図上) 鳥畑21の南部で検出した(H2-j24区ほか)。東南東から西北西に延びる。SD404の東側には溝SD401が、南東には溝SD403が位置する。全体に蛇行することになるが、本来は同一の溝である可能性がある。検出長128m、幅0.6～0.9m、深さ1.1m前後である。溝の方位は北に対して61～78°西に振る。溝の断面形は「U」字形を呈する。埋土はやや複雑で、最上層に灰色シルト混じり細砂、上層から最下層にかけては黄灰色シルト混じり細砂と黄灰色シルトの互層である。4層に灰黄色細砂混じりシルトが堆積する。遺物は土師器の細片が出土したのみで、詳細な時期は不明であるが、周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群と同時期と考えられる。

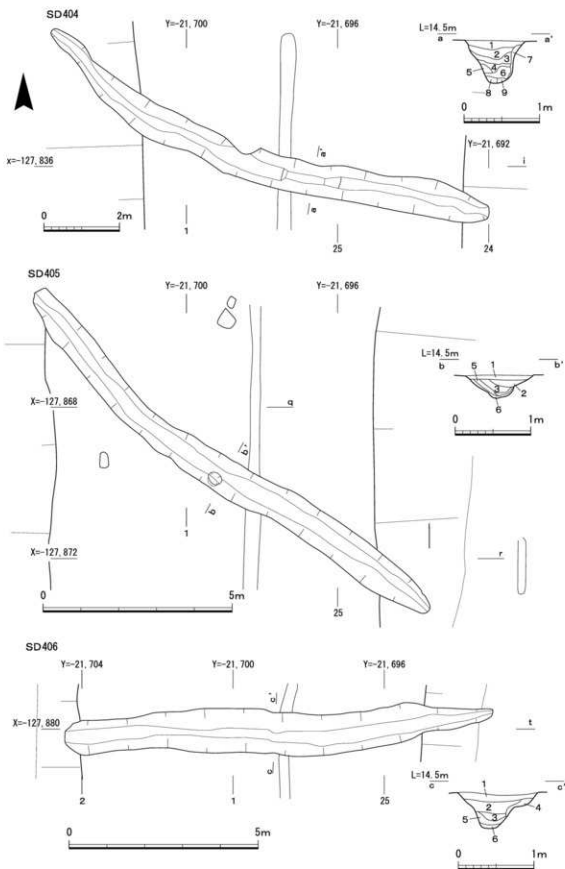


第66図 C 2区下層遺構配置図(1/500)

溝 S D405 (第68図中) 島畑22のほぼ中央部で検出した (H2-r25・s24区はか)。わずかに蛇行しながら南東から北西に延びる。検出長13.5m、幅0.7～0.95m、深さ0.55m前後である。溝の方位は北に対して42～57°西に振る。溝の断面形は緩い「V」字状を呈する。埋土は黄灰色シルト混じり細砂である。遺物は弥生土器と思われる破片が出土したが、詳細な時期は不明である。周辺で検出されている正方方位に対して斜行する溝群と同時期と考えられる。



第67図 C2区土坑 S K390・395・410実測図(1/40)



第68図 C 2区溝SD404・405・406平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

〔SD404 土層名〕

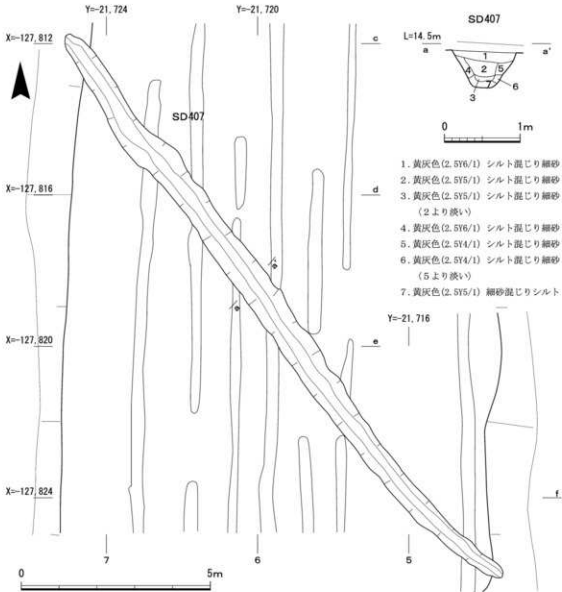
1. 灰色 (5Y6/1) シルト混じり細砂
2. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
(灰白色細砂含む)
3. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
(黄灰色細砂含む)
4. 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂混じりシルト
5. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト
6. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (炭含む)
7. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
8. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト
9. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂

〔SD405 土層名〕

1. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (土器出土)
2. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
3. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂
4. 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト
5. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
6. 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト混じり細砂

〔SD406 土層名〕

1. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (灰白色細砂含む)
2. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂
3. 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト混じり細砂 (2より濃い)
4. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混じり細砂
5. 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト混じり細砂
6. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト



第69図 C2区溝SD407平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

溝SD406(第67図下) 島畑22の南部で検出した(H2-t24区ほか)。おおむね東西方向に延びる。検出長11.4m、幅0.6~1.2m、深さ0.9m前後である。溝の断面形は緩い「U」字状を呈するが、段を有する部分があり、掘り直しが行われた可能性もある。埋土は、上層から中層にかけて黄灰色シルト混じり細砂が堆積し、最下層には暗灰黄色シルトが堆積する。遺物は出土しなかったが、周辺で検出されている正方位に対して斜行する溝群と同時期と考えられる。

溝SD407(第69図) 島畑23の中央部で検出した(H3-d6・d7区ほか)。南東から北西に延びる。SD407を南東にのぼすと、上述の溝SD404があることから、SD407とSD404は、本来同一の溝であった可能性が高い。検出長18.4m、幅0.5~0.9m、深さ0.95m前後である。溝の方位は北に対して37°西に振る。断面は逆台形状を呈する。埋土は黄灰色シルト混じり細砂である。遺物は弥生土器の底部の破片が出土した(第71図141)。141は弥生時代中期のものと考えられるが、遺構はもう少し新しく古墳時代初頭から前期前半にかけての可能性が高い。

⑤下層遺構(縄文時代以前・第66図)

C1区で検出した自然流路NR370の延長部分を溝状遺構の底面で検出した(第66図)。C1区での断ち割りによって遺物を含まないことから流路の平面的な検出にとどめた。C1区から延びてきたNR370は島畑21の下層で、その流路を大きく北から北東に振り、水主神社東遺跡第4次調査で検出されていた島畑14の下層を通して北東方向に抜けるようである。なお、島畑や溝状遺構の断ち割りにより、堆積状況の一部を確認した(第58図)。

(福山博章・筒井崇史)

(3)出土遺物(第70~73図)

C2区でも、C1区と同様に、島畑の検出時や素掘り溝、溝状遺構などから中世を主体とする土器が出土した。また、これらの遺構や堆積土からは弥生時代から平安時代にかけての遺物が含まれていた。さらに古代の遺構から若干の遺物が出土したものの、C1区では古墳時代初頭前後の溝から多数の土器が出土したが、C2区の当該期の溝から出土した土器は図化に耐えるものがほとんどなく、図示には至らなかった。このほかに石器が出土している。

①上層遺構出土遺物(第70図)

107は島畑7から出土した青磁碗である。外面に蓮弁の文様が陰刻される。108は島畑7上の土坑状遺構SK201で出土した須恵器鉢である。いわゆる東播系と推定される。

109~113は島畑21から出土したものである。109は瓦器碗である。内面に若干のミガキが確認できるが、口縁端部の内面には沈線がみられない。110は土師器皿である。111は須恵器鉢で、いわゆる東播系のものであろう。112は灰軸陶器と推定されるが、全体の形状等是不明である。底部の破片で、外面にケズリを施す。113は須恵器杯Bの底部である。

114~117は島畑22から出土した。114は平底で器高があまり高くなく土師器皿であるが、形態のひずみが大きい。また、胎土に3mm大の砂粒を含む。115は土師器杯ないし皿である。口縁端部に煤が付着することから灯明皿として使用されたものと考えられる。116は瓦器碗の底部のみの破片である。内面に暗文が認められる。高台もややしっかりした断面三角形を呈する。117

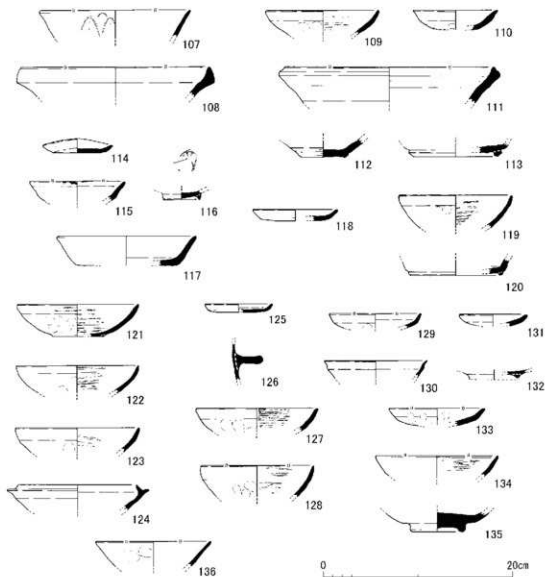
はやや厚手の須恵器杯Aである。

118は鳥畑23上の素掘り溝S D387で出土した土師器皿である。

119は鳥畑24上の溝S D400で出土した瓦器椀である。形態や特徴は、後述する溝状遺構S D506出土の121・122やS D507出土の127・128などに類似する。120は鳥畑24で出土した奈良時代の須恵器杯Bの底部の破片である。

121～124は溝状遺構S D506から出土した。121～123はほぼ同形同大の瓦器椀である。特徴は鳥畑21で出土した109に類似する。また、121の底部にはかなり退化した断面三角形の高台が貼付けられている。124は古墳時代後期後半の須恵器杯身である。口縁の立ち上がりが短くなっており、口径も大きいことから古墳時代後期中頃からやや後半のものとして推定される。

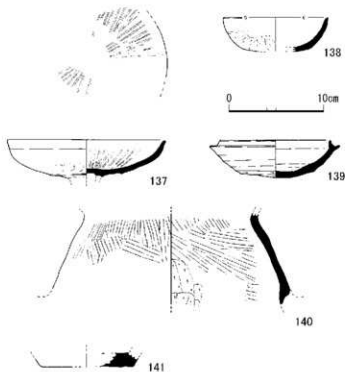
125～128は溝状遺構S D507で出土した。125は土師器皿で、鳥畑22出土の114に類似した特徴



第70図 C2区出土遺物実測図1(1/4)

を持つ。126は土師器羽釜の鈔の破片である。127・128は瓦器椀で、溝状遺構S D506出土瓦器椀(121~123)と同じ特徴を持つ。

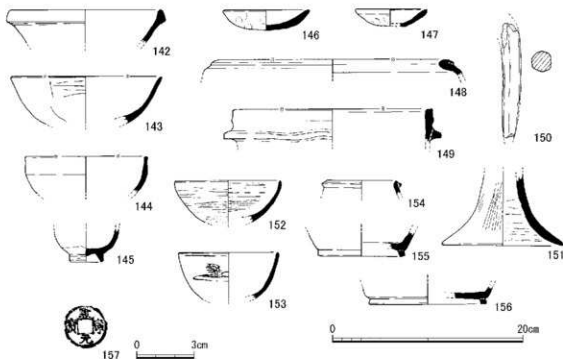
129は溝状遺構S D509の溝底で検出した溝S D419で出土した土師器皿である。130は溝状遺構



第71図 C2区出土遺物実測図2(1/4)

S D509の溝底で検出した溝S D417で出土した瓦器椀である。口縁部のヨコナデによって口縁端部が外反気味となる。

131~135は溝状遺構S D510の溝底で検出した溝S D415で出土した。131・133は土師器皿で、131は口径が6.4cmと、特に小型品である。ただ、胎土に2mm前後の砂粒を含む。132は瓦器椀の底部で、断面三角形の高台が付く。134は瓦器椀である。内面にミガキを施し、口縁端部内面に沈線を施す。135は青磁椀の底部である。136は溝状遺構S D510の溝底で検出したビットS P423で出土した土師



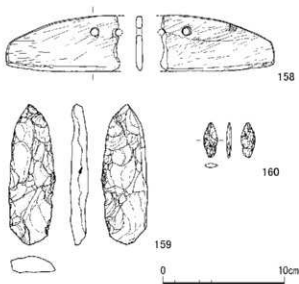
第72図 C2区出土遺物実測図3(142~156:1/4, 157:1/2)

器碗もしくは杯である。

②下層遺構出土遺物(第71図)

137・138は土坑 S K395で出土した。137は土師器高杯の杯部で、やや摩滅気味であるが、内面に放射状の暗文を施す。138はやや厚手の土師器碗である。

139・140は土坑 S K410で出土した。139は須恵器杯身である。口径が13cm程度で、底部に回転ヘラケズリを施す。また、胎土に8mm角の白色粒を含む。古墳時代後期末頃の土器である。140は土師器甕の体部片である。体部中位付近に把手の剥離した痕跡が認められることから、把手付きの甕である。胎土に0.53mmの石英・長石・黒色粒を多く含む。



第73図 C2区出土遺物実測図4(1/3)

141は溝 S D407で出土した弥生土器の底部の破片である。壺か甕のものと思われ、胎土に0.5～2mmの砂粒を多く含む。形態等から弥生時代中期のものであろうか。

③重機掘削等出土遺物(第72・73図)

142～157は重機掘削や排水溝掘削などで出土したものである。142は白磁碗である。口縁部が玉縁状を呈する。143は青磁碗である。144・145は天目茶碗である。145は削り出し高台である。146・147はやや小型の土師器皿である。148は土師器羽釜である。口縁端部のみの破片であるが、端部を折り返して丸く納める。149は瓦質土器の羽釜である。ほぼ直立する口縁の少し下に短い鈎が付く。150は瓦質土器三足羽釜の脚部である。151は瓦質土器であるが、器種は不明である。内面に粘土接合痕が残る。152は陶器碗で、底部を欠損する。153は肥前陶磁器(伊万里)である。154は須恵器の小型の壺の口縁の可能性のある破片であるが、詳細は不明である。口縁端部外面に断面三角形の突帯がめぐる。155・156は須恵器杯Bの底部である。156の胎土には3.5mm大の砂粒を含む。157は北宋の熙寧元寶(1068年初鑄)である。

158は島畑22の上面で出土した石包丁で、粘板岩製である。1/2ほどを欠損するが、穿孔は2か所確認できる。159は島畑22の盛土から出土した石槍の未成品と考えられる。サヌカイト製である。160は島畑22の上面で出土した石鏃である。サヌカイト製である。

(筒井崇史)

〔2〕下水主遺跡第1・4次調査

1. はじめに

先に述べたように下水主遺跡では調査地区としてA地区から地区名を与えていたが、平成25年度に京都府教育委員会が遺跡の北方で試掘調査を実施した結果、遺跡がさらに北へ広がることが確認された。また、遺跡の範囲外と考えられていた遺跡の北側で施工された橋脚建設工事に伴い、京都府教育委員会が立会調査を行ったところ、鳥畑や弥生土器などが検出されたため、遺跡はさらに北側へ広がると考えられる。現在、遺跡の範囲は、この立会調査に伴う調査成果を反映したものとされており、南北は1200mに達する(東西の長さは従来のまま)。平成27年度現在、新名神高速道路整備事業に伴い下水主遺跡の調査区はO地区まで数えるに至った。本報告では平成24・25年度に調査を実施したD・E・G地区の各調査区について報告するものである(第74図)。

下水主遺跡では、新名神高速道路整備事業のほか、一般国道24号に関連する各種改良事業による発掘調査の結果、今後、報告予定の調査地点も含めて、中世に形成された鳥畑を合わせて90基検出した。今回はこのうち、14基について報告するものである。また、弥生時代後期から古代にかけての遺構も多数検出しているが、今回の報告では、これらの時期の遺構は少ない。これまでの調査で大きな成果を得ることができた古墳時代前期の大規模な溝を確認した地点(第74図B地区)や、縄文時代晩期の土器が多数出土した地点については、今後報告する予定である。

(筒井崇史)

2. D地区の調査

D地区は、京奈和自動車道の西側に位置し、地区内には盛土造成地2か所(D2・D3区)と橋脚建設予定地の4か所(D1・D4～D6区)の調査区を設定して調査を実施した。平成24年度はD1区の調査を、平成25年度はD2・D4～D6区の調査を、平成26年度はD3区の調査を実施した。本報告では、平成24・25年度に調査を実施した5か所の調査区について報告する(第75図)。

1) D1区の調査

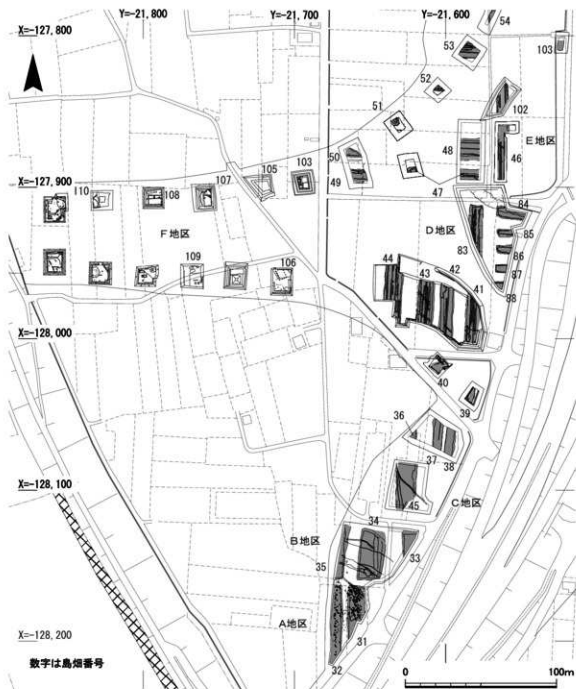
(1) 調査区の概要と基本的な層序

橋脚建設予定地を対象として、南北25m、東西18mの矩形の調査区を設定した(第76図上)。現地表面は標高15.9m前後である。調査の結果、鳥畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。鳥畑に伴う素掘り溝は上・下2面に確認した。なお、平成25年度にはこれと一部重複してD2区の調査を行った。調査面積は450㎡である。出土した遺物は整理箱にして1箱である。

調査に先立って、耕作土を除去して調査を開始した。基本的な層序(第76図下・第77図)は、最上層のオリーブ黒色細砂(1～3層)の堆積が調査区の南側ほど厚く、北ではやや薄い。この下層に床土と思われる暗灰黄色微砂(11層)が広がるが、溝状遺構の上部には認められない。その下層の堆積状況は鳥畑部分と溝状遺構部分では若干異なり、前者では、黄褐色粘質土(14層)が厚く堆

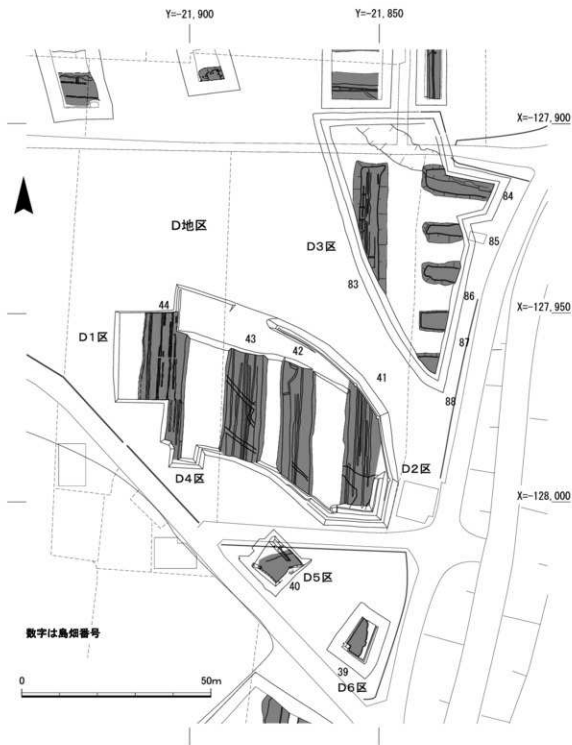
積する。東壁では最大1.1mも堆積していることが確認できる。14層は西へ行くにしたがって薄くなり、暗緑灰色微砂(13層)の堆積となる。これらの下層に鳥畑に伴うオリブ褐色粘質土(15層)が鳥畑の上面に広がる。その下層が鳥畑のベースである灰オリブ色微砂ないし粘質土(20・25層)となる。一方、溝状遺構の部分ではオリブ黒色微砂や灰オリブ色細砂、暗灰黄色微砂などが堆積する(5・8・9層)。この溝状遺構のベースも鳥畑のベースと同じ20層である。調査は20・25層状態で実施した。

(2) 検出遺構(第76図)

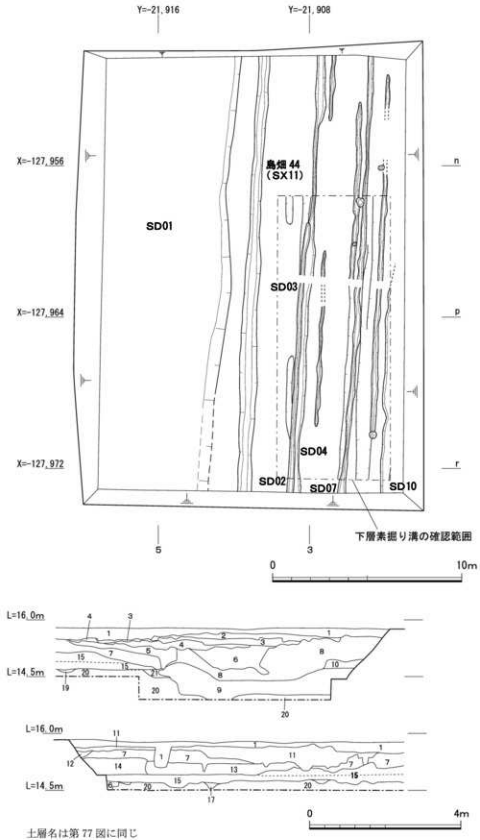


第74図 下水主遺跡第1・4・6・9次調査遺構配置図(1/2500)

鳥畑44 (S X11) 調査区東半部 (15-n2・o2区ほか)で検出した南北方向の鳥畑である。規模は検出長23.0m、基部検出幅9.0~12.1m、上面検出幅8.7~11.2m、高さ0.7m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.7mである。南北両端および東側の裾は確認できなかった。しかし、平成25年度に調査を実施したD2区では、鳥畑44の東半部とその裾を検出した。鳥畑上面では素掘り溝を7条分検出した(S D02~09)。素掘り溝は検出長9.5~23.0m、幅0.2~1.0m、深さ0.3~0.4mである。



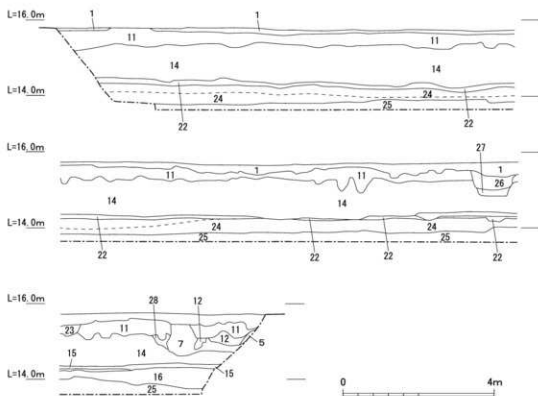
第75図 下水主遺跡D地区遺構配置図(1/1,000)



第76図 D1区遺構配置図(1/200)・南壁土層断面図(1/100)

埋土は灰オリーブ色微砂やにぶい黄橙色微砂(16~19層)である。西端で浅い溝状の落ち込みSD10を確認した。調査区の範囲が限られていたため詳細は不明である。遺物は、島畑上面の精査時や耕作溝などで、土師器や須恵器、瓦器、陶器などが少量出土した。また、これらを約15cm掘り下げると、下層でも素掘り溝を6条検出した。検出長15.0m、幅0.3~1.0m、深さ0.15m前後である。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や須恵器の細片が少量出土した。

溝状遺構SD01 調査区西部半(15-n4・o4区ほか)で検出した。検出長22.8m、検出幅5.7~7.0m、深さ0.7m前後である。溝底の標高は約14.1mである。なお、第75図下段の土層図をみると耕作土の直下までSD01に伴うと思われるの堆積(5・8層など)を確認することができる。これは溝状遺構の再掘削(もしくは浅濙)と島畑の拡大(もしくは修復)が近年まで行われていたことを示



- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 オリーブ黒色(5Y3/1)細砂 | 15 オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質土<砂混じる> |
| 2 オリーブ黒色(5Y3/2)細砂 | 16 灰オリーブ色(7.5Y4/2)微砂<SD10埋土> |
| 3 オリーブ黒色(10Y3/1)微砂 | 17 灰オリーブ色(5Y 4/2)微砂<SD07埋土> |
| 4 オリーブ灰色(10Y4/2)微砂 | 18 にぶい黄橙色(10YR5/4)微砂<SD04埋土> |
| 5 オリーブ黒色(7.5Y3/2)微砂 | 19 にぶい黄橙色(10YR5/3)微砂<SD02埋土> |
| 6 黄褐色(10YR5/8)シルト | 20 灰オリーブ色(5Y4/2)微砂<遺構面ベース> |
| 7 灰オリーブ色(5Y4/2)粘質土 | 21 灰オリーブ色(5Y4/2)粘質土 |
| 8 灰オリーブ色(7.5Y4/2)細砂<シルト混じる> | 22 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土 |
| 9 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土<砂混じる> | 23 灰オリーブ色(7.5Y4/2)微砂 |
| 10 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)細砂 | 24 暗緑灰色(5G4/1)粘質土 |
| 11 暗灰黄色(2.5Y5/2)微砂 | 25 灰オリーブ色(5Y4/2)粘質土<遺構面ベース> |
| 12 オリーブ褐色(2.5Y4/6)シルト | 26 オリーブ黒色(7.5Y3/1)細砂 |
| 13 暗緑灰色(7.5GY4/1)微砂 | 27 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土<砂混じる> |
| 14 黄褐色(10YR5/6)粘質土 | |

第77図 D1区東壁土層断面図(1/100)

していると考えられる。遺物は土師器の細片が少量出土した程度である。

(関広尚世・筒井崇史)

(3) 出土遺物(第86図)

D1区では、鳥畑の検出時や素掘り溝などから土師器や須恵器、瓦器が少量出土した。

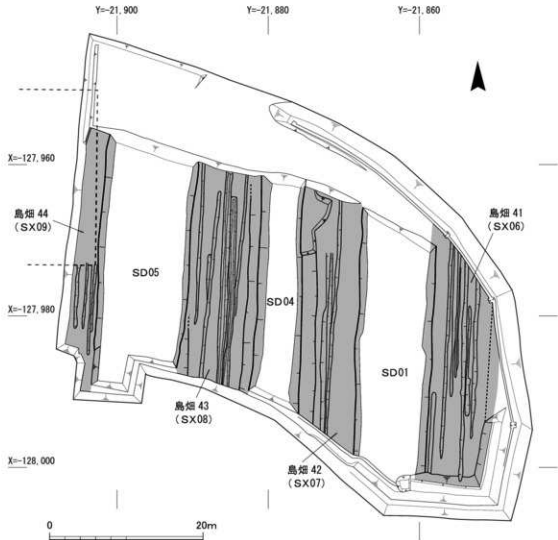
161は瓦器碗の底部である内面に螺旋状の暗文がみられる。高台はややしっかりした断面三角形を呈する。162は土師器皿である。163は須恵器鉢で、片口となっている。164は土師器杯である。摩滅が著しく調整は不明瞭であるが奈良時代のものであろうか。165は須恵器杯B蓋である。口縁部に若干の屈曲がみられる。166は須恵器杯Bの底部の破片である。奈良時代のものであろう。

(筒井崇史)

2) D2区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

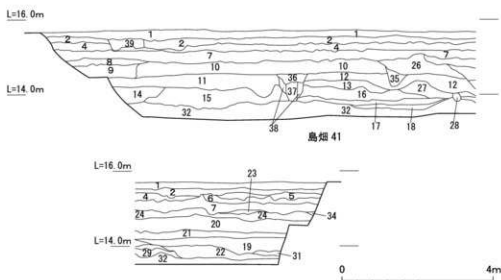
盛土造成範囲を対象として、全長約68～85m、幅約36～42mの弧状を呈する調査区を設定して



第78図 D2・D4区遺構配置図(1/500)

調査を実施した(第78図)。調査区の西端はD1区の東端と重複する。現地表面は標高15.8m前後である。調査の結果、上層遺構として島畑4基(そのうち1基はD1区で検出したものと同一)とそれに伴う溝状遺構3条を検出した。また、中層遺構として古代の溝5条を検出した。ただし、島畑の部分に限っての検出であり、溝状遺構に相当する部分ではすでに削平されていて検出できなかった。さらに下層遺構として、調査地の東端部で、弥生時代の溝を検出した。このほか、下層遺構とほぼ同一の地山直上で縄文時代晩期の土器を伴う焼土や炭化物の集中箇所を検出した。なお、D4区とした橋脚建設予定地は、D2区に近接するため、両調査区を1つの調査区として調査を進めた。両調査区を合わせた最終的な調査面積は2617㎡である。出土した遺物は調査面積に対して非常に少なく、整理箱にしてわずか3箱である。

D2区では、調査開始前に現耕作土(暗オリーブ褐色粗砂:3層)を除去したのちに調査区の掘削を行ったため、断面図に耕作土は部分的にしか表示されていない。基本的な層序(第79・80図)は、耕作土の下には黒褐色や暗褐色の粗砂層が(1・2層)が床土として存在する。その下層には灰色系のシルト(4~6・78・81層)をはじめ、オリーブ黒色粘土層(7層)、オリーブ褐色微砂(67層)、灰色細砂(54層)などがあり、これらを除去すると新しい時期の島畑を確認することができる。これらの島畑の盛土であるオリーブ黒色シルト(10層)や暗緑灰色微砂(26層)などを除去すると、最初期の島畑のベースである灰黄色系の微砂(11・12層:島畑41)、オリーブ褐色微砂(65層:島畑43)暗オリーブ灰色粘質土(83層:島畑42)などを検出した。島畑の調査はこれらの上面で実施した。これらを20cmほど掘り下げて、灰オリーブ色微砂(15・16層)、オリーブ灰色微砂(72層)、暗灰黄色微砂(66層)などの上面で中層遺構を検出した。さらに30cmほど掘り下げて暗灰黄色粘質土(32・33層)の上面で下層遺構を検出した。上記島畑の間では溝状遺構をそれぞれ検出しているが、暗オリーブ灰色微砂(68・69層)、灰オリーブ色や暗褐色の粘質土(19・20層)、灰色微砂(46層)や明褐色シルト(47層)などが堆積していた。これら溝状遺構によって、中層遺構面は大きく



第79図 D2区南壁土層断面図1(1/100)

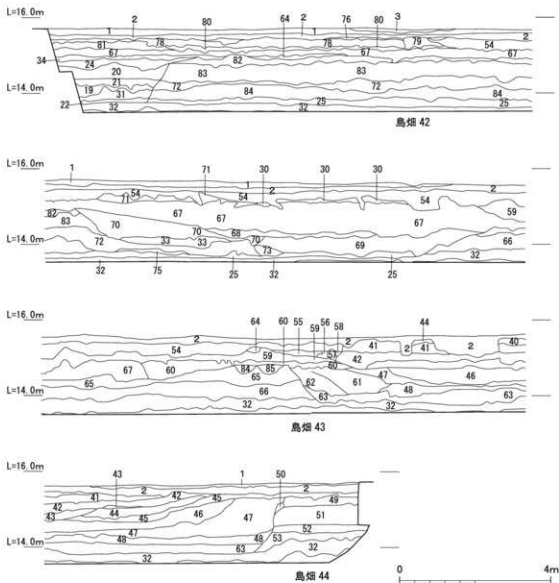
削平されていたため、鳥畑として遺存していた部分でのみ検出することができた。なお、先の32・33層は遺構の基盤層である。

(2) 検出遺構

① 上層遺構(第78図)

鳥畑41 (S X 06) (第81図) 調査区の東端(I4-r14・u14区ほか)で検出した南北方向の鳥畑である。規模は検出長30.6m、基部検出幅8.8～9.5m、上面幅6.7～7.3m、高さ0.7m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.5mである。鳥畑の南北両端は確認できなかった。鳥畑上面で素掘り溝を8条検出した(S D 02～06)。素掘り溝は検出長10.8～28.8m、幅0.1～0.3m、深さ0.1～0.4mである。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。

鳥畑42 (S X 07) (第81図) 調査区の東半部(I4-r18・s18区ほか)で検出した南北方向の鳥畑である。規模は検出長35.1m、基部幅9.5m、上面幅7.7m、高さ0.7m前後である。鳥畑上面の標高

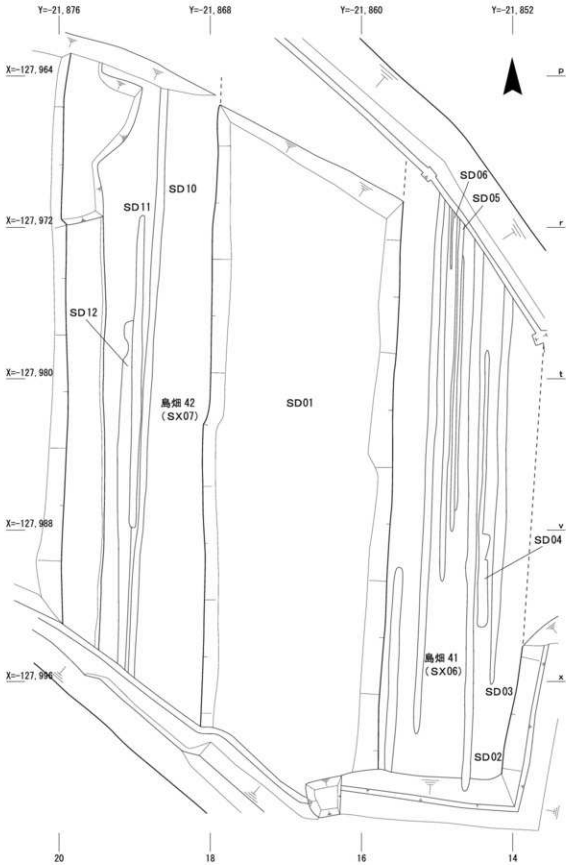


第80図 D2区南壁土層断面図2 (1/100)

D2区南壁土層断面土層名

1. 黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂 (床土)
2. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂 (床土)
3. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3粗砂) (表土)
4. 灰色 (10Y4/1) シルト (橙色シルト混じる)
5. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト
6. 灰色 (5Y4/1) シルト
7. オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土
8. オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 微砂
9. 灰色 (7.5Y4/1) 微砂
10. オリーブ黒色 (7.5Y3/2) シルト (橙色シルト混じる)
11. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 微砂
(灰白色粘質ブロック少量混じる)
12. 灰黄褐色 (10YR4/2) 微砂
13. 灰色 (5Y4/1) 粘質土
14. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 微砂
15. 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 微砂 (地山漸移層)
16. 灰オリーブ色 (5Y5/2) 微砂
17. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 微砂
18. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 微砂
19. 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粘質土 (地山)
20. 暗褐色 (10YR 3/4) 粘質土 (地山)
21. オリーブ黒色 (2.5GY5/1) 粘質土 (地山)
22. 灰色 (10Y5/1) 粘質土 (白色粘質小ブロック少量混じる)
23. オリーブ黒色 (5Y3/2) 微砂
24. オリーブ黒色 (10Y3/1) 微砂
25. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘質土 (砂混じる)
26. 暗灰黄色 (7.5GY4/1) 微砂
27. 灰色 (5Y4/1) 粘質土
28. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 微砂
29. 暗緑灰色 (10GY3/1) シルト
30. 褐色 (10YR4/4) 細砂 (地山漸移層)
31. 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 微砂 (炭化物少量混じる)
32. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土
33. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土 (地山)
34. オリーブ黒色 (5Y3/2) 微砂
35. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 微砂
36. 緑灰色 (10GY5/1) 粘質土
37. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 微砂 (褐色小ブロック混じる)
38. オリーブ黒色 (10Y3/2) 粘質土
(白色粘土ブロック混じる)
39. 暗緑灰色 (5G4/1) シルト
40. 黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂
41. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 微砂
42. 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 微砂
43. オリーブ灰色 (5GY5/1) 微砂
44. 灰色 (10Y4/1) 微砂 (炭化物少量含む)
45. オリーブ色 (10Y4/2) 微砂 (白色シルト少量含む)
46. 灰色 (7.5Y5/1) 微砂
47. 明褐色 (7.5YR5/8) シルト
48. 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘質土
49. 黄褐色 (2.5Y5/3) 微砂
50. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質土
51. 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 粘質土 (地山漸移層)
52. 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土 (地山)
53. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土 (地山)
54. 灰色 (7.5Y4/1) 細砂
55. 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 微砂
56. 灰色 (10Y4/1) 微砂 (炭化物少量含む)
57. オリーブ灰色 (10Y4/2) 微砂 (白色シルト少量含む)
58. 灰色 (7.5Y5/1) 微砂
59. オリーブ灰色 (5GY5/1) 微砂
60. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 微砂
61. 暗緑灰色 (5G4/1) 粘質土 (やや砂混じる)
62. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 微砂
63. 灰色 (7.5Y4/1) 微砂
64. 暗緑灰色 (5G4/1) 粘質土 (やや砂混じる)
65. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 微砂
66. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 微砂
67. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 微砂
68. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 微砂
69. 暗オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 微砂
70. 灰オリーブ色 (5Y4/2) シルト (白色シルト少量混じる)
71. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 微砂
72. オリーブ灰色 (10Y4/2) 微砂
73. 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 微砂
74. 灰色 (5Y4/1) 粘質土
75. 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 微砂 (炭化物少量混じる)
76. 黄褐色 (10YR5/8) シルト
77. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘質土 (砂混じる、S D01 埋土)
78. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト
79. 浅黄色 (2.5Y7/4) 細砂
80. オリーブ黄色 (5Y6/3) シルト
81. 灰色 (5Y4/1) シルト
82. オリーブ黒色 (10Y3/1) 微砂
83. 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘質土 (砂混じる、S D01 埋土)
84. 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 微砂 (炭化物少量混じる)
85. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土 (地山)
86. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 微砂 (炭少量混じる)
87. 灰オリーブ色 (5Y5/2) 微砂
88. オリーブ灰色 (10Y4/2) 微砂
89. 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 微砂
90. 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土 (灰黄褐色微砂混じる)

はおよそ14.5mである。鳥畑の南北両端は確認できなかった。また、鳥畑上部の西側縁1.8~2.0mほどは、鳥畑上面よりも0.05~0.1mほど下がっていた。鳥畑の北西隅は、長軸9.0m、短軸4.0m程度の範囲が大きく攪乱されていた。鳥畑上面では茶掘り溝を3条検出した(S D10~12)。茶掘り溝は検出長18.4~31.0m、幅0.3m前後、深さ0.1m前後である。遺物は検出時や茶掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。また、弥生土器の細片が精査時に出土している。



第81図 D2区島畑41・42、溝状遺構S D01平面図(1/200)

島畑43 (S X 08) (第82図) 調査区の西半部で検出した(14-p21・q21区ほか)南北方向の島畑である。規模は検出長30.2m、基部幅11.0~11.5m、上面幅8.6~10.1m、高さ0.6~0.7mである。島畑上面の標高はおよそ14.5mである。島畑の南北両端は確認できなかった。また、島畑上部の東側縁1.5m前後は、島畑上面よりも0.05~0.1mほど下がっていた。島畑上面では素掘り溝を6条



第82図 D 2区島畑43・44、溝状遺構 S D05平面図(1/200)

検出した。素掘り溝は検出長6.0～28.3m、幅0.2～0.4m、深さ0.1m前後である。検出した素掘り溝のうち、1条は短い範囲でのみ確認をした。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。

島畑44 (S X09) (第82図) 調査区の西端 (I5-o1・p1区ほか) で検出した南北方向の島畑で、D1区で検出した島畑の東半部に当たる。規模は検出長34.9m、基部検出幅3.8～4.7m、上面検出幅2.8～3.8m、高さ0.6m前後である。D1区の調査成果と合わせると、基部幅12.7～13.3m、上面幅11.6m前後である。島畑上面の標高はおよそ14.5mである。島畑の南北両端は確認できなかった。島畑上面では素掘り溝を4条検出した。素掘り溝は検出長8.6～12.2m、幅0.1～0.3m、深さ0.1mである。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。

溝状遺構 S D01 (第81図) 調査区の東半部、島畑41と島畑42の間で検出した (I4-s16・t16区ほか)。規模は検出長36.3m、幅9.4～10.1m、深さ0.7m前後である。溝底の標高はおよそ13.8mである。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。

溝状遺構 S D04 (第81・82図) 調査区の中央、島畑42と島畑43の間で検出した (I4-q20・r20区ほか)。規模は検出長31.1m、幅5.4～6.2m、深さ0.8m前後である。溝底の標高はおよそ13.8mである。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。

溝状遺構 S D05 (第82図) 調査区の西半部、島畑43と島畑44の間で検出した (I4-p24・q24区ほか)。規模は検出長33.0m、幅11.3～11.9m、深さ1.1m前後である。溝底の標高はおよそ13.9mである。遺物は検出時や素掘り溝で土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。

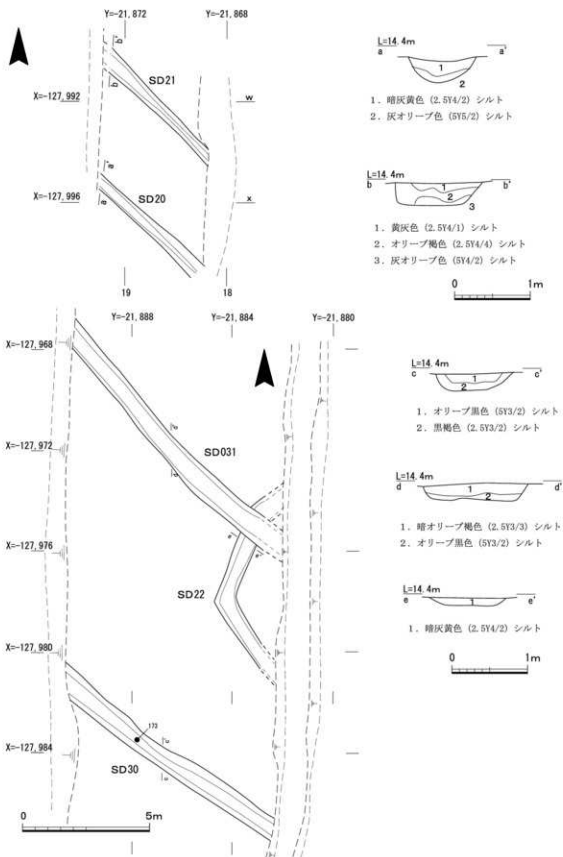
②中層遺構 (第83図)

溝 S D20 島畑42の上部で検出した (I4-y18区ほか)。検出長5.5m、幅0.5m前後、深さ0.25m前後である。溝の方位は北に対して48°西に振る。溝の断面形は扁平な「U」字状を呈する。埋土は上層が暗灰黄色シルト、下層が灰オリブ色シルトである。遺物はほとんど認められないが、わずかに土師器の細片や縄文土器と思われる破片が出土した。

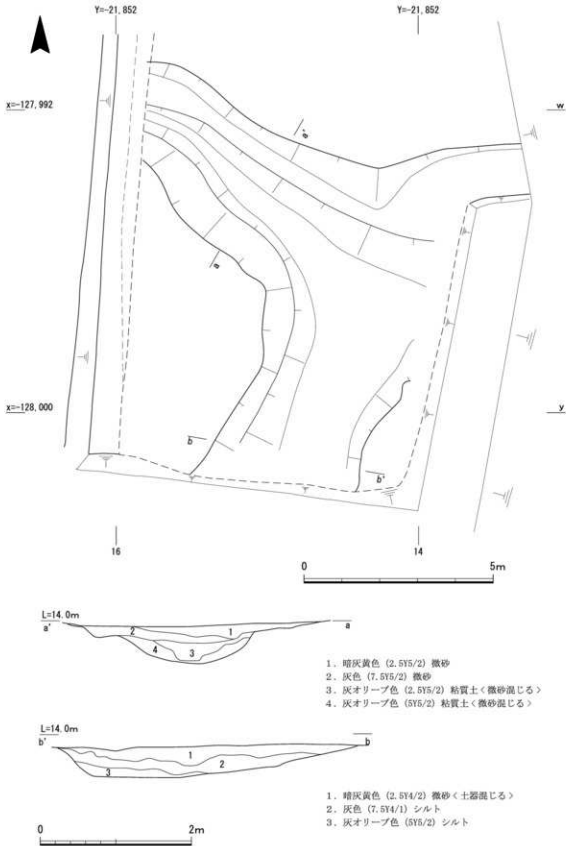
溝 S D30 島畑43の上部で検出した (I4-v22・u21区ほか)。検出長10.5m、幅0.9m、深さ0.15～0.3mである。溝の方位は北に対して52～58°西に振る。溝の断面形は台形状を呈する。埋土は上層がオリブ黒色シルト、下層が黒褐色シルトである。埋土から7世紀末ごろのものと考えられる須恵器平瓶が1点出土したのみである (第86図173)。

溝 S D21 島畑42の上部で検出した (I4-x18区ほか)。検出長6.2m、幅0.5～0.7m、深さ0.25m前後である。溝の方位は北に対して45°西に振る。溝の断面形はやや扁平な箱形を呈する。埋土は上層が暗オリブ褐色シルト、下層がオリブ黒色シルトである。遺物はほとんど認められず、土師器の細片が少量出土したのみである。

溝 S D22 島畑43の上部で検出した (I4-t22区ほか)。やや鈍角に屈曲する溝である。検出長7.7m、幅0.6～0.8m、深さ0.05～0.1mである。溝の方位は、北西から南東方向部分で北に対して33°西に振り、北東から南西部分では、北に対して24～34°東に振る。溝の断面形は扁平な「U」字状を呈する。埋土は暗灰黄色シルトである。遺物は土師器の細片が少量出土した。方位から島畑



第83図 D2区溝SD20～22・30・31平面図(1/150)・土層断面図(1/50)



第84図 D2区溝SD23平面図(1/100)・土層断面図(1/50)

42上のSD21の延長と考えられる。

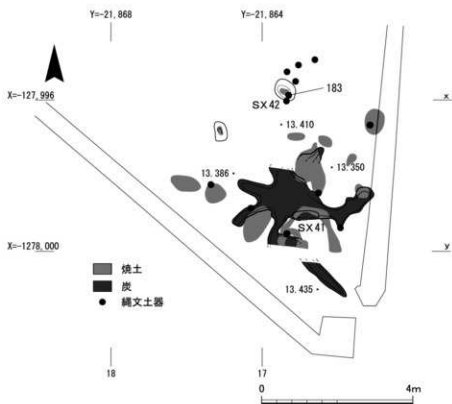
溝SD31 鳥畑43の上部で検出した(I4-s22・r21区ほか)。検出長11.0m、幅0.8～1.0m、深さ0.2～0.4mである。溝の方位は北に対して39～51°西に振る。溝の断面形は台形状を呈する。埋土は上層が暗オリーブ褐色シルト、下層がオリーブ黒色シルトである。遺物はほとんど認められず、土師器の細片が少量出土したのみである。

③下層遺構

溝SD23(第84図) 調査区の南東隅で検出した(I4-x14・y14区ほか)。平面形は「T」字状を呈する。検出長は、南から北東にかけてが11.5m、北西から南東にかけてが9.0mである。幅2.7～4.3m、深さ0.4～0.55mである。ただし、検出した範囲ではどちらに向かって下がっていくのか明らかにできなかった。溝の断面形は扁平な「U」字状ないし緩い台形状を呈する。埋土は、上層が暗灰黄色微砂、中層が灰色微砂ないしシルト、下層が灰オリーブ色粘質土ないしシルトである。なお、下層からは縄文土器の破片が出土した(第86図181・182など)。

炭集中部SX41・焼土SX42(第85図) 溝SD23から西5mほどの地点で、焼土と炭の広がりを南北5m、東西6mの範囲にわたって確認した(I4-ly6・y17区ほか)。直径2mほどの範囲に焼土と炭がさらに集中する箇所もあるが、検出状況から具体的な性格は明らかにできなかった。屋外炉などの痕跡かもしれない。なお、周辺からは縄文時代晩期の破片が多数出土した。

(関広高世・筒井崇史)



第85図 D2区炭集中部SX41・焼土SX42平面図(1/100)

(3) 出土遺物(第86図)

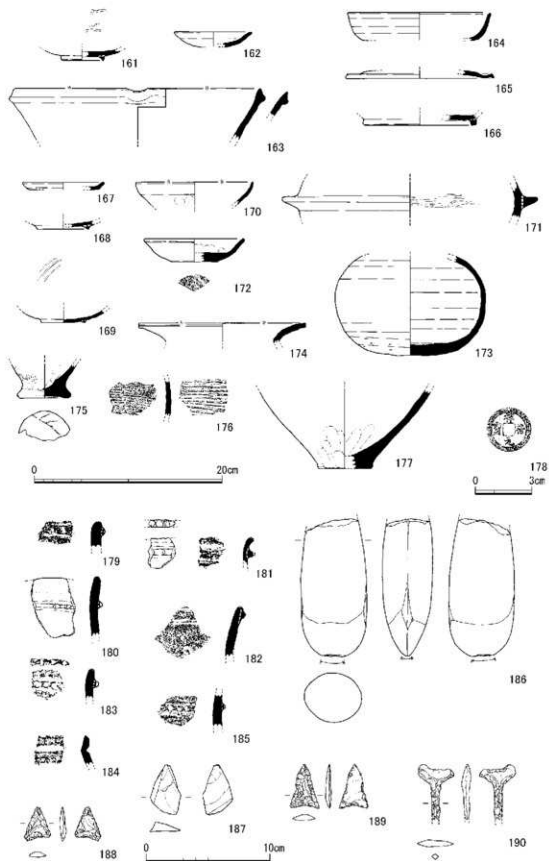
D2区では、上層遺構である鳥畑の検出時や素掘り溝、溝状遺構などで少量の土師器や瓦器などが出土するとともに、弥生土器の破片等も出土した。中層遺構である溝からは須恵器平瓶の体部を除き、須恵器や土師器がほとんど細片の状態出土した。さらに、下層遺構では、縄文土器の破片や磨製石斧などが出土した。全体に調査面積の割に遺物が少ない(第86図)。

167・168は鳥畑43で出土した。167は土師器皿で、口径に対して器高が低い皿である。168は瓦器碗の底部で、断面三角形の高台が付く。169は素掘り溝SD13で出土した。内面に暗文が認められる。168同様、断面三角形の高台が付く。170はD4区に延びる溝状遺構SD05で出土した瓦器碗の小破片である。内面にミガキや沈線が認められない。171は溝状遺構SD01の調査区南壁付近で出土した瓦質土器羽釜の体部である。体部最大径付近に長さ1.6cm程度の罫が付く。178は調査区南壁の精査中に出土した北宋の祥符元寶(1008年初鑄)である。

172は調査区の北壁の精査中に出土した灰軸陶器皿である。底部外面に糸切り痕が残る。また、底部内面が研磨されており、転用硯の可能性もある。173は中層遺構の溝SD30で出土した須恵器平瓶の体部である。やや大型の破片で、底部内面に灰が付着する。底部外面はほぼ全面に回転ヘラケズリを施す。胎土には2mm以下の白色砂粒をやや多く含む。

174～176は上層遺構の調査時に出土した弥生土器である。174は壺か甕の口縁で、端部が5mmほどの面をなし、そこに擬凹線が1条めぐる。胎土には2～3mmの石英やチャート、長石などの砂粒を含む。175は鉢の底部と思われ、外面に葉脈痕が認められる。胎土には2～3mmの石英やチャート、長石などの砂粒を含む。176は甕の体部片と思われるもので、外面にタタキ痕跡が認められる。177は下層遺構面の検出作業中に出土した弥生土器壺の体部下半から底部にかけての破片である。内外面ともナデで仕上げている。胎土には0.5～1mmの石英やチャート、長石などの砂粒を多く含む。(筒井崇史)

179～185は下層遺構面で出土した縄文時代晩期の縄文土器である。そのうち183・184・185は南東隅の炭集中部周辺からの出土である。179は深鉢の口縁部で、口縁部直下に凸帯を持つ。凸帯形状は上面を強くナデ調整されたため下向きで、凸帯上に細いD字の刻み目を持つ。長原式に位置づけられる。180は深鉢の口縁部から頭部の破片で、頭部に凸帯を持つ。凸帯形状は上下にナデ調整がなされた形で横向きになっており、凸帯上に浅いD字の刻み目を持つ。器形、口縁部調整、凸帯の貼り付け位置から長原式に後続する水走式のものである可能性が考えられる。181は深鉢の口縁部で、口縁部直下に凸帯を持つ。口唇部を面取りした後、浅く細い刻み目を施している。凸帯の形状は横向きで、凸帯上には浅いD字の刻み目を施している。滋賀里Ⅳ式から船橋式に位置づけられる。182は深鉢の口縁部と考えられ、口縁部直下に凸帯を持つ。凸帯の形状は横向きとなっている。長原式に位置づけられる。183は深鉢の口縁部で、口縁部直下に凸帯を持つ。口唇部面取り後に細いD字の刻み目を施している。また、凸帯の形状は横向きで、凸帯上にD字の刻み目を持つ。滋賀里Ⅳ式に位置づけられる。184は浅鉢の口縁部片で、口縁部に沈線を一尾持つ。185は深鉢の口縁部片であると考えられる。口縁部直下に凸帯を持ち、凸帯形状



第86図 D地区出土遺物実測図1 (161~177: 1/4, 179~190: 1/3, 178: 1/2)

は横向きである。凸帯上にD字の刻み目を持つ。滋賀里IV式から船橋式に位置づけられる。

(深澤麻衣)

186～190は石器である。186は下層遺構面直上で出土した磨製石斧である。先端に使用痕と思われる欠損か所が認められる。187はサヌカイト製の剥片である。188は下層遺構の炭集中部S X 41の埋土から出土したサヌカイト製の石鏃である。189は調査区の西壁精査中に出土したサヌカイト製の石鏃である。190は炭集中部S X 41の断ち割りて出土したサヌカイト製の石鏃である。

(筒井崇史)

3) D5区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

橋脚の建設が予定された地点で、D2区の南側に位置する。一辺10.5mないし13.8mの矩形の調査区である(第87図上)。ただし、調査区の半分が現用の用水路および道路と重複するため、まず、調査可能な南半分について調査を実施した。その結果、島畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。検出した島畑の状況をさらに確認するため、水路および道路が撤去されると、北半分の調査を実施した。現地表面の標高はおよそ16.1mである。なお、下層遺構は検出しなかった。調査面積は北部・南部両調査区を合わせて150㎡である。出土した遺物はD6区と合わせても整理箱にして1箱に満たない程度である。

基本的な層序(第87図下)は、現在の表土である黄褐色系の細砂(1・2層)の下に、過去の耕作土と思われる灰色粗砂混じり細砂(3層)や灰色系の細砂(5～7層)などがおおむね水平に堆積する。その下層には新しい時期の島畑の盛土と思われる灰オリーブ色細砂(10層)や緑灰色シルト(11層)などがある。10・11層の島畑に対応する溝状遺構の堆積層として、灰色シルト混じり細砂層(9層)がある。最も古い島畑はオリーブ灰色シルト(13層)で、調査はこの上面で実施し、平面的に確認できなかったものの、断面観察によると、凹み状の素掘り溝が確認できる。これよりも下層は緑灰色系のシルトであり、断ち割り調査では遺物を含まなかった。

(2) 検出遺構(第87図)

島畑40 調査区の南半部で検出した(J4-e19・f19区)。東西方向の島畑と推定されるが、調査範囲が狭い上、現在の地割りからも島畑の方向を推定するのは困難である。検出した長さは7.5mである。また、高さは0.6m前後と推定される。島畑上面の標高は14.6～14.7mである。島畑上面で素掘り溝は検出しなかった。また、遺物も出土しなかった。

溝状遺構S D01 調査区の北半部、島畑40の北側で検出した。東西方向の溝状遺構と推定されるが、島畑40と同様、詳細は不明である。規模は検出長9.1m、検出幅5.2m、深さ0.6m前後である。溝底の標高は14.0～14.2mである。遺物は土師器や瓦器、須恵器の細片が少量出土した。

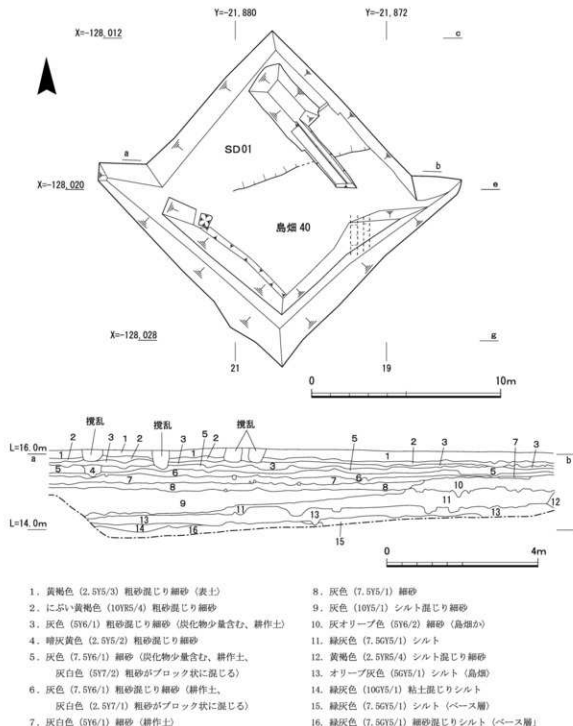
(村田和弘・筒井崇史)

(3) 出土遺物(第90図)

D5区では壁面精査中と溝状遺構S D01の掘削時にごく少量の土師器や瓦器、須恵器、瓦片などが出土したに過ぎない。

191は溝状遺構S D01で出土した小型の土師器皿である。平底に口縁部が短く外反気味に立ち上がる。192・193はS D01の断ち割りに際して出土した。192は高めの高台を有する土師器皿もしくは杯の底部である。193は須恵器杯Bの底部で、高台がやや高めである。

(筒井崇史)



第87図 D5区遺構配置図(1/200)・土層断面図(1/100)

4) D6区の調査

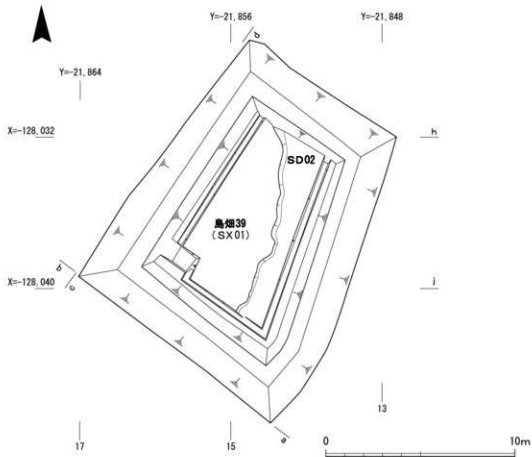
(1) 調査区の概要と基本的な層序

橋脚の建設が予定された地点で、D5区の南東側に位置する。長辺15～16m、短辺9～13mの矩形の調査区である(第88図)。現地表面の標高はおよそ15.8mである。調査の結果、島畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。なお、下層遺構は検出しなかった。調査面積は180㎡である。

基本的な層序をおもに南壁土層断面で説明する(第89図)。現在の表土である黄灰色粗砂混じり細砂(1層)の下に、洪水に由来すると思われる粗砂を含む灰色系の細砂層が薄く堆積する(2～4・7層、西壁断面の2・4層)。西壁土層断面には洪水層と思われる灰オリーブ色粗砂(3層)の堆積が断片的に認められる。その下層は新しい時期の島畑の盛土と思われる黄褐色シルト(14層)とそれに対応する溝状遺構の堆積層である緑灰色シルト(11層)がある。その下層が最も古い島畑である灰色シルト(16層、西壁断面の12層)となる。調査はこの上面で実施し、平面的に確認できなかったものの、断面観察によると、にぶい黄褐色シルト(15層、西壁断面の11層)を埋土とする素掘り溝の存在が確認できる。島畑の下層は灰色シルト系の堆積が続き(17～19層、西壁断面の13～16層)、安定した堆積層であるオリーブ灰色細砂混じりシルト(20層)に至る。

(2) 検出遺構(第88図)

島畑39(SX01) 調査区の西半部で検出した(J4-h14・i14区ほか)。南北方向の島畑の可能性

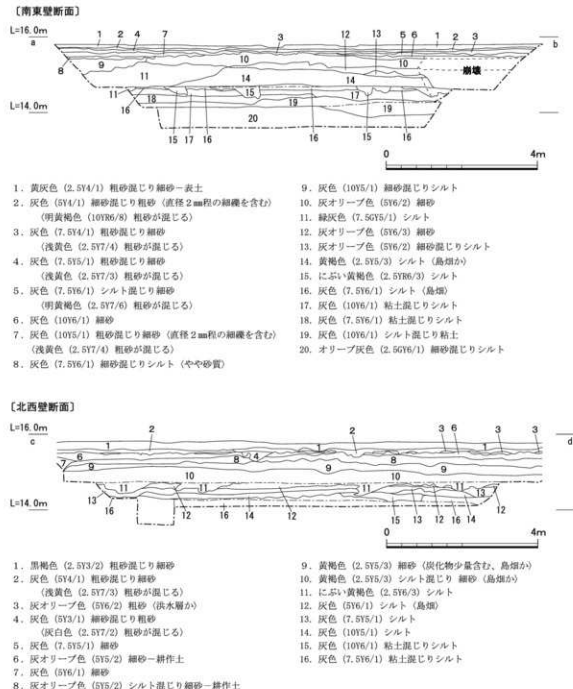


第88図 D6区遺構配置図(1/200)

があるが、周辺の地割り等から方向を明らかにすることは難しい。規模は検出長10.3m、基部検出幅4.8m、上面検出幅4.6m、高さ0.4m前後である。島畑上面の標高はおよそ14.3mである。島畑の南北両端と西半部は確認できなかった。島畑の上面で素掘り溝等の遺構は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

溝状遺構SD02 調査区の東半部で検出した。南北方向の溝状遺構と推定される。規模は検出長10.1m、検出幅2.4m、深さ0.4m前後である。溝底の標高は13.9～14.0mである。遺物は出土しなかった。

(村田和弘・筒井崇史)

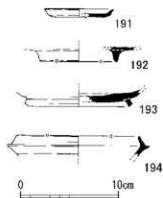


第89図 D6区南東壁・北西壁土層断面図(1/100)

(3) 出土遺物(第90図)

D 6区ではほとんど遺物が出土しなかった。壁面精査時に土師器や須恵器の細片がごく少量出土したのみである。194は調査区東壁で出土した古墳時代後期後半ごろの須恵器杯身である。受け部が短く突出する。

(筒井崇史)



第90図 D地区出土遺物
実測図2(1/4)

3. E地区の調査

D地区は、京奈和自動車道と国道24号(旧路線)の西側、D地区の北側に位置し、地区内には橋脚・盛土造成地2か所(E1・E2区)と橋台建設予定地の6か所(E3～E8区)の調査区を設定して調査を実施した。平成24年度はE1・E2区の調査を、平成25年度はE3～E8区の調査を実施した。本報告では、平成24・25年度に調査を実施した5か所の調査区について報告する(第91図)。なお、平成27年度には橋脚・盛土造成地1か所(E9区)と橋脚建設予定地(E10区)の調査を実施したが、これらについては後日報告する予定である。

(筒井崇史)

1) E1区の調査**(1) 調査区の概要と基本的な層序**

橋脚建設予定地と盛土造成範囲を対象として、南北42m、東西18mの長方形の調査区を設定した(第92図)。調査の結果、上層遺構として鳥畑2基とそれに伴う溝状遺構2条を検出した。また、下層遺構として調査区南端で南に向かって下がる落ち込みを確認した。この落ち込みは平成26年度のD3区の調査で、古墳時代前期初頭～前葉の溝であることが明らかになった。さらに堆積土の一部から縄文時代晩期の土器が少量出土した。しかし、これらに伴う遺構は確認できなかった。調査面積は770m²である。出土した遺物はE2区と合わせて整理箱にして2箱である。

基本的な層序(第93図)は、耕作土(1層)の下層に、灰色や黄色の砂層(2～6・20層)、あるいは灰色や青灰色系の粘質土(7・8・16層)などが水平に1.3mほど堆積する。これらを除くすると初期の鳥畑である暗灰黄色粘質土(25層)が確認できる。調査はこの上面で実施し、これに伴う素掘り溝SD01～05を確認した(灰色粘土:22層)。これらに対応する溝状遺構の埋土としてオーリーブ灰色砂(32層)や灰色系の粘質土層(34～36層)などがある。断面観察によると、25層の上面に8層や16層が盛り上げられて新しい鳥畑が形成されていることが確認できる。鳥畑の下層は褐色系の粘質土(17・18・37層)が堆積し、安定した堆積層である灰オリーブ色粘質土(14層)となる。

(2) 検出遺構**① 上層遺構(第92図)**

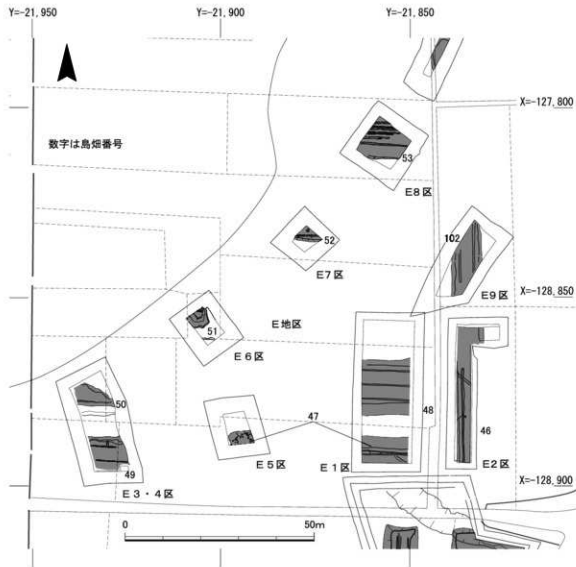
鳥畑47 調査区の南端で検出した(H4-w13・x13区はか)東西方向の鳥畑である。東西両端とも調査区外となるため検出できなかった。規模は検出長12.2m、基部検出幅6.9m、上面検出幅3.7～4.1m、高さ0.7m前後である。鳥畑上面の標高はおおよそ14.1mである。鳥畑上面で、東西方

向の素掘り溝を2条検出した(SD01・02)。素掘り溝は検出長12.2m、幅0.2m前後、深さ0.05～0.1mである。遺物は島畑上面の精査時や素掘り溝で土師器や須恵器の細片が少量出土した。

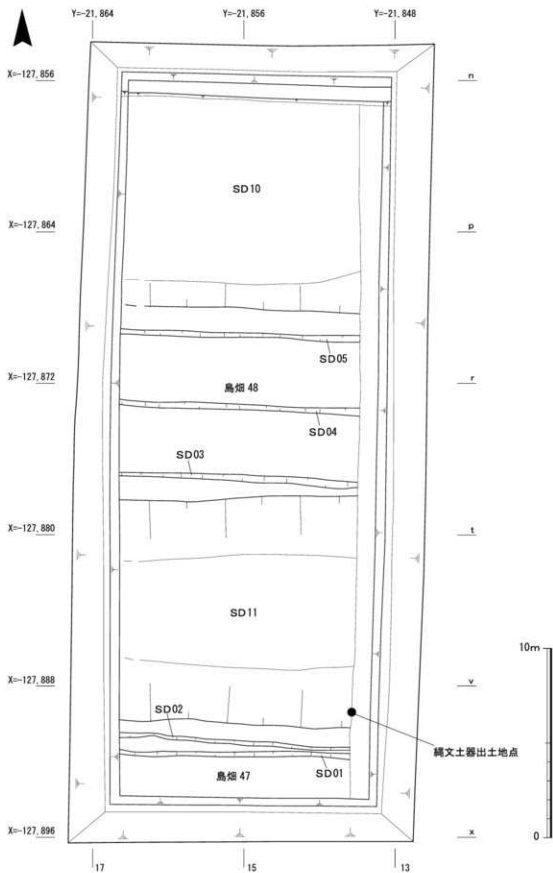
島畑48 調査区の中央部で検出した(H4-r13・s13区ほか)東西方向の島畑である。東西両端とも調査区外となるため検出できなかった。規模は検出長12.7m、基部幅13.9m、上面幅10.1m、高さ0.7m前後である。島畑上面の標高はおよそ14.1mである。島畑上面で、東西方向の素掘り溝を3条検出した(SD03～05)。素掘り溝は検出長12.7m、幅0.2～0.4m、深さ0.05～0.1mである。遺物は島畑上面の精査時や素掘り溝で土師器や須恵器の細片が少量出土した。

溝状遺構SD10 調査地の北端部、島畑48の北側で検出した(H4-o13・p13区ほか)。東西方向に延びる。検出長12.4m、幅11.0m、深さ0.7m前後である。溝底の標高はおよそ13.4mである。遺物は土師器の細片が少量出土したのみである。

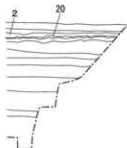
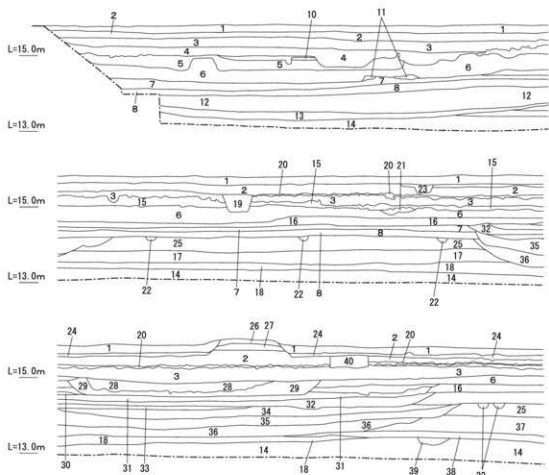
溝状遺構SD11 島畑47と島畑48の間で検出した(H4-u13・v13区ほか)。東西方向に延びる。検出長12.5m、幅11.5～12.0m、深さ0.7m前後である。溝底の標高はおよそ13.4mである。遺物は



第91図 下水主遺跡E地区遺構配置図(1/1,000)



第92図 E1区上層遺構配置図(1/200)



1. 耕作土
2. 黄灰色(2.SY6/1) 砂質土
3. 灰色(SY5/1) 細砂
4. 灰色(NS/0) 砂
5. 黄色(SY7/6) 砂
6. 灰色(SY6/0) 粘質微砂
7. 青灰色(SB6/1) 粘質土
8. 青灰色(10BG6/1) 粘質土
9. 黄色(SY7/6) 砂に灰色(NS/0) 粘質砂がブロックで混じる
10. 灰色(NS/0) 粘質砂
11. におい黄褐色(10YR7/3) 砂と灰色(NS/0) 砂のラミナ

12. 暗灰色(N3/0) 粘質土
13. 灰オリーブ色(SY4/2) 粘質土
14. 灰黄色(2.SY6/2) 粘質土
15. におい黄褐色(10YR7/3) 砂に灰色(NS/0) 粘質土がブロックで混じる
16. 灰白色(SY7/1) 粘質土
17. 灰褐色(7.SYR6/2) 粘質土
18. 褐色(10YR4/4) 粘質土
19. 灰色(7.SY5/1) 細砂
20. 灰白色(SY8/1) 砂
21. 灰色(NS/0) 粘質土ににおい黄褐色(10YR7/3) 砂が混じる
22. 灰色(NS/0) 粘土

23. オリーブ黒色(SY3/2) 砂質土
24. 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
25. 暗黄褐色(2.SY5/2) 粘質土
26. 暗オリーブ褐色(2.SY3/3) 土
27. 暗オリーブ色(SY4/3) 土
28. 灰色(NS/0) 微砂
29. 灰白色(7.SY7/1) 砂
30. 灰白色(N8/0) 細砂
31. 灰白色(N7/0) 微砂
32. オリーブ灰色(2.SY6/1) 砂
33. 暗灰色(N3/0) 粘質砂
34. 灰色(7.SY6/1) 粘質砂
35. 灰色(10Y7/1) 粘質土
36. 暗灰色(N3/0) 粘質土
37. 灰黄褐色(10YR6/2) 粘質土
38. 黄灰色(2.SY6/1) 粘質土
39. 暗灰色(10YR6/1) 粘質土に暗褐色(10YR3/4) 粘質土が混じる
40. 灰白色(SY8/1) 砂(混乱)

第93図 E1区東壁土層断面図(1/100)

土師器の細片が少量出土したのみである。

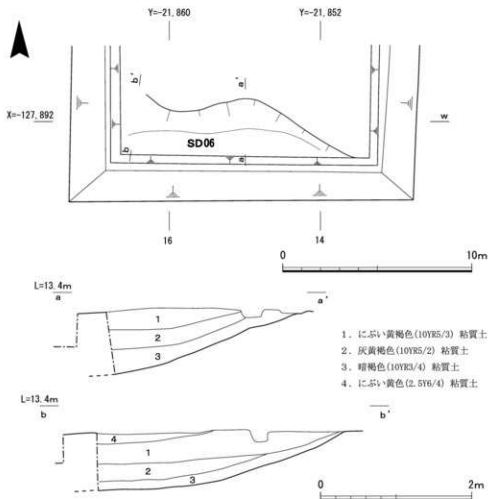
また、調査区東壁で堆積層の1つから縄文土器の細片が出土した。当初は遺物包含層等の広がり予想したが、調査範囲が狭く詳細は明らかにできなかった。さらに、平成25・26年度に実施した周辺の調査でも明確な遺物包含層は確認できなかった。したがって、自然堆積層に含まれている2次堆積の遺物と判断した。

②下層遺構

溝SD06(第94図) 調査区の南端で検出した(H4-x14・x15区ほか)。検出長13.5m、検出幅3.7m、深さ0.8mである。検出範囲は部分的にとどまるが、上述のように、平成26年度に実施したD3区の調査の結果、古墳時代前期初頭～前半の溝の一部であると判断するに至った。遺物は古墳時代前期と思われる土師器の細片が出土した。(戸原和人・筒井崇史)

(3)出土遺物(第104図)

E1区では、鳥畑の検出時や溝状遺構、素掘り溝の掘削などで土師器や須恵器の細片が出土したが、遺物はそれほど多くない。また、鳥畑の断ち割りでは縄文土器片が出土したが、細片のため図示することはできなかった。



第94図 E1区溝SD06平面図(1/200)・土層断面図(1/50)

195は島畑47の精査中に出土した小型の土師器皿で、やや丸みのある底部を呈する。196・197は島畑48上の素掘り溝S D03から出土した。196は小型の土師器皿で、平底である。197は瓦器碗である。口縁端部内面に沈線を1条施す。198も島畑48上の素掘り溝S D05で出土した瓦器碗である。やはり口縁端部内面に沈線を1条施す。199は調査区の南東隅に設けた排水溝から出土した土師器高杯の脚裾部である。胎土には石英・長石などの砂粒を含む。本来は溝S D06に伴うものとする。（筒井崇史）

2) E2区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

E1区の東側に位置する。E1区同様に、橋脚建設予定地と盛土造成予定地を対象として、南北40m、東西8mの矩形の調査区に北東部が9mほど張り出す「L」字形の調査区を設定した(第95図)。両者の間には農業用水路があったため、一体の調査区として調査することはできなかった。調査の結果、島畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。また、下層遺構として古墳時代ないし弥生時代の溝1条と土坑状の落ち込み1か所を検出した。調査面積は370㎡である。

基本的な層序(第96図)は、耕作土(1層)・床土(2層)の下層に暗褐色や灰色系の砂層が続き(3～7・17・18・22層)、最も新しい段階の島畑上面に至る(緑灰色粘質土:20層)。それ以前の島畑の盛土である灰白色粘質土(24層)を挟んで、最も初期の島畑である黄灰色粘質土(27層)が確認できる。調査はこの上面で実施し、これに伴う素掘り溝S D01の延長部を断面で確認した(灰色粘質土:25層)。これらに対応する溝状遺構の埋土として灰色の粘質砂やシルト(12～14層)などがある。島畑の下層にはいよいよ黄橙色粘質土(21層)があり、その下層に安定したいよいよ黄色粘土層(15層)がある。

(2) 検出遺構(第95図)

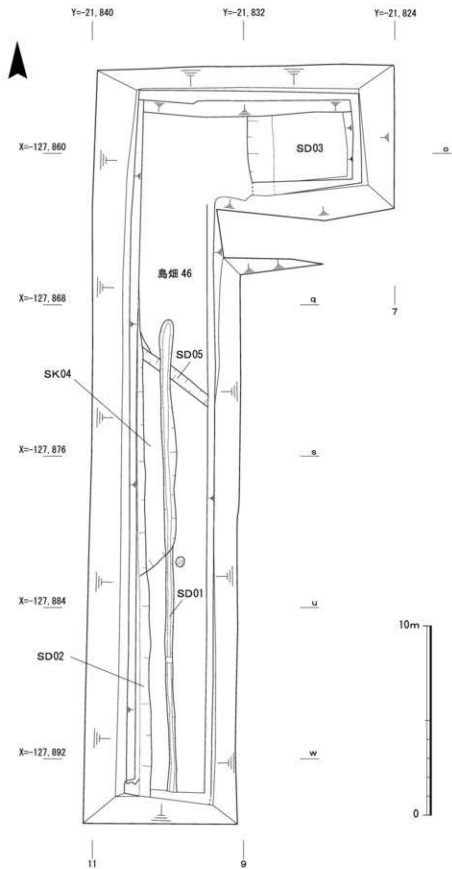
① 上層遺構

島畑46 ほは調査区の大半を占める(H4-o9・p9区ほか)南北方向の島畑である。南北両端は調査区外となるため確認できなかった。規模は検出長35.6m、基部検出幅7.0m、上面検出幅5.6m、高さ0.6m前後である。島畑上面の標高はおよそ14.0mである。島畑上面で、素掘り溝を1条検出した(S D01)。素掘り溝は検出長24.9m、幅0.4～0.8m、深さ0.1m前後である。遺物はほとんど出土しておらず、土師器の細片やS D01で鉄製品が出土した程度である。

溝状遺構S D03 調査地の「L」字形に張り出した部分で検出した(H4-o8・p8区ほか)。南北方向の溝である。規模は検出長4.7m、検出幅5.6m、深さ0.6m前後である。溝底の標高は14.4～14.5mである。遺物は出土していない。

溝状遺構S D02 調査地の西端で検出した(H4-s10区ほか)。大半が調査区の西壁面と重複し全容は不明である。ただし、検出位置から島畑46の西側を区画する溝状遺構である可能性が高い。規模は検出長26.6m、検出幅0.6mである。検出した深さは0.2mほどである。遺物は出土していない。

② 下層遺構



第95図 E 2区遺構配置図(1/200)

土坑SK04 トレンチ中央部での断ち割り調査で、鳥畑46の下層から土坑状の落ち込みを確認した(H4-r10・s10区ほか)。規模は検出長12.6m、検出幅2.1mで、深さは不明である。遺物は出土していない。

溝SD05 鳥畑46の中央部で検出した(H4-s9・r10区ほか)。南東から北西に延びる溝である。規模は検出長4.3m、検出幅0.5mで、深さは不明である。溝の方位は北に対して53°西に振る。遺物は出土していない。
(戸原和人・筒井崇史)

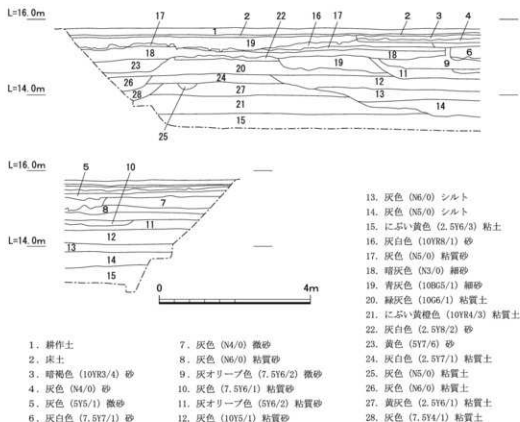
(3)出土遺物(第104図)

E2区も遺物少なく、調査区の壁面精査や鳥畑の精査時などに土師器や須恵器、鉄製品などが出土した程度である。また、下層遺構を確認しているが、その際に出土した遺物はない。

200は南東隅の壁精査中に出土した天目茶碗である。201・202は南西隅の白灰色砂層から出土した。201はやや厚手の須恵器鉢である。いわゆる東播系のものである。202は口縁端部をわずかにつまみ上げる土師器甕の口縁部である。断定できないが、庄内式甕の影響を受けていると思われる。203は鳥畑46上の素掘り溝SD01で出土した鉄製品である。刀子の破片と思われる。残存長4.1cm、幅0.9cmである。
(筒井崇史)

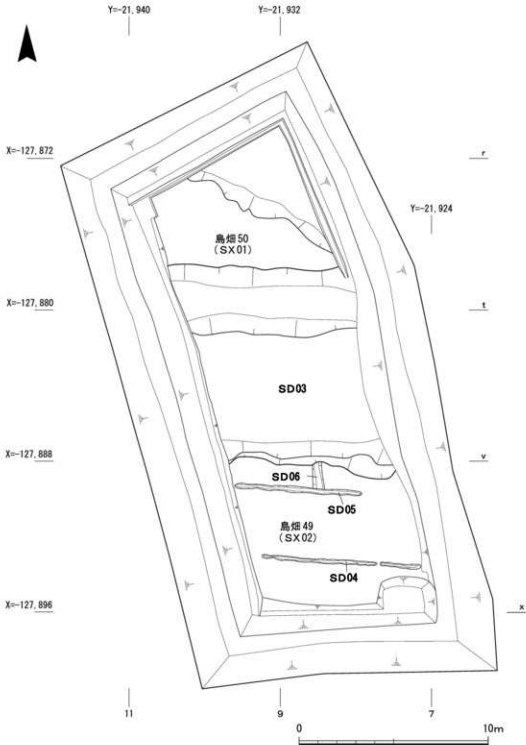
3) E3・E4区の調査

(1)調査区の概要と基本的な層序



第96図 E2区北壁土層断面図(1/100)

2か所の橋脚建設予定地を対象としていたが、両予定地が近接していることから、1つの調査区として調査を実施した。長辺30m前後、短辺15m前後の南北方向の長方形の調査区を設定した(第97図)。調査の結果、高畑2基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。また、下層遺構は認められなかった。調査面積は470㎡である。出土した遺物はE3～E8区合わせて整理箱にして2箱である。

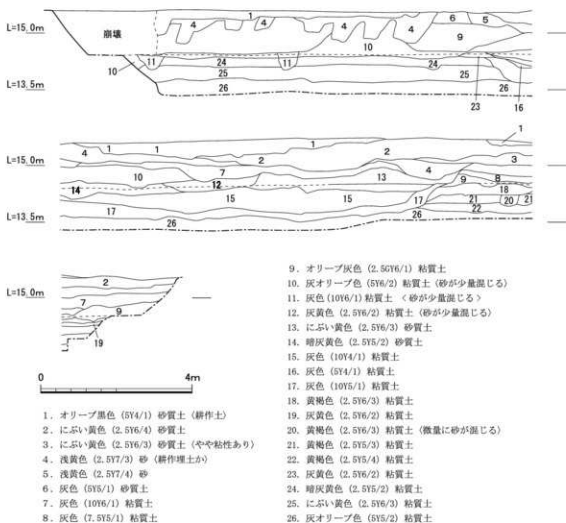


第97図 E3・E4区遺構配置図(1/200)

基本的な層序(第98図)は、南側では耕作土であるオリブ黒色砂質土(1層)や耕作に伴う溝等の埋土と推定される浅黄色砂(4層)が確認できるが、北側ではにぶい黄色砂質土(2層)の盛り上がりが見られ、その下層も南側に比べると土層の乱れが目立つ。南側では4層の下層のオリブ灰色系の粘質土(9・10層)を除去すると、鳥畑49を検出した。暗灰色粘質土(24層)は初期の鳥畑に伴う盛土と判断し、これを除去したにぶい黄色粘質土上面で調査を実施した。一方、北側では、断面観察によると、2・4層などの下層に新しい段階の鳥畑を確認することができ、これらの盛土である灰色系の粘質土(8～9層)や黄褐色粘質土(18・21層)などを除去すると初期の鳥畑50を検出した。調査は黄褐色粘質土層(22層)の上面で実施した。鳥畑49・50の間の溝状遺構の埋土として灰色粘質土(15・17層)があり、その上層に黄色系の砂質土(13・14層)が堆積している。鳥畑49・50の下層には安定したオリブ灰色粘質土(26層)が北から南まで広がっていることを確認した。

(2) 検出遺構(第97図)

鳥畑50(SX01) 調査区の北半部で検出した(H5-s8・t8区ほか)東西方向の鳥畑である。東西



第98図 E3・E4区西壁土層断面図(1/100)

両端とも調査区外となるため検出できなかった。規模は検出長9.0m、基部検出幅8.5m、上面検出幅4.4m、高さ0.3m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.0mである。鳥畑の北東部は、鳥畑上面を検出した時点で土色の変化が見られたため、掘削したがその性格は明らかにできなかった。鳥畑造成時の盛土の可能性も考えられる。なお、鳥畑上面で素掘り溝を検出することはできなかった。遺物はほとんど出土しておらず、精査時に土師器の細片が少量出土したのみである。

鳥畑49 (S X02) 調査区の南半部(H5-w7・x7区)で検出した東西方向の鳥畑である。東西両端とも調査区外となるため検出できなかった。規模は検出長8.8m、基部検出幅8.6m、上面検出幅7.7m、高さ0.4mである。鳥畑上面の標高はおよそ14.1mである。鳥畑上面で、素掘り溝を3条検出した(S D04-06)。素掘り溝は検出長1.4～8.3m、幅0.2～0.6m、深さ0.05m前後である。素掘り溝S D04・05は東西方向に延びるが、S D06は南北方向に延び、S D05と交差して、それ以上南へは延びない。素掘り溝を検出したが、遺物は出土していない。

溝状遺構S D03 調査地の中央、鳥畑49と鳥畑50の間で検出した(H5-t8・u8区ほか)。東西方向に延びる。規模は検出長8.2m、検出幅10.4m、深さ0.3～0.4mである。溝底の標高はおよそ13.7mである。遺物は出土していない。 (村田和弘・筒井崇史)

(3)出土遺物(第104図)

E3・E4区で出土した遺物は少なく、しかも大半が壁面精査時のものである。遺物としては土師器や瓦器、須恵器などのほか施釉陶器の破片などが出土した。

204は出土地点不明であるが、施釉陶器碗の底部と思われる。ただ埋没に伴う鉄分の沈着と摩滅により、緑釉陶器なのか無釉陶器なのかは判断できない。205・206は北壁の精査で出土した。205は須恵器の蓋である。形態から平安時代前期のものであろうか。206は瓦質土器の火鉢であろう。ただし、摩滅のため灰白色を呈する。 (筒井崇史)

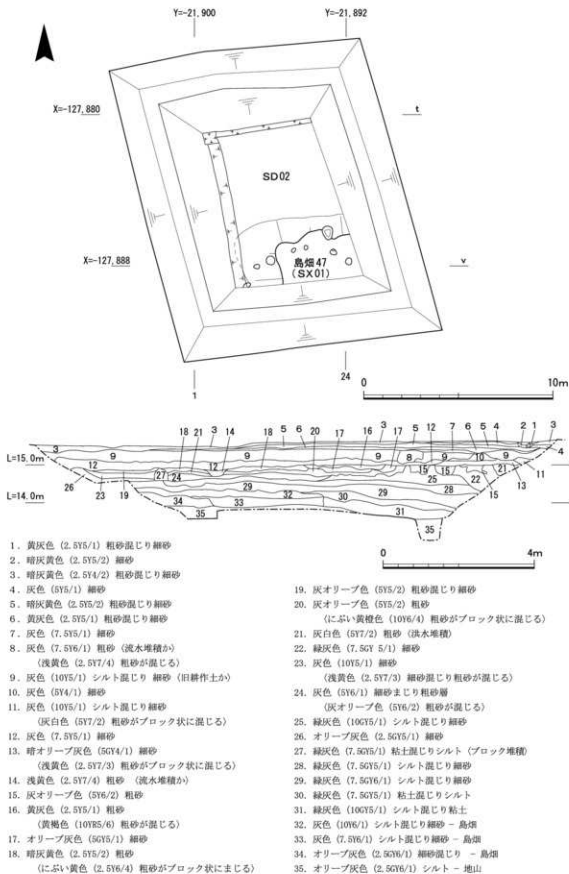
4) E5区の調査

(1)調査区の概要と基本的な層序

橋脚建設予定地を対象として、一辺14～16mほどの矩形の調査区を設定した(第99図上段)。調査の結果、鳥畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。また、下層遺構の有無を確認したが、下層遺構およびそれに伴う遺物は認められなかった。調査面積は220㎡である。

基本的な層序(第99図)は、表層の黄灰色系の粗砂混じり細砂(3・5層)などの下層にある旧耕作土と推定される灰色シルト混じり細砂(9層)を除去すると、灰色細砂(12層)、緑灰色シルト混じり細砂(25層)、緑灰色シルト混じり細砂(29層)などが、おおむね水平に堆積する。その間に新しい時期の素掘り溝の痕跡(灰オリーブ色粗砂：15層)などを確認することができる。これらを除去すると、鳥畑47のベースであるオリーブ灰色シルト混じり細砂(32層)を検出した。調査はこの32層上面で実施した。溝状遺構の埋土として緑灰色系のシルトや粘土(30・31層)などがある。鳥畑の下層には安定した灰色シルト混じり細砂(33層)やオリーブ灰色シルト(35層)が広がっていることを確認した。

(2)検出遺構(第99図)



第99図 E 5区遺構配置図(1/200)・南壁土層断面図(1/100)

鳥畑47 (S X01) 調査区の南部で検出した(H4-v24・v25区ほか)。周辺の地割りの状況等からE1区で検出した鳥畑と同一のものと考えられ、その北西隅を検出したものであろう。規模は検出長6.8m、基部検出幅3.5m、上面検出幅2.1～2.7m、高さ0.3m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ13.8mである。鳥畑上面で、小規模なピットをいくつか検出したが、素掘り溝は認められなかった。ピットは平面形が不整形なものが多く、直径0.2～0.5m、深さ0.1～0.3mである。遺物は出土しなかった。

溝状遺構SD02 調査地の北半部で検出した(H4-u 24u 25区ほか)周辺の地割りの状況から、東西方向と推定される。規模は検出長6.0m、検出幅5.6m、高さ0.3m前後である。溝底の標高はおよそ13.5mである。遺物は土師器の細片が少量出土したのみである。

(村田和弘・筒井崇史)

(3)出土遺物(第104図)

E5区も壁面精査時に出土した遺物が大半を占める。遺物としては土師器や須恵器、陶器などが出土した。207は土師器羽釜の口縁である。口縁端部を折り返して丸く納める。

(筒井崇史)

5)E6区の調査

(1)調査区の概要と基本的な層序

橋脚建設予定地を対象として、一辺13～15mほどの矩形の調査区を設定した(第100図上)。調査の結果、鳥畑1基とそれに伴う溝状遺構2条を検出した。また、鳥畑の調査の終了後に下層遺構の有無を確認したが、下層遺構およびそれに伴う遺物は認められなかった。調査面積は210㎡である。

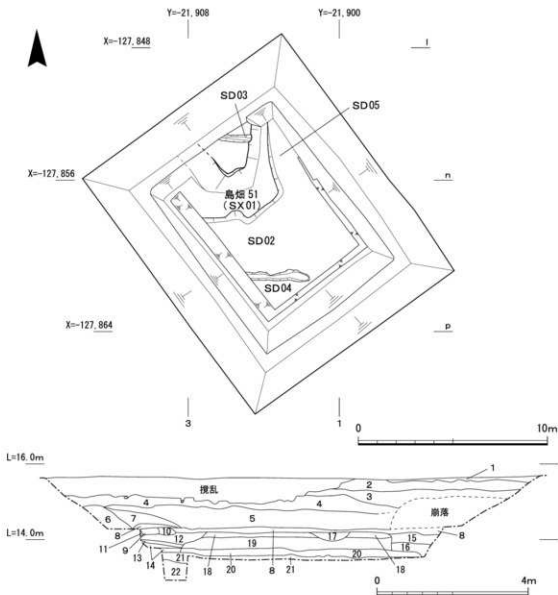
基本的な層序(第100図下)は、西寄りに大規模な攪乱が認められるが、耕作土や旧耕作土などの黄灰色や灰色の粗砂混じり細砂(2～4層)が水平に堆積する。その下層に黄褐色シルト混じり細砂(5層)があるが、近世の鳥畑の盛土である可能性がある。5層の下には洪水に由来すると思われる灰黄色細砂(6層)や灰オリーブ色シルト混じり細砂が認められる。その下層のオリーブ灰色(8層、鳥畑の盛土の一部と推定)を除去すると、初期の鳥畑51のベースである灰色シルト混じり粘土(18層)がある。調査はこの上面で実施した。素掘り溝SD03の埋土としてオリーブ灰色シルト混じり細砂(17層)を確認した。鳥畑の両側では緑灰色ないしオリーブ灰色のシルトや粘土層(12～16層)が堆積しており、溝状遺構の埋土である。鳥畑の下層にはオリーブ灰色や灰色の粘土(19～21層)が認められ、最下層で各調査区で認められるオリーブ灰色粘土(22層)を確認した。

(2)検出遺構(第100図)

鳥畑51 (S X01) 調査区の北東部で検出した(H5-n2・o2区ほか)。周辺の地割りの状況から南北方向の鳥畑の南東隅と推定される。規模は検出長5.2m基部検出幅6.3m、上面検出幅2.3m、高さ0.7m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.1mである。鳥畑上面では、素掘り溝を1条検出した。素掘り溝(SD03)は検出長1.7m、幅0.4m、深さ0.1m前後である。遺物は鳥畑の上面精

査などで土師器の細片が出土した。

溝状遺構SD02 調査区の南部で検出した(H5-o1・o2区ほか)。周辺の地割りから東西溝と推定され、鳥畑51の南限を画する。規模は検出長7.0m、検出幅7.3m、深さ0.7m前後である。溝底



- | | |
|--|--------------------------------|
| 1. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂混じり細砂 表土 | 12. 緑灰色 (7.5GY5/1) シルト |
| 2. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粗砂混じり細砂 耕作土 | 13. 緑灰色 (10GY5/1) 粘土混じりシルト |
| 3. 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂混じり粗砂 (砂質強い) 耕作土 | 14. オリーブ灰色 (5GY5/1) 粘土 |
| 4. 灰色 (5Y6/1) 細砂 耕作土 | 15. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト |
| 5. 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト混じり細砂 (近世鳥畑か) | 16. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 粘土混じりシルト |
| 6. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂 (ラミナ状堆積、洪水砂層) | 17. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト混じり細砂 |
| 7. 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト混じり細砂 | 18. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり粘土 |
| 8. オリーブ灰色 (5GY5/1) シルト | 19. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト混じり粘土 |
| 9. 灰オリーブ色 (5Y5/2) 細砂混じりシルト | 20. 灰色 (10Y6/1) シルト混じり粘土 |
| 10. 灰色 (7.5Y6/1) シルト混じり細砂 流水堆積か
(灰オリーブ色 (5Y6/2) 細砂がブロック状に混じる) | 21. 灰色 (10Y5/1) 粘土 |
| 11. オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 細砂混じりシルト | 22. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 粘土 (ベース) |

第100図 E6区遺構配置図(1/200)・北西壁土層断面図(1/100)

の標高はおおよそ13.4mである。溝底面で素掘り溝を1条検出した。素掘り溝(S D04)は検出長3.4m、幅0.4～0.6m、深さ0.1m前後である。遺物は土師器や瓦器などの細片が出土した。

溝状遺構 S D05 調査区の東部で検出した(H5-n1・o1区)。周辺の地割りから南北溝と推定され、鳥畑51の東限を画する。S D02とS D05は調査区の東端部で接続していると考えられる。規模は検出長約5.3m、検出幅約4.5m、深さ0.6m前後である。溝底の標高は13.5～13.6mである。遺物は土師器や瓦器、須恵器の細片などが出土した。(村田和弘・筒井崇史)

(3)出土遺物(第104図)

E 6区でも出土遺物の総量は少ないが、鳥畑上面の精査や掘削、壁面精査時などに土師器や瓦器、須恵器のほか瓦片などが出土した(第104図)。図示したのは瓦器碗1点のみである。

208は瓦器碗である。内面にわずかにミガキを施すが、口縁端部内面には沈線が認められない。また、退化した断面三角形の高台が付くが、底部は高台よりも突出している。

(筒井崇史)

6) E 7 区の調査

(1)調査区の概要と基本的な層序

橋脚建設予定地を対象として、一辺12mほどの矩形の調査区を設定した(第101図上)。調査の結果、鳥畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。また、下層遺構は認められなかった。調査面積は160㎡である。

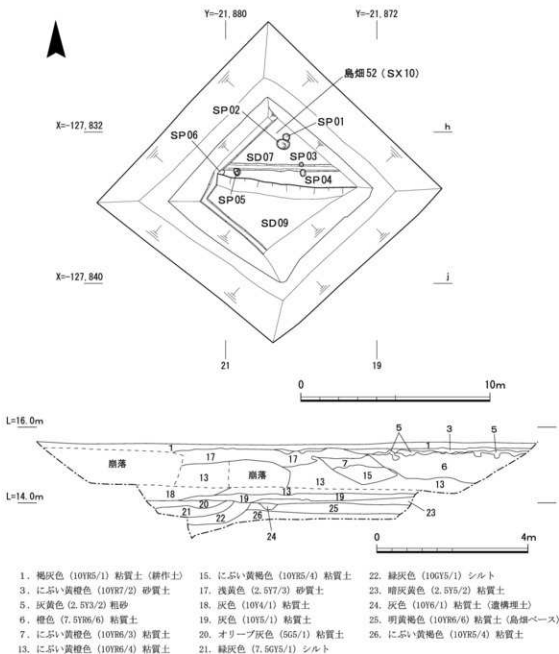
基本的な層序(第101図下)は、耕作土である褐灰色粘質土(1層)の下層70cmほどは土層がやや乱れているが(5～7層・13・15層)、厚めのおい黄橙色粘質土(13層)を除去すると、灰色粘質土(19層)や暗灰黄色粘質土(23層)が認められる。これらは鳥畑の盛土の一部と推定され、これらを除去すると初期の鳥畑のベースである明黄褐色粘質土(25層)を確認した。調査はこの上面で実施した。素掘り溝S D03の埋土として灰色粘質土(24層)を確認した。また溝状遺構の埋土として、オリーブ灰色粘質土(20層)や緑灰色シルト(21・22層)が堆積する。鳥畑の下層ではおい黄褐色粘質土(26層)を確認した。

(2)検出遺構(第101図)

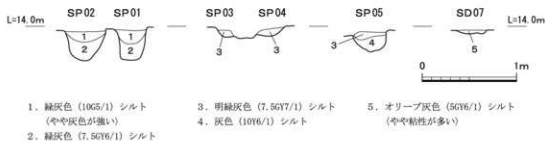
鳥畑52(S X 10) 調査区の北半で検出した(H4-i19・i20区ほか)東西方向の鳥畑である。規模は検出長7.4m、基部検出幅4.0m、上面検出幅3.4m、高さ0.5m前後である。鳥畑上面の標高はおおよそ14.0mである。鳥畑上面で、素掘り溝1条、柱穴6基を検出した。素掘り溝(S D07)は検出長6.2m、幅0.35m、深さ0.1m前後である。柱穴はいずれも円形を呈し、直径0.2～0.7m、深さ0.1～0.3mである。建物や欄列として復元することはできなかった。遺物はS D07で土師器の細片が出土したほか、精査時にも土師器の細片が出土した。

溝状遺構 S D09 調査区の南半部で検出した(H4-j20区ほか)東西方向の溝である。規模は検出長7.8m、検出幅3.5m、深さ0.5m前後である。溝底の標高はおおよそ13.5mである。遺物は出土しなかった。(村田和弘・筒井崇史)

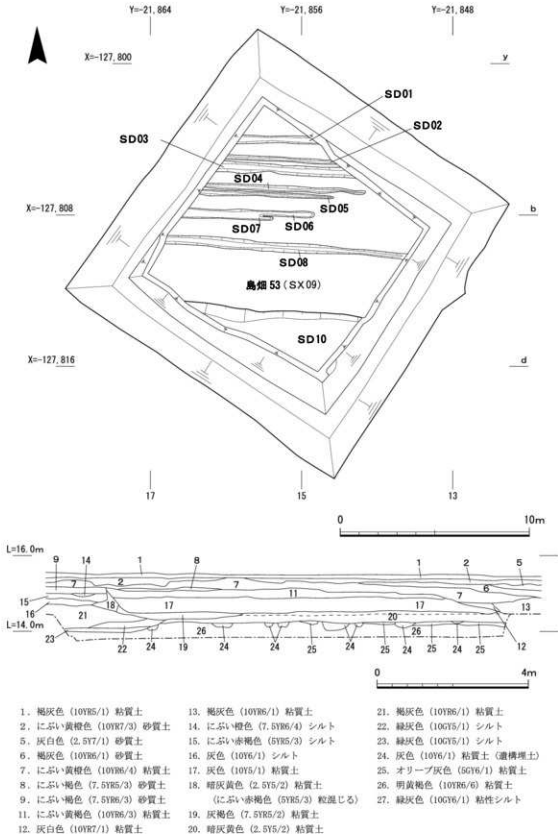
(3)出土遺物



※ 2・4・8・12・14・16層は北東壁土層名のため省略



第101図 E7区遺構配置図(1/200)・北西壁土層断面図(1/100)・遺構土層断面図(1/40)



※ 3・4・10層は図示していないため省略

第102図 E S区遺構配置図(1/200)・北西壁土層断面図(1/100)

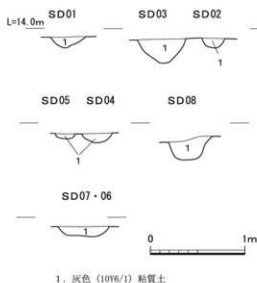
E7区では遺物がほとんど出土しておらず、上述のSD07出土土師器片を除き、壁面や島畑土面の精査時や断ち割りから出土したもので、遺物としては土師器や瓦器、瓦質土器などがある。ただし、図示できるような資料がなかった。(筒井崇史)

7) E8区の調査

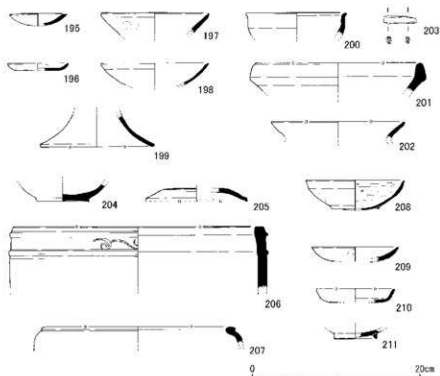
(1) 調査区の概要と基本的な層序

橋台建設予定地を対象として、一辺16mほどの矩形的調査区を設定した(第102図上)。調査の結果、島畑1基とそれに伴う溝状遺構1条を検出した。また、下層遺構の有無を確認したが、下層遺構とそれに伴う遺物は認められなかった。調査面積は290㎡である。

基本的な層序(第102図下)は、耕作土と思われる褐灰色粘質土(1層)やにぶい黄橙色砂質土(2層)、同粘質土(7層)などが水平に堆積する。断面観察によると、これらを除去すると大きく3つの堆積状況が確認できる。まず中央部に、にぶい



第103図 E8区遺構土層断面図(1/40)



第104図 E地区出土遺物実測図(1/4)

黄褐色粘質土(11層)、灰色粘質土(17層)が水平に堆積するが、この堆積層は北側で7層や灰白色ないし褐色粘質土(12・13層)に切られている。また、11・17層も南側ではにおい褐色砂質土や暗灰黄色粘質土(18層)などを切っており、断定はできないものの、新しい段階の島畑と溝状遺構の盛土あるいは堆積層の可能性がある。以上の堆積層を除去すると、初期の島畑の上部に盛られた暗灰黄色粘質土層(20層)を検出した。さらにこれを除去すると、初期の島畑のベースである明黄褐色粘質土(26層)を検出した。調査はこの上面で実施した。素掘り溝S D01～08の埋土として灰色粘質土(24層)を確認した。

(2) 検出遺構(第102図)

島畑53(S X09) 調査区の北半部で検出した(H4-b13・c13区ほか)東西方向の島畑である。規模は検出長14.4m、基部検出幅11.4m、上面検出幅10.8m、高さ0.5～0.6mである。島畑上面の標高はおよそ14.1mである。島畑上面で、素掘り溝を8条検出した(S D01～08)。素掘り溝は検出長4.1～12.5m、幅0.2～0.6m、深さ0.1～0.2mである。素掘り溝は、いずれも東西方向である。遺物は島畑上面の精査時などで土師器や瓦器、須恵器などの細片が出土した。また、各素掘り溝でも土師器や瓦器の細片が出土した。

溝状遺構S D10 調査区の南端で検出した(H4-d14・d15区)。東西方向の溝である。規模は検出長9.1m、検出幅3.6m、深さ0.5～0.6mである。溝底の標高はおよそ13.5mである。遺物は土師器の細片と思われるものが出土した。
(村田和弘・筒井崇史)

(3) 出土遺物(第104図)

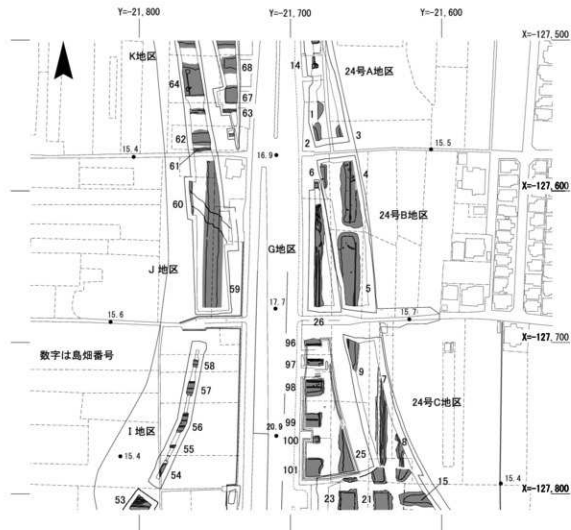
E 8区の出土した遺物の総量は少ないが、島畑上面の精査のほか、素掘り溝から土器片が出土した。ただ、全体に図示できた遺物は少ない。

209は調査区の壁面を精査中に出土したやや厚手の土師器皿である。やや丸みを帯びる底である。210は島畑53の上面で出土した土師器皿である。212にくらべやや薄手で、平底である。211は島畑53上の素掘り溝S D06で出土した瓦器椀の底部である。明瞭な高さを有する断面三角形の高台が付く。
(筒井崇史)

4. G地区の調査

(1) 調査区の概要と基本的な層序

G地区は、京奈和自動車道と国道24号(旧路線)の東側、一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う調査地(B地区)との間に位置し、盛土造成範囲を対象として調査を実施した。南北約88m、南辺の東西長約22mの測る、平面形が三角形を呈する調査区で、調査対象地は1か所である。現地表面の標高はおよそ15.3mである。調査の結果、上層遺構として島畑1基とそれに伴う溝状遺構2条を検出した(第106図左)。また、島畑上面から約15cm下で、下層遺構として弥生時代の溝2条や縄文時代と推定される溝1条を検出した。このほか地山直上で縄文時代晩期の土器片が少量出土したものの、具体的な遺構は確認できなかった。また、調査区の一部を拡張して、一般国道24号金尾交差点改良事業に伴って確認していた島畑の一部を確認した。最終的な調査面積は



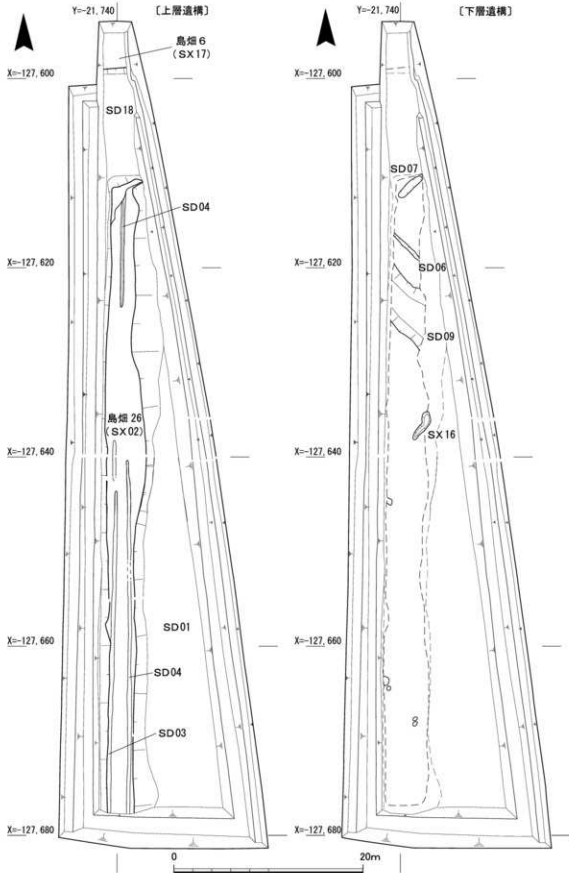
第105図 下水主遺跡第2・4・6・8・9次調査遺構配置図(1/2,500)

1,290m²である。出土した遺物は整理箱にして2箱である。

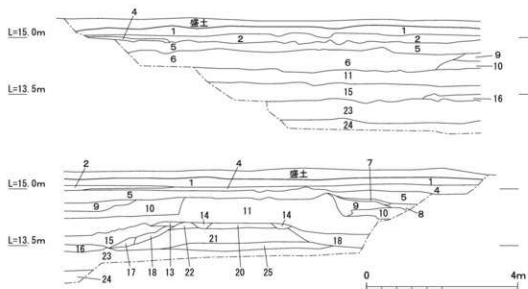
基本的な層序(第107図)は、仮置きされた土砂の直下に、耕作土と思われる暗紫灰色粘質砂(1層)や床土と思われる暗赤灰色土(2層)などが認められた。その下層には暗灰黄色砂(4層)やオリブ黒色粘質土(5層)などが水平に堆積する。これを除去すると、調査区の西側では青灰色粘質土(11層)を、東側では5層と11層の間に青灰色粘質土(6層)や赤灰色粗砂(9層)、暗青灰色細砂(10層)などが堆積していた。11層を除去すると、調査区の西側で、初期の鳥畑のベースである褐灰色粘質土層(21層)とその上部に薄く盛られた灰褐色粘質土混じり黄褐色土(20層)を検出した。鳥畑の調査は20層上面で実施した。一方、調査区の東側には溝状遺構が存在し、その堆積層として緑灰色砂質土(15層)や暗青灰色粘質土(16層)などを確認した。弥生時代や縄文時代と推定される遺構は21層の上面で検出した。これらの下層に安定した地層である明黄褐色粘質土(23層)や灰白色粘質土(24層)を確認した。

(2) 検出遺構

① 上層遺構(第106図左)



第106図 G地区遺構配置図(1/400)



- | | | |
|---------------------------------------|---|--|
| 1. 暗赤灰色 (5RP3/1) 粘質砂 | 11. 青灰色 (5B06/1) 粘質土 | 19. 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土 |
| 2. 暗赤灰色 (5R3/1) 土 | 12. 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質土混じり
青灰色 (5B06/1) 粘質土 | 20. 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土混じり
黄褐色 (2.5Y5/6) 土 |
| 3. 灰白色 (N7/0・N8/0) 砂 | 13. 緑灰色 (10G4/1) 粘質土 | 21. 黄褐色 (5YR5/1) 粘質土 |
| 4. 暗灰黄色 (2.5Y5/2)・
暗赤褐色 (5YR3/2) 砂 | 14. 明オリーブ灰色 (5GV7/1) 砂混じり
暗オリーブ灰色 (5GV4/1) 土 | 22. 黄灰色 (10YR5/6) 粘質土 |
| 5. オリーブ黒色 (5GY2/1) 粘質土 | 15. 緑灰色 (10G5/1) 砂質土 | 23. 明黄褐色 (5G6/1) 粘質土
(極細砂混じり) |
| 6. 青灰色 (5B05/1) 粘質土 | 16. 暗青灰色 (5B05/1) 粘質土
(細砂混じり) | 24. 灰白色 (10YR7/1) 粘質土 |
| 7. 青灰色 (10B65/1) 砂 | 17. 暗青灰色 (5B04/1) 粘質土 | 25. 黄褐色 (2.5Y5/6) 土 |
| 8. 青黒色 (5B02/1) 細砂 | 18. 緑灰色 (5G5/1) 粘質土 | |
| 9. 赤灰色 (10R3/1) 粗砂 | | |
| 10. 暗青灰色 (10B4/1) 細砂 | | |

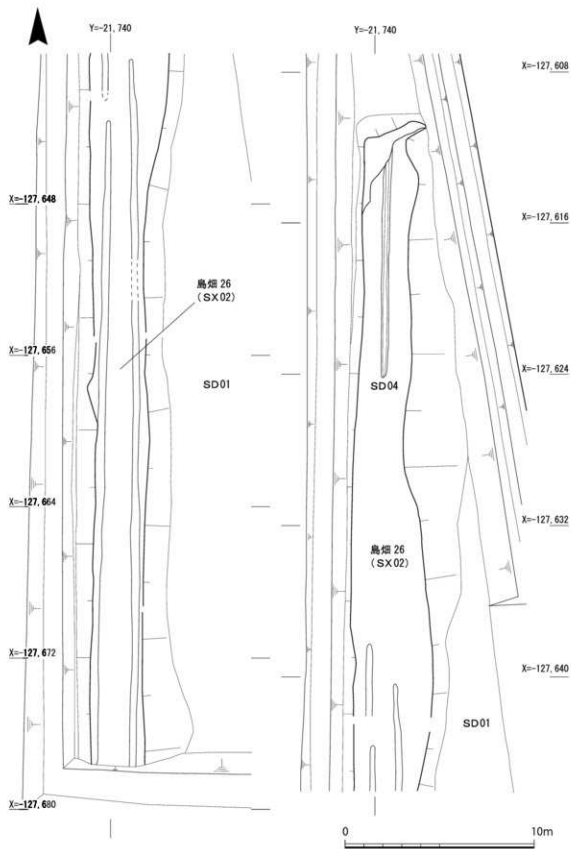
第107図 G地区南壁実測図(1/100)

鳥畑26 (S X 02) (第108図) 調査区の西半 (F3-c10・d10区ほか) で検出した南北方向の鳥畑である。規模は検出長67.5m、基部検出幅4.4~6.5m、上面検出幅2.2~3.9m、高さ0.7m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.1mである。鳥畑の北端は確認したが、南端は調査区外となるため確認できなかった。橋調査区の北端部を一部拡張し、鳥畑6の南裾部を確認している。鳥畑の上面で素掘り溝4条を検出した。検出長12.1~37.5m、幅0.25~0.45m、深さ0.05~0.1mである。遺物は鳥畑の上面精査や素掘り溝などから瓦器や土師器のほか、古代の須恵器などが、細片の状態で見出された(第111図212~216)。

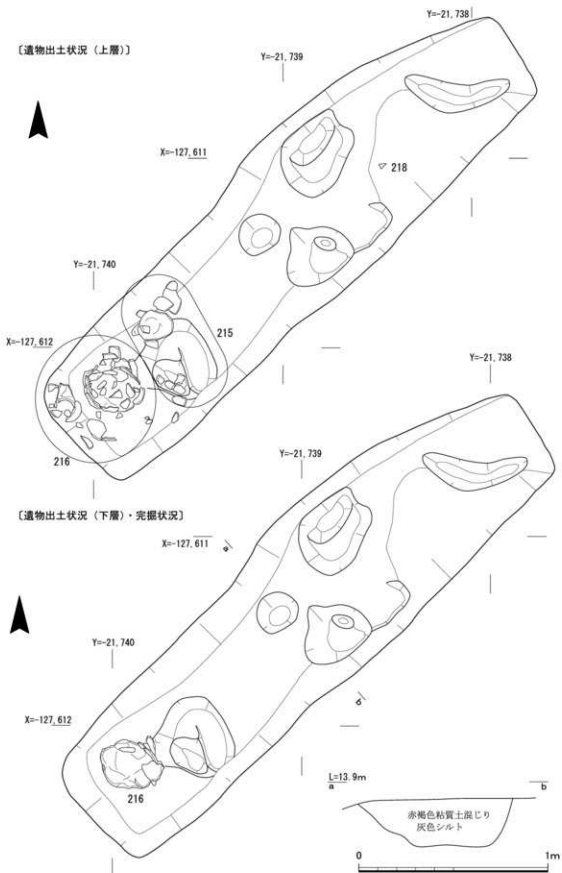
鳥畑6 (S X 17) 調査区を北へ拡張して検出した (E3-y10・y11区)。一般国道24号金尾交差点改良事業に伴い実施した発掘調査(下水主遺跡第2次調査)のB地区で検出されていた鳥畑の続きである。調査範囲は限られるが、東西方向の鳥畑と推定される。検出長2.6m、検出基部幅4.4m、上面検出幅3.8m、高さ0.5m前後である。鳥畑上面の標高はおよそ14.0mである。遺物は出土しなかった。

溝状遺構 S D 01 鳥畑26の東側で検出した (F3-h9・i9区ほか)。規模は検出長67.5m、最大検出幅9.3m、深さ0.7mである。遺物は堆積層から土師器片や短刀などが出土した(第111図217)。

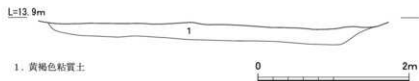
溝状遺構 S D 18 鳥畑6と鳥畑26の間で検出した (F3-a10・b10区ほか)。規模は検出長3.4m、



第108図 G地区鳥畑26実測図(1/200)



第109図 G地区溝S D07実測図(1/20)



第110図 G地区溝S D09土層断面図(1/50)

幅12.3m、深さ0.5mである。溝底の標高はおよそ13.5mである。遺物は出土しなかった。

②下層遺構(第106図右)

溝S D06 調査区の北部で検出した(F3-e10区ほか)。北西から南東に延びる。検出長3.8m、幅0.4m前後、深さ0.05m前後である。溝の方位は北に対して46°西に振る。溝の断面形は浅い「U」字状を呈する。遺物が出土していないため詳細な時期は不明である。下水主遺跡第2次調査B地区でもほぼ同じ方向の溝が検出されている。

溝S D07(第109図) 島畑26の北端部で検出した(F3-e10区ほか)。南西から北東への延びるが、検出範囲が狭いことや周辺で同方位の遺構がみられないことなどから土坑となる可能性もある。検出長3.1m、幅0.85m、深さ0.25mである。溝の方位は北に対して48°東に振る。断面形は逆台形を呈する。埋土は赤褐色粘質土混じりの灰色シルトの1層である。遺物は溝埋土からほぼ完全に復元できる弥生土器の壺2点や石鏃1点が出土した(第111図215・216・218)。土器は弥生時代後期後半に位置づけられる。後期の弥生土器で、これほど完形率の高いものが出土した例は、水主神社東遺跡や下水主遺跡ではほとんどない。

溝S D09(第110図) 島畑26の北部で検出した(F3-j10区・j11区)。北西から南西に延びる。検出長4.8m、幅4.4m、深さ0.25mである。遺構の方位は北に対して45°前後西に振る。断面は浅い逆台形状を呈する。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は縄文土器の細片が出土したことからその時期の可能性もあるが、断定はできない。

不明遺構S X 16 調査区の中央付近で検出した(F3-i10・j10区)。検出長3.4m、幅0.5～1.0mである。遺構の性格は不明であるが、風倒木痕である可能性もある。遺物は出土しなかったが、周辺から縄文土器片が出土したことからその時期のものと考えられる。

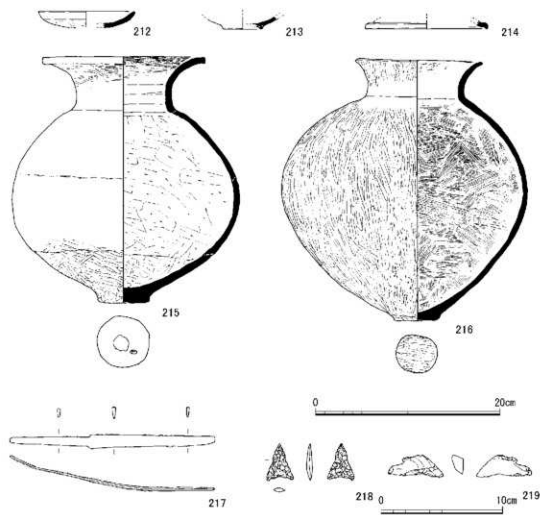
以上のほか、縄文時代の遺構は確認していないが、地山面直上で縄文土器が少量ながら出土した。調査地周辺では下水主遺跡第2次調査のB地区や同第9次調査のH地区の調査でも同時期の縄文土器が出土している。(戸原和人・筒井崇史)

(3)出土遺物(第111図)

G地区で出土した遺物は中世の土師器や瓦器、古代の須恵器、縄文土器などの細片や石器のほか、遺存状態の良い弥生土器2点が出土した。

①上層遺構出土遺物

211は土師器皿である。213は瓦器碗の底部である。ともに中世のものである。214は須恵器杯B蓋の口縁端部の破片である。奈良時代から平安時代のものであろう。217は短刀である。溝状遺構S D01の上層から出土したため、詳細な時期は不明である。土圧等のためやや曲がっている



第111図 G地区出土遺物実測図(212~217:1/4, 218・219:1/3)

が、全長22.2cm、刃部長13.5cm、刃部幅1.5cm、茎長8.7cmである。

②下層遺構出土遺物

215・216は鳥畑26の北端部で検出した溝S D07から出土した弥生土器である。215は広口壺で、大きく開く口縁部にやや下膨れ気味の体部をもち、体部下半が最大径となる。口縁部外面は面を有するが、無文である。底部は突出底で、外面に初敷の圧痕が認められた。胎土には2mm程度の石英や長石などの砂粒を含む。216は口縁部が外反気味の壺である。体部中位に最大径がみられ、底部はやや突出気味である。外面全体に縦方向のヘラミガキを施す。底部外面にもヘラミガキを施している。胎土には1~2mmの石英や長石、チャートなどの砂粒を含む。

218は215・216と同じく溝S D07から出土した石鏃である。サヌカイト製である。219は溝状遺構S D01の堆積土から出土した剥片である。サヌカイト製である。

(筒井崇史)

おわりに

本書は、新名神高速道路整備事業に伴う発掘調査報告書として、城陽JCT・IC(仮称)の建設に伴い調査を実施した水主神社東遺跡ならびに下水主遺跡の調査成果をまとめたものである。

先に報告した一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う発掘調査等の成果も加えると、城陽JCT・IC(仮称)建設予定地とその周辺の調査では、これまでに100基を越える鳥畑を検出している。調査からは、中世に形成された鳥畑が、今日の水田に代表される当該地域の景観形成に大きな役割を果たしてきたことが明らかになっている。

また、鳥畑形成以前には、縄文時代から古代にかけての遺構・遺物を検出している。これらは調査を実施した範囲に大きな偏りを持って分布しており、その分布の違いは遺跡周辺の景観を復元する上で重要な要素となるものであろう。

ただ、城陽JCT・IC(仮称)の建設に伴う両遺跡の調査成果は膨大なものとなり、そのすべてを1冊の報告書にまとめることはできないため、今後、数冊の報告書を刊行していく予定である。したがって、調査成果の検討とまとめについては、今後報告予定の分と合わせて改めて行うこととしたい。

(筒井崇史)

注1 平成20年度以降に調査に着手した新名神高速道路整備事業に伴い刊行した発掘調査報告書は以下の通りである。

- ①村田和弘・松尾史子「女谷横穴群第10・11次発掘調査報告」(「京都府遺跡調査報告集」第137冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2010
- ②引原茂治・松尾史子「女谷横穴群第11・12次発掘調査報告」(「京都府遺跡調査報告集」第142冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2011
- ③古川 匠「美濃山廃寺下層遺跡第8次発掘調査報告」(「京都府遺跡調査報告集」第148冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2012
- ④石井清司・伊野近富・筒井崇史・村田和弘・関広尚世・大高義寛「美濃山廃寺第6次・美濃山廃寺下層遺跡第9次発掘調査報告」(「京都府遺跡調査報告集」第154冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2013
- ⑤奈良康正・筒井崇史・山崎美輪「新名神高速道路整備事業関係遺跡平成23・24年度発掘調査報告 女谷・荒坂横穴群第13次調査」(「京都府遺跡調査報告集」第157冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2014
- ⑥村田和弘「新名神高速道路整備事業関係遺跡平成23・24年度発掘調査報告 荒坂遺跡第5次」(「京都府遺跡調査報告集」第157冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2014
- ⑦伊野近富・筒井崇史・村田和弘「新名神高速道路整備事業関係遺跡平成23～25年度発掘調査報告 門田遺跡第3～5次」(「京都府遺跡調査報告集」第161冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2015
- ⑧村田和弘・大高義寛「新名神高速道路整備事業関係遺跡平成23～25年度発掘調査報告 西村遺跡第2・3次」(「京都府遺跡調査報告集」第161冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)

2015

⑨筒井崇史・山崎美輪「新名神高速道路整備事業関係遺跡平成23～25年度発掘調査報告 向谷遺跡第3・4次」(『京都府遺跡調査報告集』第161冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)

2015

注2 下水主遺跡の範囲については京都府教育委員会が試掘調査を実施された。

①福島孝行「下水主遺跡」(『埋蔵文化財発掘調査報告 平成25年度』京都府教育委員会) 2014

②福島孝行「下水主遺跡第7次調査」(『埋蔵文化財発掘調査報告 平成26年度』京都府教育委員会) 2015

注3 京都府教育庁指導部文化財保護課編『京都府遺跡地図〔第3版〕〕第3分冊(2003)。なお、現在はインターネットで遺跡に関する情報が公開されている。

<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/select.asp>

注4 地理的環境の執筆にあたっては下記文献を参照した。

①平凡社編『日本歴史地名体系 26 京都府の地名』(平凡社 1981)

②『角川地名大辞典』編纂委員会編『角川日本地名大辞典 京都府』(角川書店 1982)

③城陽市史編さん委員会編『城陽市史』第1巻(城陽市 2002)

注5 歴史的環境の執筆にあたっては下記文献を参照した。

①城陽市史編さん委員会編『城陽市史』第1巻(城陽市 2002)

②城陽市史編さん委員会編『城陽市史』第3巻(城陽市 2002)

以上のほか、遺跡発掘調査報告書を参照したが、書名については割愛した。

注6 増田孝彦・岡崎研一・黒塚一樹・引原茂治・酒井健治「一般国道24号金尾交差点改良事業関係遺跡」(『京都府遺跡調査報告集』第163冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2015

注7 注6文献と同じ

注8 鳥畑の上面で検出されるこのような大規模な掘り込みについては「土坑状遺構」と名称を使用する。これは、このような遺構の名称を「溝状遺構」とすると、後述する鳥畑と鳥畑の間の「溝状遺構」と混同する恐れがあるためである。

注9 おもに古代(飛鳥・奈良・平安時代)の土器の器種名には、奈良文化財研究所が使用しているものを使用する(下記文献を参照)。

①小笠原好彦・西弘海・吉田恵二「土器」(奈良国立文化財研究所編『平城宮発掘調査報告VII(『奈良国立文化財研究所学報』第26冊)』1976

②安田龍太郎・眞淳一郎・沢田正昭「土器」(奈良国立文化財研究所編『平城宮発掘調査報告XI-第1次大極殿地域の調査-(『奈良国立文化財研究所学報』第40冊)』1981

③神野恵「土器類」(奈良文化財研究所編『平城宮発掘調査報告XVI-兵部省地区の調査-(『奈良文化財研究所学報』第70冊)』2005

注10 鳥畑の周囲には鳥畑よりも低く掘り込まれた部分は滞水するものの、流れがあるわけではないので「溝」という表現は適切ではない。しかし、形態的には溝に類似することから、本報告では「溝状遺構」という名称を使用する。また、溝状遺構の幅は鳥畑の斜面の落ち込みが始まる部分の間の長さとする。なお、「一般国道24号金尾交差点改良事業」の報告ではこの部分を「水田」として報告しているが「水田」であることを証明するため用排水路や取水口などの施設が未検出であることから、補作が行われていた可能性は残るものの、確実に水田とは言えないので、遺構名としての「水田」を使用しない。

注11 筒井崇史「下水主遺跡第6次(D3地区)・水主神社東遺跡第6次(B4区)」(『京都府埋蔵文化財情報』

第127号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2015

- 注12 注6文献参照。なお、「水田」という名称を使用しない点については注10を参照。
- 注13 古墳時代の須恵器杯身、並びに飛鳥時代の須恵器杯Hの口径については、杯蓋の口縁端部が当たる受け部の最も凹んだ所で計測した値で示すものとする。土器観察表についても同じである。この点については下記文献参照。
筒井崇史「飛鳥時代須恵器杯Hの地域性について」(『京都府埋蔵文化財論集』第5集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2006
- 注14 新名神高速道路整備事業に伴う城陽JCT・IC(仮称)の建設に伴い、一般国道24号に関してもいくつかの改良事業が計画されている。これに伴って、先述のように、平成24・25年度に一般国道24号金尾交差点改良事業に伴う発掘調査を実施したほか、平成27年度には一般国道24号城陽IC関連寺田地区改良事業に伴う発掘調査を実施している。前者についてはすでに報告済みである(注6文献)が、後者については今後報告予定である。
- 注15 筒井崇史「下水主遺跡第1・4・5次(A・B・C地区)」(『京都府埋蔵文化財情報』第125号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2015
B地区の調査で古墳時代前期の土器が多数出土した。なお、本情報刊行時点で京都府教育委員会による調査の次数を漏らしていたため、「5次」としているが、正しくは「6次」である。
- 注16 渡邊拓也「下水主遺跡第6次(I・J・K・L・M・N地区)」(『京都府埋蔵文化財情報』第126号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2015
L地区の調査で縄文時代晩期の土器が多数出土した。

付表5 出土土器観察表

水主神社東遺跡A地区

報告 番号	器 種		出土遺構		法 量			残存率	胎土	色調	焼成	技法上の特徴(調整)	備 考
	種類	器種	調査 区	遺構名 ・層名	口径	器高	底径						
1	瓦器	椀	A1	灰色粘土	/	(16)	-	1/12 以下	密	灰色 (N4-0)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ミガキ・ナデ、外面:ナデ	口縁部に沈線なし
2	須恵器	杯B	A1	灰色 粘質土	/	(11)	/	底 1/12 以下	密	灰色 (5Y6/1)	堅緻	内外面・高台貼り付け:回転ナデ、底 部外面:ナデ	
3	弥生 土器	甕	A1	褐色	/	(20)	64	底 15/12	やや 粗	内面:灰色 (N4-0) 外面: にぶい褐色 (2.5YR6/3)	良好	底部内外面:ユビオサエ・ナデ	内面に黒斑 あり
4	土師器	皿	A2	灰色砂	75	(15)	-	2/12	密	灰白色 (2.5Y8/2)	良好	口縁内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、 底部外面:ユビオサエ・ナデ	
5	瓦器	椀	A2	南壁 灰色粘土	/	(22)	-	1/12 以下	密	灰色 (N5-0)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:粗い ミガキ、外面:ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線あり
6	瓦器	椀	A2	北壁 黒 灰色シル ト・暗灰 色粘質土	/	(25)	-	1/12 以下	密	灰白色 (5Y8/1)	軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:粗い ミガキ・ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線あり
7	土師器	羽釜	A2	北壁 黒 灰色シル ト・暗灰 色粘質土	/	(12)	-	1/12 以下	やや 粗	灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ	
8	土師器	羽釜	A2	灰色砂	/	(20)	-	-	密	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	体部外面(脚):ヨコナデ、体部内面: ナデか	
9	白磁	椀	A3	SK06 6区	150	(16)	-	1/12	密	灰白色 (5Y7/2)	堅緻	口縁部内外面:回転ナデのち施軸	
10	瓦器	椀	A3	SK06 5区下層	/	(33)	/	1/12 以下	密	灰色 (N4-0)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:粗い ミガキ・ナデ、外面:ユビオサエ・ナ デ	口縁部に 沈線なし
11	瓦器	椀	A3	SK06 4区	126	(35)	/	2.5/12	密	灰色 (N4-0)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:粗い ミガキ・ナデ、口縁部外面:ミガキか、 外面:ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線なし
12	瓦器	椀	A3	SK06 4区	110	43	-	9/12	密	灰色 (N4-0)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:粗い ミガキ・ナデ、口縁部外面:ミガキか、 外面:ユビオサエ・ナデ	
13	瓦質 土器	三足 鍋	A3	SK06 5区	/	(126)	-	実測範 囲残存	密	灰白色 (N8-0)	良好	外面:緩方向のナデ	
14	土師器	羽釜	A3	SK06 5区中層	/	(22)	/	1/12 以下	密	にぶい 黄褐色 (10YR7/3)	良	口縁部内外面:ヨコナデ、体部内外面: ナデ	体部外面に 腐着
15	瓦器	椀	A3	SK07 5区	140	(36)	/	2.5/12	密	灰色 (N4-0)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、 外面:ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線あり
16	白磁	椀	A3	重機掘削	140	(23)	/	1.5/12	密	灰白色 (7.5Y8/1)	堅緻	口縁部内外面:回転ナデのち施軸	口縁部外面 に釉薬の剥 離部分あり
17	須恵器	杯B	A3	高畑27 掘削中	/	(24)	111	底 2/12	密	灰色 (N6-0)	堅緻	内外面・高台貼り付け:回転ナデ、底 部外面:ヘラ切り	
18	弥生 土器	鉢	A3	SD24	16.0	(6.5)	-	1/12	粗	灰黄色 (2.5Y6/2)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、頸部・体部 内面:ナデ、頸部・体部上半外面:ナデ、 体部外面下半:ハケ	体部下内 外面とも に黒斑あり
19	弥生 土器	甕	A3	SD24	/	(3.5)	2.6	底 12/12	粗	灰黄色 (2.5Y6/2)	良好	底部外面:ユビオサエ・ナデ・ハケ、 底部内面ナデのちハケ	体部外面に 黒斑
20	弥生 土器	甕	A3	SD02 最下層	/	(3.3)	5.2	底 3/12	粗	にぶい 黄褐色 (10YR7/3)	良好	底部外面:ケズリか、底部内面:ナデ か	全体に摩滅 著しい

新名神高速道路関係遺跡平成23～25年度発掘調査報告

21	弥生土器	甕	A3	烏畑29 基部内	/	(65)	-	1/12 以下	粗	にぶい 黄褐色 (10YR7/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデか、内外面：ナデ	摩滅が著しく調整は不明瞭
----	------	---	----	-------------	---	------	---	------------	---	-------------------------	----	---------------------	--------------

水主神社東遺跡B地区

報告書 番号	器種		出土遺構		法量			残存率	胎土	色調	焼成	技法上の特徴(調整)	備考
	種類	器種	調査区	遺構名・層名	口径	器高	底径						
27	青磁	椀	E2	南部 上面砂層	/	(4.4)	-	1/12 以下	密	灰オリーブ 色(5Y6/2)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデのち施釉	
28	白磁	椀	B1	最下層	/	(2.7)	6.4	2/12 弱	密	灰白色 (5Y7/2)	堅緻	底部内面：回転ナデのち施釉	高台削り出し
29	天目	茶碗	B1	包含層	11.6	(4.3)	-	1/12 強	密	黒褐色 (10YR3/1)	良好	内外面：回転ナデのち施釉	
30	土師器	皿	B1	包含層	9.8	(1.2)	-	1.5/12	密	褐色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	
31	須志器	杯身	B1	表探	/	(2.5)	-	1/12 以下	密	灰色(5Y6/1)	堅緻	内外面：回転ナデ	
32	天目	茶碗	E2	暗灰色 微砂	9.9	(3.0)	-	1/12	密	にぶい 黄褐色 (10YR4/3)	良好	内外面：回転ナデのち施釉	
33	天目か	窓小	E2	北部 上面砂層	7.8	(1.9)	-	1/12	密	褐色 (10YR4/4)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデのち施釉	
34	土師器	皿	E2	南部 上面砂層	6.4	1.6	-	2/12	密	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ナデ	口縁部に 採付着 (灯明器)
35	土師器	皿	E2	暗灰色 微砂	7.3	1.5	-	1.1/12 強	密	灰色 (2.5Y8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部内外 面に採付着 (灯明器)
36	土師器	皿	E2	排水溝	9.0	(1.9)	-	2/12	密	灰黄色 (2.5Y7/2)	良好	口縁部外面：ヨコナデ、内面：縦方向 ナデ、底部外面：ユビオサエ・ナデ	
37	土師器	皿	E2	包含層 上層	11.4	(1.7)	-	1/12	密	灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナ デ	
38	土師器	皿	E2	南部 包含層	/	1.0	-	1/12	密	灰黄 (2.5Y7/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ユビ オサエ・ナデ、底部外面：ナデ	
39	瓦器	椀	E2	南部 包含層	/	(2.7)	-	1/12 以下	密	黒灰色 (10YR3/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ミガキ 外面：ユビオサエ・ナデのちミガキ	
40	須志器	杯B	E2	包含層	/	(1.2)	9.8	底 1/12	密	灰白色 (2.5Y1/7)	良好	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底 部外面：ナデ	
41	須志器	鉢	E2	南部 排水溝	21.2	(3.3)	-	1/12	密	灰白色 (2.5Y7/1)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデ	
42	土師器	皿	B3	灰色 粘質土	/	(2.2)	-	1/12 以下	密	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 採付着 (灯明器)
43	土師器	皿	B3	暗褐色 シルト	8.0	(1.2)	-	1/12 強	密	浅黄色 (2.5Y8/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	
44	土師器	皿	B3	烏畑30 掘削中	9.0	1.8	-	完形	密	灰黄色 (2.5Y7/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 採付着 (灯明器)
45	土師器	皿	B3	烏畑30 掘削中	8.7	1.5	-	完形	密	灰黄色 (2.5Y7/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 採付着 (灯明器)
46	土師器	甕/ 鍋	B3	灰色砂層	/	(2.1)	-	1/12 以下	密	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、体部内面： ナデ	
47	瓦器	椀	E2	灰-赤褐 色砂	/	(2.1)	-	1/12 以下	密	オリーブ黒 色(7.5Y3/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ミガキ ナデ、外面：ナデ	
48	須志器	杯B 蓋	B3	SD06	14.8	(0.9)	-	1/12	密	灰白色 (7.5Y7/1)	堅緻	内面・口縁部外面：回転ナデ、頂部外面： 回転ヘラケズリ	

49	須恵器か	ミニチュア土器	E3	暗褐色シルト	30	(21)	-	2/12	やや密	灰白色(5Y7/1)	やや軟	内外面：回転ナデ	
----	------	---------	----	--------	----	------	---	------	-----	------------	-----	----------	--

水主神社東遺跡C地区

報告番号	器種		出土遺構調査区・層名	法量			残存率	胎土	色調	焼成	技法上の特徴(調整)	備考	
	種類	器種		口径	器高	底径							
50	土師器	高杯	C1	高畑17上面	/	(6.9)	/	実面鏡面共存	やや粗	灰白色(2.5Y8/1)	やや軟	脚柱部外面：ユビオサエ・ナデ、脚柱部上半：不調整、脚柱部内面下半：ナデ	摩滅により調整不明瞭
51	瓦器	椀	C1	高畑18SD326	/	(3.5)	/	1/12弱	密	内面：灰色(N4/0) 外面：暗灰色(N3/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に沈線なし
52	瓦器	椀	C1	高畑18SD326	15.4	(3.0)	/	1/12強	密	灰色(N4/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に沈線なし
53	土師器	杯	C1	高畑18SD308	13.8	(2.6)	-	3/12弱	粗	外面： にぶい・橙色(7.5YR7/4) 内面： 浅黄褐色(7.5YR8/4)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	
54	土師器	椀か	C1	高畑18SD311	/	(3.0)	-	1/12以下	密	褐色(7.5YR6/8)	良好	摩滅により調整不明	
55	弥生土器	甕	C1	高畑18SD311	/	(2.9)	6.6	2/12	粗	内面：灰白色(10YR8/2) 外面： にぶい・橙色(7.5YR7/4) 底部：黒色(2.5Y2/1)	良好	摩滅により調整不明	
56	弥生土器/土師器	高杯か	C1	高畑18SD311	/	(3.2)	/	1/12以下	やや粗	外面：褐色(5YR 6/8) 内面：褐色(7.5YR 7.6)	良好	杯口縁部内外面：ヨコナデ	
57	土師器	皿	C1	高畑19SD314	8.0	(1.3)	-	1/12強	密	灰白色(2.5Y8/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ	
58	土師器	皿	C1	高畑19SD314	8.8	(1.1)	-	2/12	密	外面底部： にぶい・橙色(7/4)、内面： にぶい・褐色(7.5YR7/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、底部内外面：ナデ	
59	瓦器	椀	C1	高畑19西側	11.9	(3.0)	/	1/12	密	黒色(7.5Y2/1) 口縁部内面：灰白色(N8/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に沈線なし
60	瓦器	椀	C1	高畑19SD318	/	(0.9)	5.0	2/12弱	密	内面：灰白色(N7/0) 外面：暗灰色(N3/0)	良好	底部内外面：ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
61	須恵器	杯A/B	C1	高畑19SD314	15.0	(3.2)	/	1/12		灰色(N6/0)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデ	
62	天目	茶碗	C1	高畑20北側	12.0	(3.5)	/	1/12強	密	黒色(2.5Y2/1)	堅緻	内外面：回転ナデ	
63	瓦器	椀	C1	高畑20SD316	/	(2.2)	4.9	4/12強	密	灰色(N4/0)	良好	内面：ナデのちミガキ、外面：ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
64	土師器	皿	C1	高畑20	10.0	(1.7)	-	2/12弱	密	明黄褐色(10YR6/6)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ	
65	土師器	皿	C1	高畑20	10.0	(1.5)	-	1/12	密	にぶい黄褐色(10YR7/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ	

66	須忠器	杯身	C1	高畑20 SD317	/	(31)	-	実測範囲 残存	密	灰色 (N6/0)	堅緻	内外面：回転ナデ、底部外面へラ切り後不調整	
67	須忠器	杯身	C1	高畑20	/	(27)	-	実測範囲 残存	密	灰白色 (5Y7/1)	堅緻	内外面：回転ナデ、底部外面：回転ヘラケズリ	
68	瓦か	平瓦か	C1	高畑20 精査	-	-	-	細片	密	灰色 (5Y5/1)	堅	凸面：横方向のナデ、凹面：ナデ	
69	弥生土器	甕	C1	SD500	228	(20)	-	1/12 以下	粗	内面： 浅黄褐色 (10YR8/3) 外面：にぶ い黄褐色 (10YR4/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ	
70	白磁	皿	C1	SD501 中層	/	(12)	5.0	5/12	密	灰白色 (10Y9/1)	堅緻	底部内面：回転ナデのち施軸、底部外面：	
71	土師器	脚台 付皿	C1	SD501 精査	/	(24)	7.6	2/12 弱	密	浅黄褐色 (10YR8/4)	良好	底部内外面：ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
72	瓦器	椀	C1	SD501 精査	132	(34)	/	2/12	密	灰色 (N4/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのち粗いミガキ、外面：エビオサエ・ナデ	
73	青磁	椀	C1	SD502 中層	127	(43)	/	1.5/12	密	オリーブ灰色 (10Y6/2)	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
74	白磁	椀	C1	SD503 精査	/	(25)	7.6	1/12 強	密	内面：灰白 色(10Y8/1)、 外面：灰白 色(5Y8/1)	良好	底部内面：回転ナデのち施軸、底部外面：回転ヘラケズリ	高台削り出し
75	土師器	羽釜 か	C1	SD503	/	(33)	-	1/12 以下	密	内面：淡黄色 (2.5Y8/3)、 外面： 灰黄褐色 (10YR4/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、体部外面(脚)：ナデ、体部内面：ナデ	
76	瓦質土器	甕	C1	SD503 灰色土	/	(54)	-	1/12 以下	粗	内面：黒色 (7.5Y2/1) 外面：黒色 (5Y2/1)	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ	
77	土師器	甕小	C1	SK333	/	27	-	把手のみ	粗	灰白色 (10YR8/1)	良好	把手外面：エビオサエ・ナデ、体部内面：エビオサエ・ハケ	
78	須忠器	椀小	C1	SK333	128	(56)	-	2/12 強	やや粗	灰白色 (2.5Y7/1) 外面：部分的に 灰色 (5Y6/1)	良好	内外面：回転ナデ、底部外面：へラ切り後不調整	
79	須忠器	鉢	C1	SK333	/	(63)	-	1/12	密	青灰色 (5B5/1)	堅緻	内外面：回転ナデ	
80	瓦器	椀	C1	精査	/	(23)	/	1/12 以下	密	暗灰色 (N3/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ナデ	口縁端部に沈線あり
81	土師器	羽釜	C1	重機掘削	18.0	(22)	-	1/12 強	粗	灰白色 (10YR 8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ	
82	弥生土器か	甕	C1	重機掘削	/	(19)	-	1/12 以下	密	灰白色 (10YR8/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ	口縁端部外面に煤付着
83	瓦質土器	鉢	C2	辨土	/	(68)	-	1/12 弱	粗	内面：暗灰色 (N3/0) 外面：灰色 (7.5Y6/1)	堅緻	口縁端部・口縁部内面：ヨコナデ、口縁部外面：ヨコナデのちハケ、外面：ハケのちナデ、内面：ナデ	
84	土師器	広口 壺	C1	SD337	17.4	(43)	-	2/12 弱	粗	灰白色 (10YR8/1)	良好	口縁端部外面：ヨコナデ、口縁部・頸部外面：ナデ、口縁部・頸部内面：ヨコナデか	
85	土師器	甕	C1	SD337	11.8	(44)	-	2/12	やや粗	内面： 明褐色 (7.5YR7/2) 外面： 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	軟	摩滅により調整不明(口縁部内外面：ヨコナデか)	

86	土師器	甕	C1	SD337	/	(41)	-	1/12 以下	粗	内面：灰白色 (10YR8/1) 外面： 明褐色 (5YR7/2)	良好	摩滅により調整不明（口縁部内外面： ヨコナデか）	
87	土師器	甕	C1	SD337	15.8	(4.8)	-	1/12 強	やや 粗	灰白色 (10YR8/2)	軟	口縁部内外面：ヨコナデか、体部外面： タタキ、体部内面ケズリか	
88	弥生 土器	甕	C1	SD337	18.0	(13.6)	-	2/12 弱	粗	内面：灰白色 (10YR8/2) 外面： 浅黄褐色 (10YR8/4)	良好	口縁部：ヨコナデ、口縁部外面ハケ のちヨコナデ、体部外面：タタキのち ハケ、口縁部・体部内面：ハケ	
89	土師器	甕	C1	SD337	14.8	(2.5)	-	1/12 強	粗	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	やや 軟	口縁部内外面：ヨコナデ	
90	土師器	二重 口縁 甕	C1	SD381	18.8	(6.3)	-	6/12 弱	密	灰白色 (2.5Y8/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ケズ リか、外面：ナデか	
91	土師器	小型 丸底 土器	C1	SD381	/	(2.5)	-	1/12 以下	やや 粗	灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部外面：ヨコナデ、口縁部内面： ハケ・ヨコナデ	
92	土師器	小型 丸底 土器	C1	SD381	/	(5.6)	-	全体 の 3/12	粗	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	良好	摩滅により調整不明	
93	土師器	甕	C1	SD381	/	(2.6)	-	1/12 以下	粗	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	摩滅により調整不明（口縁部内外面： ヨコナデか）	
94	土師器	甕	C1	SD381	/	(3.7)	-	1/12 以下	粗	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ	
95	土師器	甕	C1	SD381	/	(6.5)	/	1/12 以下	粗	口縁部： 灰白色 (10YR7/1) 体部： 灰黄褐色 (10YR5/2)	良好	口縁部外面：ヨコナデ、体部外面：ハ ケ（部分的にナデ）、口縁部内面：ハケ、 体部内面上半：ケズリ、体部内面下半： ナデ	
96	土師器	高杯 か	C1	SD381	/	(3.6)	-	1/12 以下	粗	灰白色 (10YR8/2)	良好	摩滅により調整不明（内面：ナデか）	
97	土師器	高杯	C1	SD381	/	(2.4)	/	実測範 囲残存	粗	外面： 灰黄褐色 (10YR6/2) 内面：灰白 色（2.5Y8/2）	良好	杯底部内面：ナデ、杯口縁部：ヨコナ デ、杯底部外面：ハケ、脚柱結合部外面： ナデ	
98	土師器	高杯	C1	SD381	/	(6.8)	/	脚柱部 2/3程 度	密	にぶい 褐色 (7.5Y7/4)	良好	脚柱部外面：面取り、脚柱部外面：ヨ コナデ、脚柱部内面：ユビオサエ・ナ デ	
99	土師器	高杯	C1	SD381	/	(2.7)	17.0	3/12 弱	粗	にぶい 褐色 (7.5Y7/4)	良好	摩滅により調整不明（脚柱部：ヨコナ デか）	
107	青磁	椀	C2	高畑7 精査	/	(2.9)	/	1/12 弱	密	灰色 (10Y6/1)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデの施軸	
108	須恵器	鉢	C2	高畑7 SR201	/	(2.8)	-	1/12 以下	やや 粗	灰色 (7.5Y6/1)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデ	
109	瓦器	椀	C2	高畑21 西側層部	11.8	(2.6)	/	1/12 強	密	黒色 (7.5Y2/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ のちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	
110	土師器	杯	C2	高畑21 精査	9.0	(2.1)	/	1/12	密	浅黄褐色 (10YR8/4) 底部外面： 浅黄褐色 (7.5YR8/6)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ	
111	須恵器	鉢	C2	高畑21 精査	/	(3.9)	-	1/12 以下	密	灰色 (10Y6/1) 口縁部外面： 灰色（N5/0）	堅緻	口縁部内外面：回転ナデ	
112	灰釉 陶器小	椀	C2	高畑21 北西側 層部	/	(2.0)	4.8	3/12	密	外面：灰色 (5Y6/1)、 内面：灰 オリーブ色 (7.5Y5/3)	堅緻	底部内面：回転ナデ、底部外面：回転 ヘラケズリ	底部を高台 状に削り出 す

113	須忠器	杯B	C2	高畑21 精査	/	(14)	90	2/12	密	明青灰色 (5BG7/1)	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底部外面：ヘラ切り後ナデか	
114	土師器	皿	C2	高畑22	73	08	-	6/12 強	粗	浅黄褐色 (10YR8/4)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ	
115	土師器	皿	C2	高畑22 南側精査	/	(21)	-	1/12 以下	やや粗	内面：にぶい黄褐色 (10YR6/3) 外面：にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデか、外面：ナデ	口縁部に 残付着
116	瓦器	椀	C2	高畑22 北側精査	/	(08)	38	3/12 (高台)	やや粗	灰色 (N4-0)	良好	底部内外面：ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
117	須忠器	杯A	C2	高畑22 南側精査	140	(32)	-	1/12	密	灰白色 (N7-0)	堅緻	内外面：回転ナデ、底部外面：ヘラ切り後ナデ	
118	土師器	皿	C2	高畑23 SD387	90	(12)	-	15/12	やや粗	褐灰色 (10YR6/1) 底部外面：にぶい黄褐色 (10YR6/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、底部外面：ナデか	
119	瓦器	椀	C2	高畑24 SD400	120	(35)	/	1/12 強	密	黒色 (10Y2/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのち粗いミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	
120	須忠器	杯B	C2	高畑24 精査	/	(17)	96	2/12 弱	密	灰色 (N5-0)	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底部外面：ヘラ切り後ナデ	
121	瓦器	椀	C2	SD506 掘削	128	34	54	1/12	密	オリーブ黒色 (7.5Y3/1)	良好	口縁部内外面・高台貼り付け：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	
122	瓦器	椀	C2	SD506 掘削	130	(29)	/	1/12 強	密	灰色 (5Y4/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈没なし
123	瓦器	椀	C2	SD506 中層	130	(27)	/	1/12	密	黒色 (7.5Y2/1) 口縁部内外面：灰白色 (2.5Y8/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈没なし
124	須忠器	杯身	C2	SD506 下層	144	(27)	-	1/12	密	灰色 (N6-0)	堅緻	内外面：回転ナデ	
125	土師器	皿	C2	SD507 精査	72	(085)	-	3/12 弱	密	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ	
126	土師器	羽釜	C2	SD507 精査	/	(38)	-	胴の一部のみ 残存	やや粗	灰白色 (2.5Y8/2)	良好	体部外面(胴)：ヨコナデ、体部内面：ユビオサエ・ナデ	
127	瓦器	椀	C2	SD507 精査	128	(24)	/	1/12 強	密	オリーブ黒色 (7.5Y3/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	
128	瓦器	椀	C2	SD507	/	(34)	/	1/12 以下	密	暗灰色 (N3-0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ	
129	土師器	皿	C2	SD419	/	(15)	-	1/12 弱	密	浅黄褐色 (10YR8/4)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、底部外面：ユビオサエ・ナデ	
130	瓦器	椀	C2	SD417	110	(19)	/	1/12 強	やや粗	灰白色 (2.5Y8/1)	軟	口縁部内外面：ヨコナデ	
131	土師器	皿	C2	SD415	71	(12)	-	1/12 強	密	灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、底部外面：ユビオサエ・ナデ	
132	瓦器	椀	C2	SD415	/	(11)	/	3/12	密	暗灰色 (N4-0)	良好	高台貼り付け時：ヨコナデ、内面：ナデ	全体に摩滅 気味
133	土師器	皿	C2	SD415	102	(18)	-	1/12 強	やや粗	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、底部外面：ユビオサエ・ナデ	
134	瓦器	椀	C2	SD415	/	(23)	/	1/12 以下	密	暗灰色 (N3-0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ミガキ、外面：ナデ	
135	青磁	椀小	C2	SD415	/	(21)	54	4/12	精良	オリーブ 灰色 (2.5G16/1)	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉	崩出し高 台
136	土師器	杯小	C2	SP423	/	(24)	-	1/12	密	灰白色 (2.5Y8/1)	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデか、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ	

137	土師器	高杯	C2	SK395	166	(42)	2/12		密	褐色 (5YR6/8)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ	杯部内面に 放射状暗文 あり
138	土師器	杯	C2	SK395	/	(36)	-	1/12 以下	密	内面：灰白色 (10YR8/2)、 外面： 浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ	杯部内面に 放射状暗文 あり
139	須恵器	杯身	C2	SK410	116	40	-	定形	やや粗	灰白色 (2.5Y7/1)	良好	内外面：回転ナデ、底部外面回転ヘラ ケズリ	
140	土師器	把手 つき 壺	C2	SK410	/	(95)	-	頸部 2/12 強	やや粗	灰白色 (10YR8/1)	良好	体部外面ハケ(把手周辺ユビオサエ・ ナデ)、体部内面はけのちケズリ	
141	弥生 土器	壺	C2	SD407	/	(10)	/	2/12 弱	粗	灰白色 (10YR8/3)	良好	摩滅により調整不明(内外面ともナデ か)	
142	白磁	椀	C2	重機掘削	160	(35)	/	2/12 弱	密	灰白色 (7.5Y8/1)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデのち施軸	
143	青磁	椀	C2	重機掘削	/	(50)	/	1/12 強	密	緑灰色 (7.5GY6/1)	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
144	天目	茶椀	C2	南壁 掘削中	/	(38)	/		密	黒褐色 (10YR2/2)	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
145	天目	茶椀	C2	重機掘削	/	(33)	34	6/12 強	密	内面：黒色 (10YR1.7/1) 外面：黒褐色 (10YR2/1)	良好	内外面：回転ナデのち施軸、底部外面： 回転ヘラケズリ	削り出し高 台
146	土師器	皿	C2	重機掘削	86	215	-	3/12	密	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ	
147	土師器	皿	C2	重機掘削	75	(18)	-	4/12	密	褐色 (7.5YR7/6)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデか、 外面：ユビオサエ・ナデ	
148	土師器	羽釜	C2	西壁排水 溝掘削	/	(17)	-	1/12 以下	やや粗	灰白色 (2.5Y8/2)	良好	内外面：回転ナデのち施軸、底部外面： 回転ヘラケズリ	削り出し高 台
149	瓦質 土器	羽釜	C2	精査中	/	(35)	-	1/12 以下	やや粗	内面：暗灰色 (N3.0)、 外面：黒色 (N2.0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、口縁部・ 体部内面：ハケか	
150	瓦質 土器	三足 鍋	C2	西壁排水 溝掘削	/	(121)	-		やや粗	灰白色 (2.5Y8/1)	良好	外面：縦方向のナデ	
151	瓦質 土器	脚	C2	重機掘削	/	(755)	126	2/12 弱	密	黒褐色(3/1)	良好	脚部外面：縦方向のミガキ、脚部内面 上半：不調整、脚部内面下半：横方向 のミガキか	
152	陶器	椀小	C2	重機掘削	110	(44)	/	1/12 強	密	褐色 (7.5YR4/4) 灰白色 (10YR8/2)	良好	内外面：回転ナデのち施軸	
153	陶磁器	椀	C2	重機掘削	106	(49)	/	2/12	密	明緑灰色 (7.5GY8/1)	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	肥前陶磁・ 伊万里か
154	須恵器	壺小	C2	北壁精査	73	(16)	-	2/12	密	灰白色 (5Y7/1)	やや軟	口縁部内外面：回転ナデか	変帯は貼付 け
155	須恵器	杯B	C2	重機掘削	/	(27)	94	2/12 弱	密	灰白色 (N7.0)	良好	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底 部外面：ヘラケズリか	
156	須恵器	杯B	C2	重機掘削	/	(18)	124	1/12	密	灰白色 (2.5Y7/1)	良好	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底 部外面：ヘラ切り後ナデか	

下水主遺跡D地区

報告 番号	器種		出土遺構		法量			残存率	胎土	色調	焼成	技法上の特徴(調整)	備考
	種類	器種	調査 区	遺構名・ 層位	口径	器高	底径						
161	瓦器	椀	D1	SD19	/	12	/	底 1/12 以下	密	灰色 (N4.0)	良好	底部内面・底部外面：ナデ、高台貼り 付け：ヨコナデ	底部内面に 暗文あり

新名神高速道路関係遺跡平成23～25年度発掘調査報告

162	土師器	皿	D1	表採	82	(16)	-	1.5/12	密	灰白色 (25Y8/2)	良好	口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面エビオサエ・ナデ	
163	須恵器	片口鉢	D1	SD15	/	(55)	-	1/12 以下	密	灰色 (N6-0)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデ	
164	土師器	杯C か	D1	中央 サブトレ 下層	152	(30)	-	1/12 強	密	褐色 (7.5YR6/8)	良好	口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面ナデか	摩滅気味のため高整不明瞭
165	須恵器	杯B 蓋	D1	中央 サブトレ 下層	158	08	-	1/12	密	灰白色 (N7-0)	堅緻	内面・口縁部外面：回転ナデ、頂部外面：ヘラ切り後ナデか	
166	須恵器	杯B	D1	拡張区 区合層	/	(11)	11.7	底 1/12 強	密	灰白色 (N7-0)	堅緻	底部内面・高台貼り付け：回転ナデ、底部外面：ヘラ切り後ナデ	
167	土師器	皿	D2	高須43 精査	86	08	-	2/12	密	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、外面：エビオサエ・ナデ	
168	瓦器	椀	D2	高須43 精査	/	(09)	5.4	底部 3/12	密	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	底部外面・内面：ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
169	瓦器	椀	D2	SD13	/	(13)	4.6	3/12	密	灰白色 (5Y8/1)	良好	底部外面：エビオサエ・ナデ、内面：ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	底部内面に 暗文あり
170	瓦器	椀	D2	SD05	124	(24)	-	1/12	密	灰白色 (5Y8/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面ナデか、外面：エビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線なし
171	土師器	羽釜	D2	SD01 南壁精査	/	(39)	-	跨部径 1.5/12	密	暗灰色 (N3-0)	良好	体部外面（跨）：ヨコナデ、体部内面ハケのちナデ	跨の下半部に 煤着
172	灰釉 陶器	皿	D2	北壁 精査	105	25	4.9	1.5/12	密	灰白色 (5Y7/1) 釉：オリーブ 黄色(5Y6/4)	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉、底部外面：糸切り	底部内面に 磨痕あり
173	須恵器	平飯	D2	SD30	160	(106)	/	底部： 完存、 口縁： なし	密	外面：灰色 (N5-0) 内面：にぶ い赤褐色 (10YR6/4)	堅緻	体部内外面・底部内面：回転ナデ、底部外面回転ヘラナズリ	底部内面に 灰が付着
174	弥生 土器	壺か	D2	高須41 上面精査	/	(22)	-	1/12 弱	やや 粗	にぶ い黄褐色 (10YR7/3)	良好	口縁部内面・口縁端部内外面：ヨコナデ、口縁部外面：ナデ	
175	弥生 土器	壺/ 鉢	D2	高須44 上面精査	/	(36)	-	5/12	やや 粗	内面： 灰黄褐色 (10YR7/3) 外面： にぶい褐色 (7.5YR6/4)	良好	体部下半外面：ハケ、底部外面エビオサエ・ナデ、底部内面：ナデか（工具痕あり）	底部外面に 磨痕あり
176	弥生 土器	壺	D2	高須42 上面精査	/	/	-	破片	やや 粗	灰黄褐色 (10YR7/3)	良好	体部外面：タタキ、体部内面：ハケ	
177	弥生 土器	有孔 鉢	D2	下層 遺構面	/	(84)	-	底 3/12	粗	灰白色 (2.5Y7/1)	良好	体部下半外面：ナデ、底部外面：エビオサエ・ナデ、体部・底部内面：ナデ	
191	土師器	皿	D5	SD01	71	(19)	-	2/12	密	灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、底部内面：ナデ、底部外面：エビオサエ・ナデ	
192	土師器	椀/ 皿	D5	SD01 断ち割り	/	(15)	/	底 1/12 以下	密	にぶ い黄褐色 (10YR7/3)	良好	底部内面ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
193	須恵器	杯B	D5	SD01 断ち割り	/	(17)	10.4	底 2.5/12	密	内面：灰色 (N6-0) 外面：灰色 (N4-0)	堅緻	底部内面・高台貼り付け：回転ナデ、底部外面：ヘラ切り後ナデ	
194	須恵器	杯身	D6	東壁	/	(22)	-	1/12 以下	密	灰白色 (N7-0)	堅緻	内外面：回転ナデ	

下水主遺跡E地区

報告 番号	器 種		出土遺構 調査区	法 量			残存率	胎土	色調	焼成	技法上の特徴(調整)	備 考	
	種類	器種		遺構名・ 層位	口径	器高							底径
195	土師器	皿	E1	南部精査	67	(15)	-	4/12	密	内面： 暗褐色 (75YR 7/2) 外面： にぶい褐色 (5YR6/3)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデか、 底部外面：ナデ	口縁部に 窪み付着 (打明器)
196	土師器	皿	E1	SD03 灰色粘土	72	(09)	-	1/12	密	にぶい褐色 (7.5YR 7/4) - 灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデか、 底部外面：ユビオサエ・ナデ	摩滅気味の ための調整は 不明瞭
197	瓦器	椀	E1	SD03 灰色粘土	130	(23)	/	1/12	密	暗灰色 (N3/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデか、 外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線あり
198	瓦器	椀	E1	SD5	129	(26)	/	1/12 強	密	暗灰色 (N3/0)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ	口縁部に 沈線あり
199	土師器	高杯	E1	南東角 排水溝	/	(40)	/	底 1/12 以下	やや 粗	灰白色 (2.5Y8/1)	良好	摩滅のため調整不明	
200	天目	茶碗	E2	現地表 - 09m	118	(27)	/	1/12	密	にぶい 黄褐色 (10YR4/3)	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉	
201	須恵器	鉢	E2	南西角 白灰色砂	/	(34)	-	1/12 以下	密	内面：灰色 (N6/0) 外面：オリ - ア黒色 (7.5Y2/2)	堅緻	口縁部内外面：回転ナデ	
202	土師器	甕	E2	南西角 白灰色砂	/	(20)	-	1/12 以下	やや 粗	内面：にぶ い黄褐色 (10YR7/3) 外面：にぶ い黄褐色 (10YR5/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ。口縁部内面： 摩滅のため調整不明瞭	
204	緑釉 陶器小	椀	E3・ E4	表探	/	(19)	62	底 8/12	密	灰白色 (5GY8/1)	堅緻	底部内外面：回転ナデ、底部外面：割 り出し高台	釉薬は残存 しない
205	須恵器	杯B 蓋	E3・ E4	北壁精査	/	(15)	-	1/12 強	密	灰色 (N6/0)	堅緻	内面・口縁部外面：回転ナデ、頂部外面： ヘラ切り	
206	瓦質 土器	火鉢	E3・ E4	北壁精査	/	(74)	/	1/12 弱	密	灰白色 (2.5Y8/2)	良好	内外面：回転ナデ	口縁部外面 に文様帯あ り
207	土師器	羽釜	E5	SD02	/	(20)	-	1/12 以下	やや 粗	灰白色 (10YR8/2)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ	
208	瓦器	椀	E6	SD02 断ち割り	118	36	5.6	4.5/12	密	内面：灰白 色 (N8/0) 外面：灰色 (N4/0)	良好	口縁部内外面ヨコナデ、内面黒いミガ キ・ナデ、外面ユビオサエ・ナデ、底 部外面ナデ、高台貼り付け：ヨコナデ	
209	土師器	皿	E8	壁面精査	103	(17)	-	1/12 強	密	にぶい 黄褐色 (10YR7/3)	良好	口縁部内外面：内面：やや丁寧なナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ	
210	土師器	皿	E8	鳥畑S3 精査	/	(17)	-	1/12 弱	密	内面：にぶ い黄褐色 (10YR6/3) 外面：暗灰色 (10YR4/1)	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、底部内面： ナデ、底部外面：ユビオサエ・ナデ	
211	瓦器	椀	E8	SD06	/	(11)	5.0	底 2/12	密	灰色 (N4/0)	良好	底部内外面ナデ、高台貼り付け：ヨコ ナデ	

下水主遺跡 G 地区

報告番号	器種		出土遺構		法量			残存率	胎土	色調	焼成	技法上の特徴(調整)	備考
	種類	器種	調査区	遺構名・層位	口径	器高	底径						
212	土師器	皿	G	鳥畑26 断ち残り	103	(1.8)	-	1/12	密	浅黄色 (25Y7/3)	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、 底部外面:ユビオサエ・ナデ	
213	瓦器	椀	G	鳥畑26 SD04	/	(1.4)	4.0	3/12	密	灰白色 (5Y7/1)	良好	高台貼り付け時:ヨコナデ、内面:ナデ、 外面:ユビオサエナデ	
214	須恵器	杯B 蓋	G	鳥畑26 SD03	132	1.0	-	1/12	密	灰色 (2.5Y7/1)	堅緻	口縁端部内外面:回転ナデ	
215	弥生土器	広口 甕	G	SD07	17.4	26.7	4.8	11/12 底 12/12	やや 密	にぶい・橙色 (10YR7/3)	良好	口縁部内外面:ミガキ、体部上半~中 位付近外面:摩滅のための調整不可、 体部下半~底部外面:ミガキ、胴部内面: ナデ、体部~底部内面:ケズリ	口縁部内面・ 底部外面に 黒染あり
216	弥生土器	甕	G	SD07	13.3	28.4	3.9	4/12 底 12/12	やや 粗	にぶい・橙色 (7.5YR7/4)	良好	口縁部外面:ヨコナデのちミガキ、口 縁部内面ヨコナデのちハケ、体部~底 部外面:ミガキ、体部~底部内面:ハ ケ	体部内面・ 底部外面に 黒染あり

付表6 出土石器観察表

報告番号	種類・器種	出土地区	出土遺構	法量			
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
25	剥片	A3	鳥畑28 最下層	5.5	7.7	1.0	439
26	石鏃	A3	SK06 5区	3.7	2.5	0.6	
158	石包丁	C2	鳥畑24 上面	(9.2)	4.5	0.5	35.9
159	石槍か	C2	鳥畑24 層部	11.4	3.6	1.4	58.1
160	石鏃	C2	鳥畑22 北側	2.9	1.2	0.8	1.1
186	磨製石斧	D2	下層遺構面	(10.9)	5.2	3.9	
187	剥片	D2	下層遺構面	4.0	2.4	0.8	6.2
188	石鏃	D2	SX41	2.7	2.1	0.5	1.9
189	石鏃	D2	調査区西壁	3.5	2.3	0.5	2.6
190	石鏃	D2	SX41	(4.3)	2.9	0.6	3.5
218	石鏃	G地区	SD07	3.0	2.2	0.5	1.6
219	剥片	G地区	SD01	1.9	4.5	1.0	6.4

付表7 縄文土器観察表

報告番号	地区名	出土地点	器種	色調 (外面・内面)	胎土	焼成	大きさ	口縁部調整	凸帯位置	凸帯形状	凸帯筋 み目形状	備考
23	A3	SD02 最下層	浅鉢 か	茶褐色 / 茶褐色	1～3mm 白色粒、 無色透明粒、 3mm 赤色粒	良好	タテ 5.5cm ヨコ 8.1cm 厚さ 0.75cm					斜め方向のケズリ後、金網が編み込まれている
24	A3	SD02 最下層	深鉢	茶褐色 / 茶褐色	2～3mm 白色粒、 1～2mm 黒色粒	良好	タテ 8.0cm ヨコ 10.0cm 厚さ 0.9cm	ヨコナデ	直口縁	下向き		長原式
100	C1	鳥畑 17 直上	深鉢	茶褐色 / 茶褐色	2～3mm 白色粒、 2～4mm 茶色粒、 黒色細粒	良好	タテ 6.7cm ヨコ 8.5cm 厚さ 0.7cm	ナデあげ	直口縁	下向き	D 字	長原式
101	C1	鳥畑 17 直上	深鉢	暗褐色 / 褐色	2～3mm 白色粒、 1～2mm 黒色粒、 黒色細粒	良好	タテ 6.0cm ヨコ 4.8cm 厚さ 0.6cm	ヨコナデ	直口縁	下向き	D 字	長原式
102	C1	鳥畑 17 直上	深鉢	淡褐色 / 淡褐色	2～3mm 白色粒、 黒色粒	良好	タテ 3.6cm ヨコ 3.5cm 厚さ 0.6cm	ヨコナデ	直口縁	下向き	細長い O 字	長原式
103	C1	鳥畑 17 直上	深鉢	褐色 / 褐色	2～3mm 白色粒、 2mm 黒色粒	良好	タテ 3.4cm ヨコ 3.5cm 厚さ 0.5cm	ヨコナデ	直口縁	下向き	小 D 字	長原式
104	C1	鳥畑 17 直上	深鉢	暗褐色 / 淡褐色	5mm～7mm 白色粒、 3mm 赤色粒	良好	タテ 3.2cm ヨコ 4.3cm 厚さ 0.6cm	ヨコナデ	直口縁	不明	不明	長原式
105	C1	鳥畑 17 直上	深鉢	暗褐色 / 暗褐色	2～3mm 白色粒、 黒色粒、雲母含む	良好	タテ 2.8cm ヨコ 2.2cm 厚さ 0.6cm	ヨコナデ	直口縁	下向き	D 字	長原式
106	C1	鳥畑 17 直上	深鉢 か	茶褐色 / 黒褐色	3～4mm 白色粒、 黒色粒、無色透明粒、 雲母含む	良好	タテ 4.7cm ヨコ 6.0cm 厚さ 0.6cm	外面：縦方向 向ミガキ 内面：横方向 向ミガキ				
179	D2	南東隅 断ち割り	深鉢	灰色 / 灰色	2～3mm 白色粒、 黒色細粒、白色 細粒	良好	タテ 2.0cm ヨコ 2.5cm 厚さ 0.8cm	ヨコナデ	口縁 直下	下向き	小 D 字	長原式
180	D2	南東隅 断ち割り	深鉢	茶褐色 / 茶褐色	1～2mm 白色粒、 1～2mm 黒色粒、 白色細粒、黒色 細粒	良好	タテ 4.7cm ヨコ 4.4cm 厚さ 0.6cm	ナデあげ	頸部	横向き	D 字	水走タイプ
181	D2	SD23 下層	深鉢	黒褐色 / 黒褐色	1～2mm 白色粒、 無色透明粒	良好	タテ 2.5cm ヨコ 1.9cm 厚さ 0.4cm	面取り?、刻 み	口縁 直下	横向き	小 D 字	滋賀県 IV～ 新橋式
182	D2	SD23 下層	深鉢	褐色 / 黒褐色	0.5mm～1.5mm 白色粒、無色透明 粒、黒色粒	良好	タテ 4.1cm ヨコ 4.6cm 厚さ 0.6cm	ヨコナデ?	口縁 直下か	横向き		長原式
183	D2	遺物 包含層	深鉢	黒褐色 / 黒褐色	1～2mm 白色粒、 黒色細粒	良好	タテ 2.4cm ヨコ 2.5cm 厚さ 0.6cm	面取り?、刻 み	口縁 直下	横向き	D 字	滋賀県 IV 式
184	D2	SX41	浅鉢	暗褐色 / 暗褐色	1～2mm 白色粒、 雲母含む	良好	タテ 2.3cm ヨコ 2.3cm 厚さ 0.4cm					産「く」の 字形浅鉢か
185	D2	SX41	深鉢	茶褐色 / 黒褐色	白色細粒、黒色 細粒	良好	タテ 2.4cm ヨコ 3.0cm 厚さ 0.7cm		口縁 直下か	横向き	D 字	滋賀県 IV～ 新橋式

圖 版

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第1
水主神社東遺跡第1・2・5次

(1) A1区重機掘削(南東から)



(2) A1区北壁土層断面(南から)



(3) A1区全景(北から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第2
水主神社東遺跡第1・2・5次



(1) A2区重機掘削(北西から)



(2) A2区南壁土層断面(北から)



(3) A2区全景(北から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第3
水主神社東遺跡第1・2・5次



(1) A3区全景(東から)



(2) A3区全景(上が西)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第4
水主神社東遺跡第1・2・5次



(1) A3区島畑27～29全景
(南から)



(2) A3区北壁土層断面(南から)



(3) A3区西壁土層断面(東から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第5
水主神社東遺跡第1・2・5次

(1) A3区鳥畑27土坑状遺構SK06
e-f土層断面(北から)



(2) A3区鳥畑29土坑状遺構SK07
g-h土層断面(北から)



(3) A3区鳥畑29土坑状遺構SK07
i-j土層断面(北から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第6
水主神社東遺跡第1・2・5次



(1) A3区北拡張区鳥畑27検出状況
(南から)



(2) A3区東拡張区鳥畑27検出状況
(南から)



(3) A3区下層遺構面全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第7
水主神社東遺跡第1・2・5次

(1) A3区溝S D22・23全景
(北東から)



(2) A3区溝S D24全景(北東から)



(3) A3区溝S D24遺物出土状況
(南西から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第8
水主神社東遺跡第1・2・5次



(1) A3区溝SD22土層断面
(南西から)



(2) A3区溝SD24土層断面
(南西から)



(3) A3区溝SD27土層断面
(北西から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第9
水主神社東遺跡第1・2・5次

(1) A3区土坑SK20完掘状況
(北から)



(2) A3区土坑SK26完掘状況
(北から)



(3) A3区下層遺構面断ち割り後
土層堆積状況(南から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 10
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) B 1 区全景(拡張前、南から)



(2) B 1 区遺構検出状況全景(拡張後、南から)



(3) B 1 区遺構完掘状況全景(拡張後、南から)



(4) B 1・B 2 区間調査区南半部全景(北東から)

(1) B 1 区溝 S D 02 全景(東から)



(2) B 1 区拡張区西壁土層断面
(東から)



(3) B 1 区拡張区南壁土層断面
(北東から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 12
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) B 2 区重機掘削(北から)



(2) B 2 区溝 S D01・02、杭列全景
(北東から)



(3) B 2 区杭列全景(東から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 13
水主神社東遺跡第 1・2・5 次

(1) B 2 区全景(北東から)



(2) B 2 区溝 S D40 土層断面
(南から)



(3) B 2 区北東壁土層断面
(南西から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 14
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) B 3 区全景(南から)



(2) B 3 区島畑30全景(南から)



(3) B 3 区北東壁土層断面
(南西から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 15
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区全景(西から)



(2) C 1 区全景(北西から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 16
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区全景(南東から)



(1) C 1 区高畑17全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 17
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区島畑18全景(北から)



(2) C 1 区島畑18全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 18
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区島畑19全景(南から)



(2) C 1 区島畑20全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 19
水主神社東遺跡第 1・2・5 次

(1) C 1 区全景(北西から)



(2) C 1 区全景(南西から)



(3) C 1 区作業風景(北から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 20
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区島畑18素掘り溝 S D308
遺物出土状況(北から)



(2) C 1 区島畑18溝 S D352土層
断面(南から)



(3) C 1 区掘立柱建物 S B310検出
状況(南から)

(1) C 1 区掘立柱建物 S B310 全景
(南から)



(2) C 1 区土坑 S K333 完掘状況
(南から)



(3) C 1 区土坑 S K333 半載状況
(南から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 22
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区溝 S D 337・338 全景
(西から)



(2) C 1 区溝 S D 337 b - b' 土層
断面 (西から)



(3) C 1 区溝 S D 337 c - c' 土層
断面 (西から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 23
水主神社東遺跡第 1・2・5 次

(1) C 1 区溝 S D 338 全景 (西から)



(2) C 1 区溝 S D 401 全景 (東から)



(3) C 1 区溝 S D 401 土層断面
(東から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 24
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区溝 S D340・344 全景
(北から)



(2) C 1 区溝 S D340 土層断面
(北西から)



(3) C 1 区溝 S D344 土層断面
(南東から)

(1) C 1 区溝 S D 402・403 全景
(東から)



(2) C 1 区溝 S D 402 土層断面
(東から)



(3) C 1 区溝 S D 403 土層断面
(東から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 26
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区溝 S D381 全景
(南西から)



(2) C 1 区溝 S D381 全景 (東から)



(3) C 1 区溝 S D381 土層断面
(北東から)

(1) C 1 区溝 S D381 遺物出土状況
(南から)



(2) C 1 区溝 S D381 遺物出土状況
(南から)



(3) C 1 区溝 S D409 全景 (西から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 28
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 1 区溝 S D 409 土層断面
(東から)



(2) C 1 区島畑 17 上面縄文土器出土
状況(南から)



(3) C 1 区自然流路 N R 370 土層
断面(南西から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 29
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区全景(南から)



(1) C 2 区全景(南東から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 30
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区全景(北から)



(2) C 2 区全景(上が東)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 31
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区全景(北から)



(2) C 2 区全景(南西から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 32
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区高畑21全景(南東から)



(2) C 2 区高畑21・22全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 33
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区島畑 23・24 全景(北から)



(2) C 2 区島畑 24 全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 34
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区島畑 7 全景(南から)



(2) C 2 区島畑 7 土坑状遺構 S K
201 土層断面(南から)



(3) C 2 区島畑 7 土坑状遺構 S K
201 全景(北から)

(1) C 2 区鳥畑25全景(南から)



(2) C 2 区溝状遺構 S D508土層
断面(東から)



(3) C 2 区溝状遺構 S D508全景
(西から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 36
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区溝状遺構 S D504 南部
素掘り溝群全景(南から)



(2) C 2 区溝状遺構 S D510 全景
(南から)



(3) C 2 区溝状遺構 S D506・509
全景(東から)

(1) C 2 区溝状遺構 S D506土層
断面(西から)



(2) C 2 区鳥畑24東半部土層断面
(北東から)



(3) C 2 区鳥畑24西半部土層断面
(北西から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 38
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区土坑 S K390 完掘状況
(南から)



(2) C 2 区土坑 S K395 遺物出土
状況(南から)



(3) C 2 区土坑 S K410 遺物出土
状況(西から)

(1) C 2 区溝 S D 404 全景
(南東から)



(2) C 2 区溝 S D 404 土層断面
(東から)



(3) C 2 区溝 S D 405 全景
(北西から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 40
水主神社東遺跡第 1・2・5 次



(1) C 2 区溝 S D405 土層断面
(南東から)



(2) C 2 区溝 S D406 全景 (東から)



(3) C 2 区溝 S D406 土層断面
(東から)

(1) C 2 区溝 S D 407 全景
(南東から)



(2) C 2 区溝 S D 407 土層断面
(南東から)



(3) C 2 区鳥畑 24 上面石包丁出土
状況 (東から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 42
下水主遺跡第 1・4 次



(1) D 1 区島畑44検出状況(南から)



(2) D 1 区島畑44全景(南から)



(3) D 1 区島畑44下層素掘り溝群
全景(南から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 43
下水主遺跡第 1・4 次



(1) D 2 区全景(北から)



(2) D 2 区全景(上が南)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 44
下水主遺跡第 1・4 次



(1) D 2 区上層遺構面全景(西から)



(2) D 2 区高畑41全景(北から)

新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 45
下水主遺跡第 1・4 次



(1) D 2 区島畑42全景(北から)



(2) D 2 区島畑43全景(北から)



(1) D 2 区島畑42～44全景
(東から)



(2) D 2 区島畑41上素掘り溝 S D02
土層断面(南から)



(3) D 2 区島畑41上素掘り溝 S D03
土層断面(南から)



(1) D 2 区中層遺構面全景(東から)



(2) D 2 区溝 S D30・31 全景
(西から)



(3) D 2 区溝 S D30 全景(北西から)



(1) D 2 区溝 S D30 遺物出土状況
(北西から)



(2) D 2 区溝 S D20 土層断面
(南東から)



(3) D 2 区溝 S D21 土層断面
(南東から)



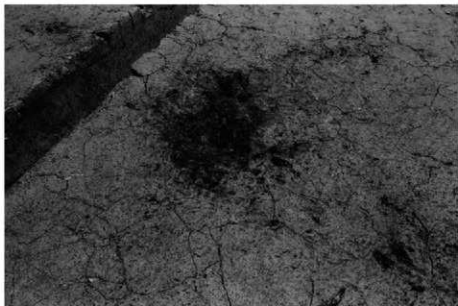
(1) D 2 区溝 S D 23 全景(北西から)



(2) D 2 区溝 S D 23 a - a' 土層
断面(北西から)



(3) D 2 区下層遺構面磨製石斧出土
状況(北から)



(1) D 2 区炭集中部 S X 41 検出状況
(南西から)



(2) D 2 区焼土 S X 42 検出状況
(西から)



(3) D 2 区炭集中部 S X 41 完掘
状況(南西から)

(1) D 2 区作業風景(東から)



(2) D 4 区全景(東から)



(3) D 4 区南壁土層断面(北から)





(1) D 5・D 6 区調査前全景
(南東から)



(2) D 5 区南半部全景(南東から)



(3) D 5 区北半部全景(北西から)

(1) D 5 区島畑40全景(北から)



(2) D 5 区南半部北壁土層断面
(西半、南から)



(3) D 5 区南半部北壁土層断面
(東半、南から)





(1) D 6 区全景(北東から)



(2) D 6 区北西壁土層断面(北半、南東から)



(3) D 6 区北西壁土層断面(南半、南東から)

(1) E 1 区島畑47・48検出状況
(南から)



(2) E 1 区島畑47・48全景(南から)



(3) E 1 区島畑47・48全景(西から)





(1) E 1 区溝 SD06 全景(南から)



(2) E 1 区溝 SD06 a - a' 土層断面(東から)



(3) E 1 区作業風景(南東から)

(1) E 2 区全景(南から)



(2) E 2 区北壁土層断面(南から)



(3) E 2 区下層遺構 S D05 検出状況(東から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 58
下水主遺跡第 1・4 次



(1) E 3・E 4区全景(南から)



(2) E 5区全景(北から)



(3) E 5区重機掘削(北西から)

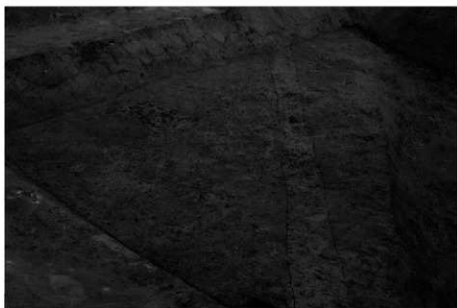
(1) E 5 区西壁土層断面(東から)



(2) E 6 区全景(南東から)

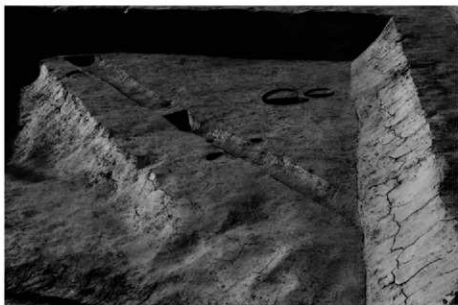


(3) E 7 区遺構検出状況(西から)





(1) E 7区全景(南西から)



(2) E 7区島畑52全景(南東から)



(3) E 8区全景(南西から)

(1) G 地区全景(北東から)



(2) G 地区全景(南から)



(3) G 地区南壁土層断面(北から)



新名神高速道路整備事業関係遺跡 図版第 62
下水主遺跡第 1・4 次



(1) G地区溝SD07全景(北から)



(2) G地区溝SD07遺物出土状況
(北西から)

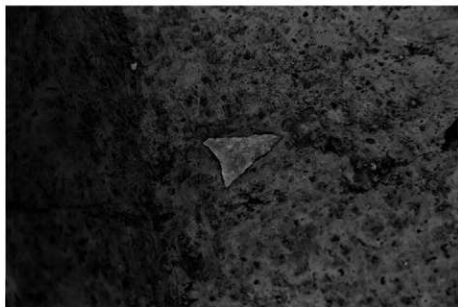


(3) G地区土坑SK16全景
(南西から)

(1) G 地区溝 S D09 全景 (南東から)



(2) G 地区溝 S D07 石鎌出土状況
(南東から)

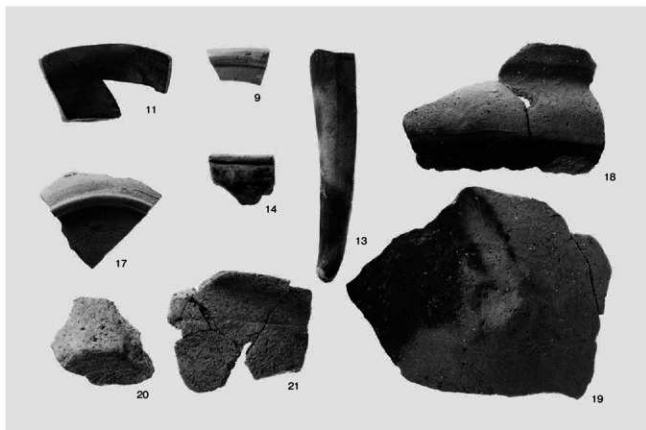


(3) G 地区北拉張区鳥畑 6 検出状況
(南から)

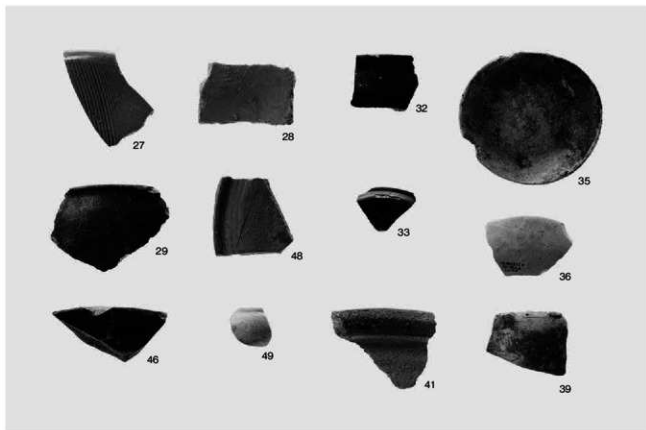




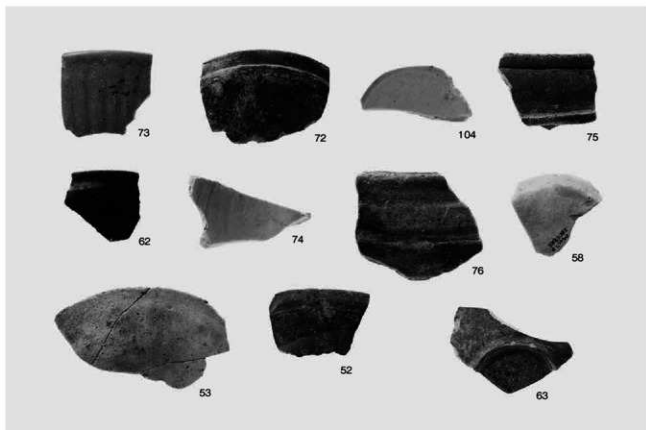
出土遺物 1 水主神社東遺跡・下水主遺跡



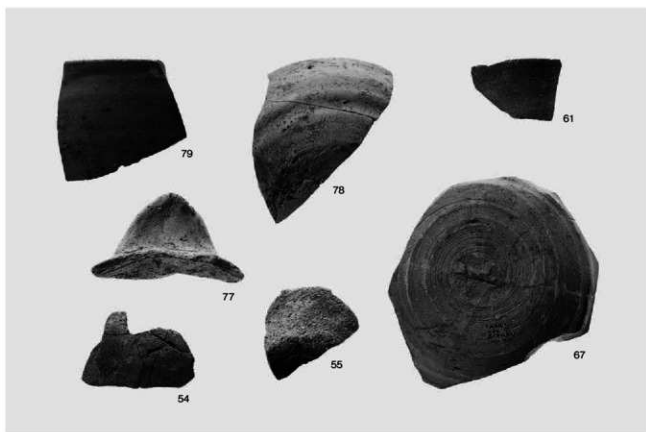
(1)出土遺物2 水主神社東道路A3区



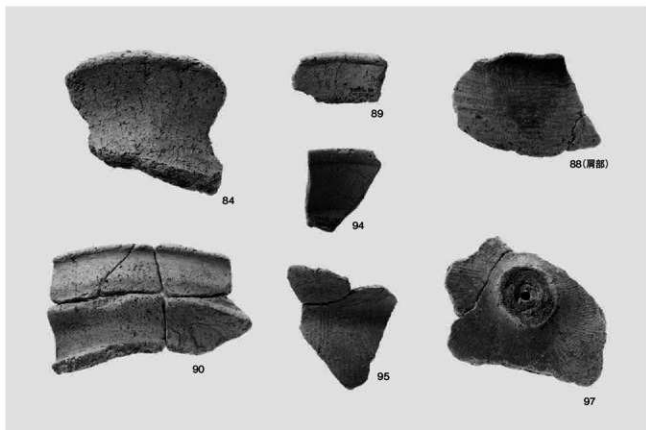
(2)出土遺物3 水主神社東道路B1～B3区



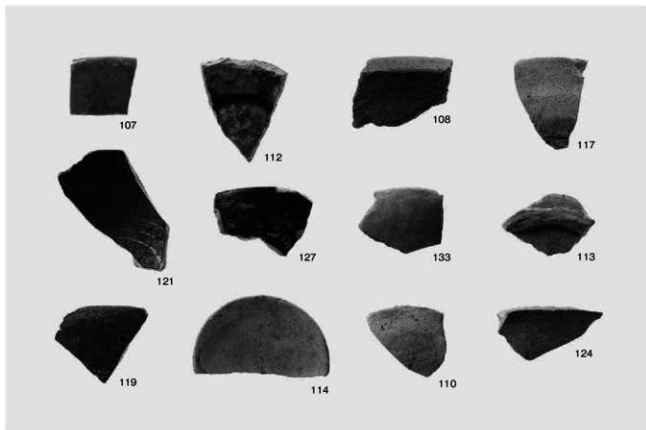
(1)出土遺物 4 水主神社東道路C1区



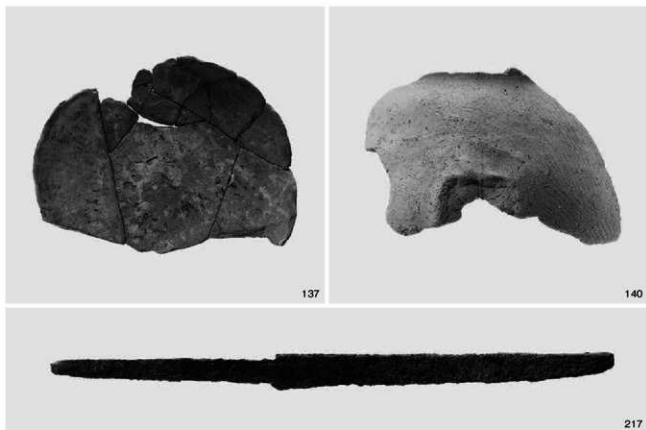
(2)出土遺物 5 水主神社東道路C1区



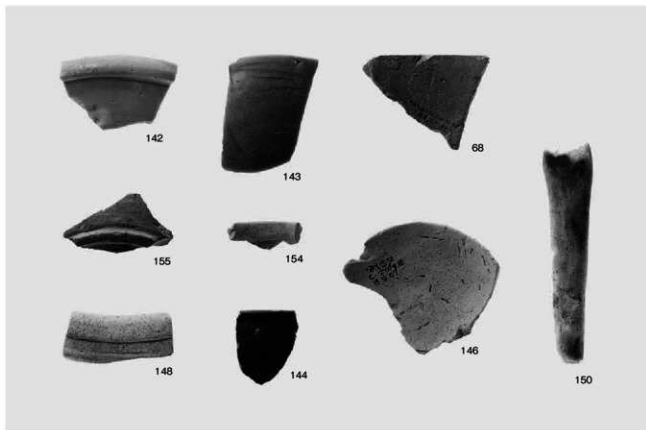
(1)出土遺物 6 水主神社東道路C 1区



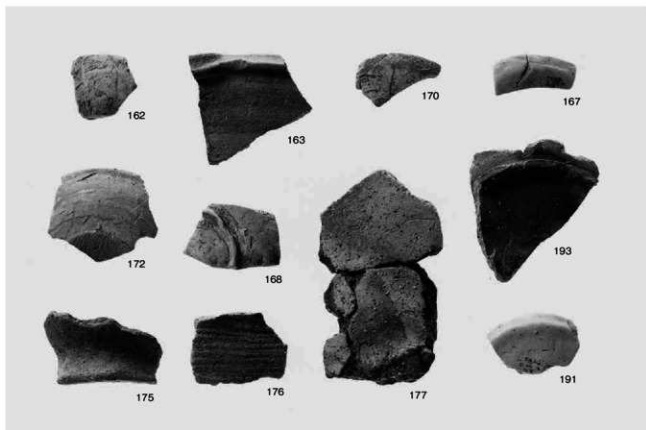
(2)出土遺物 7 水主神社東道路C 2区



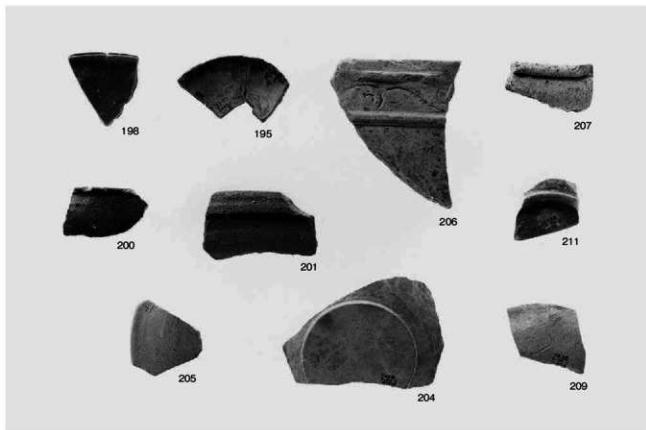
(1)出土遺物 8 水主神社東遺跡C 2区・下水主遺跡G地区



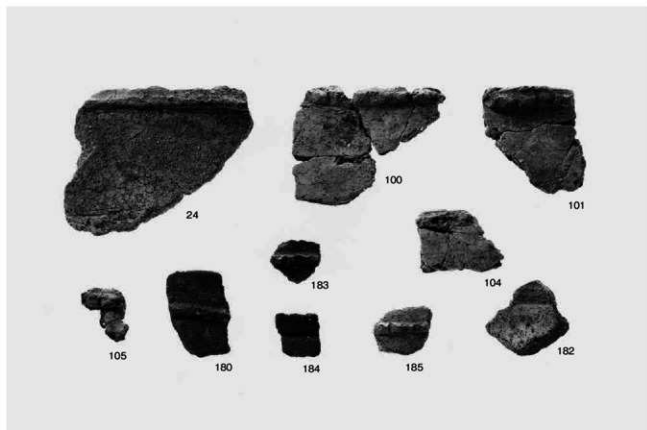
(2)出土遺物 9 水主神社東遺跡C 2区



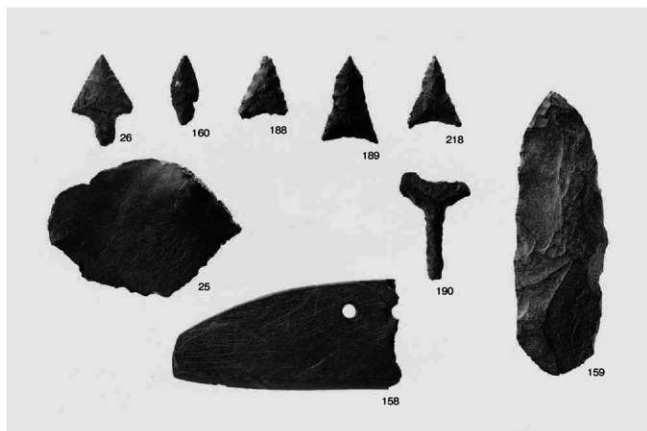
(1)出土遺物10 下水主遺跡D地区



(2)出土遺物11 下水主遺跡E地区



(1)出土遺物12 縄文土器



(2)出土遺物13 石器

報告書抄録

ふりがな	京都府遺跡調査報告集
書名	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう
副書名	
巻次	第167冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第167冊
編著者名	戸原和人・岡崎研一・筒井崇史・村田和弘・関広尚世・福山博章・深澤麻衣
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番#3 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2016年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
みぬしじんじゃひがしいせき 水主神社東遺跡第1・2・5次	きょうとふじょうようしてらだかなお 京都府城陽市寺田金尾	26207	30	34° 50' 44"	135° 45' 53"	20120215 ～ 20120314 20120523 ～ 20120927 20130514 ～ 20140108	200 630 11,375	道路建設
しもみずしいせき 下水主遺跡第1・4次	きょうとふじょうようしてらだかなお 京都府城陽市寺田金尾	26206	88	34° 50' 55"	135° 45' 40"	20120521 ～ 20130308 20130422 ～ 20140227	3,360 10,393	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水主神社東遺跡第1・2・5次	集落跡 生産遺跡	縄文～中世	鳥畑・掘立柱建物・土坑・溝	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器・銭貨・石器	
下水主遺跡第1・4次	集落跡 生産遺跡	縄文～中世	鳥畑・掘立柱建物・土坑・溝	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器・銭貨・石器・鉄製品	

所収遺跡名	要 約
水主神社東遺跡第1・2・5次 下水主遺跡第1・4次	<p>今回の報告では、これまで調査した鳥畑のうち28基について報告した。これらはすでに13世紀後半ごろに形成され、その際の鳥畑の配置が現在の水田区画に踏襲されていることが明らかにされているが、一連の調査でも同様の成果を得ることができた。</p> <p>また、鳥畑に先行する遺構として古代の掘立柱建物や弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の溝を検出した。前者については、1棟のみの検出である上、詳細な時期が明らかでないが、周辺に古代の集落が存在したことが予想される。後者については多数検出しているものの、その目的は必ずしも明らかではない。今後の検討課題である。</p> <p>以上のほか、縄文時代晩期の縄文土器が調査地各所から出土している。集落等は未確認であるが、縄文時代晩期の土地利用の一端を示すものと考えられる。</p>

京都府遺跡調査報告集 第167冊

平成28年3月31日

発行 公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961 Fax (075)231-7141